

和泉市
人権問題に関する市民アンケート調査
調査結果報告書

令和8年3月

和 泉 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
7	調査結果の信頼性.....	2
II	調査結果のまとめ.....	3
1	回答者の属性（問1～問3）.....	3
2	差別や人権問題に対する考え方について（問4～問10）.....	3
3	人権問題に対する行政の取組について（問11～問13）.....	4
4	住まいのことや就職、結婚についての意識や考え方について（問14～問17）.....	4
5	同和問題（部落差別）について（問18～問23）.....	5
6	様々な人権課題について（問24～問36）.....	5
7	身の周りの人権侵害について（問37～問37-6b）.....	6
III	調査結果.....	7
1	回答者の属性.....	7
2	差別や人権問題に対する考え方について.....	8
3	人権問題に対する行政の取組について.....	51
4	住まいのことや就職、結婚についての意識や考え方について.....	74
5	同和問題（部落差別）について.....	83
6	様々な人権課題について.....	113
7	身の周りの人権侵害について.....	146
8	自由意見.....	151

IV 有識者からの寄稿文.....	152
1 人権問題に関する認識の高まり（問4・5）.....	152
2 差別についての認識（問6）.....	153
3 人権問題に対する情報や知識の入手経路（問7）.....	153
4 差別や人権侵害への対応（問9・10）.....	154
5 人権問題に対する行政の取組（問11～問13）.....	154
6 同和問題（部落差別）について（問18～問23）.....	154
7 様々な人権課題について（問24～問35）.....	155
8 身の周りの人権侵害について（問37～問37-6b）.....	157
おわりに—今後の人権教育・啓発および人権施策への示唆.....	157
V 参考資料.....	159

I 調査の概要

1 調査の目的

平成 29 年度に策定した「和泉市人権教育・啓発推進計画」が、令和 8 年度で計画期間が終了するにあたり、改めて人権問題、日常生活の現状や意識を把握し、次期計画策定の基礎資料とするため実施しました。

2 調査対象

本市住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民から無作為に抽出した 3,000 人

3 調査期間

令和 7 年 12 月 11 日～令和 8 年 1 月 8 日

4 調査方法

郵送配布、郵送・WEB 併用回収（調査期間中に、はがきによる礼状兼依頼状の配布 1 回）

5 回収状況

配布数	回収数	回収率
3,000 件	1,126 件	37.5%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が 1 桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が 1 桁の場合は、コメントを差し控えています。
- ・府調査に同様の設問がある問、経年比較ができる問は比較を掲載しています。有意な特徴が表れている問はクロス集計を掲載しています。

7 調査結果の信頼性

市民調査を実施する場合、本来は全市民を対象とすることが望ましいですが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果（全数調査の結果に近い調査結果）を得ることになります。

今回の調査結果がどの程度の精度を持った回答結果であるかは、アンケート調査結果に対する標本誤差を算定し、検証します。

標本誤差“ δ ”は次の式で算定されます。

$$\delta = \kappa \sqrt{\frac{M-N}{M-1} \times \frac{p(1-p)}{N}}$$

記号の説明

記号	項目	内容
δ	標本誤差	上記による
M	母集団	16歳以上の人口数：152,981人
N	有効回収数	1,126通
κ	信頼度による定数	信頼度95%の時、1.96
p	結果の比率	50%の時が最も大きな値となる

標本誤差算定結果

結果の比率 p : (1-p)	50% : 50%	40% : 60%	30% : 70%	20% : 80%	10% : 90%
標本誤差 (δ)	±2.91%	±2.85%	±2.67%	±2.33%	±1.75%

全市民に聞かず、一部の人のみに聞いたことで生まれる「結果のズレ」のことを標本誤差といいます。

標本誤差の算定結果について、「賛成 90%：反対 10%」の場合、誰に聞いてもだいたい同じ結果になるので、誤差は小さくなります。「賛成 50%：反対 50%」の場合、聞く人によって結果が変わりやすく、一番不安定な状態です。

この結果、今回の調査結果は、95%の確率で $50 \pm 2.91\%$ の範囲内（信頼度 95%）となります。

※例：今回と同じ調査を、同じ調査対象（本市住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民）の中から調査対象を変えて 100 回行えば 95 回は今回の調査結果で得られた結果の範囲内の結果が得られると推定できます。

Ⅱ 調査結果のまとめ

1 回答者の属性（問1～問3）

回答者の性別をみると、「女性」が57.6%と最も高く、次いで「男性」が39.2%となっています。年代をみると、「50歳代」の割合が最も高く22.4%、次いで「60歳代」が17.5%、「70歳代」が17.2%となっています。

お住まいの地域については、「和泉」の割合が26.6%と最も高くなっています。

2 差別や人権問題に対する考え方について（問4～問10）

人権問題の認知度について、全体的に「内容まで知っている」の割合が低い傾向にあるため、啓発活動や学習の機会を充実させるなど、市民の理解を深めるための取り組みを進めていく必要があります。認知度では、特に『ゲノム情報（遺伝情報）に関する問題』で「内容まで知っている」の割合が6.1%と低く、「知らない」の割合が51.6%と高くなっています。関心度については『働く人の権利に関する問題』で「関心がある」の割合が高い一方、『性的マイノリティ』で「関心がない」、『ゲノム情報（遺伝情報）に関する問題』で「わからない」の割合が高くなっています。

人権上問題があると思うことについて、『人前で部下を長時間にわたり大声で叱る』や『インターネット上やSNSに他人の誹謗中傷を書き込む』で特に回答が多くなっています。平成28年度調査と比較すると、『職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う』で「問題があると思う」の割合が増加しています。

「差別」に対する考え方では、『差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない』に対して「そう思う」の割合が高く、人権尊重の基本理念は広く認識されています。また、『差別は法律で禁止する必要がある』という考え方に対する“そう思う”（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の割合は、大阪府の割合より低く、年代別でみると20歳代から60歳代で割合が低くなっており、差別という定義の明確化や理解促進への取り組みが必要です。

人権問題についての情報の入手経路は、「新聞・TV・ラジオ」の割合が61.7%と最も高いですが、平成28年度調査と比較して「インターネット」の割合が増加しており、特に年代が下がるほどその傾向が強くなっています。

人権学習の経験について、『インターネット上の人権侵害』に関する学習を高等教育で受けている人ほど、「差別問題に関心ない人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」という考えについて“そう思う”（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の割合が高く、『はっきりとおぼえていない』『受けたことはない』人で「何とも言えない」の割合が高くなっています。

また、『同和問題（部落差別）』に関する学習を高等教育で受けている人ほど、「子どもが結婚しようとしている相手が同和地区の人だった場合に、親として子どもに対してとる態度」や「子どもが結婚しようとしている相手が同和地区の人だった場合に、親戚があなたや子どもに対してどのような態度をとると思うか」について“賛成する”（「迷うことなく賛成する」と「迷いながらも、結局は賛成する」の合計）の割合が高く、『受けたことはない』で割合が低くなっています。このことから、人権学習を受ける機会の提供が大きな課題だと考えられます。

差別的な言動をとった人への対応として、「表向きは話を合わせつつ、差別はいけないことを伝える」が最も高いですが、「今までそういう場面に出会ったことがない」の割合が過去調査から増加しています。男性は「よくないと注意を促す」割合が高く、女性は「人間関係が気まずくなるので何も言わない」割合が高いなど、性別による意識の差もみられます。

自身や家族が人権侵害を受けた際の対応としては「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」が 60.2%と最も高く、平成 18 年度以降増加傾向にあります。

これらのことから、多様化する人権課題に対する正しい知識の普及と、インターネットを活用した効果的な情報発信、そして相談しやすい体制づくりが引き続き重要であると言えます。

3 人権問題に対する行政の取組について（問 11～問 13）

人権問題の解決に向けた施策のうち「内容まで知っている」ものについて、最も割合の高いもので『啓発ポスター』が 14.2%、最も割合の低いもので『戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度』2.3%となっており、すべての施策で周知が必要であることがうかがえます。また、『人権相談窓口』について認知している人ほど、「差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である」という考えについて“そう思う”（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）割合が高くなっており、『知らない』人では「何とも言えない」の割合が高くなっています。施策の効果については、「講演会・映画会」や「人権相談窓口」で「効果がある」と考える割合が高くなっています。

条例の認知度について、すべての項目で「知らない」の割合が最も高く、特に『和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例』で 71.1%となっています。年代別にみると、全ての項目で年代が下がるほど「知らない」の割合が高くなる傾向がみられることから、若年層に向けた条例の周知や継続的な広報・啓発が課題となっています。また、『和泉市男女共同参画推進条例』について認知している人ほど、「差別は法律で禁止する必要がある」という考えについて“そう思う”（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）割合が高くなっており、『知らない』人では「何とも言えない」の割合が高くなっています。また、『和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例』について認知している人ほど、「子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生していること」というインターネット上の問題点が“ないと思う”（「どちらかと言えばないと思う」と「ないと思う」の合計）と答えた割合が高くなっています。

人権問題に関するイベント等への参加状況をみると、「障がい者の人権問題」などで参加経験がある層もいるものの、「ハンセン病回復者及びその家族の人権問題」などでは「参加したことがない」割合が高くなっています。「障がい者の人権問題」に参加している回数が多い人ほど、「差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」という考えについて“そう思う”（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）割合が高くなっており、「同和問題（部落差別）」の参加回数が多い人ほど、「子どもが結婚しようとしている相手が同和地区の人だった場合に、親として子どもに対してとる態度」について“賛成する”（「迷うことなく賛成する」と「迷いながらも、結局は賛成する」の合計）割合が高くなっています。

今後は、各種条例や相談窓口のさらなる周知に加え、施策・条例に関する広報や情報の発信とともに、市民が関心を持ちやすく参加しやすい啓発事業やイベントの展開が求められます。

4 住まいのことや就職、結婚についての意識や考え方について（問 14～問 17）

家を買ったり借りたりする際に重視する条件は、「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」が 64.8%と最も高くなっています。平成 28 年度調査と比較すると「周辺の住宅の状況（戸建て/集合、持ち家/賃貸など）」の割合が増加しており、周辺環境の整備や長く安心して暮らせる環境づくりが求められています。

採用面接において人権上問題があると思う質問は、「家族の状況」が 62.8%、「宗教」が 58.7%となっており、平成 28 年度調査と比較して「宗教」「支持政党」等の割合が増加しています。このことから、

差別に対する問題が重視されていることがうかがえ、企業に対する研修の実施や相談体制の整備などが必要です。

結婚相手について重視することは、「人柄や性格」が 90.8%と大半を占めています。女性では「仕事に対する理解と協力」「家事や育児に対する理解と協力」「経済力」を重視する割合が男性より高くなっており、仕事と家庭の両立支援や経済的安定に向けた支援の強化が重要であると考えられます。

職場における人権上の問題としては、「職場内でパワー・ハラスメントがあること」が 53.1%と最も高く、「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和が保てないこと」(44.8%)、「職場内でセクシュアル・ハラスメントがあること」(39.7%)と続きます。女性はセクシュアル・ハラスメントや出産・育児等に対する職場の配慮不足を問題視する傾向が強くなっています。職場におけるハラスメント対策や、性別に関わらず仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てる環境づくりに向けた意識改革が急務です。

5 同和問題（部落差別）について（問 18～問 23）

同和問題を初めて知ったきっかけは「学校の授業で教わった」が 32.1%と最も高く、過去調査より増加しています。知ったときの印象は「そのような差別があることを初めて知り、驚いた」が 65.1%と多数を占めています。

同和問題に関する意見として、「同和問題を許さない態度を身に付けることは、他の人権問題にもプラスになる」で「そう思う」割合が高くなっています。一方で、現在の人権侵害としては、「インターネット上に誹謗中傷などが掲載されること」があると思う割合が高くなっています。

就職や結婚における差別については、就職において“差別はある”が 31.2%、結婚において“差別はある”が 46.6%となっています。子どもが同和地区の人と結婚しようとした場合、親として「賛成する」が 47.1%を占め、親戚の態度も含めて「反対する」割合は平成 18 年度以降減少していますが、依然として課題は残っています。これらのことから、インターネット上の誹謗中傷や結婚差別などの問題は存在しており、差別をなくすための正しい理解を促進する継続的な取り組みが必要です。

6 様々な人権課題について（問 24～問 36）

日本に居住する外国人に関しては、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が問題とされており、解決策として「外国人市民と日本人の相互理解を促進するための交流機会を増やす」ことが求められています。

インターネット上の問題では、「フェイクニュースや不正確な情報が拡散されること」があると思う割合が高くなっています。

人権侵害と思われるページを「見たことがない」が 40.5%であるものの、平成 28 年度から「よく見る」「見たことがある」割合が増加しています。

性的マイノリティに関しては、「本人の意思に反して『男らしく、女らしく』という考えを押しつけること」や「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」が課題として挙げられており、過去調査から多くの項目で割合が増加しています。

子どもの問題については、「いじめ」や「虐待」を問題視する声が多く、解決には「悩みのある子どものための人権相談所や電話相談、カウンセリングを充実する」ことが必要とされています。

その他、女性の人権では「保育などの施設や制度を整え、男性も女性も安心して働けるようにする」、高齢者については「詐欺や悪徳商法の対象として狙われる」や「高齢者を狙った犯罪などの取り締まりを強化する」、障がい者については「就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない」

や「道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する」、災害時においては「避難生活でプライバシーが守られないこと」がそれぞれ高い割合で問題視されています。

多岐にわたる人権課題に対し、それぞれの当事者の視点に立った支援策の充実と、社会全体の理解促進、相談体制や環境の整備が求められています。

7 身の周りの人権侵害について（問 37～問 37－6 b）

最近5年間に人権上問題と思われる言動を身近で見聞きしたことが「ある」割合は22.8%となっています。その内容は「セクハラ・パワハラ」が最も多く、次いで「女性」に関するものとなっており、具体的な内容としては「あらぬ噂、悪口、かげ口」が多くなっています。

見聞きした場所は「職場」が41.6%で最も高く、平成28年度調査から増加しています。自身が人権侵害を受けた場合の対応は「我慢した」が31.7%と最も多く、男性や年代が上がるほどその傾向が強くなっています。結果として「解決しなかった」割合が51.7%にのびます。また、他者への人権侵害を見た場合の対応も「何もしなかった」が43.1%を占めています。

これらの問題に対する対応策としては、「相談窓口を拡充する」が35.9%と最も高く、次いで「学校教育・社会教育を充実する」となっています。

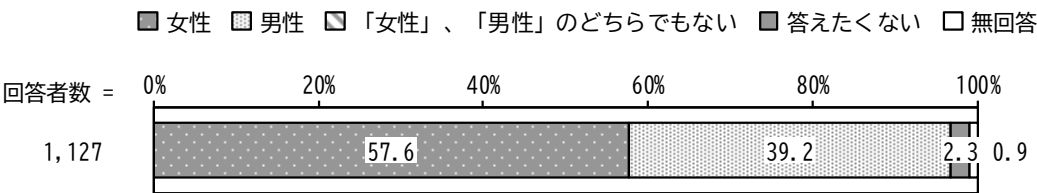
職場等でのハラスメントや人権侵害に対し、被害者が我慢してしまう現状や周囲が介入しづらい実態があります。問題が潜在化しないよう、身近で専門的な相談窓口のさらなる拡充と、誰もが人権侵害を許さない意識を醸成するための教育・啓発が不可欠です。

Ⅲ 調査結果

1 回答者の属性

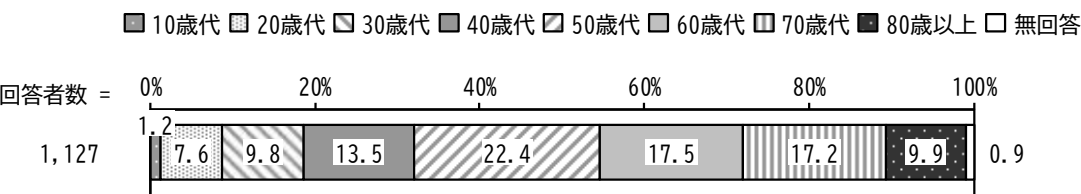
問1 あなたの性別は。【あてはまるもの1つに○】

「女性」の割合が57.6%と最も高く、次いで「男性」の割合が39.2%となっています。



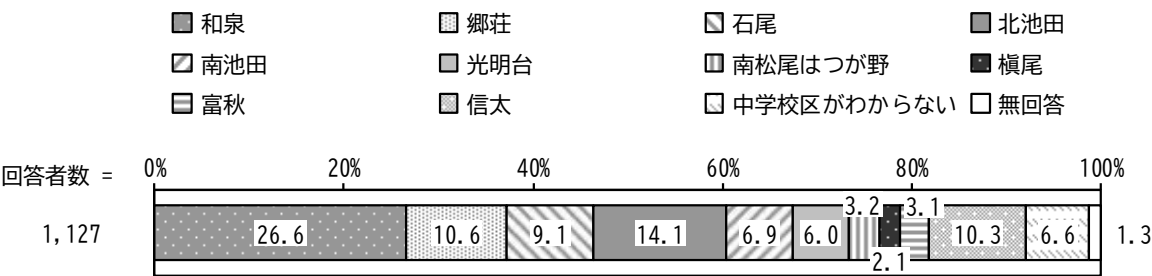
問2 あなたは何歳ですか。【あてはまるもの1つに○】

「50 歳代」の割合が22.4%と最も高く、次いで「60 歳代」の割合が17.5%、「70 歳代」の割合が17.2%となっています。



問3 あなたがお住まいの地域（中学校区又は義務教育学校区）はどこですか。中学校区がわからない方は、町名をお書きください。【あてはまるもの1つに○】

「和泉」の割合が26.6%と最も高く、次いで「北池田」の割合が14.1%、「郷荘」の割合が10.6%となっています。

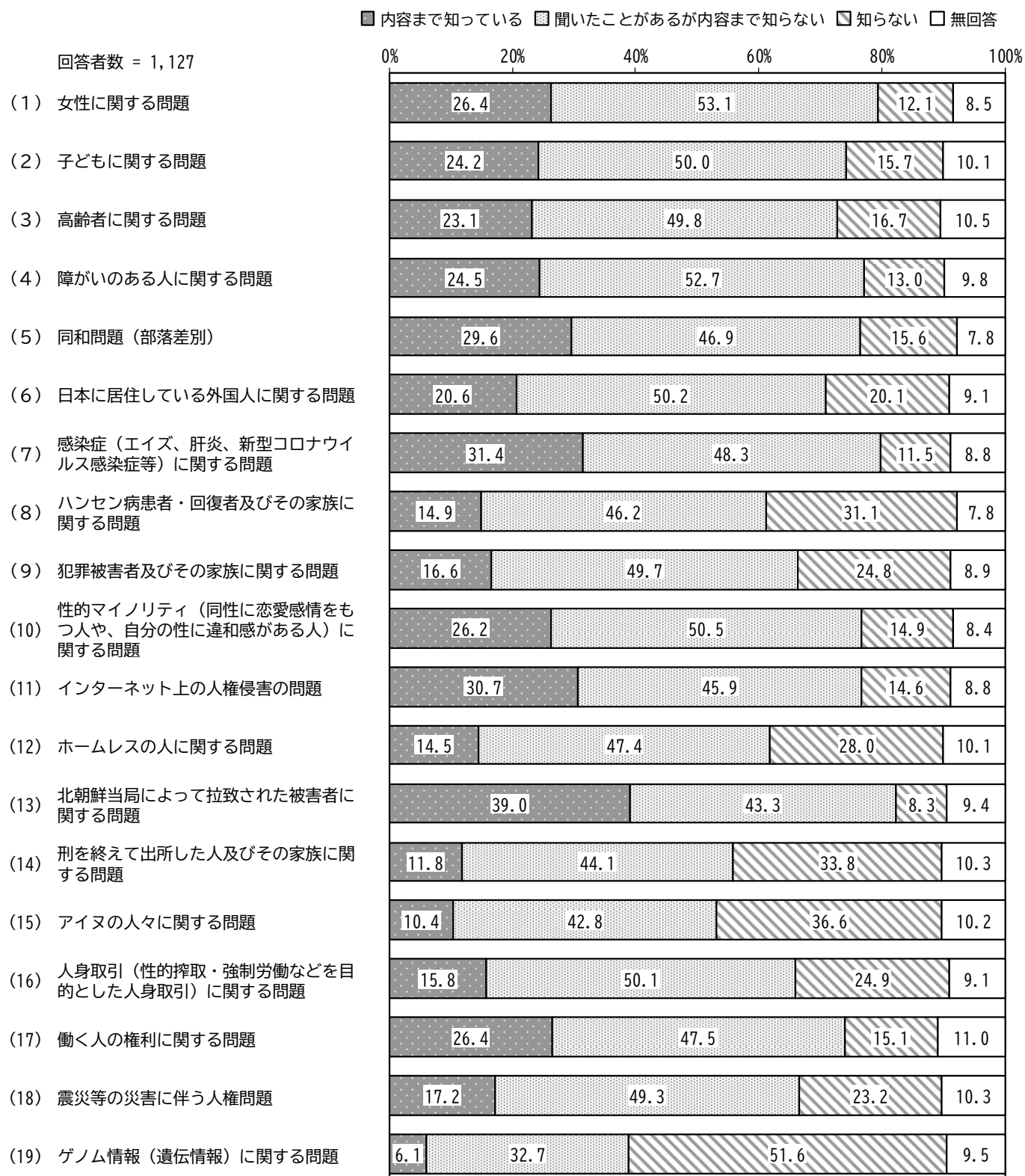


2 差別や人権問題に対する考え方について

問4 日本の社会には、人権にかかわるさまざまな問題があります。あなたはそれぞれの問題の内容を知っているか、また、関心があるか、あまり悩まず直感でお答えください。
【(1)～(19)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

A 認知度

『(13) 北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題』で「内容まで知っている」が、『(1) 女性に関する問題』で「聞いたことがあるが内容まで知らない」が、『(19) ゲノム情報（遺伝情報）に関する問題』で「知らない」が高くなっています。



【性別・年代別】

		(1) 女性に関する問題					(2) 子どもに関する問題				(3) 高齢者に関する問題				(4) 障がいのある人に関する問題			
(単位：%)		回答者数	内容まで知っている	内容聞いたことがあるが知らない	知らない	無回答	内容まで知っている	内容聞いたことがあるが知らない	知らない	無回答	内容まで知っている	内容聞いたことがあるが知らない	知らない	無回答	内容まで知っている	内容聞いたことがあるが知らない	知らない	無回答
全 体		1,127	26.4	53.1	12.1	8.5	24.2	50.0	15.7	10.1	23.1	49.8	16.7	10.5	24.5	52.7	13.0	9.8
性別	女性	649	25.3	55.5	10.8	8.5	22.5	51.6	15.4	10.5	22.0	51.2	15.6	11.2	20.5	55.9	13.1	10.5
	男性	442	28.7	50.0	13.1	8.1	27.1	48.0	15.8	9.0	25.3	47.7	18.1	8.8	30.8	48.4	12.2	8.6
年代別	10歳代	13	46.2	38.5	7.7	7.7	38.5	38.5	15.4	7.7	46.2	38.5	15.4	0.0	38.5	46.2	15.4	0.0
	20歳代	86	40.7	45.3	11.6	2.3	33.7	46.5	17.4	2.3	29.1	46.5	20.9	3.5	34.9	48.8	12.8	3.5
	30歳代	110	26.4	47.3	19.1	7.3	22.7	50.0	20.9	6.4	13.6	48.2	32.7	5.5	21.8	47.3	25.5	5.5
	40歳代	152	34.9	50.7	9.9	4.6	34.9	47.4	13.2	4.6	27.6	47.4	19.7	5.3	36.2	46.7	11.8	5.3
	50歳代	253	32.4	56.1	8.3	3.2	29.2	55.3	10.7	4.7	29.2	54.9	11.9	4.0	28.5	56.9	10.3	4.3
	60歳代	197	26.9	53.3	10.2	9.6	24.9	51.8	11.2	12.2	24.9	54.8	8.1	12.2	25.9	58.4	6.1	9.6
	70歳代	194	14.4	59.3	15.5	10.8	13.9	54.1	19.1	12.9	19.1	48.5	16.5	16.0	14.9	54.1	14.4	16.5
	80歳以上	112	8.9	50.9	16.1	24.1	8.9	35.7	26.8	28.6	9.8	40.2	21.4	28.6	8.0	48.2	18.8	25.0

		(５) 同和問題 (部落差別)					(６) 日本に居住している 外国人に関する問題				(７) 感染症に関する問題				(８) ハンセン病患者・回 復者及びその家族に 関する問題			
(単位：％)		回 答 者 数	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答
全 体		1,127	29.6	46.9	15.6	7.8	20.6	50.2	20.1	9.1	31.4	48.3	11.5	8.8	14.9	46.2	31.1	7.8
性 別	女性	649	24.0	50.8	17.1	8.0	16.9	52.1	21.9	9.1	29.9	50.4	10.9	8.8	13.1	45.8	33.3	7.9
	男性	442	38.7	41.4	12.7	7.2	26.2	48.2	16.7	8.8	33.7	45.7	12.2	8.4	17.9	47.5	27.1	7.5
年 代 別	10歳代	13	46.2	15.4	38.5	0.0	46.2	38.5	15.4	0.0	38.5	23.1	38.5	0.0	15.4	15.4	69.2	0.0
	20歳代	86	30.2	37.2	29.1	3.5	37.2	47.7	12.8	2.3	50.0	36.0	11.6	2.3	12.8	41.9	43.0	2.3
	30歳代	110	21.8	43.6	28.2	6.4	25.5	50.0	18.2	6.4	32.7	46.4	14.5	6.4	9.1	37.3	46.4	7.3
	40歳代	152	34.9	43.4	17.8	3.9	27.6	55.9	13.8	2.6	38.8	47.4	9.9	3.9	17.8	48.0	30.3	3.9
	50歳代	253	35.2	51.4	9.9	3.6	18.6	58.1	18.6	4.7	33.6	53.8	9.1	3.6	15.8	53.8	26.1	4.3
	60歳代	197	32.0	51.8	9.1	7.1	22.3	49.2	18.3	10.2	32.5	50.8	7.6	9.1	19.8	52.3	21.3	6.6
	70歳代	194	27.3	47.9	14.4	10.3	13.4	47.4	27.8	11.3	22.2	51.5	12.9	13.4	14.4	42.8	31.4	11.3
	80歳以上	112	15.2	46.4	15.2	23.2	4.5	36.6	29.5	29.5	14.3	41.1	18.8	25.9	8.0	39.3	31.3	21.4

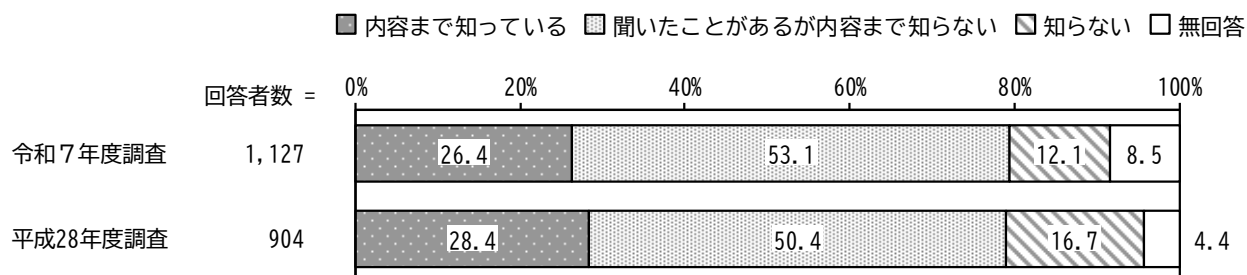
		(9) 犯罪被害者及びその 家族に関する問題					(10) 性的マイノリティに 関する問題				(11) インターネット上の 人権侵害の問題				(12) ホームレスの人に関 する問題			
(単位：％)		回 答 者 数	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 聞 いた こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 聞 いた こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 聞 いた こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 聞 いた こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答
全 体		1,127	16.6	49.7	24.8	8.9	26.2	50.5	14.9	8.4	30.7	45.9	14.6	8.8	14.5	47.4	28.0	10.1
性 別	女性	649	13.9	51.0	25.6	9.6	24.3	53.6	13.6	8.5	28.7	48.2	14.6	8.5	11.2	49.5	28.8	10.5
	男性	442	21.0	47.7	23.3	7.9	28.5	45.7	17.2	8.6	34.2	42.3	14.5	9.0	19.5	44.8	26.2	9.5
年 代 別	10歳代	13	38.5	30.8	30.8	0.0	53.8	30.8	15.4	0.0	46.2	38.5	15.4	0.0	15.4	38.5	46.2	0.0
	20歳代	86	23.3	50.0	23.3	3.5	46.5	43.0	8.1	2.3	45.3	39.5	14.0	1.2	19.8	51.2	25.6	3.5
	30歳代	110	17.3	50.9	23.6	8.2	30.9	49.1	13.6	6.4	37.3	45.5	10.9	6.4	14.5	47.3	30.9	7.3
	40歳代	152	21.1	54.6	20.4	3.9	35.5	48.0	12.5	3.9	46.7	37.5	11.8	3.9	17.8	52.0	24.3	5.9
	50歳代	253	22.5	51.8	21.3	4.3	28.1	55.3	12.6	4.0	33.2	51.0	10.7	5.1	19.0	44.7	30.8	5.5
	60歳代	197	15.2	56.3	21.3	7.1	24.4	58.9	10.2	6.6	30.5	51.3	9.6	8.6	15.2	49.2	24.4	11.2
	70歳代	194	10.3	41.8	33.5	14.4	17.5	52.1	17.5	12.9	19.6	49.5	18.6	12.4	8.8	46.9	30.9	13.4
	80歳以上	112	3.6	40.2	32.1	24.1	4.5	33.0	34.8	27.7	5.4	35.7	33.9	25.0	5.4	41.1	26.8	26.8

		(13) 北朝鮮当局によって 拉致された被害者に 関する問題				(14) 刑を終えて出所した 人及びその家族に関 する問題				(15) アイヌの人々に関す る問題				(16) 人身取引に関する 問題			
(単位：%)	回 答 者 数	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答
全 体	1,127	39.0	43.3	8.3	9.4	11.8	44.1	33.8	10.3	10.4	42.8	36.6	10.2	15.8	50.1	24.9	9.1
性 別																	
女性	649	35.7	47.3	8.2	8.8	9.4	43.6	35.9	11.1	7.7	40.8	41.0	10.5	14.2	50.4	25.4	10.0
男性	442	44.6	37.1	8.4	10.0	15.6	45.9	29.9	8.6	14.5	46.8	29.4	9.3	18.8	49.8	24.2	7.2
年 代 別																	
10歳代	13	30.8	53.8	15.4	0.0	30.8	15.4	53.8	0.0	15.4	38.5	46.2	0.0	15.4	53.8	30.8	0.0
20歳代	86	37.2	47.7	14.0	1.2	12.8	44.2	38.4	4.7	12.8	44.2	39.5	3.5	19.8	47.7	27.9	4.7
30歳代	110	37.3	42.7	12.7	7.3	12.7	46.4	32.7	8.2	10.9	40.9	40.9	7.3	13.6	52.7	25.5	8.2
40歳代	152	44.1	39.5	11.8	4.6	17.1	50.7	27.6	4.6	14.5	48.0	32.9	4.6	26.3	48.0	22.4	3.3
50歳代	253	43.1	44.7	7.1	5.1	15.0	47.8	32.0	5.1	10.3	48.6	35.6	5.5	19.0	54.5	21.3	5.1
60歳代	197	42.1	44.7	4.1	9.1	9.6	49.2	29.9	11.2	12.7	45.2	33.0	9.1	16.8	57.4	18.3	7.6
70歳代	194	37.1	41.8	7.2	13.9	7.7	38.7	40.2	13.4	7.7	37.1	41.2	13.9	8.8	47.4	32.0	11.9
80歳以上	112	26.8	40.2	7.1	25.9	5.4	29.5	36.6	28.6	3.6	29.5	35.7	31.3	4.5	34.8	33.0	27.7

		(17) 働く人の権利に関す る問題				(18) 震災等の災害に伴う 人権問題				(19) ゲノム情報（遺伝情 報）に関する問題			
(単位：%)	回 答 者 数	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答	内 容 ま で 知 っ て い る	内 容 ま で 知 ら な い こ と が あ る が	知 ら な い	無 回 答
全 体	1,127	26.4	47.5	15.1	11.0	17.2	49.3	23.2	10.3	6.1	32.7	51.6	9.5
性 別													
女性	649	23.6	48.7	16.3	11.4	15.9	49.8	23.4	10.9	4.8	30.7	54.5	10.0
男性	442	31.0	45.7	12.9	10.4	19.2	48.4	23.3	9.0	7.9	35.5	48.4	8.1
年 代 別													
10歳代	13	38.5	46.2	15.4	0.0	30.8	46.2	23.1	0.0	7.7	23.1	69.2	0.0
20歳代	86	37.2	45.3	12.8	4.7	23.3	52.3	19.8	4.7	10.5	31.4	54.7	3.5
30歳代	110	28.2	43.6	20.9	7.3	23.6	39.1	29.1	8.2	5.5	27.3	59.1	8.2
40歳代	152	31.6	49.3	13.8	5.3	23.7	52.6	19.7	3.9	9.2	30.9	55.9	3.9
50歳代	253	29.2	51.4	12.6	6.7	19.8	53.4	21.3	5.5	7.1	39.5	48.2	5.1
60歳代	197	30.5	49.2	9.1	11.2	15.2	51.8	22.8	10.2	5.1	38.1	47.7	9.1
70歳代	194	18.6	49.0	19.1	13.4	9.3	53.1	23.2	14.4	4.6	30.9	53.1	11.3
80歳以上	112	8.9	36.6	22.3	32.1	8.9	32.1	31.3	27.7	1.8	19.6	50.0	28.6

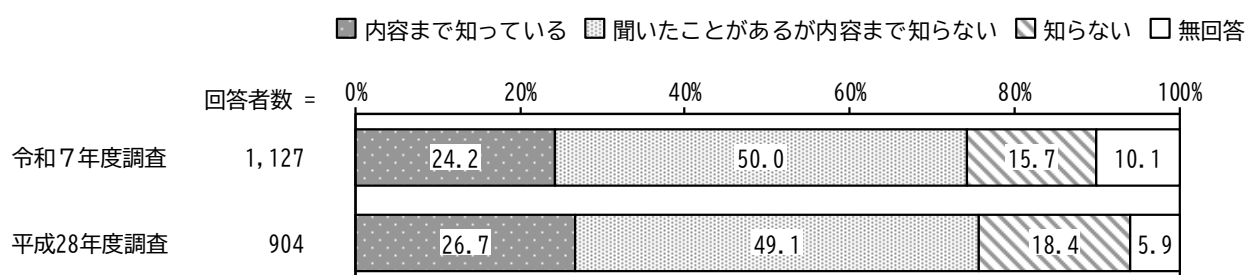
(1) 女性に関する問題

【経年比較】



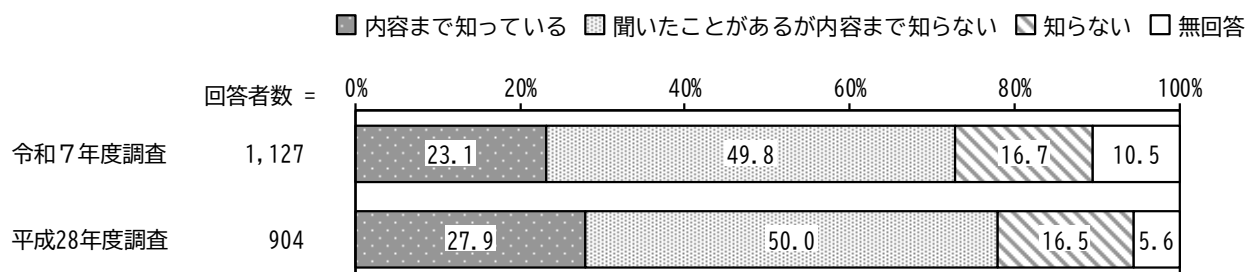
(2) 子どもに関する問題

【経年比較】



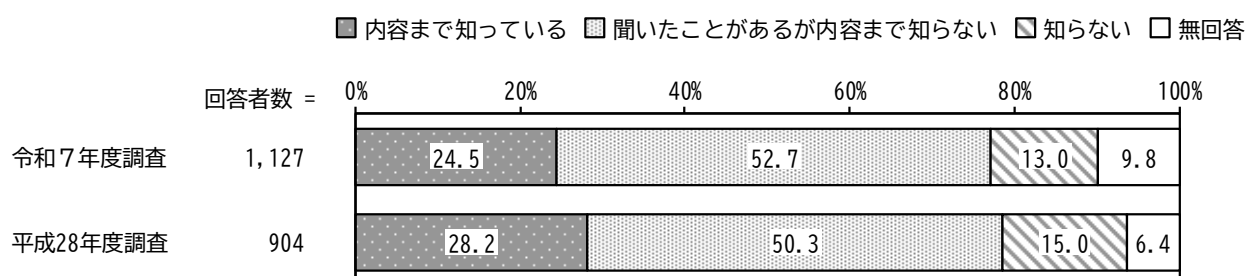
(3) 高齢者に関する問題

【経年比較】



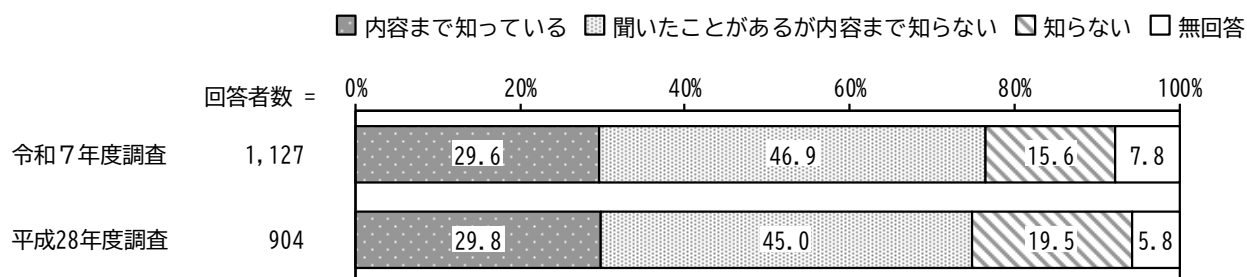
(4) 障がいのある人に関する問題

【経年比較】



(5) 同和問題（部落差別）

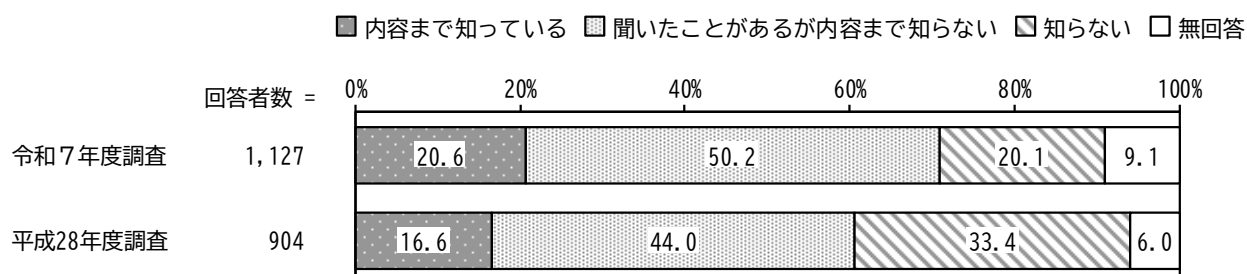
【経年比較】



(6) 日本に居住している外国人に関する問題

【経年比較】

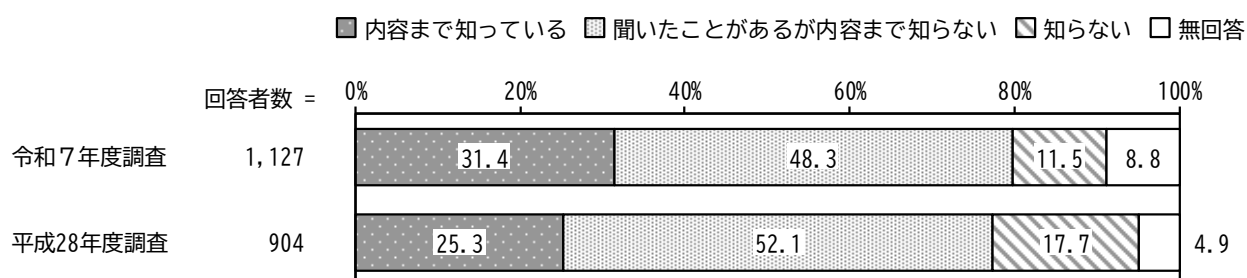
平成28年度調査と比較すると、「聞いたことがあるが内容まで知らない」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



(7) 感染症（エイズ、肝炎、新型コロナウイルス感染症等）に関する問題

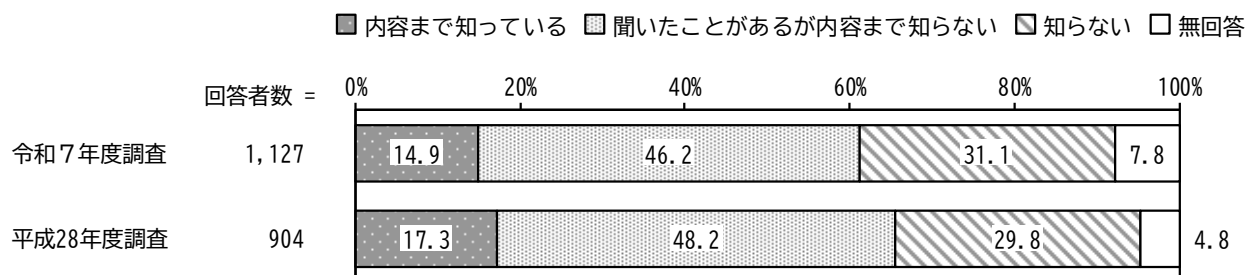
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「内容まで知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



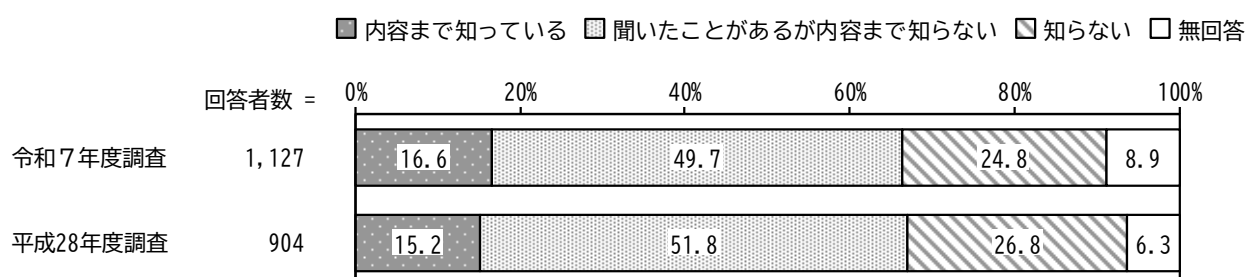
(8) ハンセン病患者・回復者及びその家族に関する問題

【経年比較】



(9) 犯罪被害者及びその家族に関する問題

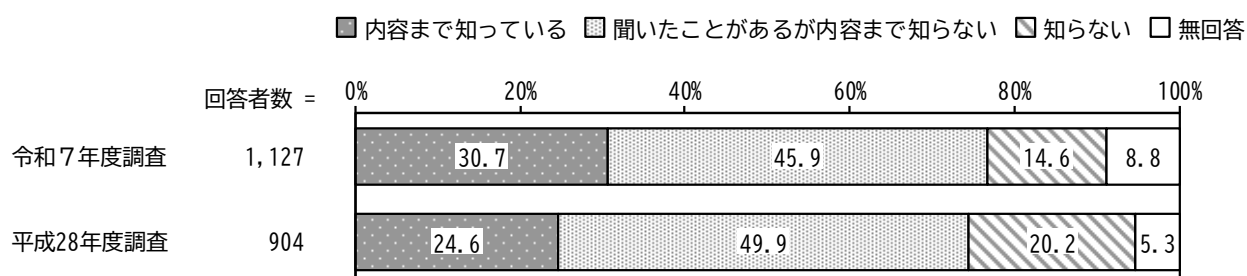
【経年比較】



(11) インターネット上の人権侵害の問題

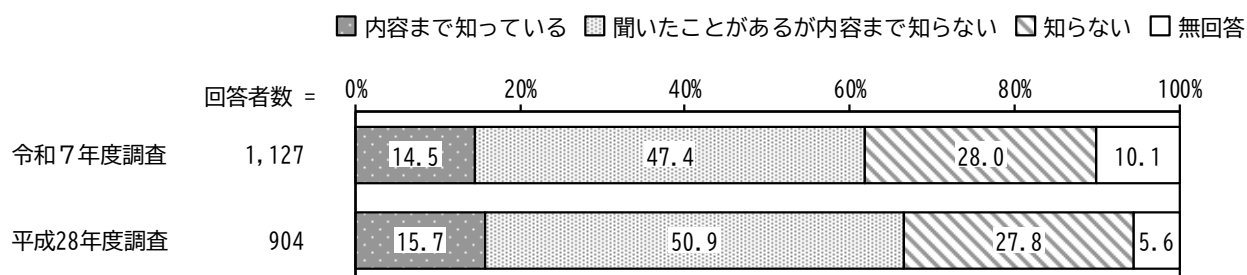
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「内容まで知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



(12) ホームレスの人に関する問題

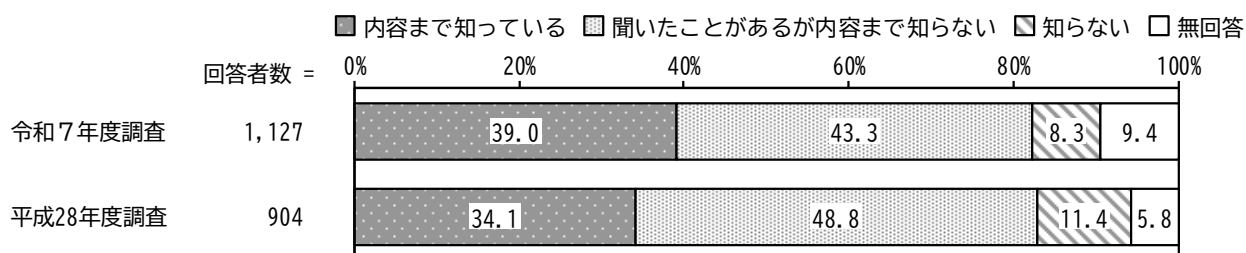
【経年比較】



(13) 北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題

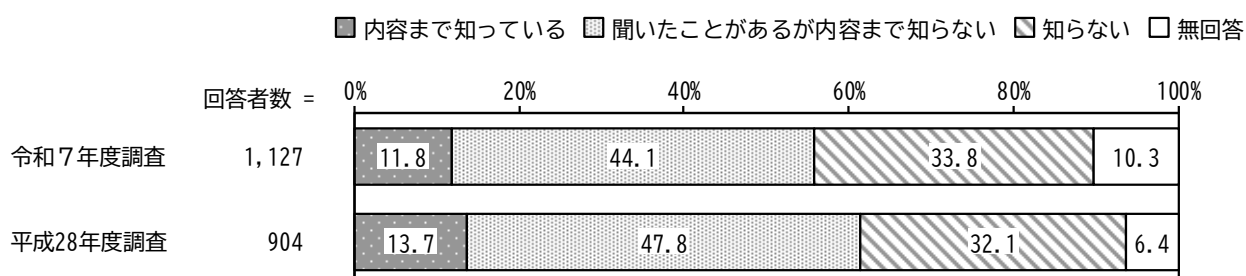
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「聞いたことがあるが内容まで知らない」の割合が減少しています。



(14) 刑を終えて出所した人及びその家族に関する問題

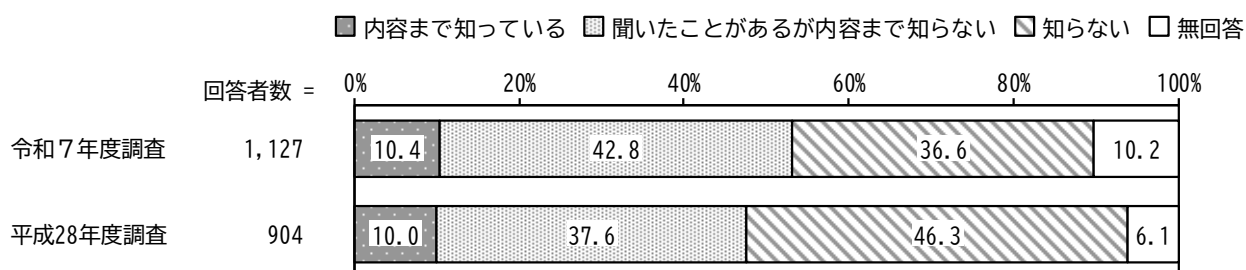
【経年比較】



(15) アイヌの人々に関する問題

【経年比較】

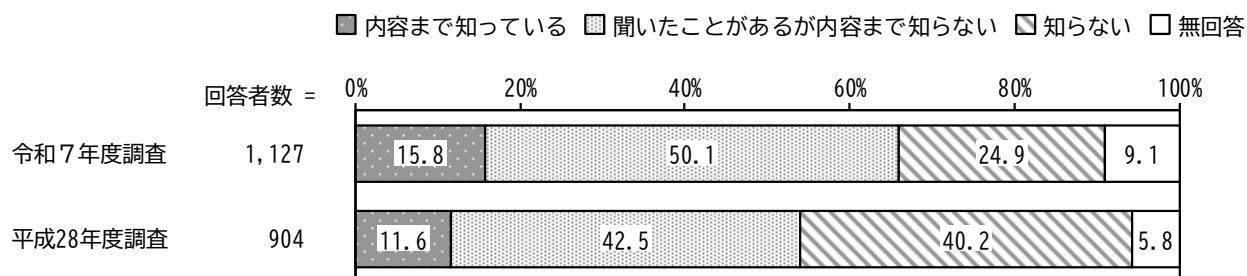
平成 28 年度調査と比較すると、「聞いたことがあるが内容まで知らない」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



(16) 人身取引（性的搾取・強制労働などを目的とした人身取引）に関する問題

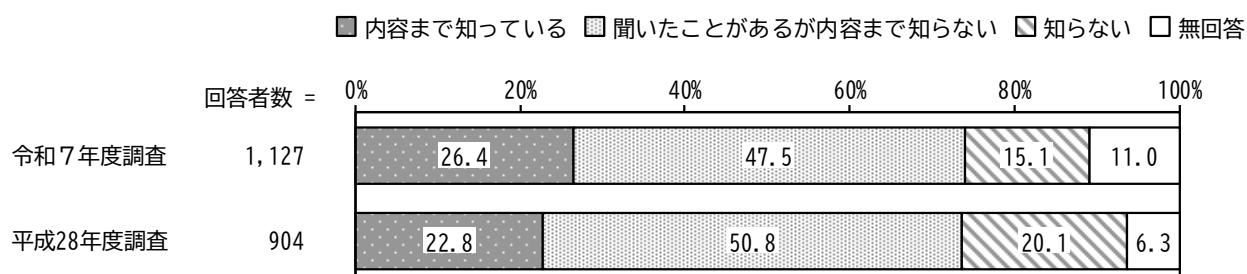
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「聞いたことがあるが内容まで知らない」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



(17) 働く人の権利に関する問題

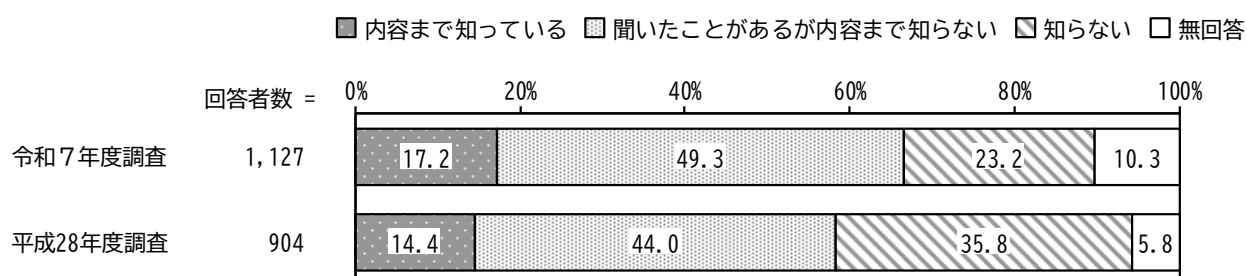
【経年比較】



(18) 震災等の災害に伴う人権問題

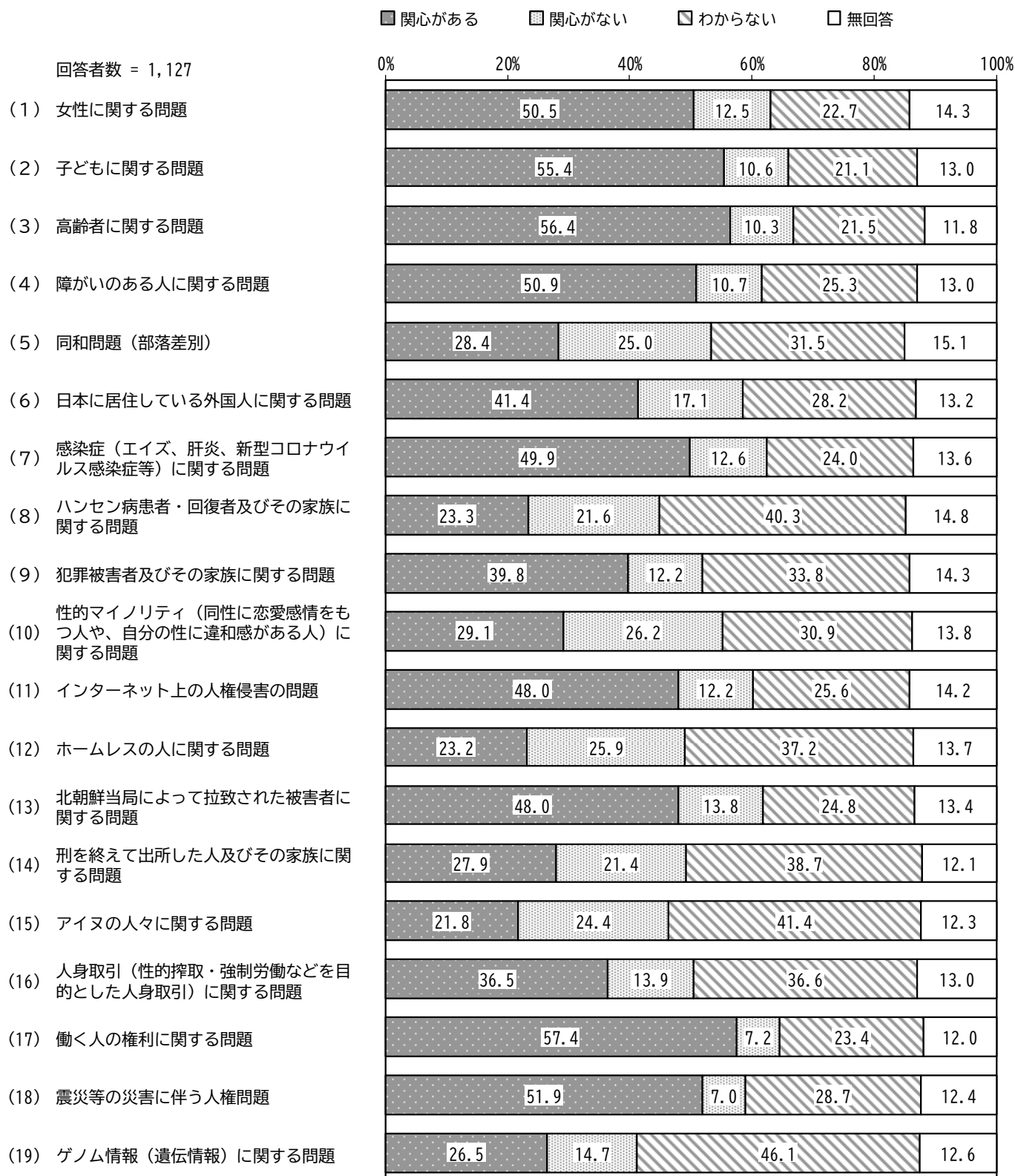
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「聞いたことがあるが内容まで知らない」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



B 関心度

『(17) 働く人の権利に関する問題』で「関心がある」が、『(10) 性的マイノリティ（同性に恋愛感情をもつ人や、自分の性に違和感がある人）に関する問題』で「関心がない」が、『(19) ゲノム情報（遺伝情報）に関する問題』で「わからない」が高くなっています。



【性別・年代別】

		(1) 女性に関する問題				(2) 子どもに関する問題				(3) 高齢者に関する問題				(4) 障がいのある人に関する問題				
(単位：%)	回答者数	関心がある	関心がない	わからない	無回答	関心がある	関心がない	わからない	無回答	関心がある	関心がない	わからない	無回答	関心がある	関心がない	わからない	無回答	
全 体		1,127	50.5	12.5	22.7	14.3	55.4	10.6	21.1	13.0	56.4	10.3	21.5	11.8	50.9	10.7	25.3	13.0
性別	女性	649	55.8	8.0	20.3	15.9	57.3	8.8	19.6	14.3	60.1	7.4	20.0	12.5	51.9	8.8	25.1	14.2
	男性	442	43.9	19.2	25.1	11.8	53.2	13.6	22.4	10.9	52.0	14.7	22.6	10.6	50.7	13.6	24.7	11.1
年代別	10歳代	13	46.2	30.8	23.1	0.0	61.5	23.1	15.4	0.0	46.2	23.1	23.1	7.7	61.5	7.7	23.1	7.7
	20歳代	86	53.5	18.6	17.4	10.5	52.3	16.3	20.9	10.5	37.2	26.7	26.7	9.3	39.5	27.9	23.3	9.3
	30歳代	110	58.2	14.5	24.5	2.7	67.3	11.8	16.4	4.5	40.9	20.0	34.5	4.5	41.8	20.9	32.7	4.5
	40歳代	152	53.9	14.5	26.3	5.3	65.1	9.2	20.4	5.3	53.9	15.8	25.0	5.3	54.6	11.8	26.3	7.2
	50歳代	253	57.3	10.7	19.8	12.3	62.1	8.3	19.4	10.3	61.7	7.1	20.6	10.7	56.5	8.7	24.1	10.7
	60歳代	197	54.3	10.7	20.8	14.2	55.3	11.7	21.3	11.7	70.6	5.1	13.2	11.2	58.4	7.1	20.3	14.2
	70歳代	194	39.2	11.9	23.2	25.8	44.3	10.8	21.6	23.2	58.8	4.1	18.6	18.6	49.5	6.7	23.2	20.6
	80歳以上	112	34.8	9.8	30.4	25.0	37.5	8.9	29.5	24.1	50.0	7.1	22.3	20.5	39.3	4.5	34.8	21.4

		(５) 同和問題 (部落差別)				(６) 日本に居住している 外国人に関する問題				(７) 感染症に関する問題				(８) ハンセン病患者・回 復者及びその家族に 関する問題				
(単位：％)	回 答 者 数	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	
全 体		1,127	28.4	25.0	31.5	15.1	41.4	17.1	28.2	13.2	49.9	12.6	24.0	13.6	23.3	21.6	40.3	14.8
性 別	女性	649	25.0	23.6	34.7	16.8	39.8	14.5	31.0	14.8	50.2	10.2	24.3	15.3	22.7	18.0	43.0	16.3
	男性	442	33.5	27.6	26.7	12.2	43.7	22.2	23.5	10.6	49.3	16.5	23.3	10.9	25.1	26.7	36.0	12.2
年 代 別	10歳代	13	7.7	30.8	53.8	7.7	38.5	30.8	23.1	7.7	46.2	23.1	23.1	7.7	15.4	30.8	46.2	7.7
	20歳代	86	26.7	31.4	32.6	9.3	48.8	24.4	16.3	10.5	51.2	18.6	19.8	10.5	24.4	27.9	37.2	10.5
	30歳代	110	29.1	35.5	30.9	4.5	50.9	17.3	28.2	3.6	56.4	15.5	24.5	3.6	22.7	27.3	46.4	3.6
	40歳代	152	31.6	26.3	35.5	6.6	46.1	17.1	29.6	7.2	54.6	15.1	24.3	5.9	24.3	29.6	40.1	5.9
	50歳代	253	33.6	25.7	28.5	12.3	45.8	18.2	26.1	9.9	52.2	13.8	22.9	11.1	26.5	20.6	42.7	10.3
	60歳代	197	28.4	20.3	35.0	16.2	42.6	17.3	27.4	12.7	53.3	9.6	22.8	14.2	24.4	20.3	37.6	17.8
	70歳代	194	26.3	21.6	27.3	24.7	31.4	12.9	30.9	24.7	41.2	12.4	25.3	21.1	23.2	17.5	36.1	23.2
	80歳以上	112	17.0	22.3	33.0	27.7	25.9	16.1	38.4	19.6	41.1	4.5	29.5	25.0	14.3	11.6	44.6	29.5

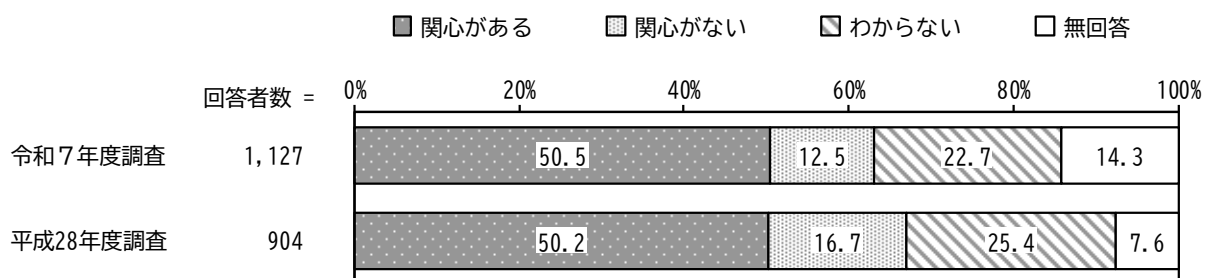
		(9) 犯罪被害者及びその 家族に関する問題				(10) 性的マイノリティに 関する問題				(11) インターネット上の 人権侵害の問題				(12) ホームレスの人に関 する問題				
(単位：%)		回 答 者 数	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,127	39.8	12.2	33.8	14.3	29.1	26.2	30.9	13.8	48.0	12.2	25.6	14.2	23.2	25.9	37.2	13.7
性 別	女性	649	40.1	9.6	35.3	15.1	29.9	21.4	33.4	15.3	48.2	8.5	27.4	15.9	23.0	21.6	40.2	15.3
	男性	442	39.8	16.5	31.2	12.4	27.8	34.6	26.7	10.9	48.2	17.9	22.9	11.1	24.2	32.6	32.4	10.9
年 代 別	10歳代	13	61.5	0.0	30.8	7.7	46.2	30.8	15.4	7.7	69.2	0.0	23.1	7.7	7.7	38.5	46.2	7.7
	20歳代	86	41.9	24.4	24.4	9.3	40.7	30.2	18.6	10.5	52.3	18.6	17.4	11.6	24.4	34.9	30.2	10.5
	30歳代	110	50.0	10.9	35.5	3.6	38.2	33.6	24.5	3.6	56.4	17.3	22.7	3.6	23.6	40.9	32.7	2.7
	40歳代	152	43.4	17.8	32.9	5.9	35.5	25.7	32.9	5.9	53.9	15.1	23.0	7.9	25.7	29.6	37.5	7.2
	50歳代	253	47.0	9.1	32.4	11.5	37.2	24.1	27.3	11.5	56.1	12.6	20.9	10.3	28.1	25.3	36.8	9.9
	60歳代	197	42.1	11.7	29.9	16.2	24.4	24.4	35.0	16.2	55.3	8.6	21.8	14.2	22.8	27.4	36.0	13.7
	70歳代	194	26.3	11.9	39.2	22.7	19.1	27.3	32.0	21.6	31.4	10.3	33.5	24.7	19.1	17.0	38.1	25.8
	80歳以上	112	23.2	7.1	43.8	25.9	8.9	24.1	45.5	21.4	24.1	8.9	43.8	23.2	17.9	14.3	47.3	20.5

		(13) 北朝鮮当局によって 拉致された被害者に 関する問題				(14) 刑を終えて出所した 人及びその家族に関 する問題				(15) アイヌの人々に関す る問題				(16) 人身取引に関する 問題			
(単位：%)	回 答 者 数	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1,127	48.0	13.8	24.8	13.4	27.9	21.4	38.7	12.1	21.8	24.4	41.4	12.3	36.5	13.9	36.6	13.0
性 別																	
女性	649	45.1	11.1	28.0	15.7	27.0	17.1	43.1	12.8	19.7	21.9	45.5	12.9	34.8	10.9	40.7	13.6
男性	442	52.7	17.6	19.9	9.7	29.9	28.5	30.8	10.9	25.6	29.2	33.9	11.3	38.9	19.0	30.1	12.0
年 代 別																	
10歳代	13	23.1	23.1	46.2	7.7	30.8	15.4	46.2	7.7	7.7	30.8	53.8	7.7	7.7	38.5	46.2	7.7
20歳代	86	37.2	24.4	26.7	11.6	29.1	29.1	33.7	8.1	25.6	32.6	32.6	9.3	44.2	22.1	25.6	8.1
30歳代	110	38.2	26.4	31.8	3.6	33.6	28.2	36.4	1.8	20.9	32.7	43.6	2.7	39.1	18.2	40.9	1.8
40歳代	152	43.4	21.7	28.3	6.6	32.9	30.3	30.9	5.9	20.4	34.2	38.8	6.6	43.4	17.8	31.6	7.2
50歳代	253	53.4	12.3	24.9	9.5	35.6	19.8	35.6	9.1	27.3	22.9	40.7	9.1	41.5	12.3	37.2	9.1
60歳代	197	50.8	9.1	25.4	14.7	24.9	21.8	40.6	12.7	22.8	23.9	39.6	13.7	41.6	12.2	29.9	16.2
70歳代	194	53.1	7.2	19.1	20.6	19.6	14.9	43.8	21.6	17.0	18.0	45.4	19.6	24.2	9.8	43.3	22.7
80歳以上	112	49.1	5.4	19.6	25.9	17.0	12.5	50.0	20.5	17.9	11.6	48.2	22.3	22.3	10.7	47.3	19.6

		(17) 働く人の権利に関す る問題				(18) 震災等の災害に伴う 人権問題				(19) ゲノム情報（遺伝情 報）に関する問題			
(単位：%)	回 答 者 数	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答	関 心 が あ る	関 心 が な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1,127	57.4	7.2	23.4	12.0	51.9	7.0	28.7	12.4	26.5	14.7	46.1	12.6
性 別													
女性	649	58.1	6.2	22.7	13.1	53.3	4.5	28.8	13.4	26.2	12.3	48.1	13.4
男性	442	57.5	9.0	23.8	9.7	50.0	11.1	28.3	10.6	27.4	19.0	42.5	11.1
年 代 別													
10歳代	13	61.5	15.4	15.4	7.7	53.8	7.7	30.8	7.7	23.1	23.1	46.2	7.7
20歳代	86	62.8	12.8	16.3	8.1	53.5	12.8	24.4	9.3	30.2	23.3	37.2	9.3
30歳代	110	70.0	5.5	21.8	2.7	59.1	5.5	32.7	2.7	27.3	12.7	58.2	1.8
40歳代	152	60.5	10.5	21.1	7.9	53.3	13.2	26.3	7.2	32.2	20.4	40.8	6.6
50歳代	253	63.6	5.9	22.1	8.3	55.7	6.7	28.5	9.1	33.6	11.9	45.8	8.7
60歳代	197	61.9	4.1	22.3	11.7	55.8	4.6	26.4	13.2	27.4	13.2	45.2	14.2
70歳代	194	43.8	8.8	27.3	20.1	42.8	5.2	30.9	21.1	17.5	12.4	47.9	22.2
80歳以上	112	39.3	5.4	33.0	22.3	42.0	4.5	32.1	21.4	14.3	15.2	49.1	21.4

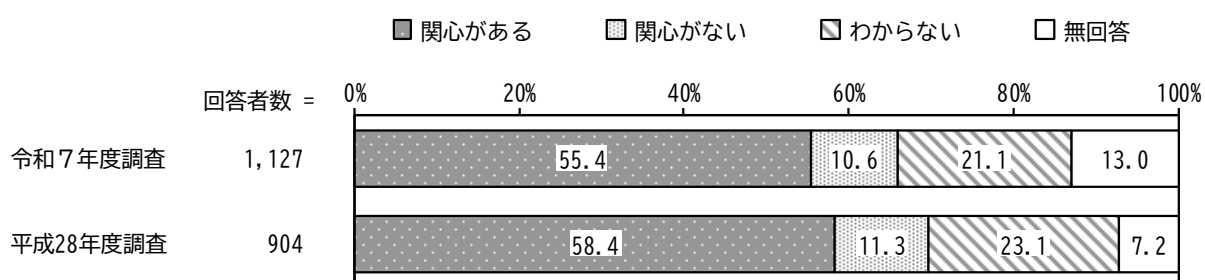
（１）女性に関する問題

【経年比較】



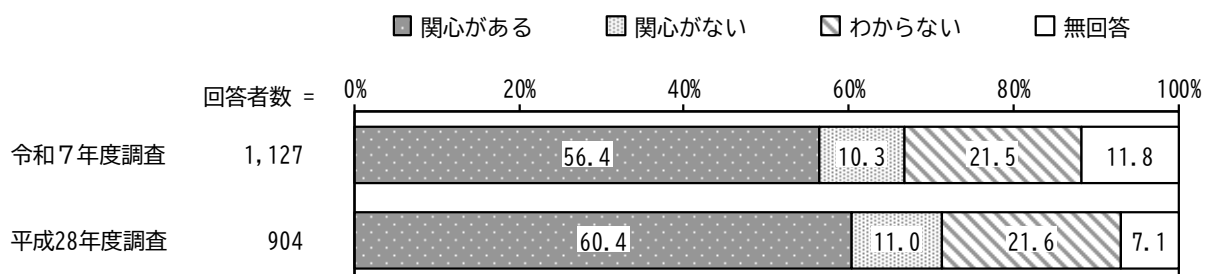
（２）子どもに関する問題

【経年比較】



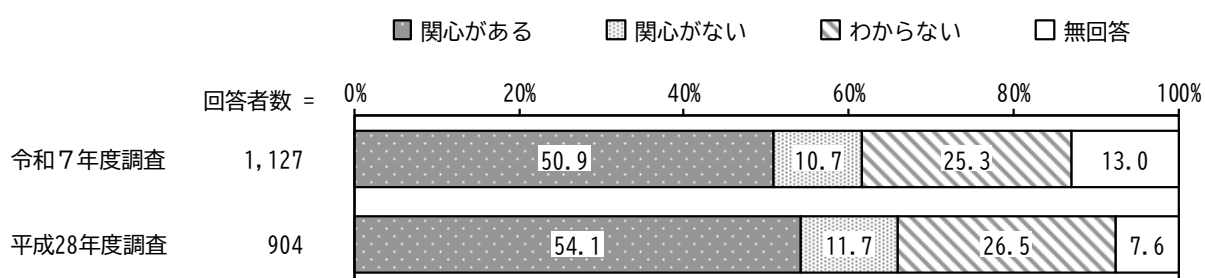
（３）高齢者に関する問題

【経年比較】



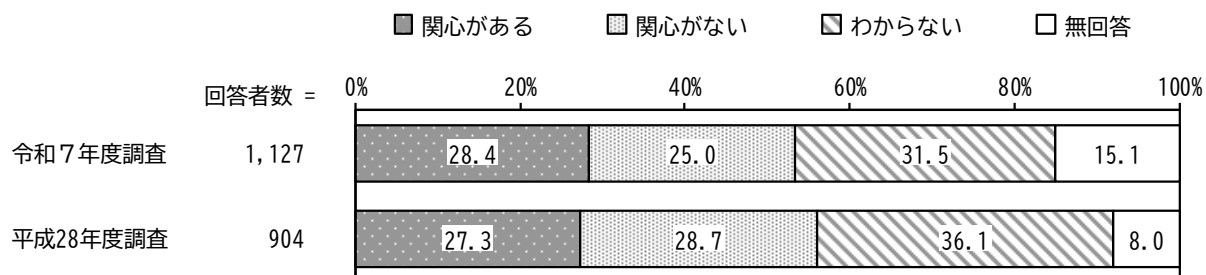
（４）障がいのある人に関する問題

【経年比較】



(5) 同和問題（部落差別）

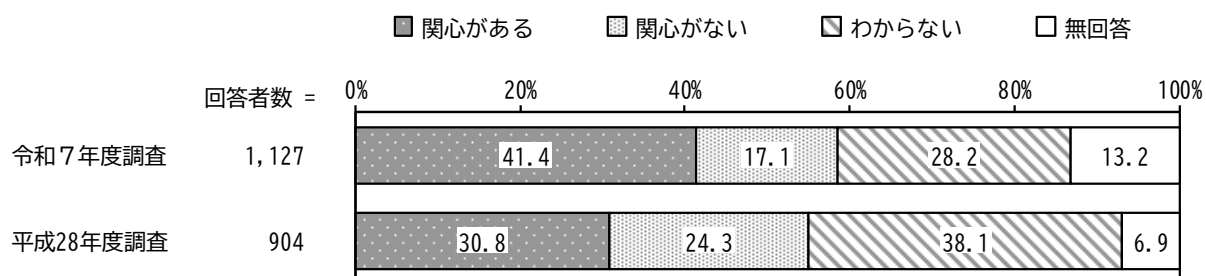
【経年比較】



(6) 日本に居住している外国人に関する問題

【経年比較】

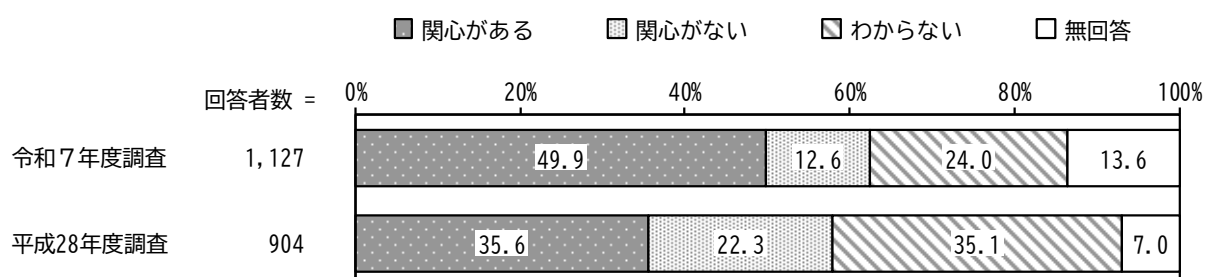
平成28年度調査と比較すると、「関心がある」の割合が増加しています。



(7) 感染症（エイズ、肝炎、新型コロナウイルス感染症等）に関する問題

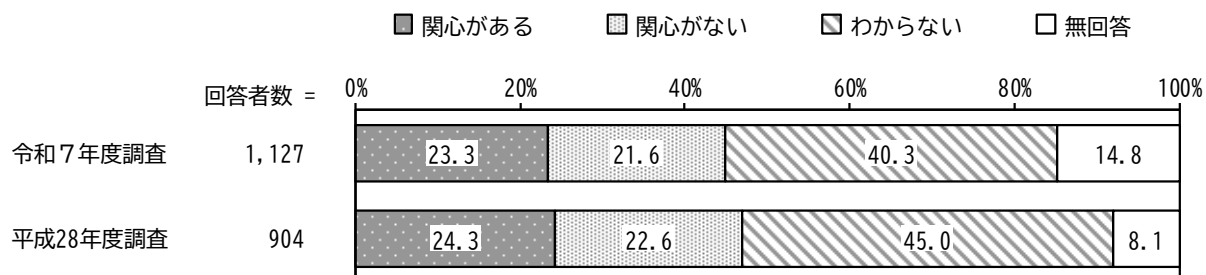
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「関心がある」の割合が増加しています。



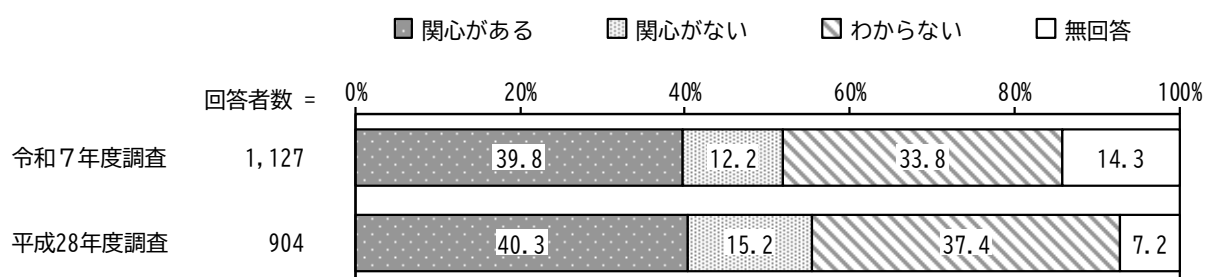
(8) ハンセン病患者・回復者及びその家族に関する問題

【経年比較】



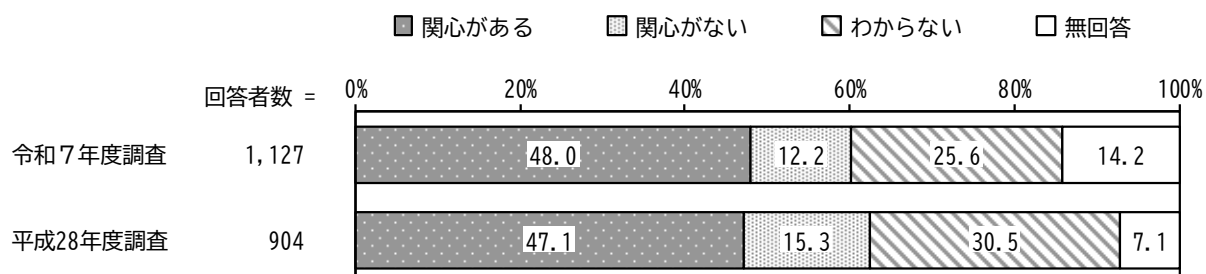
(9) 犯罪被害者及びその家族に関する問題

【経年比較】



(11) インターネット上の人権侵害の問題

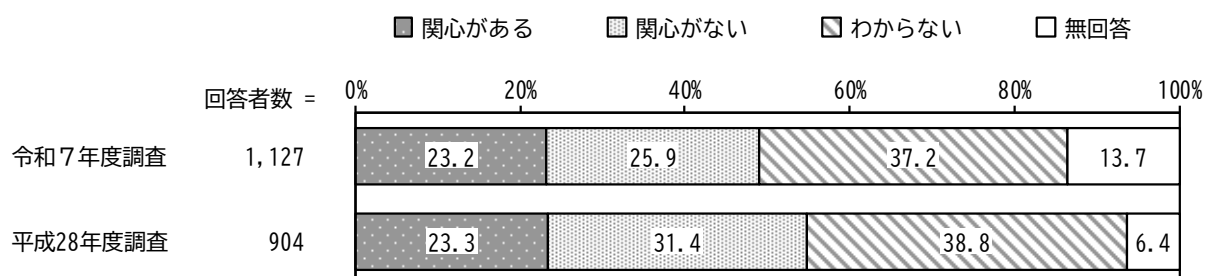
【経年比較】



(12) ホームレスの人に関する問題

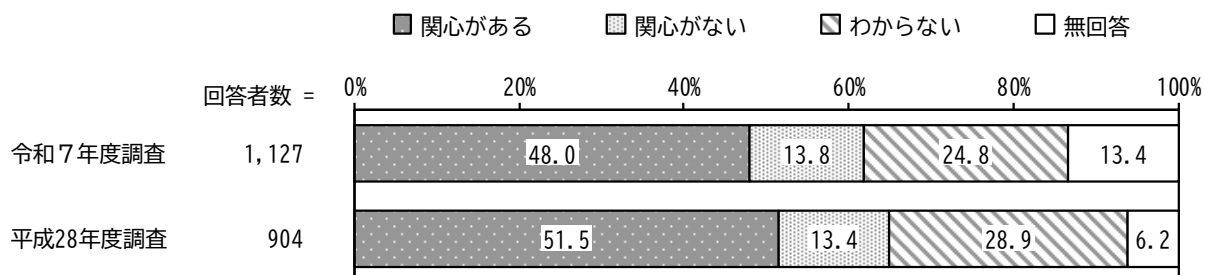
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「関心がない」の割合が減少しています。



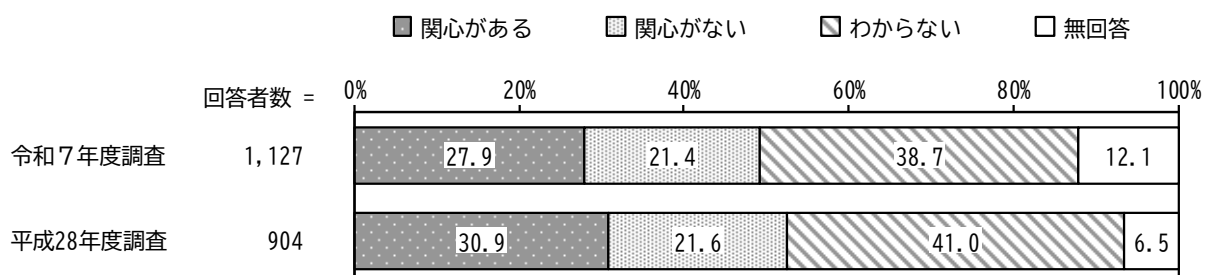
(13) 北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題

【経年比較】



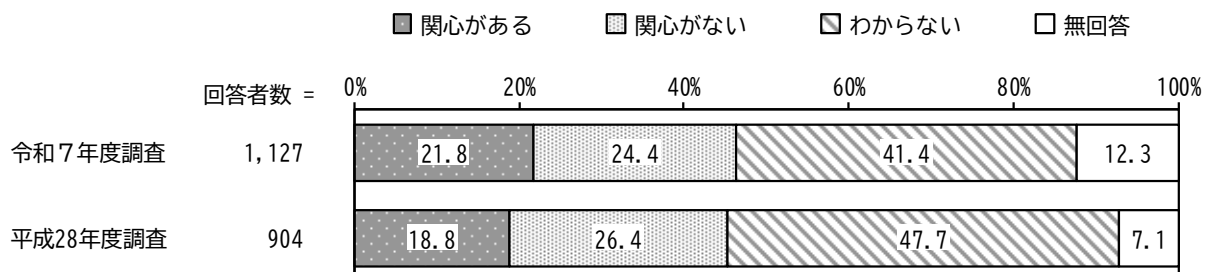
(14) 刑を終えて出所した人及びその家族に関する問題

【経年比較】



(15) アイヌの人々に関する問題

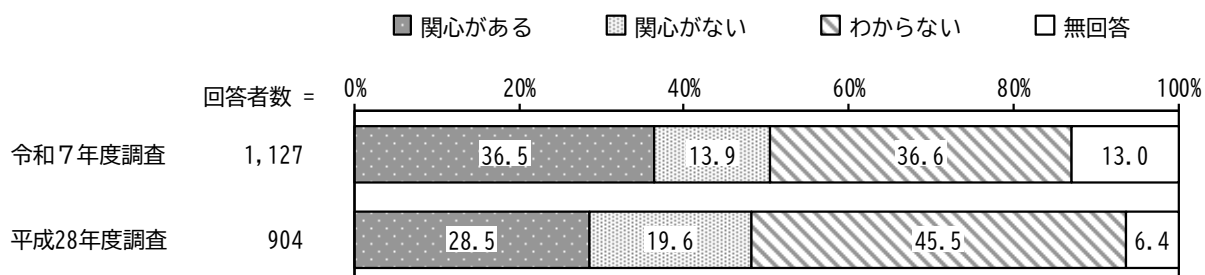
【経年比較】



(16) 人身取引（性的搾取・強制労働などを目的とした人身取引）に関する問題

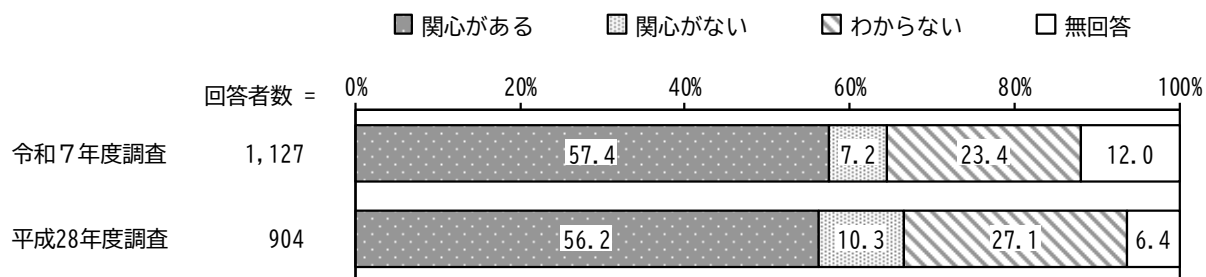
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「関心がある」の割合が増加しています。



(17) 働く人の権利に関する問題

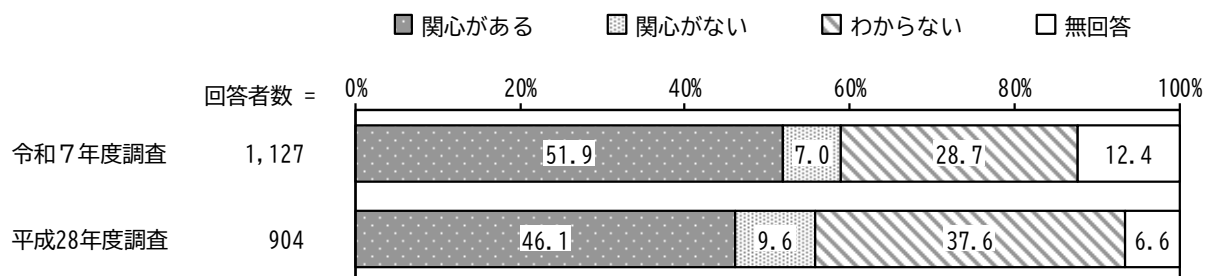
【経年比較】



(18) 震災等の災害に伴う人権問題

【経年比較】

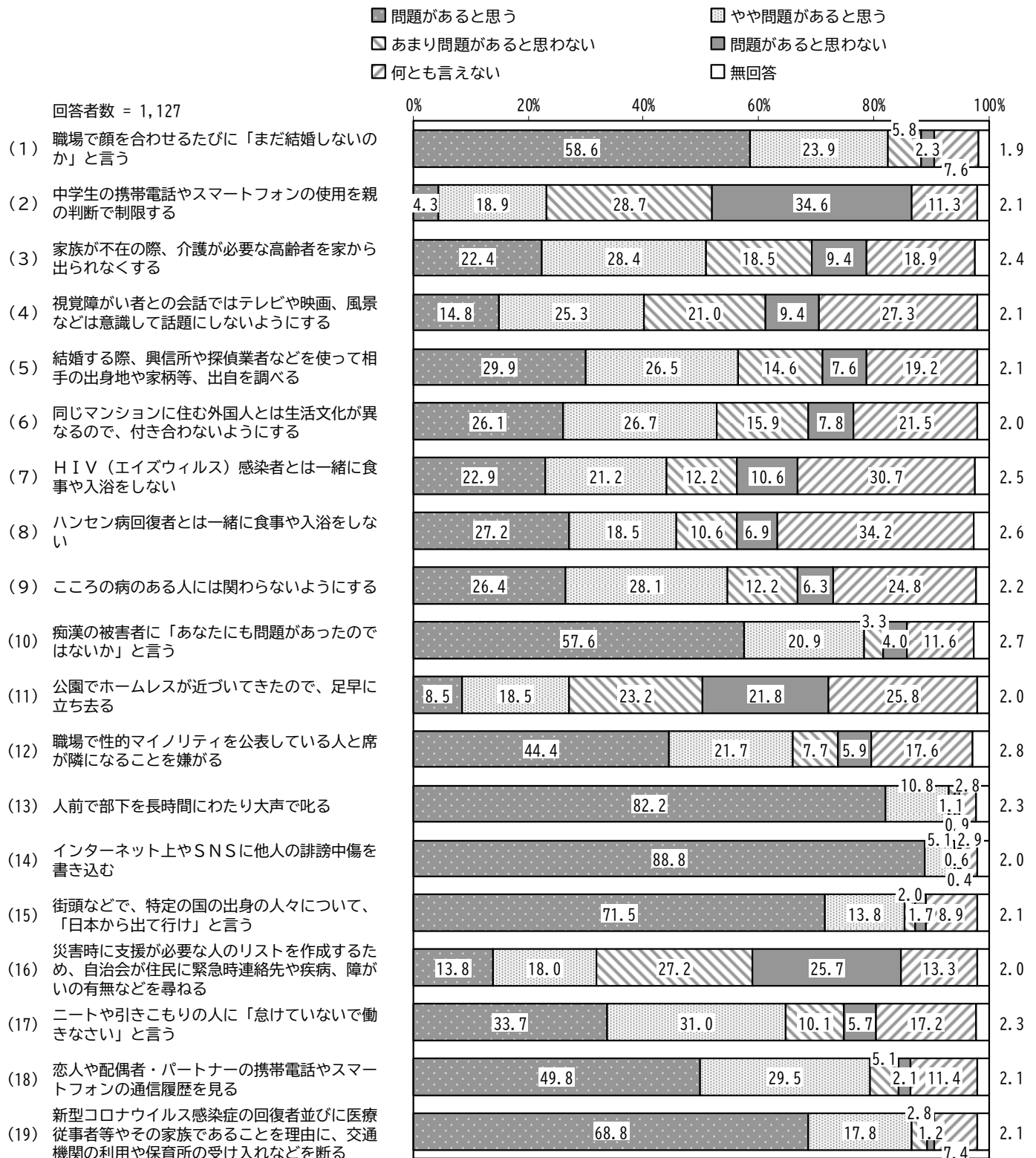
平成28年度調査と比較すると、「関心がある」の割合が増加しています。



問5 あなたは、次のことがらについて、人権上、問題があると思いますか。

【(1)～(19)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

『(14) インターネット上やSNSに他人の誹謗中傷を書き込む』で「問題があると思う」が、『(17) ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う』で「やや問題があると思う」が、『(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する』で「あまり問題があると思わない」「問題があると思わない」が、『(8) ハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない』で「何とも言えない」が高くなっています。



【性別・年代別】

		(1) 職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う							(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する							(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする						
(単位：％)	回答者数	う問題があると思	やや思う問題がある	あまり思わな問題がある	わからないが	何とも言えない	無回答		う問題があると思	やや思う問題がある	あまり思わな問題がある	わからないが	何とも言えない	無回答		う問題があると思	やや思う問題がある	あまり思わな問題がある	わからないが	何とも言えない	無回答	
全 体	1,127	58.6	23.9	5.8	2.3	7.6	1.9		4.3	18.9	28.7	34.6	11.3	2.1		22.4	28.4	18.5	9.4	18.9	2.4	
性別	女性	649	62.2	22.3	5.7	1.5	6.6	1.5	3.1	19.7	28.7	35.1	11.4	2.0		21.3	29.0	19.4	9.4	18.8	2.2	
	男性	442	52.7	26.9	6.3	3.4	8.8	1.8	6.3	17.9	29.2	33.9	10.9	1.8		23.3	28.7	17.6	9.7	18.6	2.0	
年代別	10歳代	13	30.8	38.5	7.7	7.7	15.4	0.0	23.1	7.7	38.5	23.1	7.7	0.0		15.4	30.8	23.1	0.0	30.8	0.0	
	20歳代	86	58.1	26.7	5.8	1.2	7.0	1.2	1.2	22.1	43.0	23.3	9.3	1.2		5.8	22.1	33.7	17.4	19.8	1.2	
	30歳代	110	61.8	23.6	2.7	5.5	6.4	0.0	3.6	11.8	25.5	48.2	10.9	0.0		14.5	17.3	27.3	20.0	20.0	0.9	
	40歳代	152	67.1	22.4	4.6	2.0	3.9	0.0	5.9	13.2	34.2	40.1	6.6	0.0		17.1	28.3	23.0	7.9	23.7	0.0	
	50歳代	253	69.6	19.0	4.0	2.0	4.3	1.2	4.0	18.2	30.8	37.2	7.5	2.4		21.7	30.0	20.6	9.1	17.0	1.6	
	60歳代	197	63.5	25.9	3.6	2.0	4.6	0.5	4.1	17.8	28.4	40.1	9.1	0.5		22.8	34.0	15.7	9.6	17.3	0.5	
	70歳代	194	49.0	28.4	8.2	1.0	9.8	3.6	4.6	24.7	23.2	27.3	16.5	3.6		34.5	33.5	6.2	5.7	15.5	4.6	
	80歳以上	112	30.4	22.3	14.3	3.6	23.2	6.3	3.6	25.0	18.8	23.2	23.2	6.3		27.7	24.1	14.3	3.6	23.2	7.1	

		(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする							(5) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出身地や家柄等、出自を調べる							(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なるので、付き合わないようにする						
(単位：％)	回答者数	う問題があると思	やや思う問題がある	あまり思わな問題がある	わからないが	何とも言えない	無回答		う問題があると思	やや思う問題がある	あまり思わな問題がある	わからないが	何とも言えない	無回答		う問題があると思	やや思う問題がある	あまり思わな問題がある	わからないが	何とも言えない	無回答	
全 体	1,127	14.8	25.3	21.0	9.4	27.3	2.1		29.9	26.5	14.6	7.6	19.2	2.1		26.1	26.7	15.9	7.8	21.5	2.0	
性別	女性	649	15.6	27.0	20.3	7.4	27.6	2.2	30.7	25.6	14.6	6.8	20.5	1.8		27.7	27.4	14.5	7.9	20.6	1.8	
	男性	442	14.3	22.4	23.3	12.7	26.0	1.4	28.7	29.0	14.5	8.8	17.0	2.0		24.4	26.2	17.4	7.5	22.9	1.6	
年代別	10歳代	13	23.1	15.4	23.1	15.4	23.1	0.0	15.4	23.1	46.2	0.0	15.4	0.0		30.8	23.1	23.1	7.7	15.4	0.0	
	20歳代	86	5.8	24.4	23.3	17.4	27.9	1.2	20.9	22.1	17.4	15.1	23.3	1.2		19.8	15.1	23.3	16.3	23.3	2.3	
	30歳代	110	10.9	22.7	26.4	11.8	28.2	0.0	17.3	30.0	20.0	12.7	20.0	0.0		20.9	19.1	21.8	16.4	21.8	0.0	
	40歳代	152	18.4	19.7	26.3	7.9	27.6	0.0	25.7	32.9	15.1	3.9	21.7	0.7		25.7	31.6	12.5	6.6	23.7	0.0	
	50歳代	253	18.2	26.1	22.5	9.9	21.7	1.6	37.9	24.1	13.8	7.5	15.4	1.2		24.5	33.6	18.2	5.9	16.6	1.2	
	60歳代	197	13.2	29.4	20.3	8.1	28.4	0.5	34.5	29.4	14.2	6.6	14.2	1.0		33.5	24.9	13.2	5.6	22.3	0.5	
	70歳代	194	18.6	26.3	16.5	6.7	28.4	3.6	33.0	24.7	9.8	7.2	21.1	4.1		33.0	26.3	9.8	4.6	22.7	3.6	
	80歳以上	112	8.9	24.1	14.3	8.9	36.6	7.1	24.1	21.4	14.3	6.3	27.7	6.3		15.2	25.9	17.0	8.9	26.8	6.3	

		(7) HIV（エイズウィルス）感染者とは一緒に食事や入浴をしない							(8) ハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない							(9) こころの病のある人には関わらないようにする						
(単位：％)	回答者数	う問題があると思	やや思う問題がある	あまり思わな問題がある	わからないが	何とも言えない	無回答		う問題があると思	やや思う問題がある	あまり思わな問題がある	わからないが	何とも言えない	無回答		う問題があると思	やや思う問題がある	あまり思わな問題がある	わからないが	何とも言えない	無回答	
全 体	1,127	22.9	21.2	12.2	10.6	30.7	2.5		27.2	18.5	10.6	6.9	34.2	2.6		26.4	28.1	12.2	6.3	24.8	2.2	
性別	女性	649	23.1	21.7	10.9	10.2	31.4	2.6	28.0	19.1	10.6	6.2	33.9	2.2		27.0	28.4	12.0	6.0	24.8	1.8	
	男性	442	22.2	20.6	14.5	11.1	29.9	1.8	25.8	17.4	11.1	8.4	34.6	2.7		25.3	28.3	12.2	7.2	24.9	2.0	
年代別	10歳代	13	30.8	46.2	7.7	15.4	0.0	0.0	7.7	38.5	7.7	7.7	38.5	0.0		30.8	38.5	15.4	0.0	15.4	0.0	
	20歳代	86	17.4	19.8	17.4	22.1	22.1	1.2	20.9	14.0	14.0	15.1	33.7	2.3		27.9	18.6	15.1	14.0	23.3	1.2	
	30歳代	110	18.2	18.2	9.1	20.0	34.5	0.0	19.1	15.5	9.1	13.6	42.7	0.0		20.9	32.7	13.6	8.2	24.5	0.0	
	40歳代	152	31.6	25.0	11.8	8.6	23.0	0.0	29.6	24.3	8.6	3.3	33.6	0.7		26.3	28.9	15.1	6.6	23.0	0.0	
	50歳代	253	27.7	22.5	13.0	7.1	28.1	1.6	34.8	17.4	10.7	4.3	31.6	1.2		31.2	27.7	12.3	2.8	24.5	1.6	
	60歳代	197	21.8	21.3	13.2	10.7	32.0	1.0	29.9	20.3	10.7	7.1	31.0	1.0		29.9	27.9	13.2	6.6	20.8	1.5	
	70歳代	194	21.1	19.1	11.9	7.7	35.1	5.2	26.8	17.0	11.9	5.7	33.5	5.2		24.2	32.5	8.8	3.1	27.8	3.6	
	80歳以上	112	12.5	16.1	9.8	7.1	46.4	8.0	18.8	14.3	10.7	7.1	41.1	8.0		17.0	23.2	7.1	12.5	33.9	6.3	

		(10) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う							(11) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る							(12) 職場で性的マイノリティを公表している人と席が隣になることを嫌がる						
(単位：％)		回答者数	う問題があると思	やややう問題があると思	あまり問題がないがあ	わな問題があると思	何とも言えない	無回答	う問題があると思	やややう問題があると思	あまり問題がないがあ	わな問題があると思	何とも言えない	無回答	う問題があると思	やややう問題があると思	あまり問題がないがあ	わな問題があると思	何とも言えない	無回答		
全 体		1,127	57.6	20.9	3.3	4.0	11.6	2.7	8.5	18.5	23.2	21.8	25.8	2.0	44.4	21.7	7.7	5.9	17.6	2.8		
性別	女性	649	63.2	18.5	3.1	3.2	9.4	2.6	6.9	17.6	23.3	22.0	28.4	1.8	48.8	20.2	6.6	5.1	16.5	2.8		
	男性	442	49.3	24.9	3.8	4.8	14.9	2.3	10.9	20.4	23.5	21.5	21.9	1.8	37.6	24.4	9.0	7.2	19.2	2.5		
年代別	10歳代	13	46.2	38.5	7.7	0.0	7.7	0.0	15.4	38.5	23.1	7.7	15.4	0.0	61.5	23.1	0.0	0.0	15.4	0.0		
	20歳代	86	68.6	11.6	3.5	4.7	10.5	1.2	8.1	8.1	29.1	31.4	22.1	1.2	45.3	24.4	5.8	5.8	17.4	1.2		
	30歳代	110	57.3	25.5	3.6	2.7	10.9	0.0	5.5	20.0	28.2	22.7	23.6	0.0	48.2	23.6	7.3	8.2	11.8	0.9		
	40歳代	152	64.5	19.7	3.9	2.6	8.6	0.7	5.9	21.7	26.3	19.7	26.3	0.0	58.6	19.1	5.9	3.9	12.5	0.0		
	50歳代	253	60.1	22.5	2.4	4.0	9.5	1.6	10.7	18.2	24.9	24.5	20.6	1.2	51.4	22.1	6.3	4.0	15.0	1.2		
	60歳代	197	64.0	20.3	2.5	2.5	9.6	1.0	7.6	17.3	22.3	25.4	26.9	0.5	44.7	25.9	10.7	4.1	13.7	1.0		
	70歳代	194	53.1	19.6	4.1	5.2	12.9	5.2	11.3	21.1	18.0	17.0	28.4	4.1	34.5	17.5	10.3	9.8	23.2	4.6		
	80歳以上	112	33.0	22.3	3.6	7.1	25.0	8.9	6.3	17.0	17.0	15.2	37.5	7.1	18.8	20.5	6.3	8.0	33.9	12.5		

		(13) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る							(14) インターネット上やSNSに他人の誹謗中傷を書き込む							(15) 街頭などで、特定の国の出身の人々について、「日本から出て行け」と言う						
(単位：％)		回答者数	う問題があると思	やややう問題があると思	あまり問題がないがあ	わな問題があると思	何とも言えない	無回答	う問題があると思	やややう問題があると思	あまり問題がないがあ	わな問題があると思	何とも言えない	無回答	う問題があると思	やややう問題があると思	あまり問題がないがあ	わな問題があると思	何とも言えない	無回答		
全 体		1,127	82.2	10.8	1.1	0.9	2.8	2.3	88.8	5.1	0.6	0.4	2.9	2.0	71.5	13.8	2.0	1.7	8.9	2.1		
性別	女性	649	86.1	7.9	0.6	0.8	2.3	2.3	90.3	4.3	0.3	0.6	2.6	1.8	74.3	12.6	1.5	1.1	8.3	2.2		
	男性	442	76.7	15.4	1.6	1.1	3.4	1.8	87.1	6.6	0.9	0.2	3.4	1.8	68.3	15.8	2.5	2.7	9.0	1.6		
年代別	10歳代	13	61.5	23.1	0.0	0.0	15.4	0.0	76.9	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0	76.9	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0		
	20歳代	86	76.7	15.1	1.2	0.0	4.7	2.3	82.6	8.1	0.0	2.3	5.8	1.2	55.8	25.6	3.5	2.3	11.6	1.2		
	30歳代	110	83.6	10.0	0.9	3.6	1.8	0.0	90.0	6.4	0.9	0.9	1.8	0.0	63.6	15.5	0.9	5.5	14.5	0.0		
	40歳代	152	82.2	12.5	0.7	0.7	3.9	0.0	90.1	5.9	2.0	0.0	2.0	0.0	71.7	15.8	3.3	1.3	7.9	0.0		
	50歳代	253	85.4	9.1	2.0	0.4	1.6	1.6	94.9	1.6	0.8	0.0	1.6	1.2	73.9	11.1	3.2	1.6	9.1	1.2		
	60歳代	197	90.9	5.6	1.0	0.5	1.0	1.0	94.9	2.5	0.0	0.0	2.0	0.5	75.6	12.7	0.5	2.0	8.6	0.5		
	70歳代	194	79.4	14.4	0.5	0.0	1.5	4.1	87.1	5.7	0.5	0.0	2.6	4.1	77.3	10.8	1.5	0.5	5.7	4.1		
	80歳以上	112	69.6	12.5	0.9	2.7	7.1	7.1	71.4	11.6	0.0	1.8	8.0	7.1	67.0	13.4	1.8	0.0	9.8	8.0		

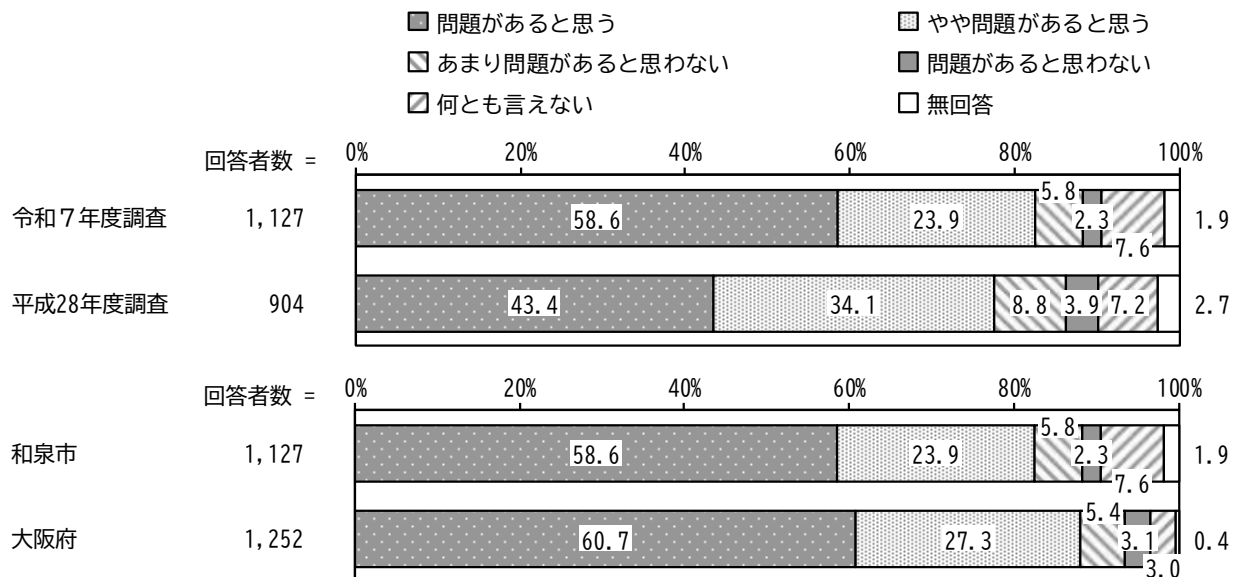
		(16) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる							(17) ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う							(18) 恋人や配偶者・パートナーの携帯電話やスマートフォンの通信履歴を見る						
(単位：％)		回答者数	う問題があると思	やややう問題があると思	あまり問題がないがあ	わな問題があると思	何とも言えない	無回答	う問題があると思	やややう問題があると思	あまり問題がないがあ	わな問題があると思	何とも言えない	無回答	う問題があると思	やややう問題があると思	あまり問題がないがあ	わな問題があると思	何とも言えない	無回答		
全 体		1,127	13.8	18.0	27.2	25.7	13.3	2.0	33.7	31.0	10.1	5.7	17.2	2.3	49.8	29.5	5.1	2.1	11.4	2.1		
性別	女性	649	15.1	18.5	27.3	24.5	12.8	1.8	37.9	31.1	7.7	3.4	17.9	2.0	49.6	30.5	4.5	1.7	11.7	2.0		
	男性	442	12.0	18.1	27.4	27.1	13.8	1.6	27.8	31.4	13.6	9.0	16.3	1.8	50.5	28.1	5.9	2.7	11.1	1.8		
年代別	10歳代	13	15.4	15.4	0.0	53.8	15.4	0.0	23.1	0.0	38.5	15.4	23.1	0.0	15.4	38.5	15.4	7.7	23.1	0.0		
	20歳代	86	9.3	12.8	27.9	37.2	11.6	1.2	10.5	36.0	16.3	15.1	20.9	1.2	25.6	41.9	8.1	5.8	17.4	1.2		
	30歳代	110	15.5	6.4	34.5	31.8	11.8	0.0	19.1	24.5	19.1	14.5	22.7	0.0	31.8	38.2	13.6	2.7	13.6	0.0		
	40歳代	152	15.8	12.5	34.2	22.4	15.1	0.0	27.0	34.2	16.4	5.9	16.4	0.0	41.4	34.2	7.2	3.9	12.5	0.7		
	50歳代	253	12.3	22.9	28.5	23.7	11.5	1.2	32.0	39.1	10.3	2.4	15.0	1.2	54.2	27.7	3.6	2.4	11.1	1.2		
	60歳代	197	13.2	19.8	24.9	26.9	14.7	0.5	51.8	24.9	4.6	3.6	14.7	0.5	62.4	24.4	2.5	0.0	9.6	1.0		
	70歳代	194	14.4	20.6	22.7	25.3	13.4	3.6	47.4	26.3	3.6	2.6	16.0	4.1	60.3	24.2	2.6	1.0	8.2	3.6		
	80歳以上	112	15.2	24.1	22.3	16.1	15.2	7.1	25.0	33.0	6.3	4.5	22.3	8.9	50.9	25.9	2.7	0.9	12.5	7.1		

		(19) 新型コロナウイルス感染症の回復者並びに医療従事者等やその家族であることを理由に、交通機関の利用や保育所の受け入れなどを断る						
(単位：%)		回答者数	問題があると思う	やや問題があると思う	あまり問題がない	わからない	何とも言えない	無回答
全 体		1,127	68.8	17.8	2.8	1.2	7.4	2.1
性 別	女性	649	71.3	16.2	2.5	1.4	6.5	2.2
	男性	442	65.6	20.6	3.2	0.9	8.1	1.6
年 代 別	10歳代	13	53.8	15.4	0.0	15.4	15.4	0.0
	20歳代	86	53.5	22.1	4.7	3.5	15.1	1.2
	30歳代	110	66.4	20.9	2.7	1.8	8.2	0.0
	40歳代	152	67.1	21.1	4.6	1.3	5.9	0.0
	50歳代	253	70.4	18.6	3.2	0.8	5.9	1.2
	60歳代	197	81.2	11.7	1.5	0.0	4.6	1.0
	70歳代	194	71.6	16.5	1.0	0.5	6.2	4.1
	80歳以上	112	57.1	18.8	3.6	0.9	12.5	7.1

(1) 職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う

【経年・府比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「問題があると思う」の割合が増加しています。一方、「やや問題があると思う」の割合が減少しています。

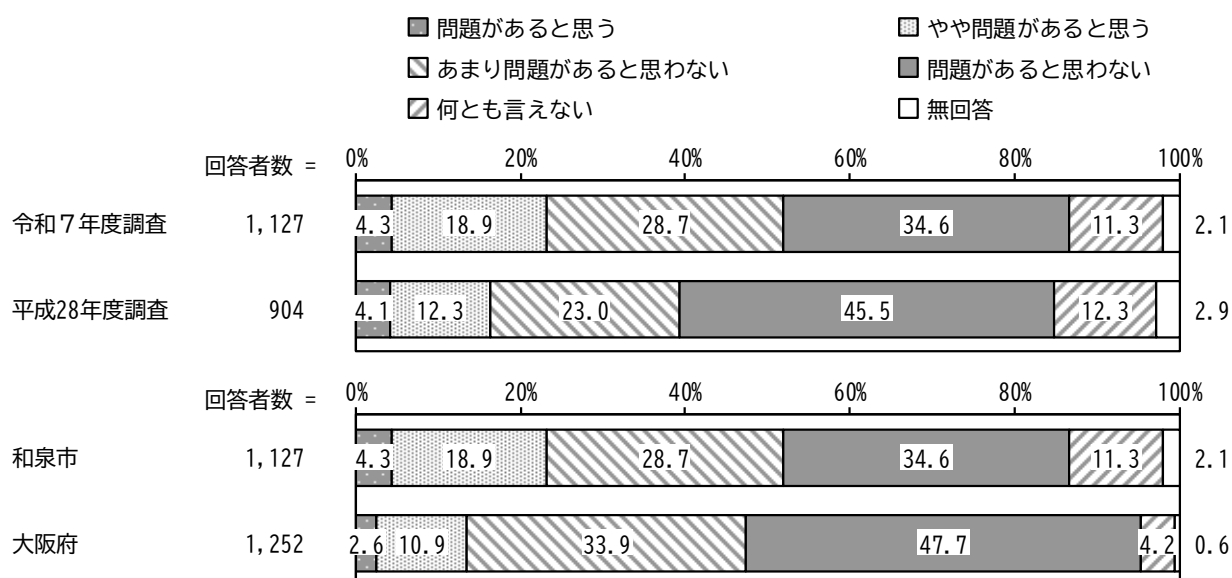


(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する

【経年・府比較】

平成 28 年度調査と比較すると、“問題があると思う”の割合が増加しています。

大阪府と比較すると、“問題があると思う”の割合が高くなっています。

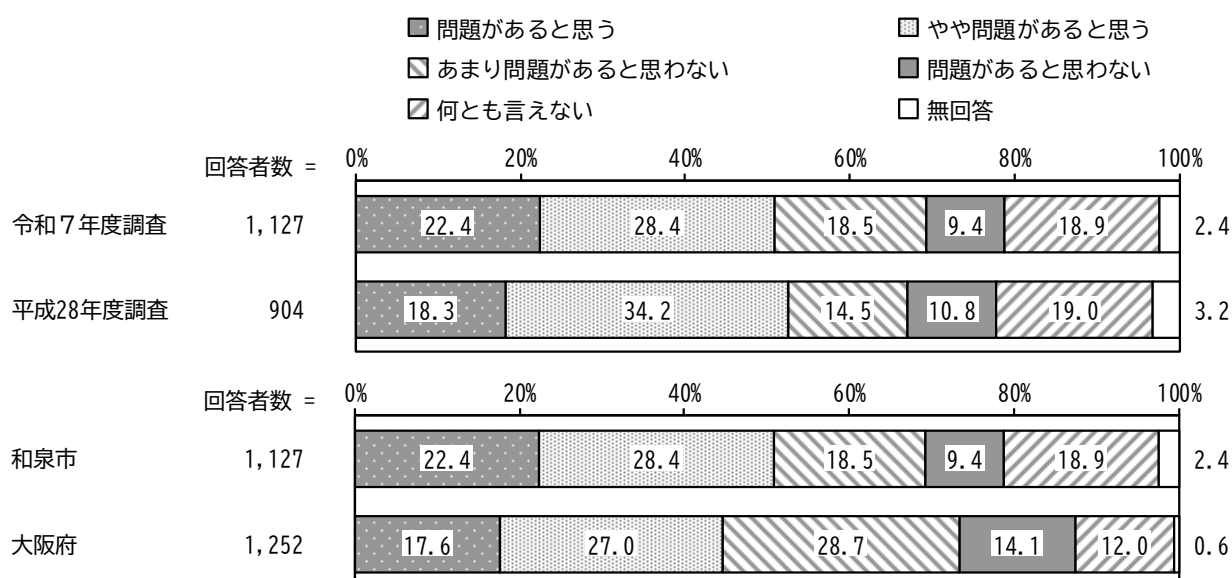


(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする

【経年・府比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「やや問題があると思う」の割合が減少しています。

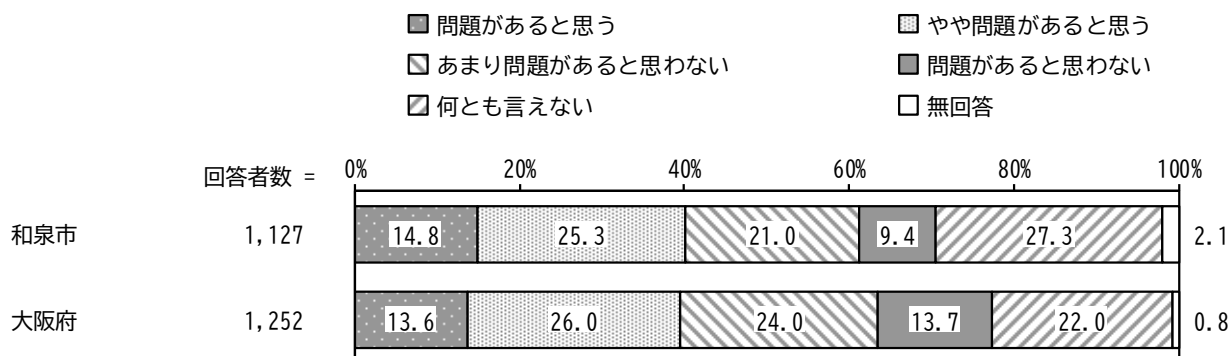
大阪府と比較すると、“問題があると思わない”の割合が低くなっています。



(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする

【府比較】

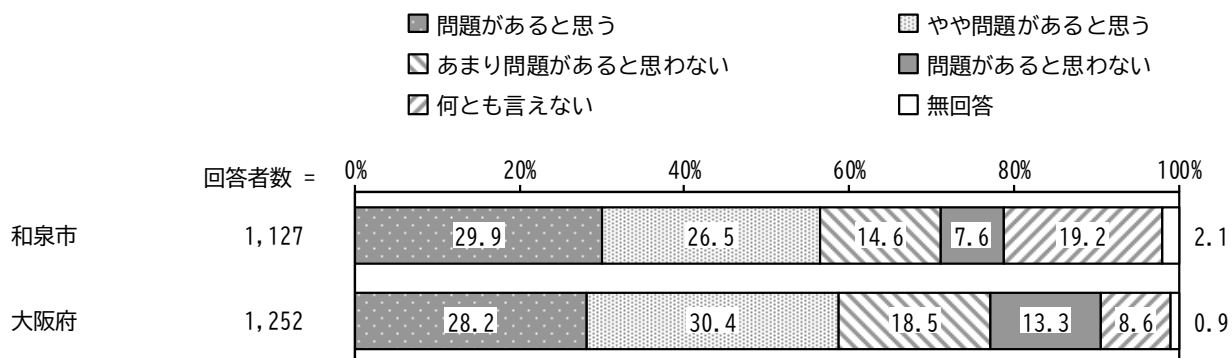
大阪府と比較すると、“問題があると思わない”の割合が低くなっています。



(5) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出身地や家柄等、出自を調べる

【府比較】

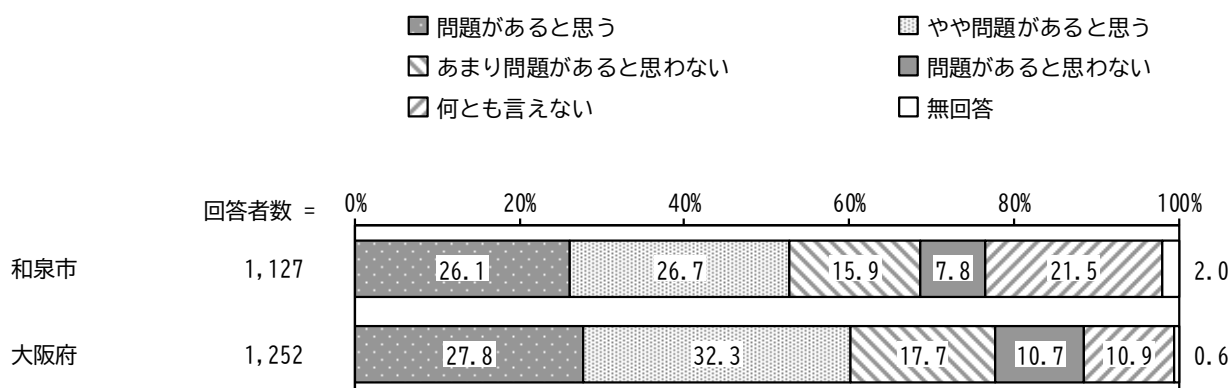
大阪府と比較すると、“問題があると思わない”の割合が低くなっています。



(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なるので、付き合わないようにする

【府比較】

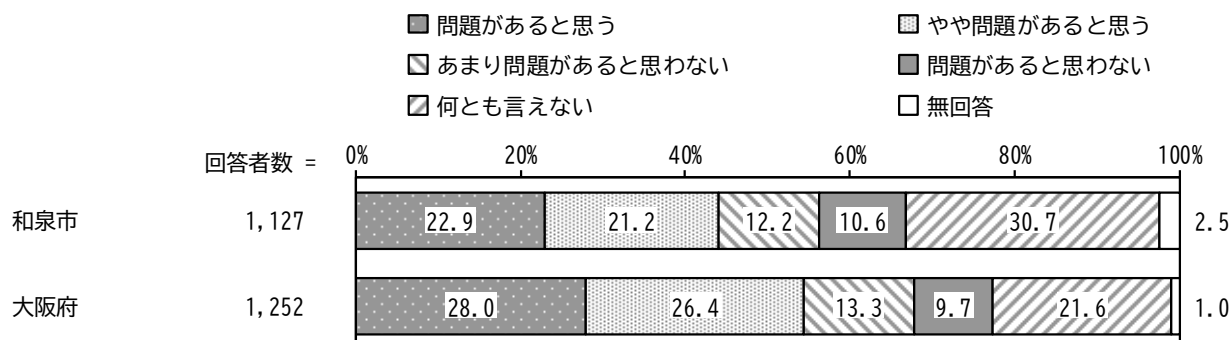
大阪府と比較すると、“問題があると思う”の割合が低くなっています。



(7) HIV（エイズウイルス）感染者とは一緒に食事や入浴をしない

【府比較】

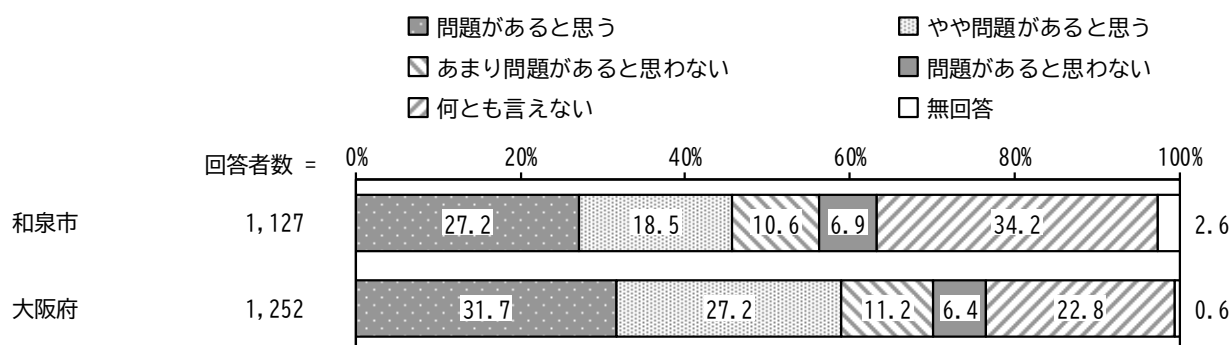
大阪府と比較すると、“問題があると思う”の割合が低くなっています。



(8) ハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない

【府比較】

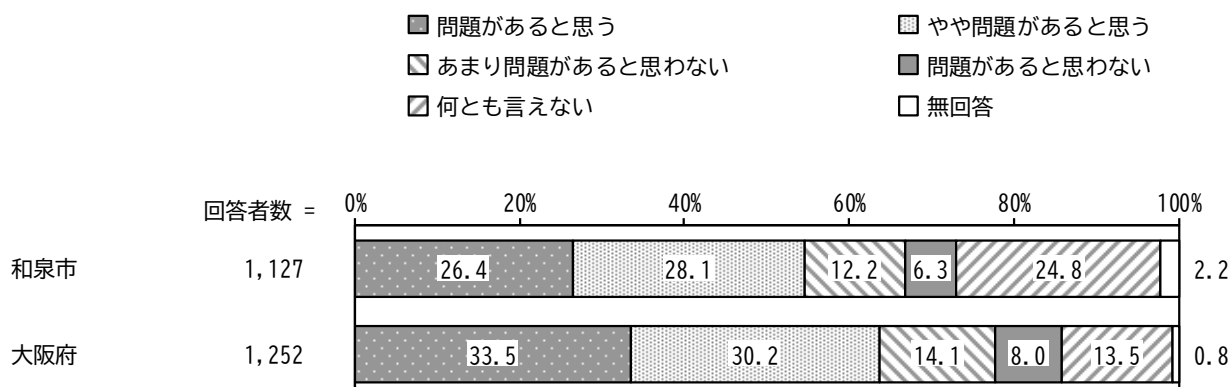
大阪府と比較すると、“問題があると思う”の割合が低くなっています。



(9) こころの病のある人には関わらないようにする

【経年・府比較】

大阪府と比較すると、“問題があると思う”の割合が低くなっています。

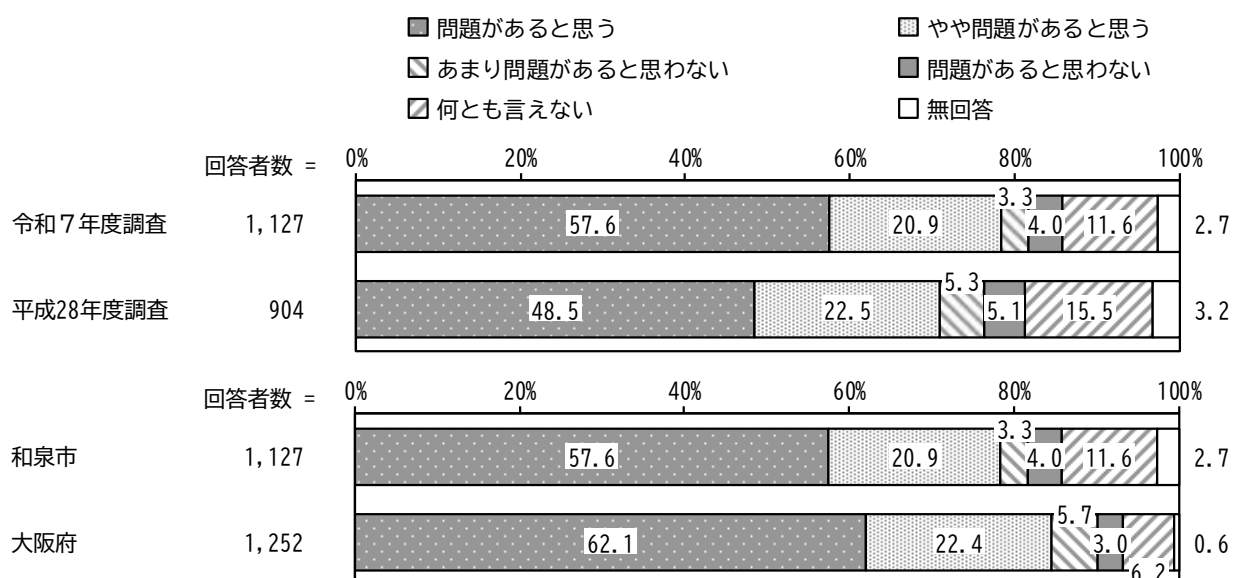


(10) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う

【経年・府比較】

平成 28 年度調査と比較すると、“問題があると思う”の割合が増加しています。

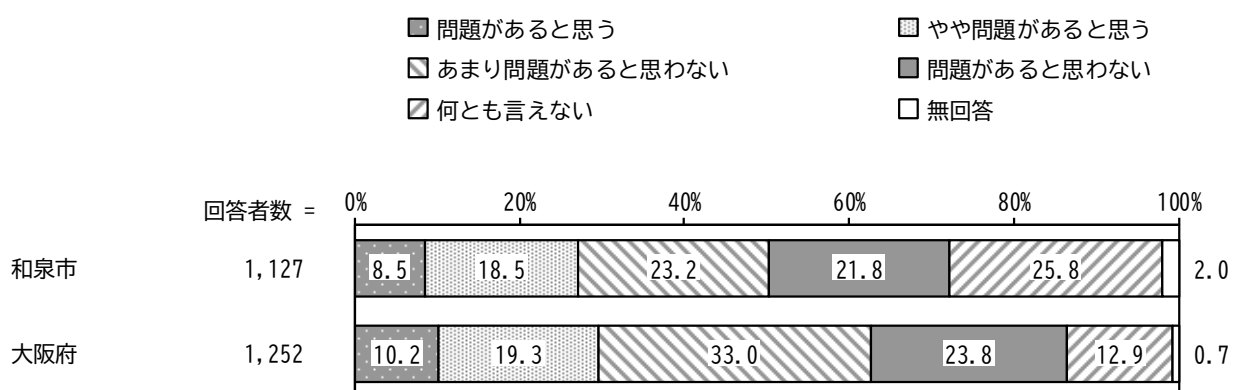
大阪府と比較すると、“問題があると思う”の割合が低くなっています。



(11) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る

【府比較】

大阪府と比較すると、“問題があると思わない”の割合が低くなっています。

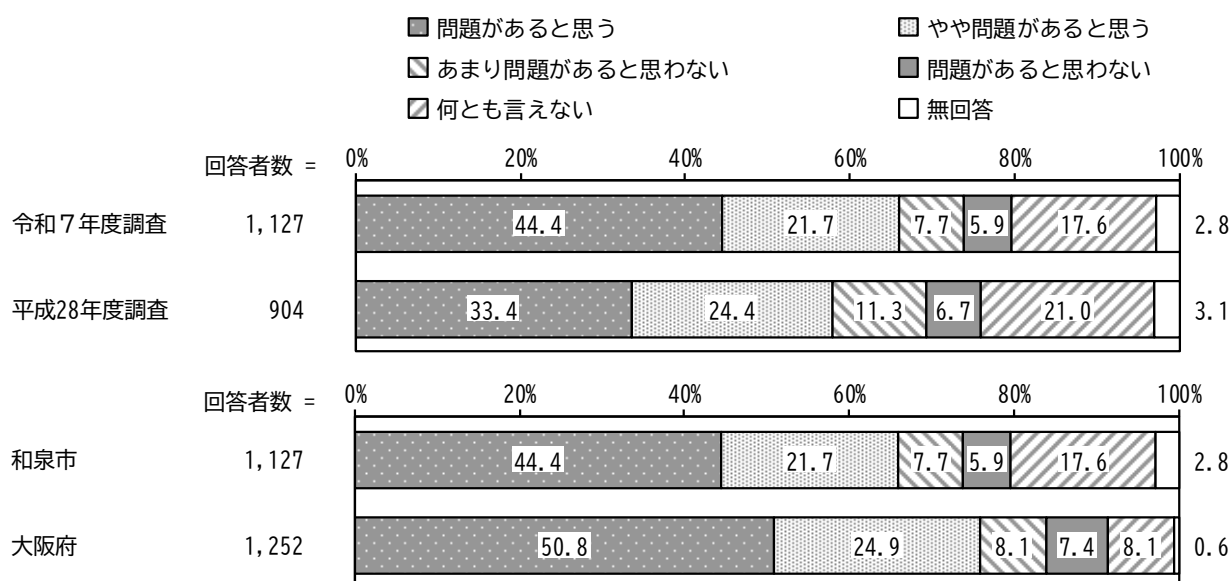


(12) 職場で性的マイノリティを公表している人と席が隣になることを嫌がる

【経年・府比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「問題があると思う」の割合が増加しています。

大阪府と比較すると、「問題があると思う」の割合が低くなっています。

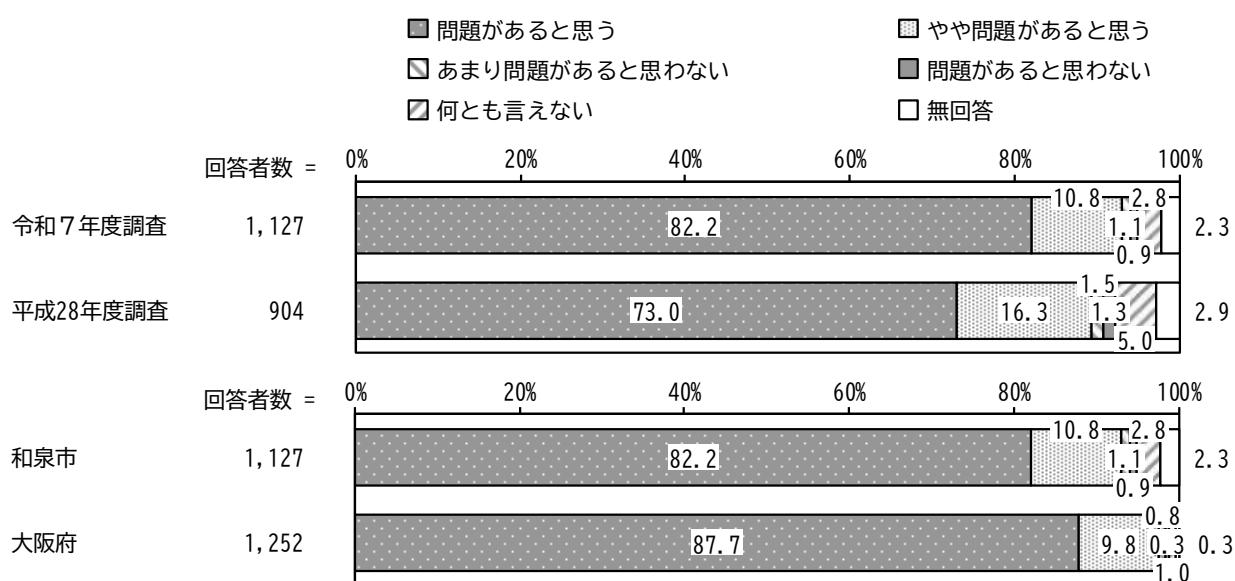


(13) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る

【経年・府比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「問題があると思う」の割合が増加しています。一方、「やや問題があると思う」の割合が減少しています。

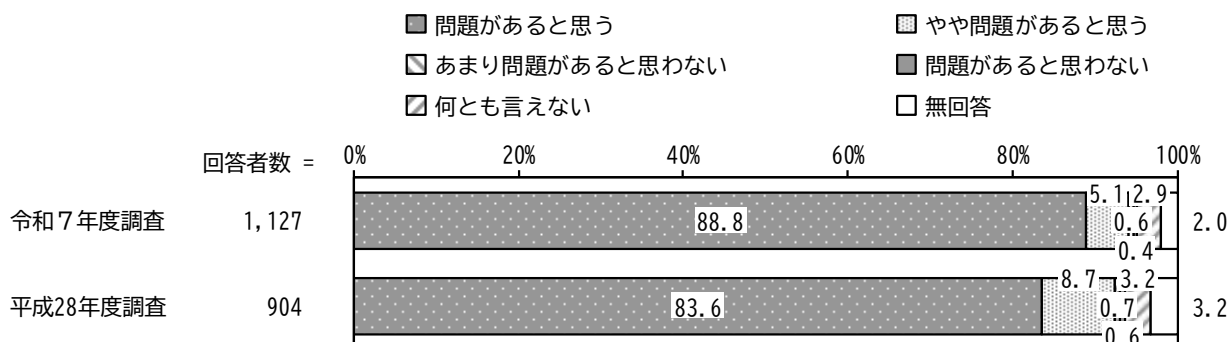
大阪府と比較すると、「問題があると思う」の割合が低くなっています。



(14) インターネット上やSNSに他人の誹謗中傷を書き込む

【経年比較】

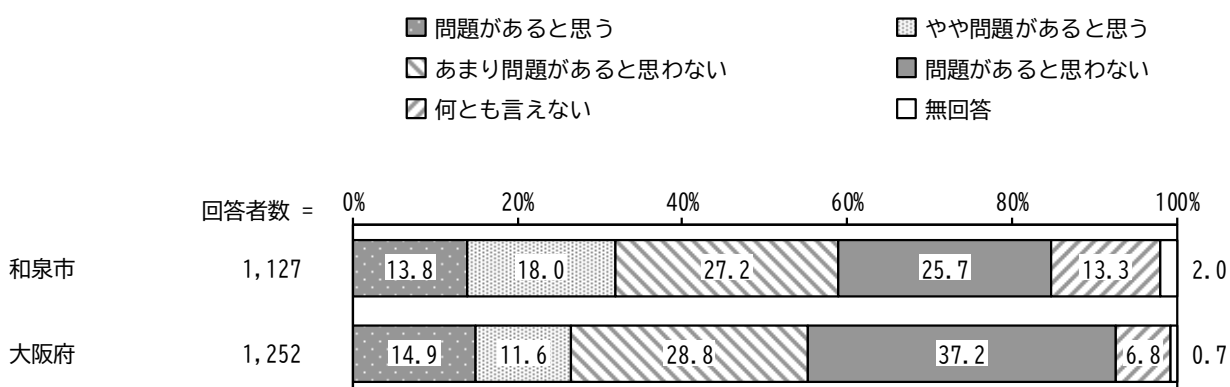
平成 28 年度調査と比較すると、「問題があると思う」の割合が増加しています。



(16) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる

【府比較】

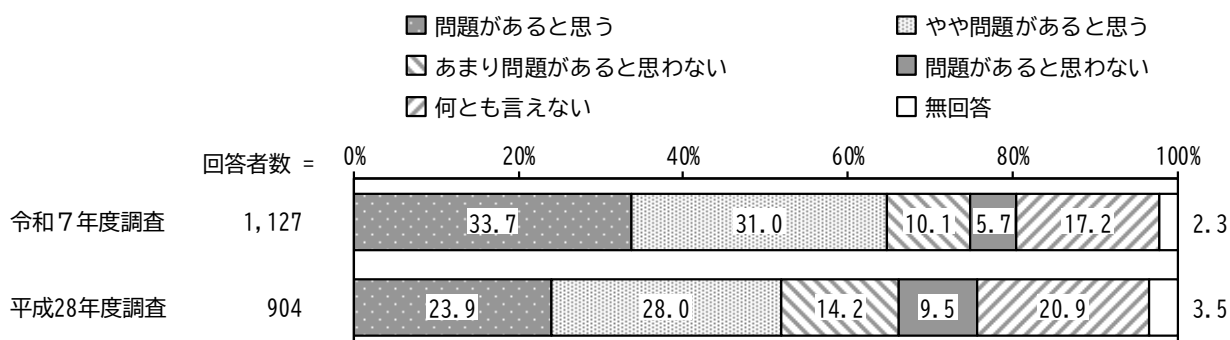
大阪府と比較すると、「問題があると思わない」の割合が低くなっています。



(17) ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う

【経年比較】

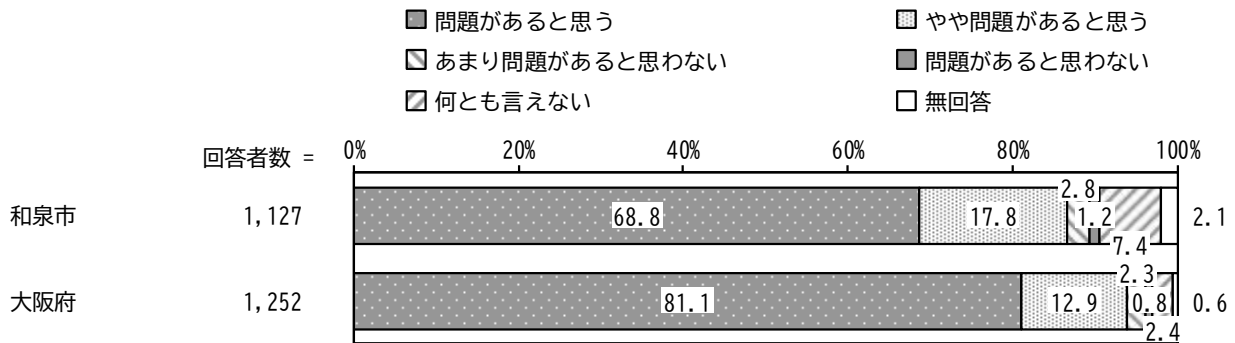
平成 28 年度調査と比較すると、「問題があると思う」の割合が増加しています。



(19) 新型コロナウイルス感染症の回復者並びに医療従事者等やその家族であることを理由に、交通機関の利用や保育所の受け入れなどを断る

【府比較】

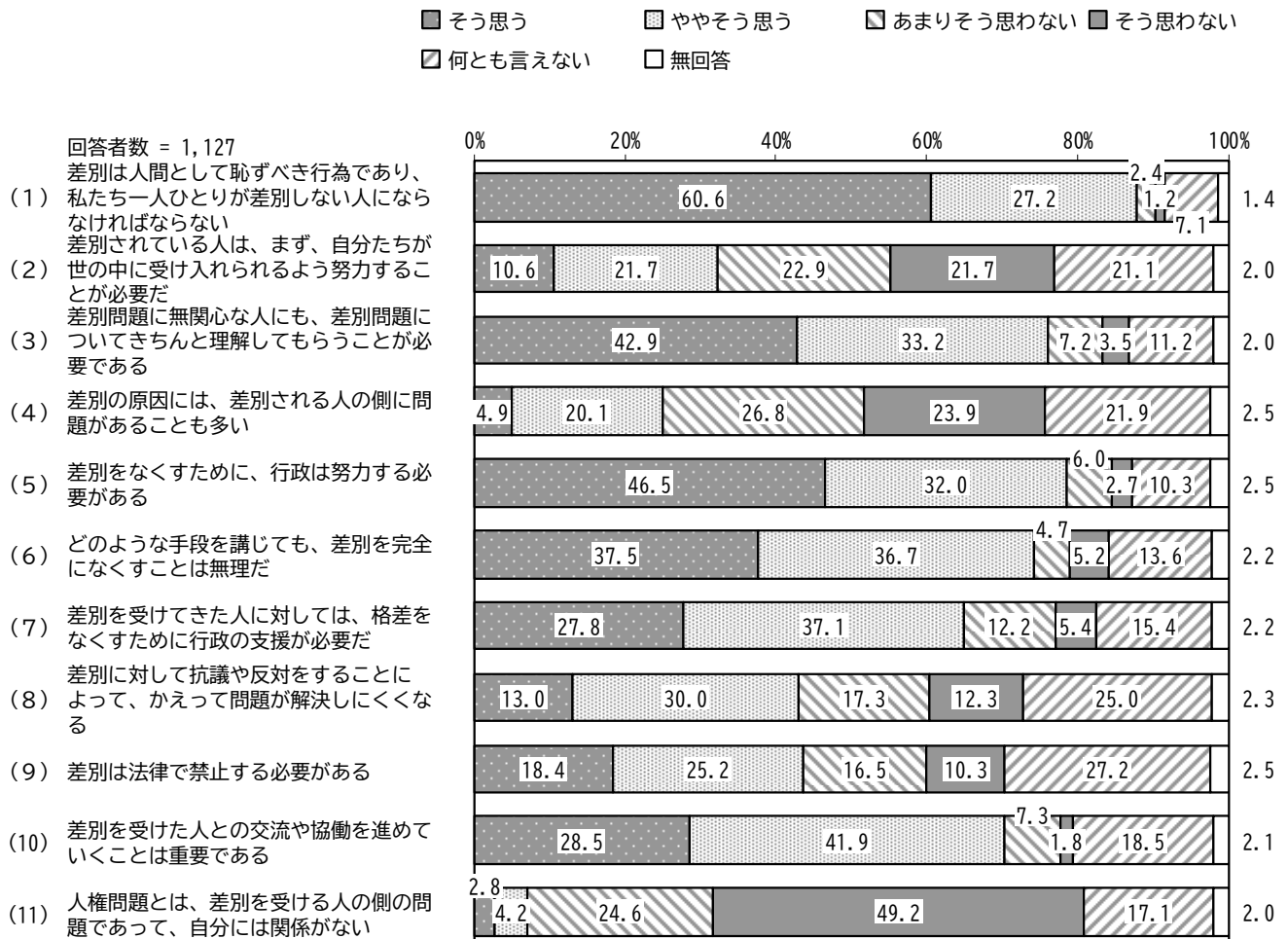
大阪府と比較すると、“問題があると思う”の割合が低くなっています。



問6 一般的に「差別」というものについて、あなたはどのようなお考えをお持ちですか。

【(1)～(11)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

『(1) 差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならない』で「そう思う」が、『(10) 差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である』で「ややそう思う」が、『(4) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い』で「あまりそう思わない」が、『(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない』で「そう思わない」が、『(9) 差別は法律で禁止する必要がある』で「何とも言えない」が高くなっています。



【性別・年代別】

		(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない							(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ						(3) 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である					
(単位：％)		回答者数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思う	そう思わない	何とも言えない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思う	そう思わない	何とも言えない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思う	そう思わない	何とも言えない	無回答
全 体		1,127	60.6	27.2	2.4	1.2	7.1	1.4	10.6	21.7	22.9	21.7	21.1	2.0	42.9	33.2	7.2	3.5	11.2	2.0
性別	女性	649	60.9	28.5	1.7	0.6	6.8	1.5	8.9	20.2	25.0	22.3	21.6	2.0	43.6	33.9	6.2	2.9	11.4	2.0
	男性	442	62.0	25.1	3.6	1.8	6.6	0.9	13.1	22.9	20.6	21.7	20.1	1.6	43.2	31.9	8.8	4.3	10.2	1.6
年代別	10歳代	13	69.2	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	30.8	30.8	7.7	23.1	0.0	61.5	23.1	7.7	7.7	0.0	0.0
	20歳代	86	52.3	32.6	1.2	2.3	10.5	1.2	10.5	25.6	30.2	11.6	20.9	1.2	40.7	33.7	7.0	7.0	10.5	1.2
	30歳代	110	37.3	46.4	4.5	2.7	9.1	0.0	8.2	30.9	22.7	20.0	18.2	0.0	40.9	40.9	6.4	2.7	9.1	0.0
	40歳代	152	51.3	32.9	5.9	2.6	7.2	0.0	6.6	15.1	32.2	24.3	21.7	0.0	39.5	36.2	9.9	2.6	11.8	0.0
	50歳代	253	62.1	27.3	1.6	0.8	7.1	1.2	9.1	20.6	25.3	24.5	19.8	0.8	44.3	34.4	5.9	3.6	11.1	0.8
	60歳代	197	65.0	25.9	2.0	0.0	6.6	0.5	10.7	16.8	21.3	25.4	25.4	0.5	40.6	34.0	9.1	2.0	13.7	0.5
	70歳代	194	71.1	17.0	1.5	1.0	6.2	3.1	8.8	24.7	15.5	23.2	23.7	4.1	44.3	29.4	7.7	3.6	11.3	3.6
	80歳以上	112	71.4	17.9	0.9	0.9	6.3	2.7	25.9	22.3	14.3	14.3	16.1	7.1	48.2	24.1	3.6	4.5	10.7	8.9

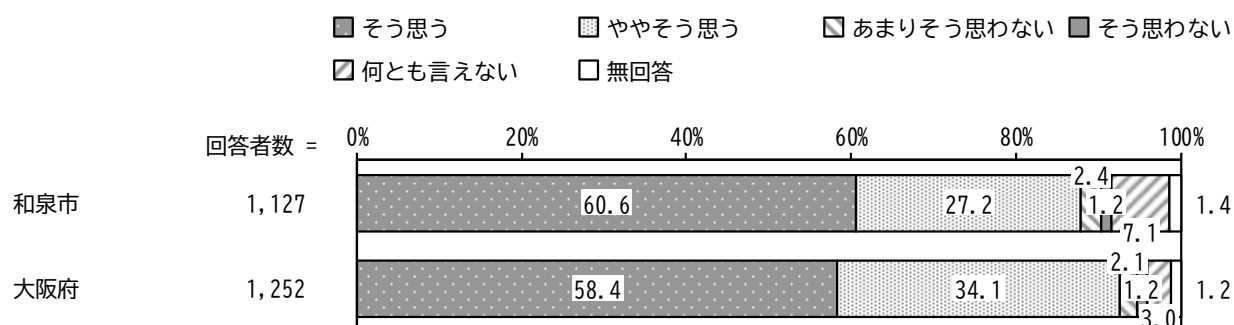
		(４) 差別の原因には、差別される人の側 に問題があることも多い							(５) 差別をなくすために、行政は努力 する必要がある						(６) どのような手段を講じても、差別 を完全になくすことは無理だ					
(単位：％)		回 答 者 数	そ う 思 う	や や そ う 思 う	な い あ ま り そ う 思 わ	そ う 思 わ ない	何 と も 言 え ない	無 回 答	そ う 思 う	や や そ う 思 う	な い あ ま り そ う 思 わ	そ う 思 わ ない	何 と も 言 え ない	無 回 答	そ う 思 う	や や そ う 思 う	な い あ ま り そ う 思 わ	そ う 思 わ ない	何 と も 言 え ない	無 回 答
全 体		1,127	4.9	20.1	26.8	23.9	21.9	2.5	46.5	32.0	6.0	2.7	10.3	2.5	37.5	36.7	4.7	5.2	13.6	2.2
性 別	女性	649	3.1	19.7	26.3	25.3	23.0	2.6	45.3	34.2	5.4	1.4	11.4	2.3	37.4	38.1	4.2	3.7	14.2	2.5
	男性	442	7.5	20.1	27.6	22.9	20.1	1.8	48.4	29.4	7.0	4.3	8.4	2.5	37.8	35.1	5.7	7.7	12.4	1.4
年 代 別	10歳代	13	7.7	46.2	7.7	15.4	15.4	7.7	53.8	15.4	7.7	7.7	7.7	7.7	84.6	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0
	20歳代	86	7.0	17.4	29.1	16.3	29.1	1.2	46.5	37.2	3.5	1.2	10.5	1.2	54.7	29.1	1.2	1.2	12.8	1.2
	30歳代	110	5.5	23.6	28.2	16.4	25.5	0.9	40.9	32.7	10.0	3.6	11.8	0.9	50.0	32.7	2.7	3.6	10.9	0.0
	40歳代	152	0.7	23.0	32.9	23.7	19.7	0.0	38.8	38.2	10.5	3.9	7.9	0.7	44.1	37.5	3.3	5.9	9.2	0.0
	50歳代	253	4.0	19.0	29.2	24.9	21.3	1.6	45.5	32.4	8.3	2.0	11.1	0.8	36.0	41.9	2.8	5.5	12.6	1.2
	60歳代	197	4.6	14.7	28.9	29.9	20.8	1.0	47.7	34.5	4.1	2.5	10.2	1.0	33.5	41.1	8.1	3.0	13.7	0.5
	70歳代	194	3.6	21.6	21.6	26.8	22.2	4.1	51.0	28.9	3.1	2.6	9.8	4.6	29.4	35.1	6.2	7.2	17.5	4.6
	80歳以上	112	13.4	19.6	18.8	19.6	21.4	7.1	53.6	22.3	1.8	2.7	11.6	8.0	25.0	33.0	6.3	8.9	18.8	8.0

		(7) 差別を受けてきた人に対しては、 格差をなくすために行政の支援が 必要だ							(8) 差別に対して抗議や反対をするこ とによって、かえって問題が解決 しにくくなる						(9) 差別は法律で禁止する必要がある					
(単位：％)		回 答 者 数	そ う 思 う	や や そ う 思 う	な い あ ま り そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない	何 と も 言 え ない	無 回 答	そ う 思 う	や や そ う 思 う	な い あ ま り そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない	何 と も 言 え ない	無 回 答	そ う 思 う	や や そ う 思 う	な い あ ま り そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない	何 と も 言 え ない	無 回 答
全 体		1,127	27.8	37.1	12.2	5.4	15.4	2.2	13.0	30.0	17.3	12.3	25.0	2.3	18.4	25.2	16.5	10.3	27.2	2.5
性別	女性	649	27.9	37.8	10.9	4.2	16.9	2.3	11.7	31.0	18.0	10.3	26.8	2.2	15.4	25.0	16.6	9.2	31.0	2.8
	男性	442	27.8	36.2	14.5	7.2	12.4	1.8	15.2	29.4	16.5	14.9	21.9	2.0	23.1	26.2	15.8	11.5	21.7	1.6
年代別	10歳代	13	23.1	53.8	7.7	7.7	7.7	0.0	46.2	30.8	7.7	7.7	7.7	0.0	30.8	15.4	15.4	23.1	15.4	0.0
	20歳代	86	27.9	38.4	12.8	2.3	17.4	1.2	8.1	32.6	17.4	10.5	30.2	1.2	10.5	29.1	14.0	9.3	36.0	1.2
	30歳代	110	21.8	35.5	18.2	6.4	18.2	0.0	14.5	29.1	23.6	2.7	30.0	0.0	10.0	19.1	22.7	19.1	29.1	0.0
	40歳代	152	24.3	40.1	14.5	5.3	15.1	0.7	13.2	30.9	17.8	9.2	28.3	0.7	15.8	27.0	17.1	12.5	26.3	1.3
	50歳代	253	24.1	39.1	14.2	6.3	15.4	0.8	10.3	30.8	19.8	13.8	23.7	1.6	15.0	30.8	20.2	9.9	23.3	0.8
	60歳代	197	26.4	38.6	10.7	6.6	16.8	1.0	11.2	32.0	18.3	15.2	22.8	0.5	15.2	26.4	16.8	11.2	29.9	0.5
	70歳代	194	33.5	35.1	9.3	4.6	12.4	5.2	13.9	29.4	12.9	16.5	23.2	4.1	26.3	20.1	13.9	7.2	27.8	4.6
	80歳以上	112	39.3	27.7	7.1	4.5	15.2	6.3	20.5	22.3	12.5	10.7	25.9	8.0	33.0	21.4	8.0	2.7	25.0	9.8

		(10) 差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である						(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない					
(単位：%)	回答者数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思う	そう思わない	何とも言えない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思う	そう思わない	何とも言えない	無回答
全 体	1,127	28.5	41.9	7.3	1.8	18.5	2.1	2.8	4.2	24.6	49.2	17.1	2.0
性 別													
女性	649	25.1	45.8	6.3	1.2	19.3	2.3	2.0	2.9	25.1	51.8	16.2	2.0
男性	442	33.7	36.9	8.8	2.5	16.5	1.6	4.3	5.9	23.8	46.6	17.6	1.8
年 代 別													
10歳代	13	46.2	46.2	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	38.5	53.8	0.0	0.0
20歳代	86	24.4	44.2	4.7	4.7	20.9	1.2	4.7	4.7	26.7	40.7	22.1	1.2
30歳代	110	17.3	46.4	10.9	3.6	21.8	0.0	7.3	3.6	32.7	37.3	19.1	0.0
40歳代	152	23.7	44.1	9.9	3.9	17.8	0.7	2.0	5.9	27.6	46.1	17.8	0.7
50歳代	253	28.9	42.7	8.3	0.8	18.6	0.8	1.6	3.2	24.9	53.0	16.2	1.2
60歳代	197	28.9	47.7	4.6	0.5	17.3	1.0	1.5	4.1	24.9	56.9	12.2	0.5
70歳代	194	34.0	35.6	7.2	0.5	19.1	3.6	1.0	4.6	18.0	53.1	19.6	3.6
80歳以上	112	34.8	31.3	5.4	1.8	18.8	8.0	6.3	3.6	18.8	43.8	20.5	7.1

(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならない
【府比較】

大阪府と比較すると、「ややそう思う」の割合が低くなっています。



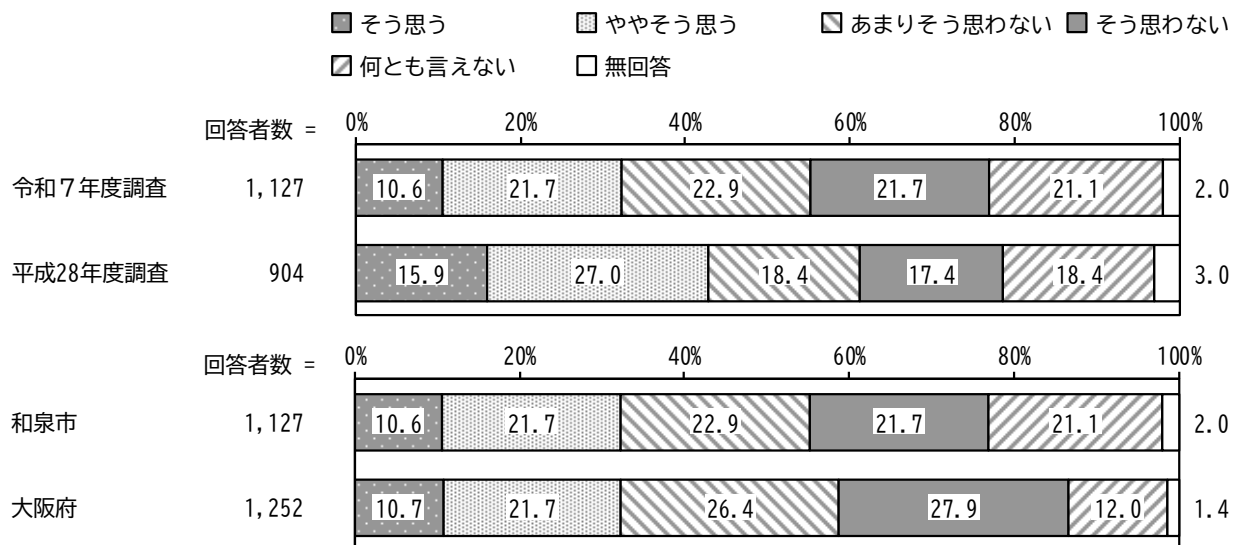
※大阪府では、「何とも言えない」が「わからない」となっていました。

(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ

【経年・府比較】

平成 28 年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、“そう思わない”の割合が低くなっています。

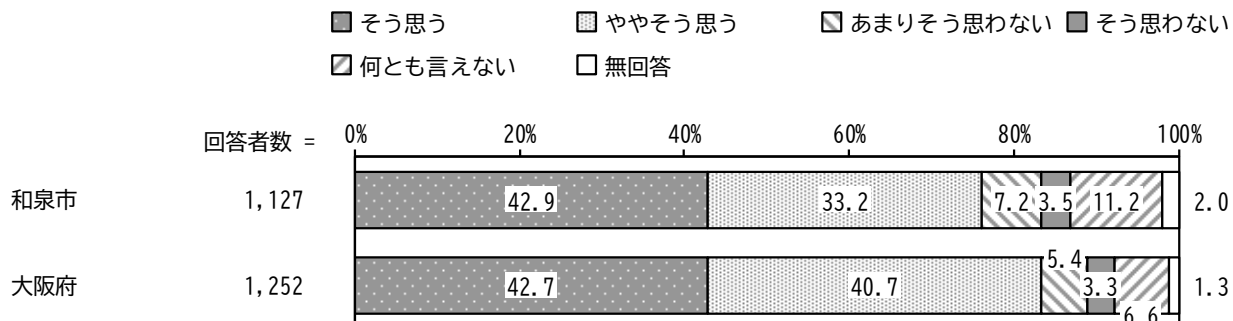


※大阪府では、「何とも言えない」が「わからない」となっていました。

(3) 差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である

【府比較】

大阪府と比較すると、“そう思う”の割合が低くなっています。



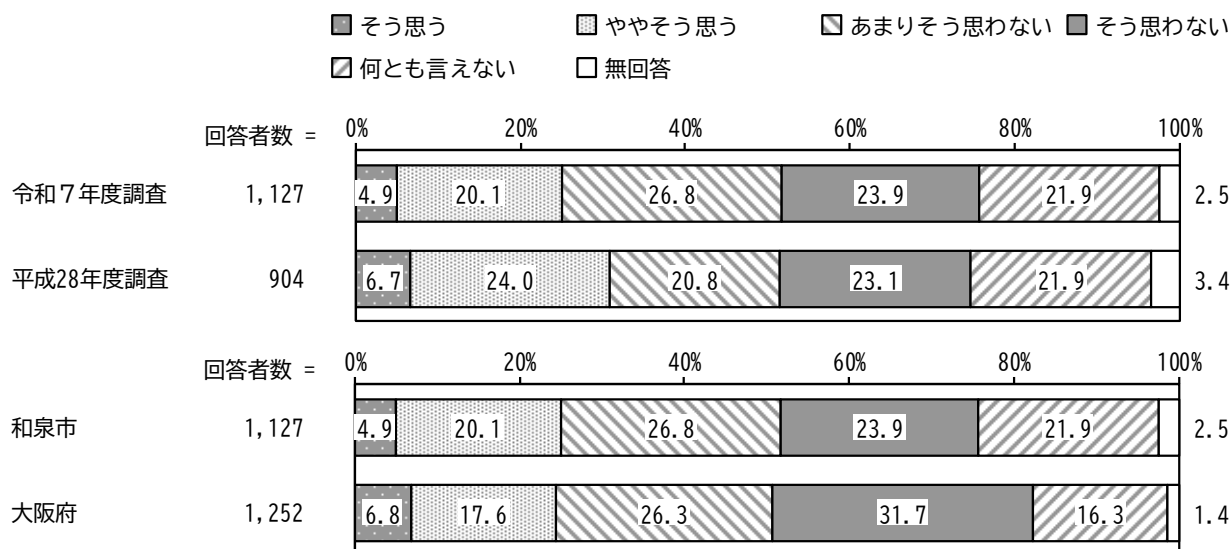
※大阪府では、「何とも言えない」が「わからない」となっていました。

(4) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い

【経年・府比較】

平成 28 年度調査と比較すると、“そう思わない”の割合が増加しています。

大阪府と比較すると、“そう思わない”の割合が低くなっています。

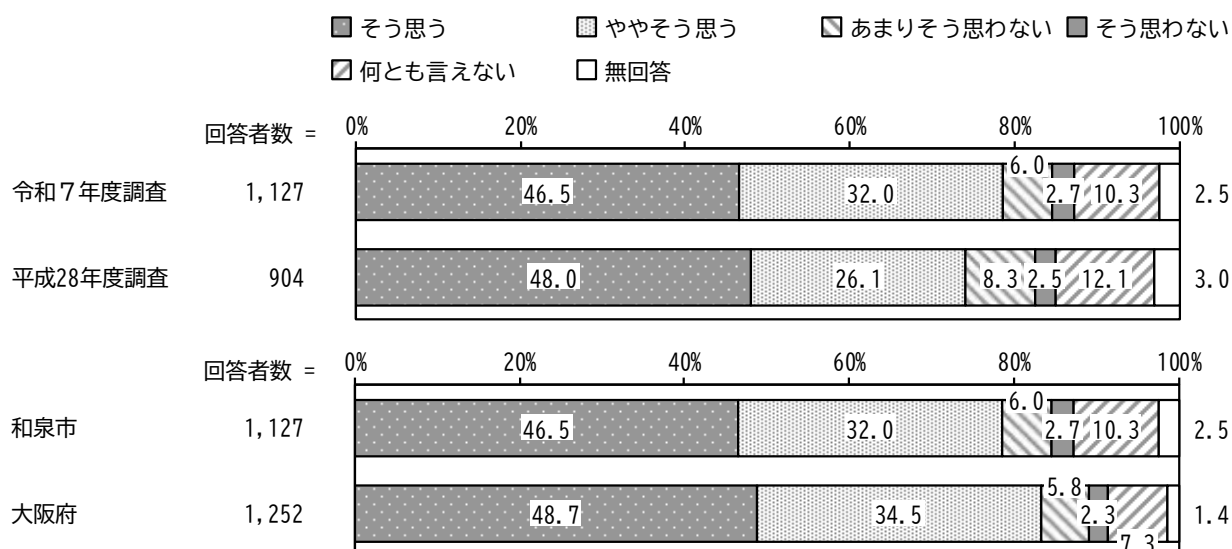


※大阪府では、「何とも言えない」が「わからない」となっていました。

(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある

【経年・府比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「ややそう思う」の割合が増加しています。

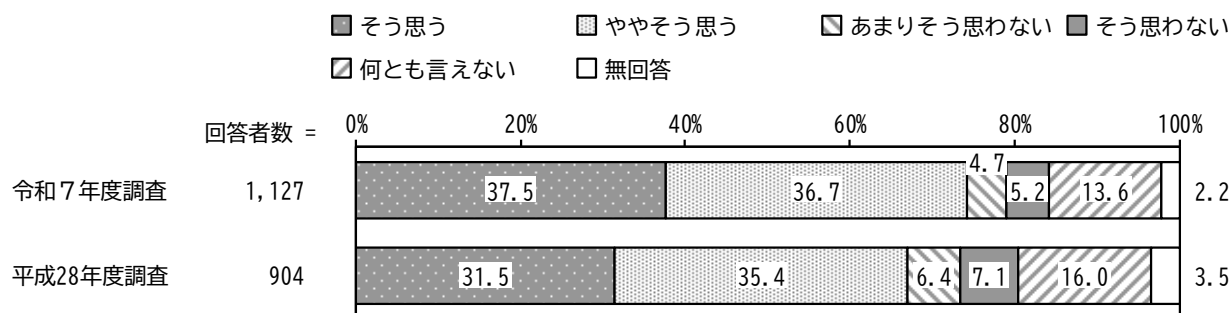


※大阪府では、「何とも言えない」が「わからない」となっていました。

(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ

【経年・府比較】

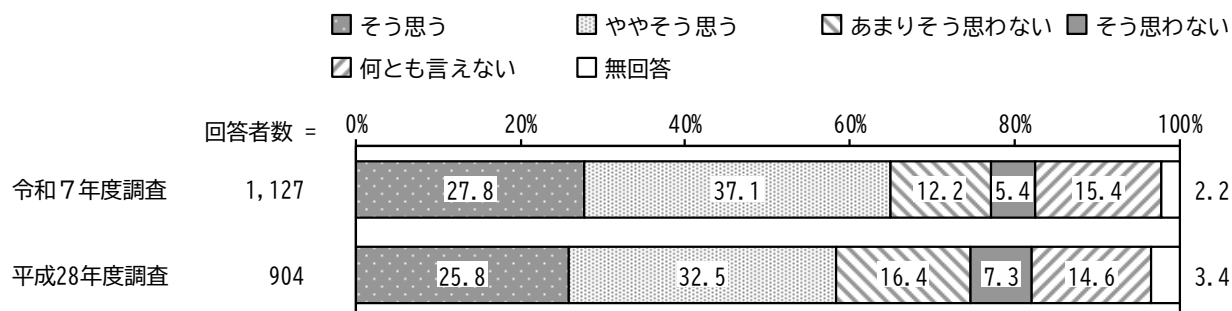
平成 28 年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が増加しています。



(7) 差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ

【経年・府比較】

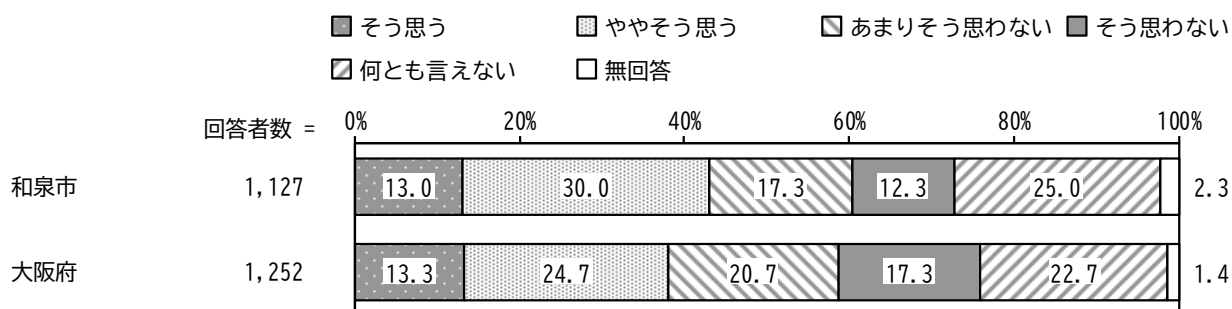
平成 28 年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が増加しています。



(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる

【府比較】

大阪府と比較すると、“そう思わない”の割合が低くなっています。

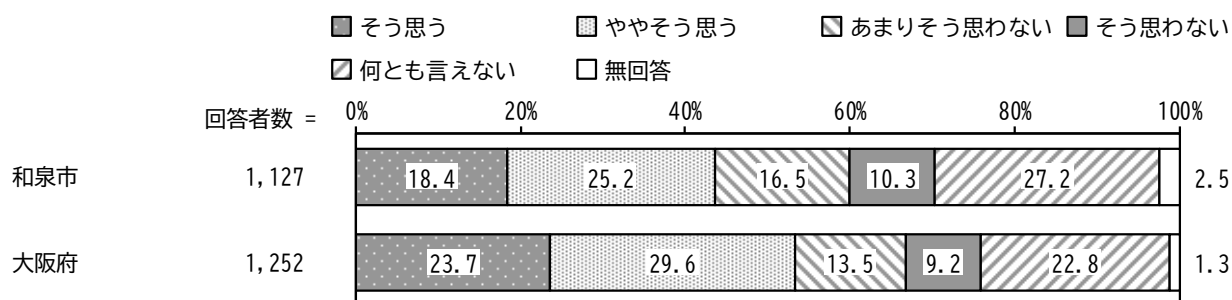


※大阪府では、「何とも言えない」が「わからない」となっていました。

(9) 差別は法律で禁止する必要がある

【府比較】

大阪府と比較すると、“そう思う”の割合が低くなっています。

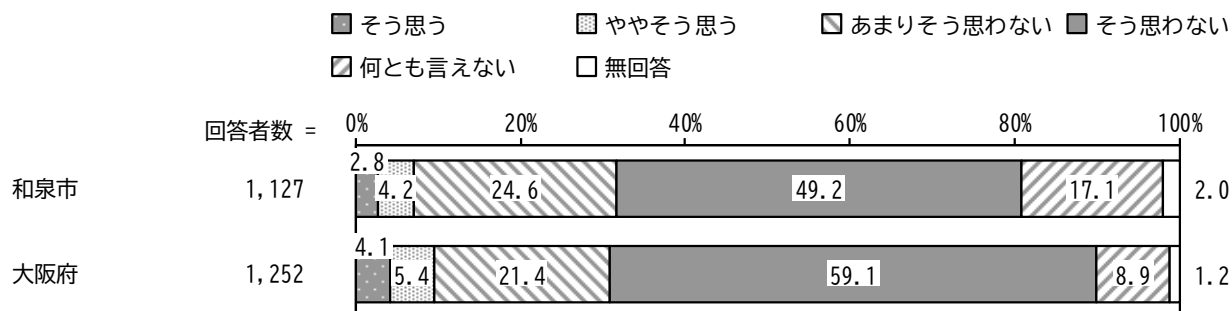


※大阪府では、「何とも言えない」が「わからない」となっていました。

(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない

【府比較】

大阪府と比較すると、“そう思わない”の割合が低くなっています。



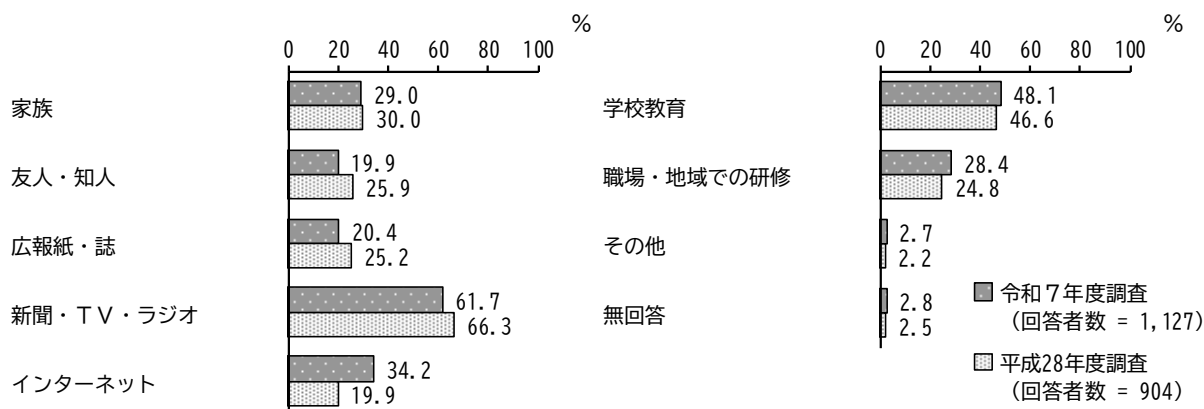
※大阪府では、「何とも言えない」が「わからない」となっていました。

問7 あなたは、人権問題についての情報や知識は主にどこで（何で）知りましたか。

【あてはまるものすべてに○】

「新聞・TV・ラジオ」の割合が61.7%と最も高く、次いで「学校教育」の割合が48.1%、「インターネット」の割合が34.2%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「インターネット」の割合が増加しています。一方、「友人・知人」の割合が減少しています。



【性別・年代別】

性別にみると、女性で「家族」「新聞・ＴＶ・ラジオ」の割合が高く、男性で「職場・地域での研修」の割合が高くなっています。

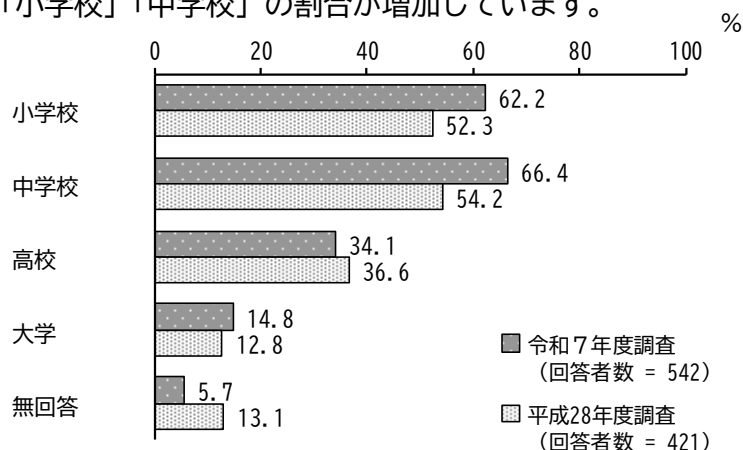
年代別にみると、10歳代から70歳代まで年代が上がるほど「新聞・ＴＶ・ラジオ」の割合が高い傾向にあり、80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「インターネット」の割合が高くなっています。また、70歳代で「広報紙・誌」の割合が高くなっています。

(単位：％)	回答者数	家族	友人・知人	広報紙・誌	V・新聞・ラジオ・Ｔ	インターネット	学校教育	職場・地域での研修	その他	無回答
全 体	1,127	29.0	19.9	20.4	61.7	34.2	48.1	28.4	2.7	2.8
性別										
女性	649	31.6	18.5	19.1	65.9	34.2	49.6	25.0	2.0	2.9
男性	442	26.0	22.4	22.2	56.1	34.2	46.6	34.2	3.6	1.8
年代別										
10歳代	13	23.1	7.7	15.4	38.5	46.2	92.3	7.7	7.7	0.0
20歳代	86	25.6	10.5	2.3	50.0	57.0	61.6	20.9	4.7	2.3
30歳代	110	29.1	17.3	15.5	52.7	64.5	57.3	30.0	3.6	0.0
40歳代	152	33.6	20.4	12.5	58.6	49.3	60.5	38.2	0.7	2.0
50歳代	253	29.2	19.4	17.4	57.3	39.5	58.9	30.4	2.0	1.6
60歳代	197	31.0	22.3	21.3	60.9	26.4	50.8	29.4	3.6	0.5
70歳代	194	25.3	22.2	36.1	76.3	13.4	22.2	28.4	2.1	5.7
80歳以上	112	27.7	22.3	27.7	72.3	4.5	23.2	17.0	3.6	6.3

人権問題について知った学校

「中学校」の割合が66.4%と最も高く、次いで「小学校」の割合が62.2%、「高校」の割合が34.1%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「小学校」「中学校」の割合が増加しています。



【性別・年代別】

性別にみると、女性で「高校」の割合が高くなっています。

年代別にみると、80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「中学校」の割合が高く、60歳代から10歳代まで年代が下がるほど「高校」の割合が高くなっています。また、40歳代で「小学校」、20歳代で「大学」の割合が高くなっています。

(単位：％)	回答者数	小学校	中学校	高校	大学	無回答
全 体	542	62.2	66.4	34.1	14.8	5.7
性別						
女性	322	62.1	66.8	36.0	15.8	5.6
男性	206	61.7	66.0	30.1	13.1	5.3
年代別						
10歳代	12	75.0	66.7	75.0	8.3	8.3
20歳代	53	52.8	71.7	56.6	39.6	3.8
30歳代	63	73.0	76.2	49.2	20.6	3.2
40歳代	92	77.2	70.7	31.5	20.7	3.3
50歳代	149	69.8	66.4	28.2	4.7	6.7
60歳代	100	62.0	60.0	23.0	9.0	6.0
70歳代	43	27.9	58.1	27.9	14.0	11.6
80歳以上	26	11.5	57.7	26.9	15.4	3.8

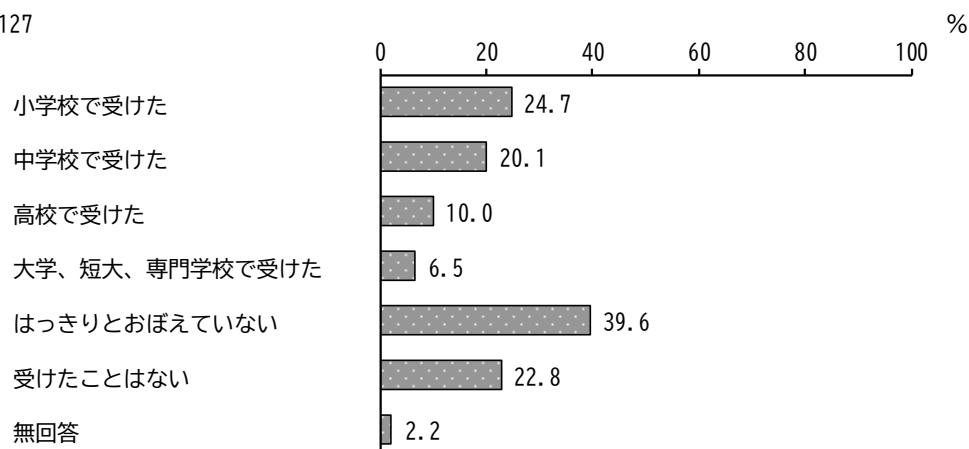
問8 あなたは、学校で、次にあげる人権学習を受けたことがありますか。

【あてはまるものすべてに○】

(1) 障がい者の人権問題

「はっきりとおぼえていない」の割合が39.6%と最も高く、次いで「小学校で受けた」の割合が24.7%、「受けたことはない」の割合が22.8%となっています。

回答者数 = 1,127



【「結婚相手・パートナーについて重視する（した）こと」について、人権学習（障がい者の人権問題）の経験別】

人権学習の経験別にみると、高等教育で人権学習を受けている人ほど「家事や育児に対する理解と協力」の割合が高くなっています。また、『受けたことはない』で「趣味や価値観」「家事や育児に対する理解と協力」の割合が低くなっています。

単位：%

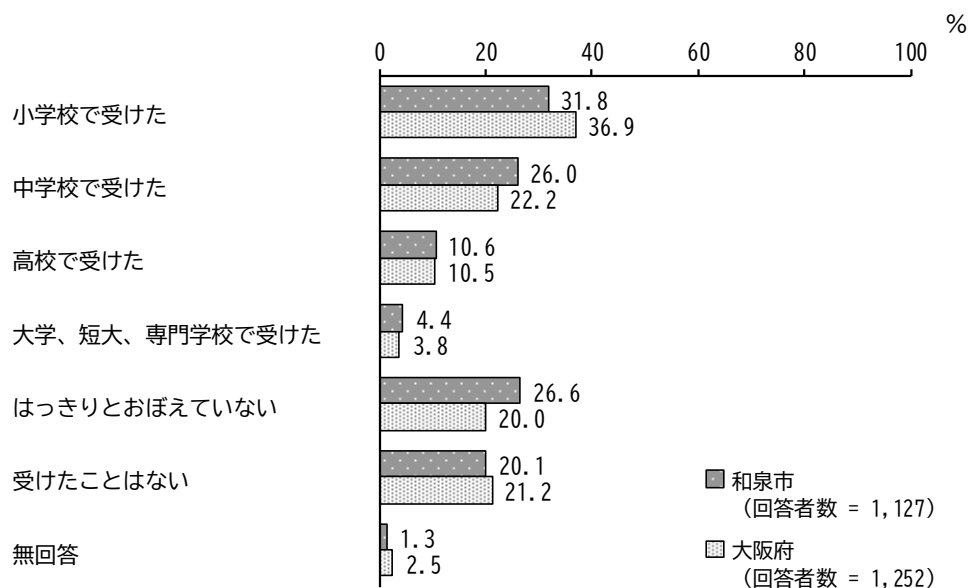
区分	回答者数 (件)	人柄や性格	趣味や価値観	仕事に対する理解と協力	家事や育児に対する理解と協力	経済力	学歴	職業	家族構成	家柄
全 体	1,127	90.8	58.6	36.0	31.9	33.4	8.5	16.3	9.6	8.0
小学校で受けた	278	94.2	72.3	51.4	48.9	37.8	8.3	19.1	13.7	9.0
中学校で受けた	226	94.2	73.0	50.0	47.3	35.8	8.8	18.6	12.4	9.3
高校で受けた	113	93.8	80.5	56.6	50.4	39.8	10.6	21.2	11.5	8.0
大学、短大、専門学校で受けた	73	95.9	75.3	54.8	56.2	45.2	15.1	24.7	8.2	11.0
はっきりとおぼえていない	446	91.5	59.0	31.8	30.0	32.5	8.1	16.6	8.1	7.4
受けたことはない	257	86.8	44.0	28.0	18.7	31.9	10.9	15.2	8.2	8.6
無回答	25	64.0	24.0	8.0	0.0	32.0	0.0	12.0	8.0	12.0

区分	離婚歴	国籍、民族	障がい者やその家族が	宗教相手やその家族の	ひとり親家庭かどうか	本籍・出生地	同和地区の出身地といふかどうか	その他	無回答
全 体	10.6	8.3	5.5	14.1	1.5	4.6	6.7	2.8	3.0
小学校で受けた	16.2	11.2	6.1	21.9	1.8	6.5	9.4	2.2	1.1
中学校で受けた	15.9	11.5	8.4	18.1	2.2	5.3	10.6	2.7	0.9
高校で受けた	17.7	13.3	8.0	21.2	2.7	4.4	9.7	2.7	1.8
大学、短大、専門学校で受けた	16.4	12.3	5.5	12.3	0.0	2.7	8.2	0.0	0.0
はっきりとおぼえていない	8.7	7.2	6.7	12.1	2.0	3.6	6.1	3.4	2.9
受けたことはない	7.0	7.4	3.1	11.3	0.8	6.2	5.4	3.5	3.9
無回答	16.0	8.0	0.0	8.0	0.0	4.0	8.0	0.0	28.0

(2) 同和問題（部落差別）

「小学校で受けた」の割合が31.8%と最も高く、次いで「はっきりとおぼえていない」の割合が26.6%、「中学校で受けた」の割合が26.0%となっています。

大阪府と比較すると、「はっきりとおぼえていない」の割合が高くなっています。一方、「小学校で受けた」の割合が低くなっています。



【「子どもが結婚しようとしている相手が同和地区の人だった場合に、親として子どもに対してとる態度」について、人権学習（同和問題（部落差別））の経験別】

人権学習の経験別にみると、高等教育で人権学習を受けている人ほど“賛成する”（「迷うことなく賛成する」と「迷いながらも、結局は賛成する」の合計）の割合が高く、『はっきりとおぼえていない』『受けたことはない』で割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	迷うことなく賛成する	迷いながらも、結局は賛成する	迷いながらも、結局は反対する	迷うことなく反対する	わからない	無回答
全 体	1,127	20.1	27.0	9.8	3.4	37.8	2.0
小学校で受けた	278	28.4	23.7	10.8	4.3	32.4	0.4
中学校で受けた	226	31.9	28.3	7.5	3.5	28.3	0.4
高校で受けた	113	32.7	29.2	7.1	2.7	28.3	0.0
大学、短大、専門学校で受けた	73	39.7	24.7	6.8	1.4	27.4	0.0
はっきりとおぼえていない	446	15.0	29.1	9.4	2.7	42.6	1.1
受けたことはない	257	15.2	25.3	10.9	3.5	41.2	3.9
無回答	25	16.0	4.0	8.0	8.0	44.0	20.0

【「子どもが結婚しようとしている相手が同和地区の人だった場合に、親戚があなたや子どもに対してどのような態度をとると思うか」について、人権学習（同和問題（部落差別））の経験別】

人権学習の経験別にみると、高等教育で人権学習を受けている人ほど“賛成する”（「迷うことなく賛成する」と「迷いながらも、結局は賛成する」の合計）の割合が高く、『受けたことはない』で割合が低くなっています。

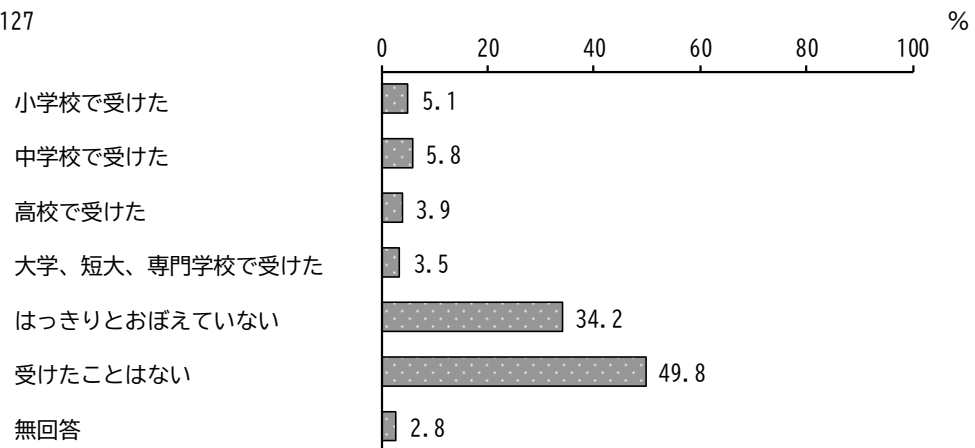
単位：％

区分	回答者数 (件)	迷うことなく 賛成する	迷いながらも、 結局は賛成する	迷いながらも、 結局は反対する	迷うことなく 反対する	わからない	無回答
全 体	1,127	11.7	19.5	10.5	7.7	48.5	2.0
小学校で受けた	358	13.4	19.6	13.4	10.1	43.3	0.3
中学校で受けた	293	15.4	20.8	10.9	10.2	41.3	1.4
高校で受けた	120	20.0	25.0	14.2	6.7	34.2	0.0
大学、短大、専門学校で受けた	50	28.0	20.0	22.0	4.0	26.0	0.0
はっきりとおぼえていない	300	8.3	18.3	6.7	6.0	59.3	1.3
受けたことはない	227	7.9	16.3	10.1	5.7	55.5	4.4
無回答	15	6.7	6.7	6.7	0.0	53.3	26.7

（３）日本に居住している外国人の人権問題

「受けたことはない」の割合が 49.8％と最も高く、次いで「はっきりとおぼえていない」の割合が 34.2％となっています。

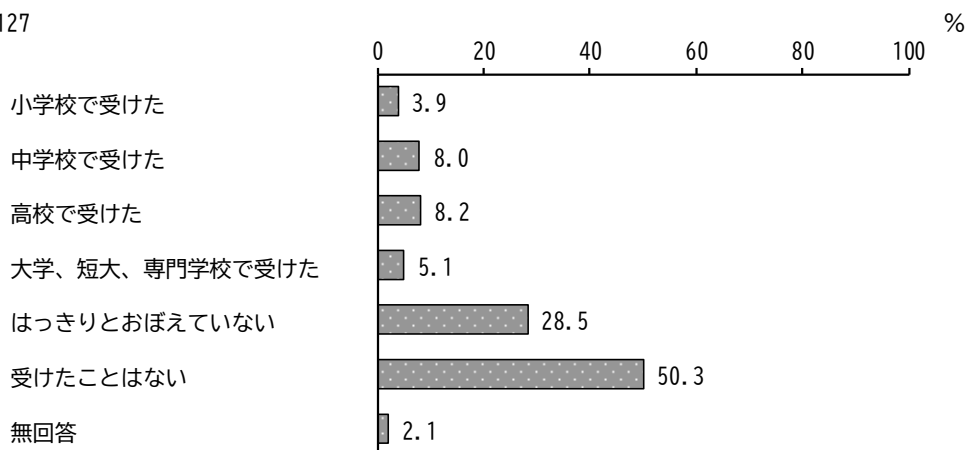
回答者数 = 1,127



(4) HIV陽性者の人権問題

「受けたことはない」の割合が50.3%と最も高く、次いで「はっきりとおぼえていない」の割合が28.5%となっています。

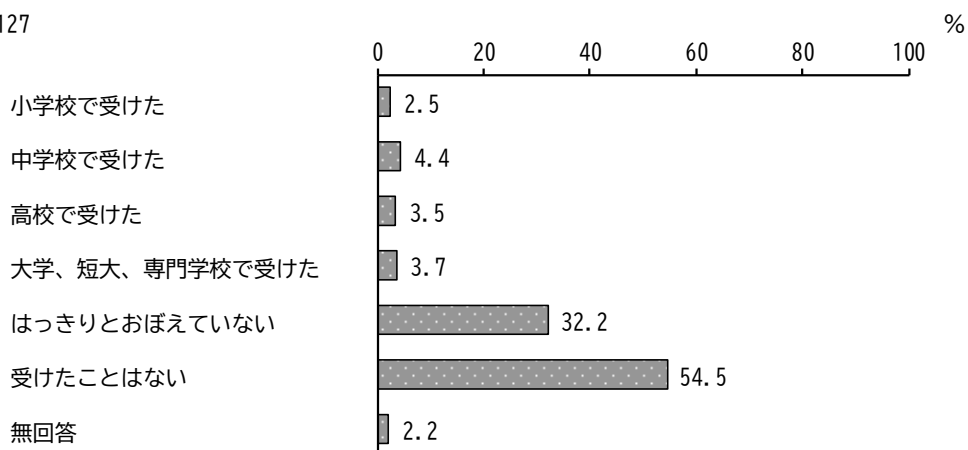
回答者数 = 1,127



(5) ハンセン病回復者及びその家族の人権問題

「受けたことはない」の割合が54.5%と最も高く、次いで「はっきりとおぼえていない」の割合が32.2%となっています。

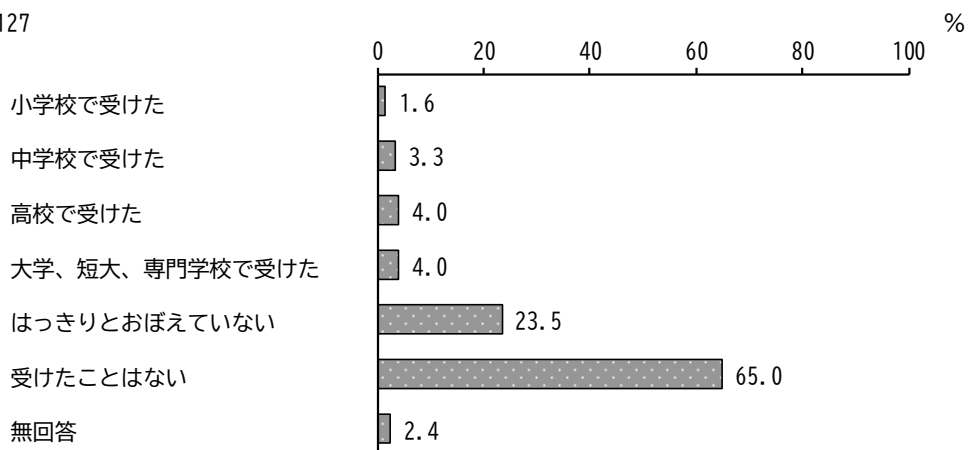
回答者数 = 1,127



(6) 性的マイノリティの人権問題

「受けたことはない」の割合が65.0%と最も高く、次いで「はっきりとおぼえていない」の割合が23.5%となっています。

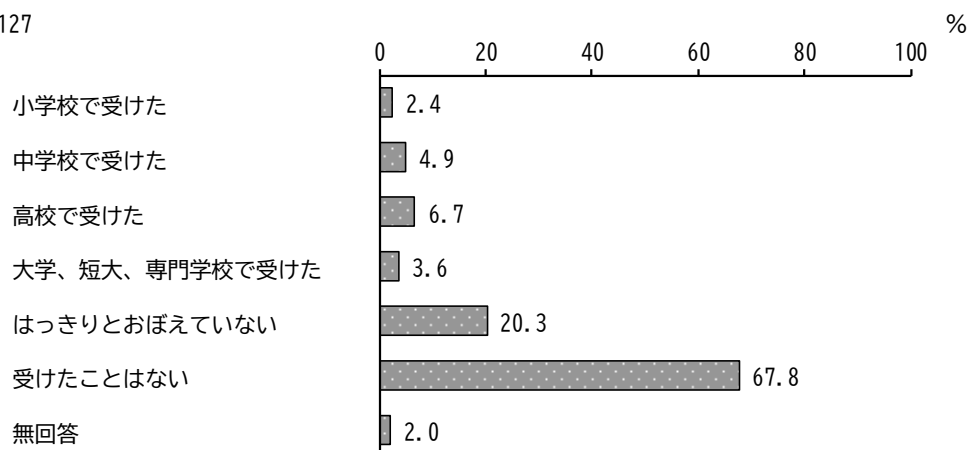
回答者数 = 1,127



(7) インターネット上の人権侵害

「受けたことはない」の割合が67.8%と最も高く、次いで「はっきりとおぼえていない」の割合が20.3%となっています。

回答者数 = 1,127



【「差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」という考えについて、人権学習（インターネット上の人権侵害）の経験別】

人権学習の経験別にみると、高等教育で人権学習を受けている人ほど“そう思う”（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の割合が高くなっています。『はっきりとおぼえていない』『受けたことはない』で「何とも言えない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	そう 思う	やや そう 思う	い あまり そう 思わ ない	そう 思わ ない	何 と も 言 え ない	無 回 答
全 体	1,127	42.9	33.2	7.2	3.5	11.2	2.0
小学校で受けた	27	48.1	29.6	7.4	7.4	7.4	0.0
中学校で受けた	55	54.5	29.1	5.5	3.6	7.3	0.0
高校で受けた	76	60.5	25.0	5.3	1.3	7.9	0.0
大学、短大、専門学校で受けた	41	58.5	34.1	0.0	2.4	4.9	0.0
はっきりとおぼえていない	229	40.6	34.5	7.9	5.2	11.4	0.4
受けたことはない	764	42.5	33.2	7.5	3.1	11.6	2.0
無回答	22	22.7	27.3	4.5	0.0	13.6	31.8

【性別・年代別】

		(1) 障がい者の人権問題							(2) 同和問題（部落差別）							(3) 日本に居住している外国人の人権問題							
(単位：％)		回答者数	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	はつきりとおぼえない	受けたことはない	無回答	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	はつきりとおぼえない	受けたことはない	無回答	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	はつきりとおぼえない	受けたことはない	無回答
全 体		1,127	24.7	20.1	10.0	6.5	39.6	22.8	2.2	31.8	26.0	10.6	4.4	26.6	20.1	1.3	5.1	5.8	3.9	3.5	34.2	49.8	2.8
性別	女性	649	25.1	19.4	10.3	7.9	39.1	23.0	2.3	31.6	24.7	10.8	4.5	26.3	21.4	1.2	4.5	3.7	4.6	3.7	36.5	48.2	3.1
	男性	442	24.4	21.7	9.5	4.3	38.2	23.5	2.0	32.1	28.7	10.4	4.3	26.0	18.8	1.4	5.4	8.6	2.7	2.9	29.9	52.9	2.3
年代別	10歳代	13	38.5	46.2	53.8	15.4	38.5	0.0	0.0	7.7	30.8	61.5	15.4	30.8	7.7	0.0	0.0	7.7	15.4	15.4	46.2	15.4	0.0
	20歳代	86	40.7	47.7	31.4	18.6	30.2	7.0	1.2	17.4	23.3	23.3	11.6	40.7	12.8	1.2	14.0	11.6	17.4	14.0	37.2	27.9	1.2
	30歳代	110	45.5	34.5	17.3	10.0	35.5	6.4	0.9	30.9	25.5	6.4	5.5	37.3	17.3	0.0	6.4	9.1	8.2	4.5	53.6	26.4	0.0
	40歳代	152	46.1	30.3	12.5	7.9	34.9	5.9	0.7	47.4	30.3	9.9	4.6	25.0	7.9	0.0	9.2	8.6	3.3	5.3	44.7	34.2	0.7
	50歳代	253	29.2	19.8	7.9	2.8	51.4	9.9	2.0	52.6	35.6	9.5	2.0	21.7	7.9	1.2	5.5	4.3	2.8	0.8	42.3	44.7	2.4
	60歳代	197	13.7	11.7	5.6	8.1	43.1	29.9	3.0	38.1	31.5	11.7	5.6	21.3	14.2	1.0	2.5	4.1	1.5	3.6	26.4	61.9	2.5
	70歳代	194	6.2	7.7	3.1	4.1	34.5	46.4	2.1	10.3	16.0	7.7	2.1	26.3	42.8	1.0	2.1	4.1	1.0	1.5	21.1	68.0	4.1
	80歳以上	112	2.7	5.4	1.8	0.9	32.1	53.6	5.4	4.5	8.0	5.4	4.5	27.7	47.3	5.4	0.0	2.7	0.9	0.0	16.1	72.3	8.0

		(４) HIV陽性者の人権問題							(５) ハンセン病回復者及びその家族の人権問題							(６) 性的マイノリティの人権問題							
(単位：％)		回答者数	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	はつきりとおぼえない	受けたことはない	無回答	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	はつきりとおぼえない	受けたことはない	無回答	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	はつきりとおぼえない	受けたことはない	無回答
全 体		1,127	3.9	8.0	8.2	5.1	28.5	50.3	2.1	2.5	4.4	3.5	3.7	32.2	54.5	2.2	1.6	3.3	4.0	4.0	23.5	65.0	2.4
性別	女性	649	3.2	7.4	8.3	6.5	29.4	48.2	2.3	2.0	4.0	3.9	4.3	31.6	54.2	2.5	1.5	2.3	4.2	4.5	21.9	66.4	2.8
	男性	442	4.5	8.8	8.1	3.2	26.0	53.8	1.8	2.5	4.5	2.7	2.9	32.4	55.9	1.8	1.6	4.8	3.8	3.2	25.1	63.6	1.8
年代別	10歳代	13	7.7	38.5	30.8	7.7	38.5	7.7	0.0	0.0	15.4	7.7	0.0	46.2	38.5	0.0	7.7	38.5	69.2	15.4	30.8	0.0	0.0
	20歳代	86	12.8	27.9	22.1	15.1	34.9	17.4	1.2	7.0	8.1	5.8	14.0	44.2	33.7	1.2	11.6	16.3	24.4	23.3	30.2	18.6	1.2
	30歳代	110	11.8	19.1	15.5	5.5	39.1	22.7	0.0	3.6	4.5	3.6	1.8	40.0	50.0	0.0	1.8	4.5	5.5	5.5	33.6	52.7	0.9
	40歳代	152	7.2	14.5	19.7	6.6	38.8	24.3	0.0	3.9	8.6	5.3	5.9	37.5	44.7	0.0	1.3	1.3	1.3	4.6	33.6	59.2	0.0
	50歳代	253	2.8	3.6	5.9	4.0	31.6	52.2	0.8	2.8	3.2	3.6	3.2	34.8	51.4	2.0	0.8	1.2	2.0	2.0	24.1	69.6	1.2
	60歳代	197	0.0	2.0	1.5	5.1	20.8	68.5	2.0	1.0	2.0	1.0	3.6	28.9	61.9	2.0	0.0	0.5	0.0	1.0	17.3	79.2	2.0
	70歳代	194	0.5	2.1	0.5	3.6	20.6	71.1	3.1	1.0	3.1	4.1	1.5	24.7	64.9	2.6	0.5	2.6	0.5	1.5	18.6	74.2	3.6
	80歳以上	112	0.0	0.9	2.7	0.9	18.8	68.8	8.9	0.0	3.6	1.8	0.9	18.8	67.0	8.0	0.0	1.8	0.9	0.0	11.6	76.8	8.9

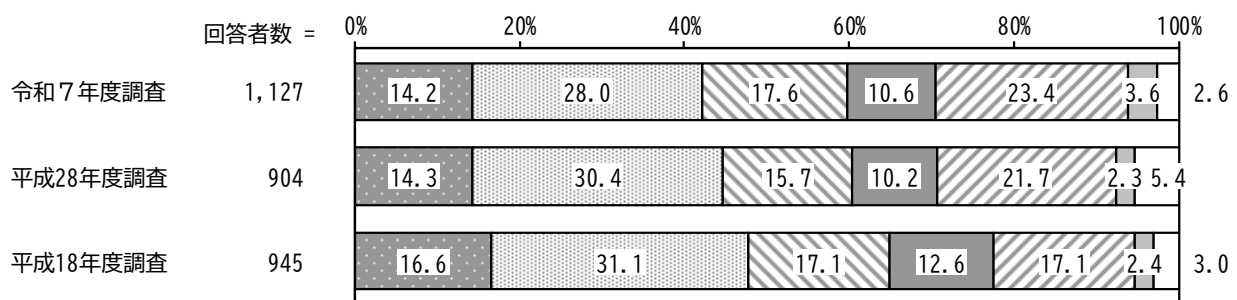
		(7) インターネット上の人権侵害							
(単位：％)		回答者数	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	はつきりとおぼえない	受けたことはない	無回答
全 体		1,127	2.4	4.9	6.7	3.6	20.3	67.8	2.0
性別	女性	649	2.5	4.9	7.1	4.0	19.0	68.7	2.0
	男性	442	2.3	5.0	6.3	2.9	21.7	67.0	1.8
年代別	10歳代	13	23.1	53.8	69.2	30.8	15.4	0.0	0.0
	20歳代	86	16.3	37.2	44.2	19.8	31.4	9.3	1.2
	30歳代	110	5.5	9.1	16.4	7.3	32.7	42.7	0.0
	40歳代	152	0.7	1.3	3.3	3.9	22.4	71.1	0.0
	50歳代	253	0.4	0.0	0.8	0.4	19.4	77.9	1.2
	60歳代	197	0.5	1.0	0.5	1.0	13.2	82.7	2.0
	70歳代	194	0.5	1.0	0.5	1.5	19.1	76.8	2.1
80歳以上		112	0.0	0.0	1.8	0.0	14.3	75.9	8.0

問9 学校や職場、ふだんの生活の中で、誰かが人を差別するような言動をとったとき、あなたはどのように対応しますか。【あてはまるもの1つに○】

「表向きは話を合わせつつ、差別はいけないことを伝える」の割合が28.0%と最も高く、次いで「今までそういう場面に出会ったことがない（見聞きしたことがない）」の割合が23.4%、「言動は問題だが、その人との人間関係が気まづくなると困るので、何も言わない」の割合が17.6%となっています。

過去調査と比較すると、平成18年度調査から「今までそういう場面に出会ったことがない（見聞きしたことがない）」の割合が増加しています。

- そのような言動は差別にあたるから、よくないと注意を促す
- 表向きは話を合わせつつ、差別はいけないことを伝える
- 言動は問題だが、その人との人間関係が気まづくなると困るので、何も言わない
- 言動は問題だが、世間ではよくあることなので、何も言わない
- 今までそういう場面に出会ったことがない（見聞きしたことがない）
- その他
- 無回答



【性別・年代別】

性別にみると、女性で「言動は問題だが、その人との人間関係が気まづくなると困るので、何も言わない」「今までそういう場面に出会ったことがない（見聞きしたことがない）」の割合が高く、男性で「そのような言動は差別にあたるから、よくないと注意を促す」の割合が高くなっています。

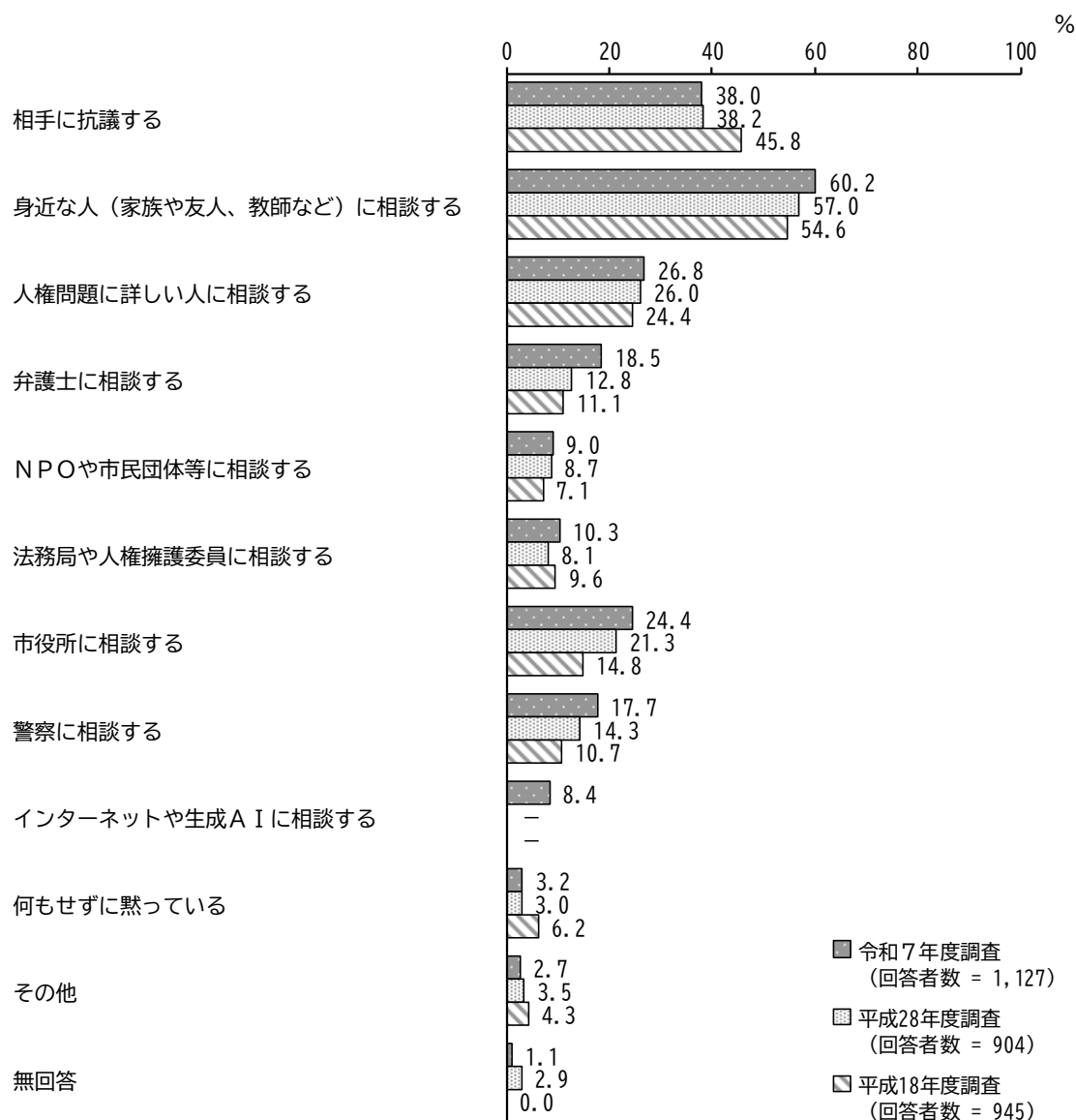
年代別にみると、80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「言動は問題だが、その人との人間関係が気まづくなると困るので、何も言わない」の割合が高い傾向にあり、30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「今までそういう場面に出会ったことがない（見聞きしたことがない）」の割合が高くなっています。

(単位：%)		回答者数	そのような言動は差別にあたるから、よくないと注意を促す	表向きは話を合わせつつ、差別はいけないことを伝える	言動は問題だが、その人との人間関係が気まづくなると困るので、何も言わない	言動は問題だが、世間ではよくあることなので、何も言わない	今までそういう場面に出会ったことがない（見聞きしたことがない）	その他	無回答
全 体		1,127	14.2	28.0	17.6	10.6	23.4	3.6	2.6
性別	女性	649	10.3	26.3	19.9	11.4	25.4	3.9	2.8
	男性	442	19.9	30.8	14.5	9.5	19.9	3.4	2.0
年代別	10歳代	13	0.0	53.8	23.1	15.4	7.7	0.0	0.0
	20歳代	86	14.0	25.6	25.6	9.3	20.9	3.5	1.2
	30歳代	110	12.7	30.9	21.8	10.9	14.5	8.2	0.9
	40歳代	152	15.1	27.0	24.3	11.2	16.4	5.3	0.7
	50歳代	253	15.4	29.2	18.6	9.1	20.9	5.5	1.2
	60歳代	197	16.8	31.0	17.3	10.7	22.3	0.5	1.5
	70歳代	194	12.9	25.8	10.8	12.9	32.0	2.1	3.6
	80歳以上	112	9.8	21.4	8.0	8.9	39.3	1.8	10.7

問 10 もし、あなた自身やあなたの家族が人権を侵害されるようなことがあったとき、あなたはどのように対応しますか。【あてはまるものすべてに○】

「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」の割合が 60.2%と最も高く、次いで「相手に抗議する」の割合が 38.0%、「人権問題に詳しい人に相談する」の割合が 26.8%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」「弁護士に相談する」「市役所に相談する」「警察に相談する」の割合が増加しています。一方、「相手に抗議する」の割合が減少しています。



※平成 28 年度調査、平成 18 年度調査では、「インターネットや生成 AI に相談する」がありませんでした。

【性別・年代別】

性別にみると、女性で「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」の割合が高く、男性で「相手に抗議する」の割合が高くなっています。

年代別にみると、80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「相手に抗議する」の割合が高い傾向にあり、70歳代から10歳代まで年代が下がるほど「インターネットや生成AIに相談する」の割合が高い傾向にあります。

(単位：％)		回答者数	相手に抗議する	身近な人（家族や友人、教師など）に相談する	人権問題に詳しい人に相談する	弁護士に相談する	NPOや市民団体等に相談する	法務局や人権擁護委員に相談する	市役所に相談する	警察に相談する	インターネットや生成AIに相談する	何もせずに黙っている	その他	無回答
全 体		1,127	38.0	60.2	26.8	18.5	9.0	10.3	24.4	17.7	8.4	3.2	2.7	1.1
性 別	女性	649	32.5	68.4	26.0	17.3	8.5	8.8	23.4	16.5	10.2	3.2	2.3	1.4
	男性	442	46.2	48.0	28.1	19.7	9.5	12.2	25.8	19.5	5.7	2.9	3.4	0.5
年 代 別	10歳代	13	38.5	30.8	30.8	15.4	0.0	7.7	7.7	23.1	30.8	7.7	7.7	0.0
	20歳代	86	45.3	55.8	19.8	10.5	5.8	7.0	9.3	15.1	18.6	1.2	2.3	1.2
	30歳代	110	43.6	67.3	25.5	19.1	7.3	4.5	20.9	21.8	12.7	2.7	3.6	0.0
	40歳代	152	39.5	66.4	25.0	20.4	7.9	8.6	18.4	19.7	13.2	6.6	3.3	0.0
	50歳代	253	37.9	64.4	30.8	25.7	12.6	13.0	28.9	17.0	10.3	1.6	2.4	0.4
	60歳代	197	40.6	61.9	29.9	17.8	9.6	12.2	21.8	11.7	5.6	1.5	2.0	0.5
	70歳代	194	34.5	57.2	27.3	18.0	5.7	10.8	32.0	19.6	1.0	4.1	2.1	1.5
	80歳以上	112	26.8	46.4	20.5	6.3	12.5	10.7	31.3	22.3	1.8	5.4	3.6	4.5

3 人権問題に対する行政の取組について

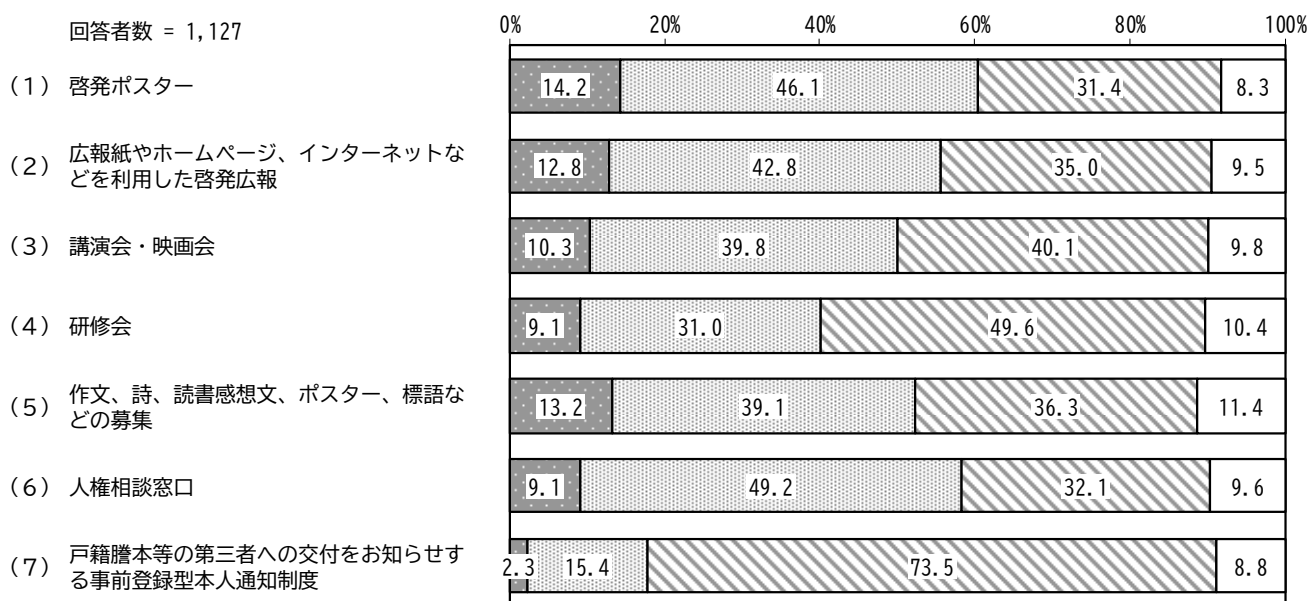
問 11 あなたは、人権問題の解決に向けた次のような施策を知っていますか。また、効果があると思いますか。【(1)～(7)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

A 認知度

『(1) 啓発ポスター』で「内容まで知っている」が、『(6) 人権相談窓口』で「聞いたことがあるが、内容まで知らない」が、『(7) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度』で「知らない」が高くなっています。

■ 内容まで知っている ■ 聞いたことがあるが、内容まで知らない ▨ 知らない □ 無回答

回答者数 = 1,127

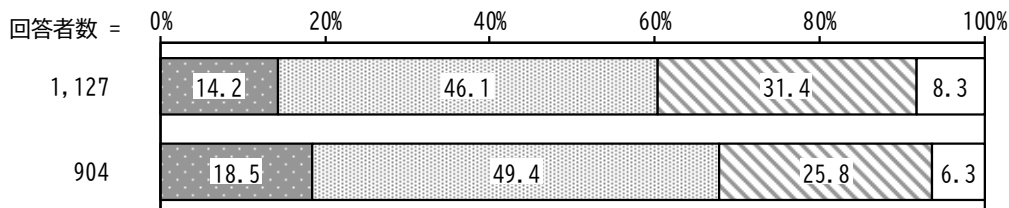


(1) 啓発ポスター

【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。

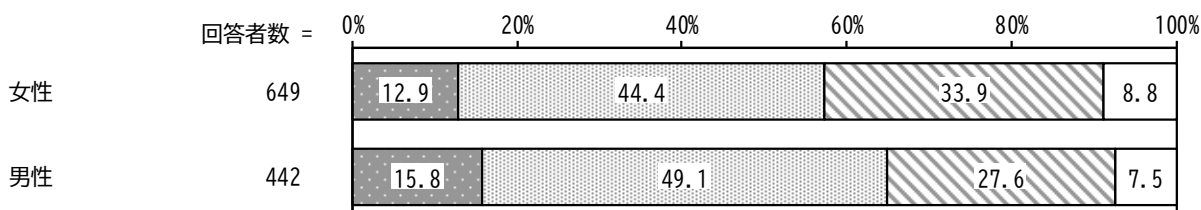
■ 内容まで知っている ■ 聞いたことがあるが、内容まで知らない ▨ 知らない □ 無回答



【性別】

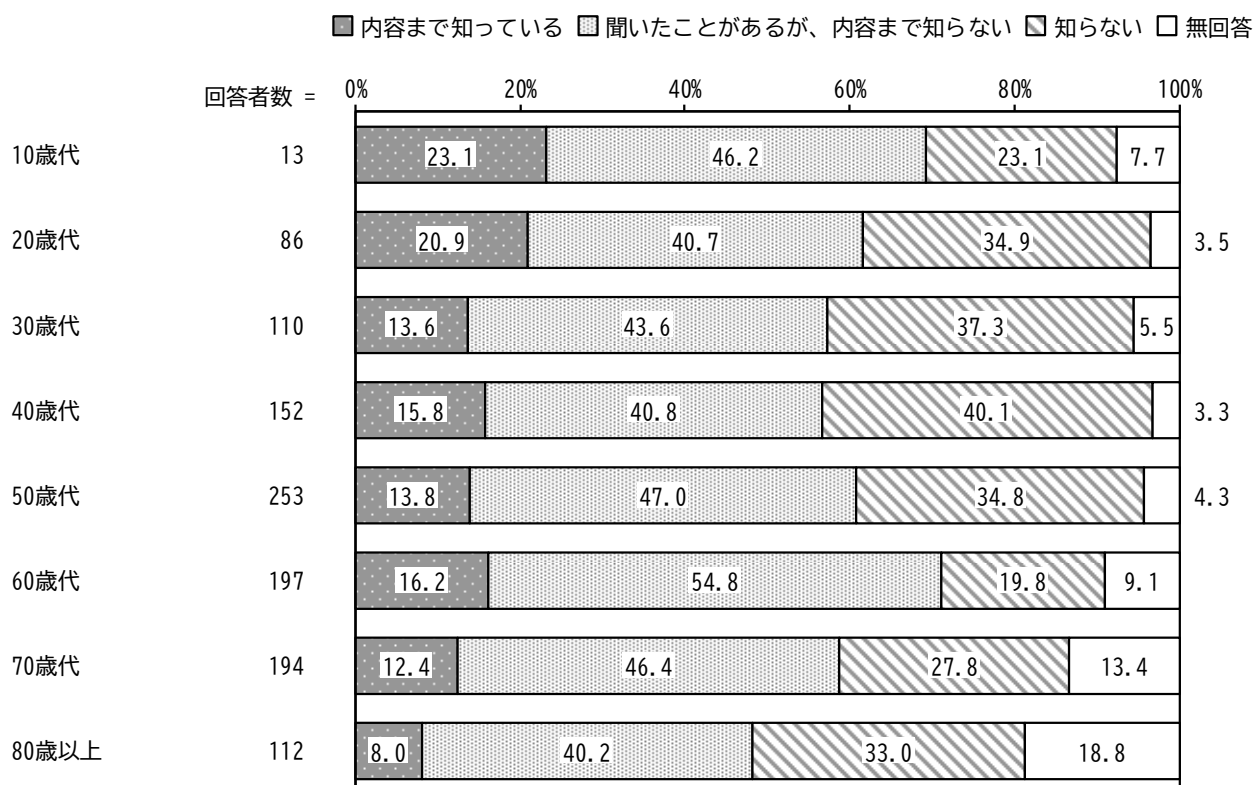
性別にみると、女性で「知らない」の割合が高くなっています。

■ 内容まで知っている ■ 聞いたことがあるが、内容まで知らない ▨ 知らない □ 無回答



【年代別】

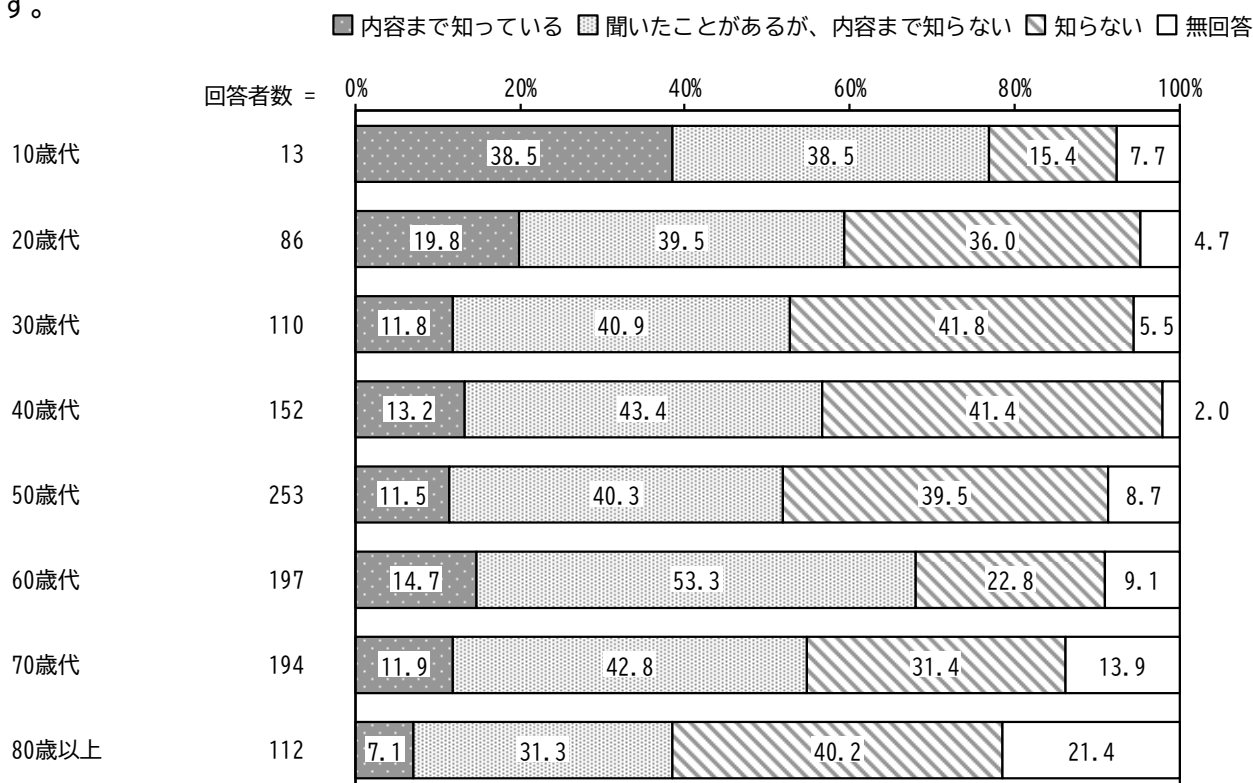
年代別にみると、20 歳代から 60 歳代まで年代が上がるほど「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が高い傾向にあります。また、60 歳代で「知らない」の割合が低くなっています。



(2) 広報紙やホームページ、インターネットなどを利用した啓発広報

【年代別】

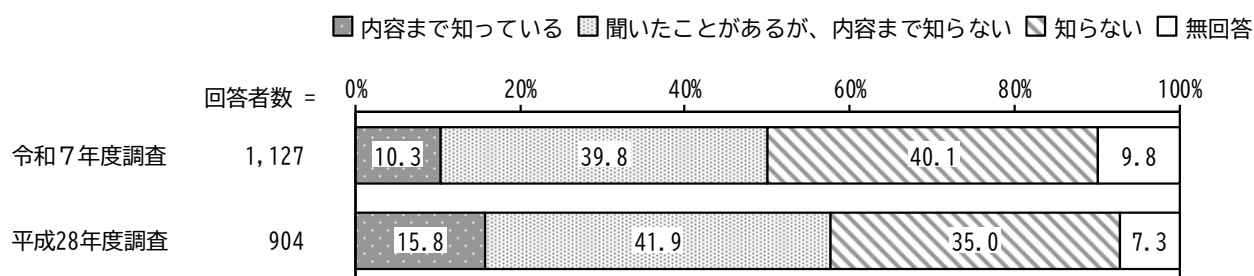
年代別にみると、50 歳代から 10 歳代まで年代が下がるほど「内容まで知っている」の割合が高い傾向にあります。また、60 歳代で「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が高くなっています。



(3) 講演会・映画会

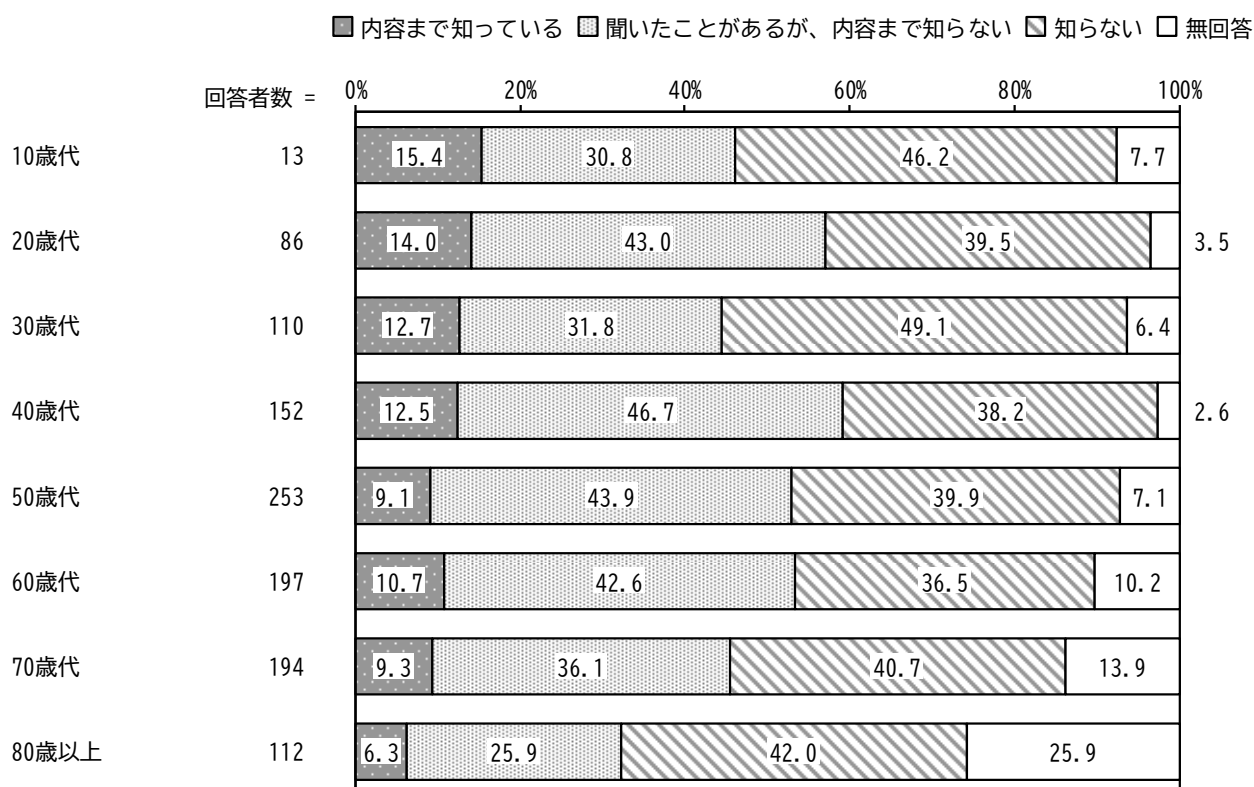
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。一方、「内容まで知っている」の割合が減少しています。



【年代別】

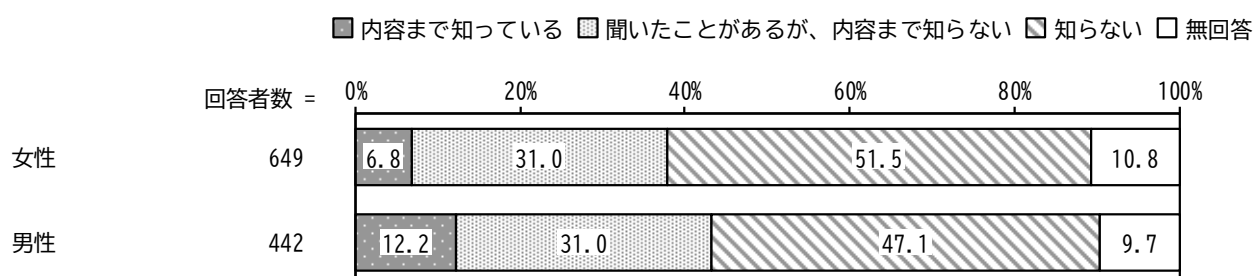
年代別にみると、80 歳以上から 40 歳代まで年代が下がるほど「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が高くなっています。



(4) 研修会

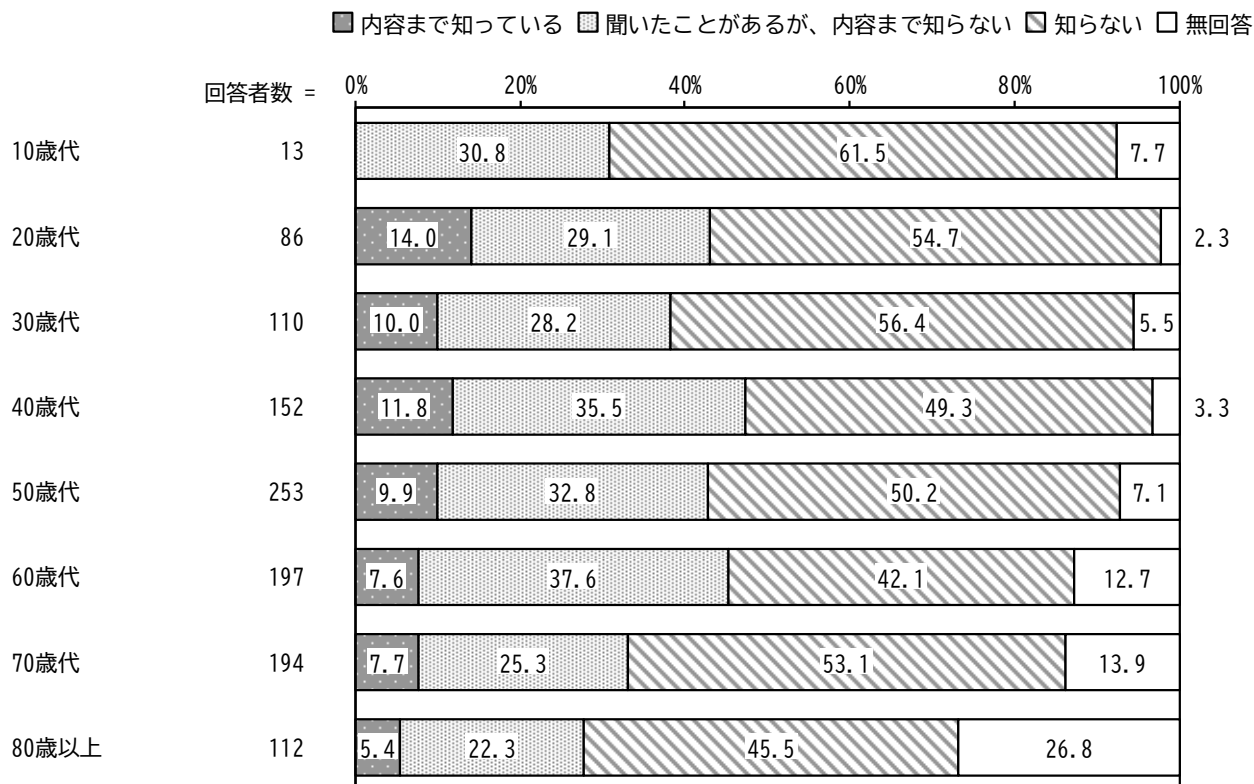
【性別】

性別にみると、男性で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。



【年代別】

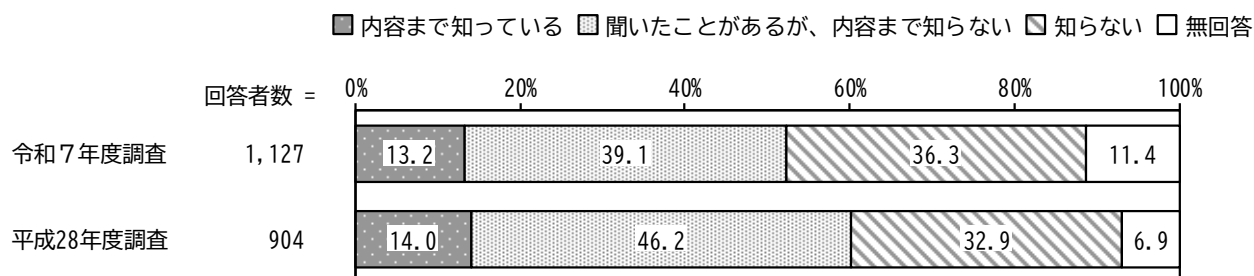
年代別にみると、60歳代で「聞いたことがあるが、内容まで知らない」、10歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



（５）作文、詩、読書感想文、ポスター、標語などの募集

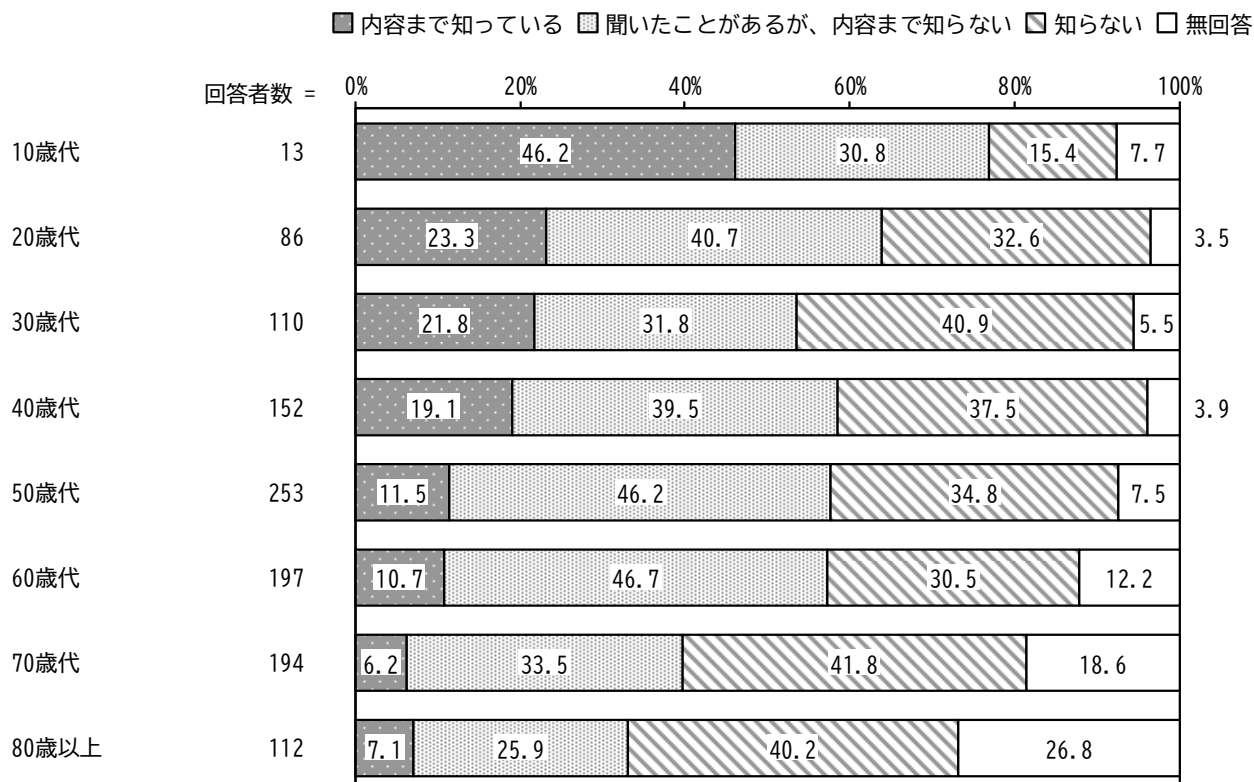
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が減少しています。



【年代別】

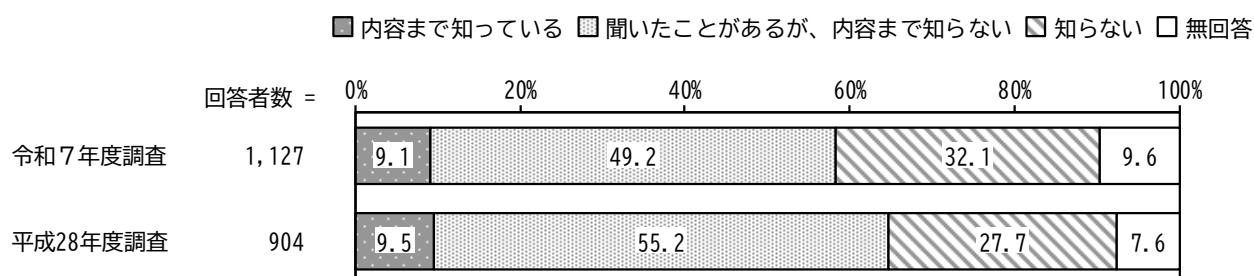
年代別にみると、70 歳代から 10 歳代まで年代が下がるほど「内容まで知っている」の割合が高くなっています。また、80 歳以上で「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が低くなっています。



(6) 人権相談窓口

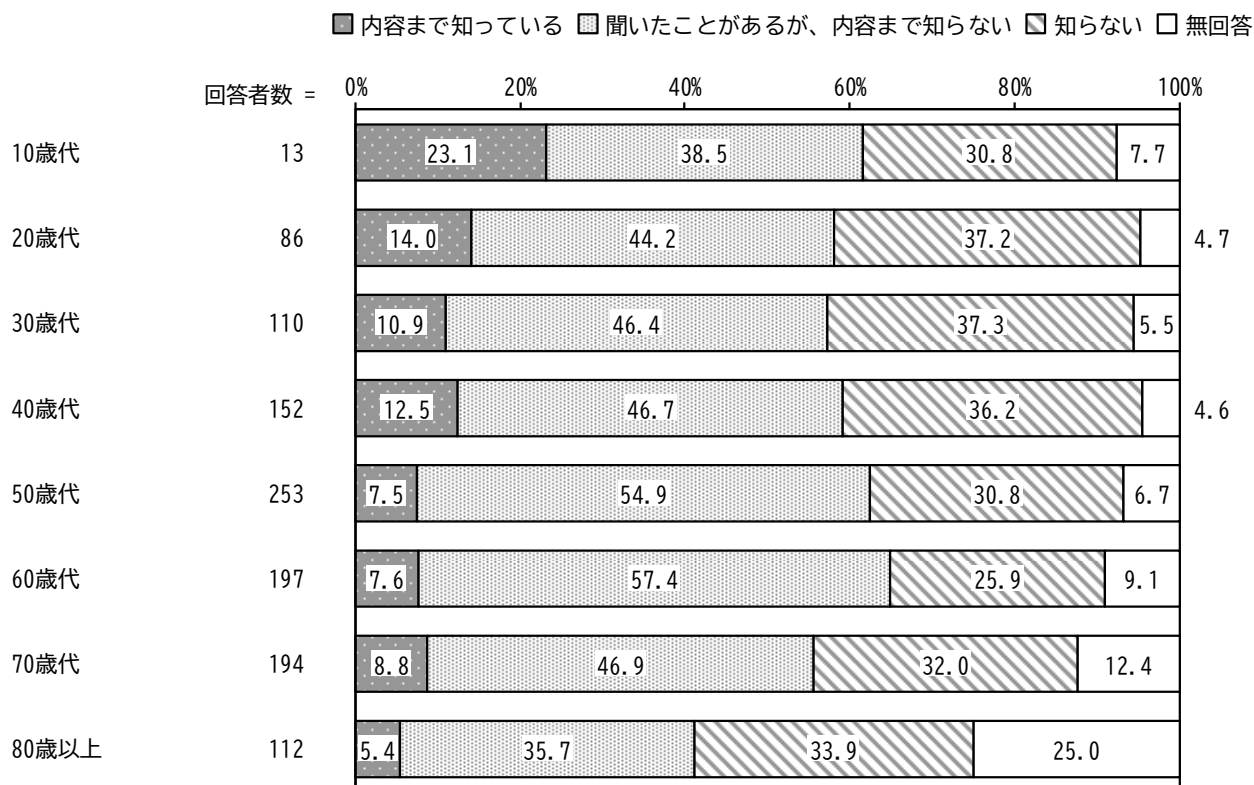
【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が減少しています。



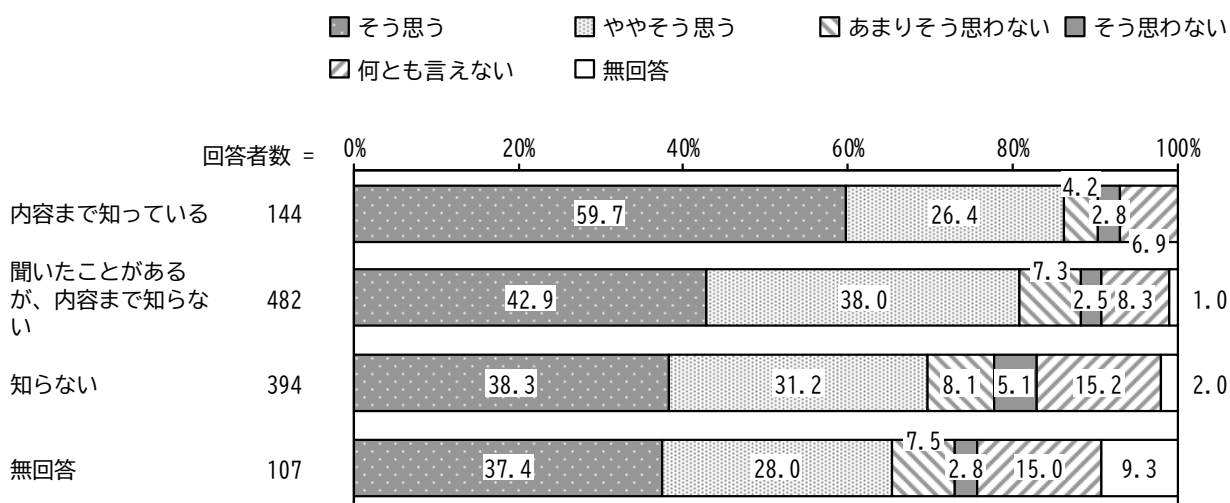
【年代別】

年代別にみると、10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が高くなっています。



【「差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である」という考えについて、市の施策（人権相談窓口）の認知度別】

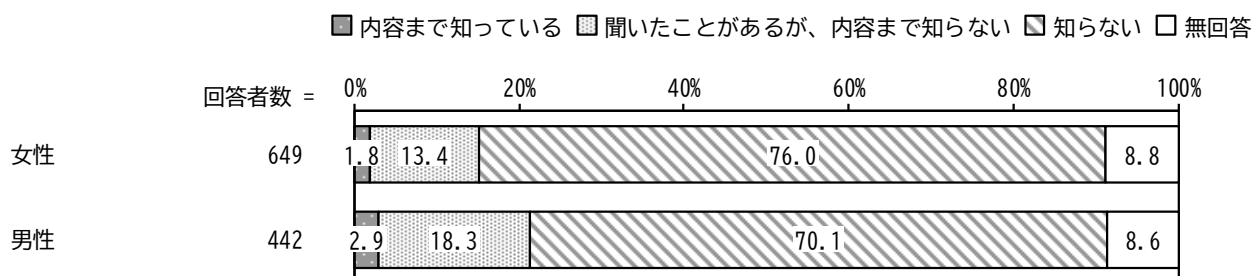
市の施策の認知度別にみると、認知している人ほど“そう思う”（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の割合が高くなっています。『知らない』で「何とも言えない」の割合が高くなっています。



(7) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度

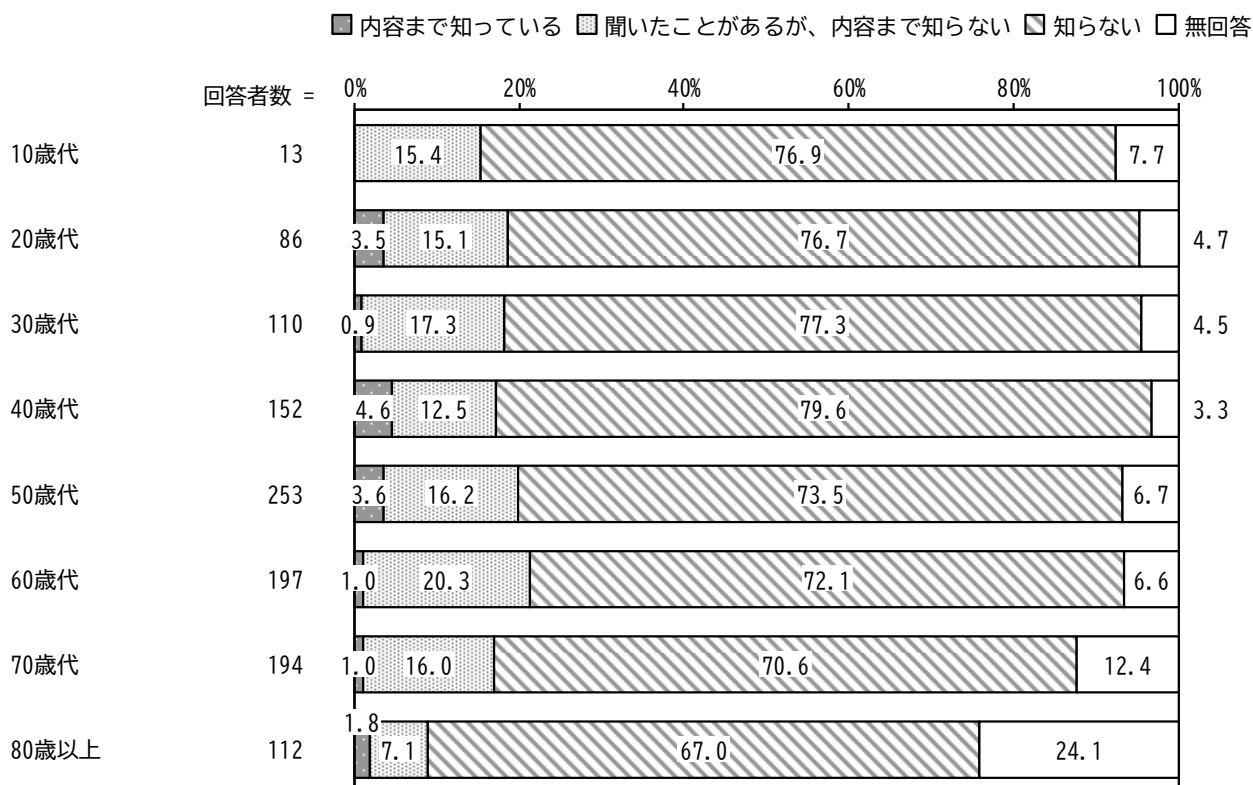
【性別】

性別にみると、女性で「知らない」の割合が高くなっています。



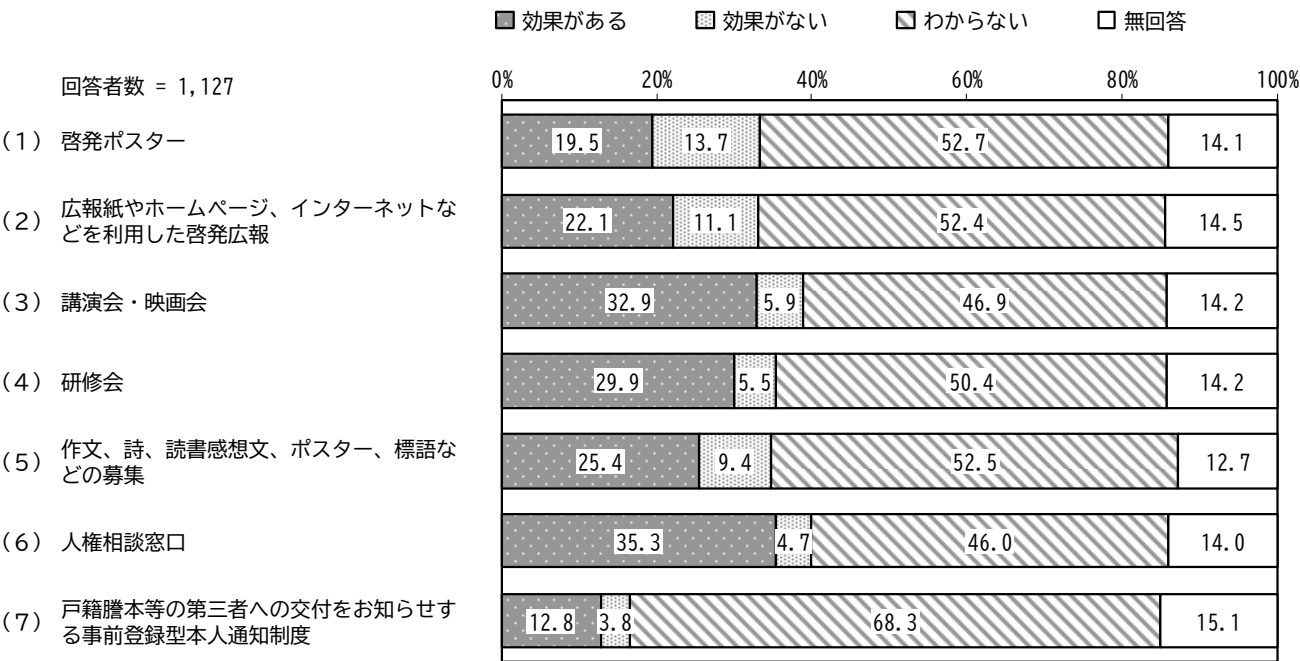
【年代別】

年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「知らない」の割合が高くなっています。



B 効果

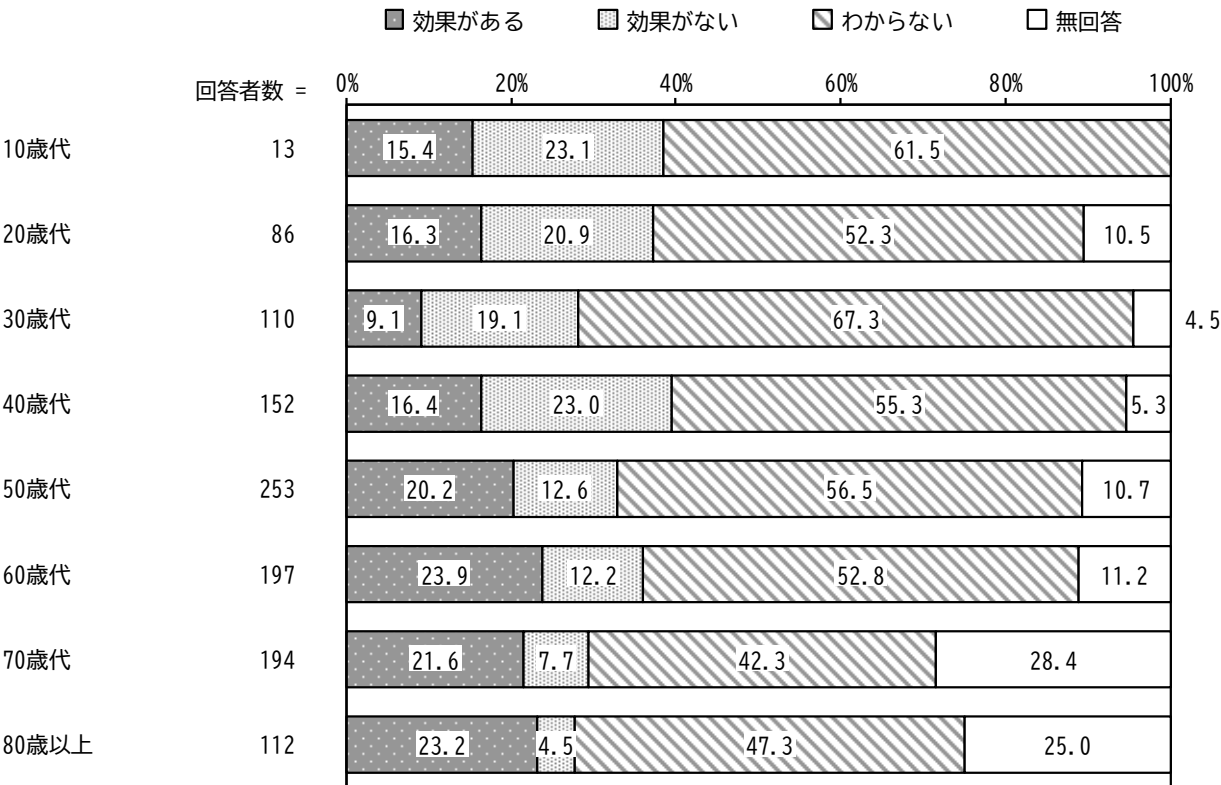
『(6) 人権相談窓口』で「効果がある」が、『(1) 啓発ポスター』で「効果がない」が、『(7) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度』で「わからない」が高くなっています。



(1) 啓発ポスター

【年代別】

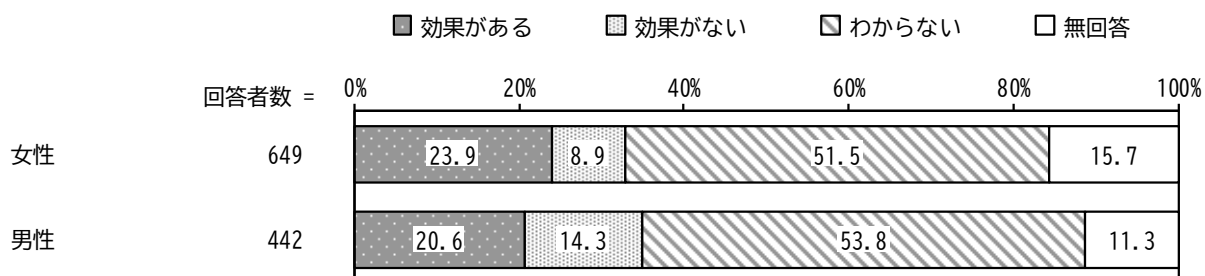
年代別にみると、80 歳以上から 40 歳代まで年代が下がるほど「効果がない」の割合が高くなっています。



(2) 広報紙やホームページ、インターネットなどを利用した啓発広報

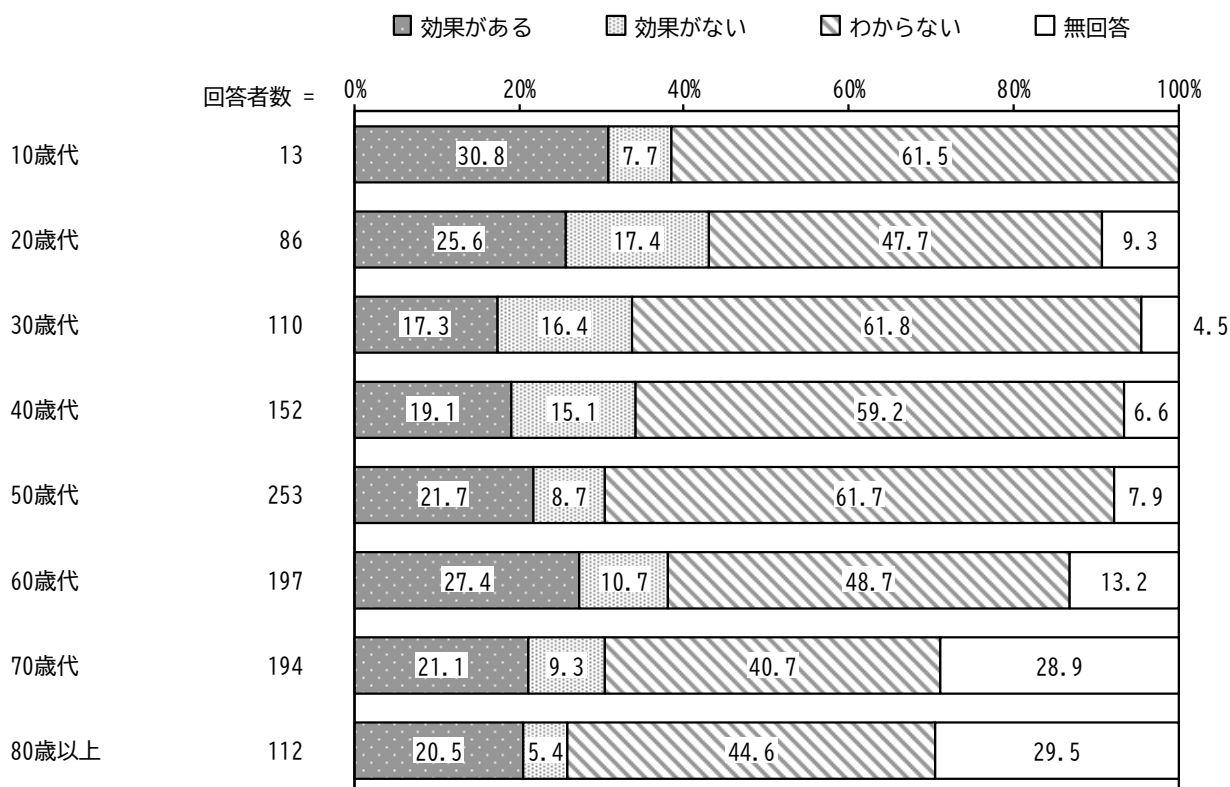
【性別】

性別にみると、男性で「効果がない」の割合が高くなっています。



【年代別】

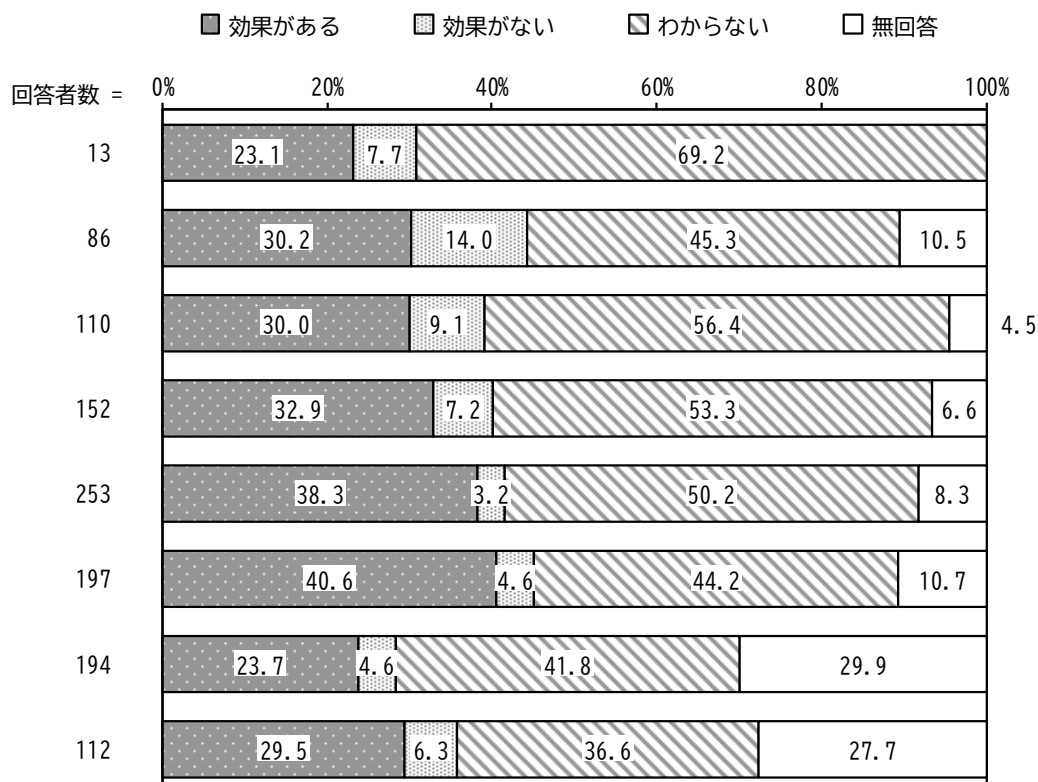
年代別にみると、10歳代で「効果がある」、20歳代、30歳代で「効果がない」の割合が高くなっています。



(3) 講演会・映画会

【年代別】

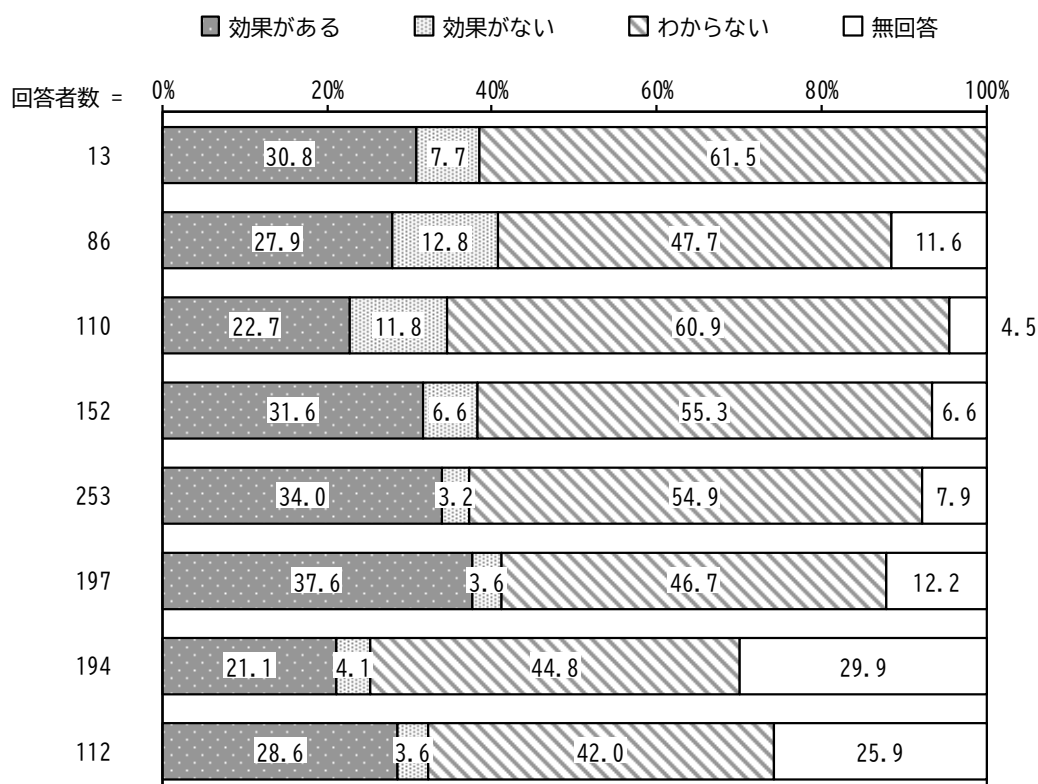
年代別にみると、10 歳代から 60 歳代まで年代が上がるほど「効果がある」の割合が高い傾向にあります。



(4) 研修会

【年代別】

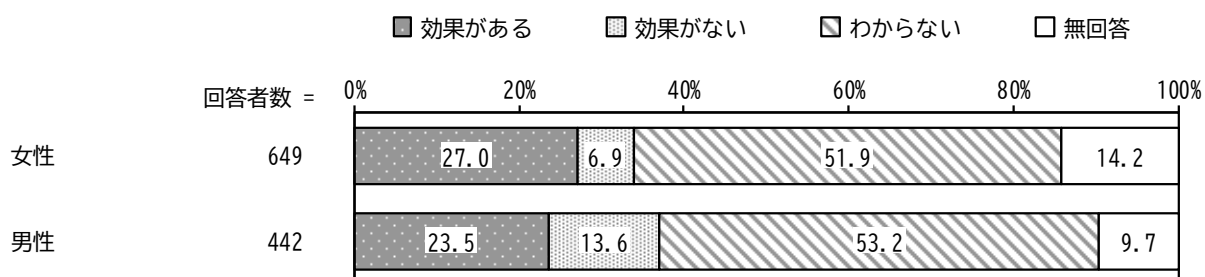
年代別にみると、60 歳代で「効果がある」、20 歳代、30 歳代で「効果がない」の割合が高くなっています。



（５）作文、詩、読書感想文、ポスター、標語などの募集

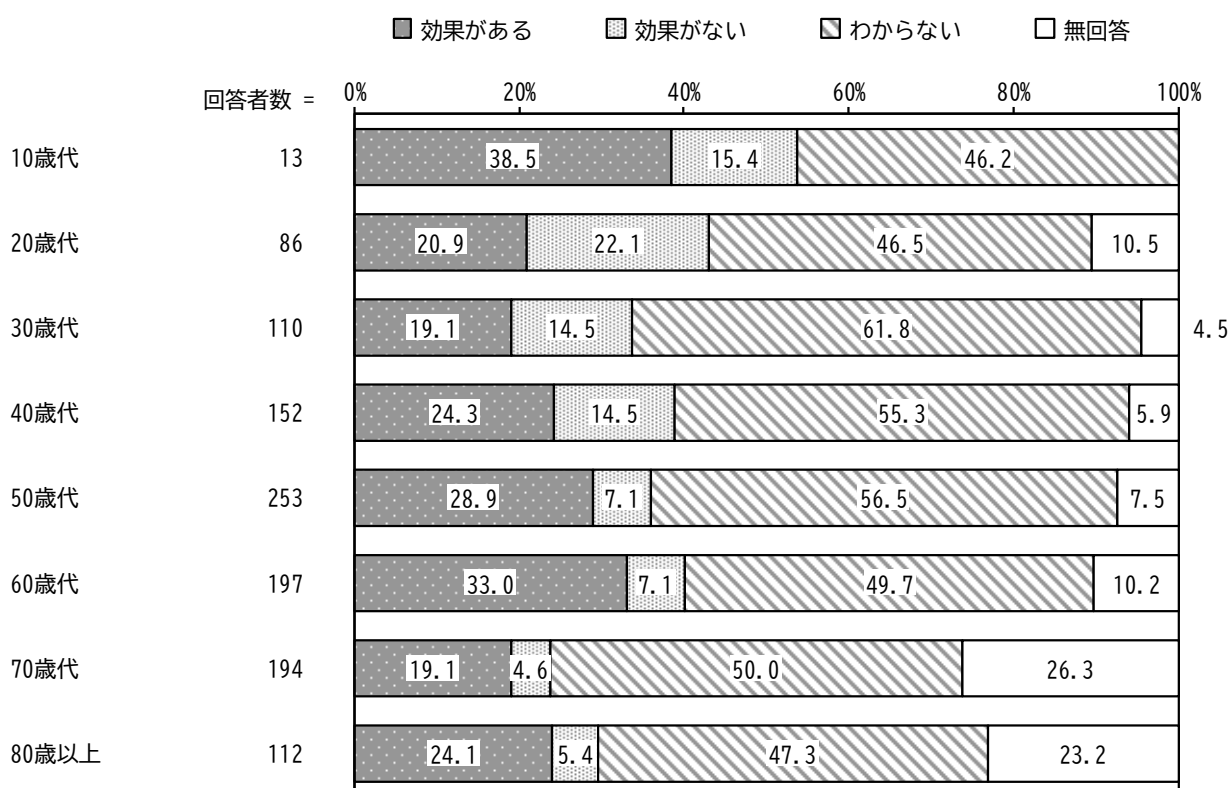
【性別】

性別にみると、男性で「効果がない」の割合が高くなっています。



【年代別】

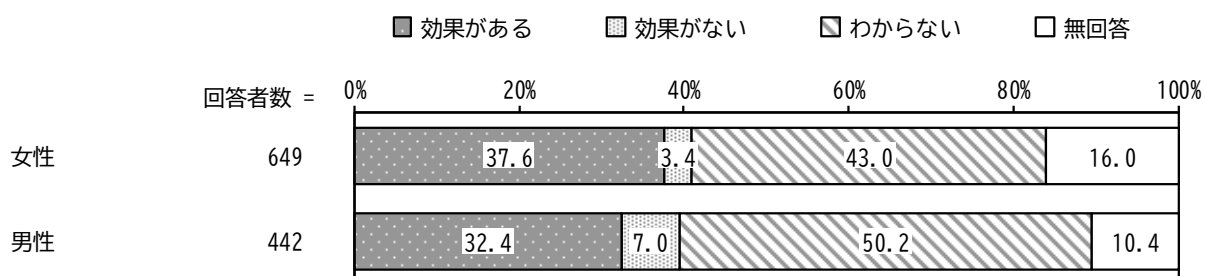
年代別にみると、10歳代で「効果がある」、20歳代で「効果がない」の割合が高くなっています。



（６）人権相談窓口

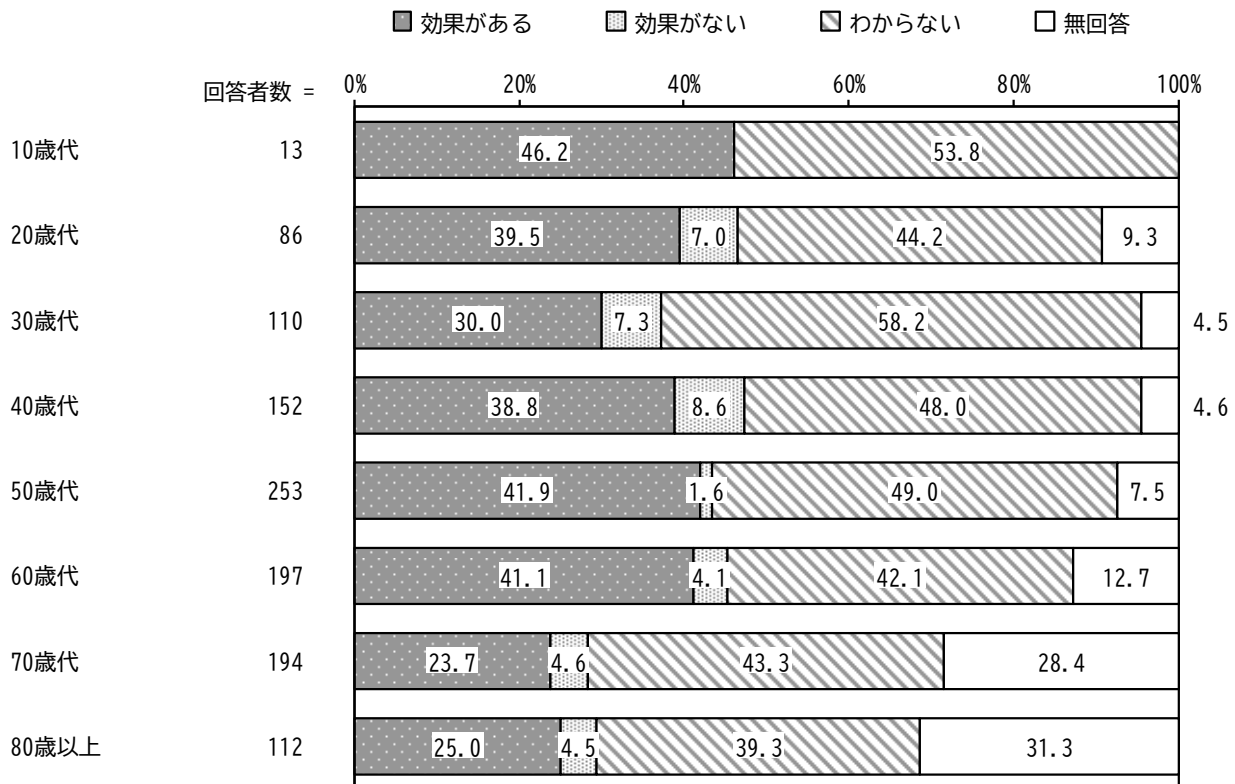
【性別】

性別にみると、女性で「効果がある」の割合が高くなっています。



【年代別】

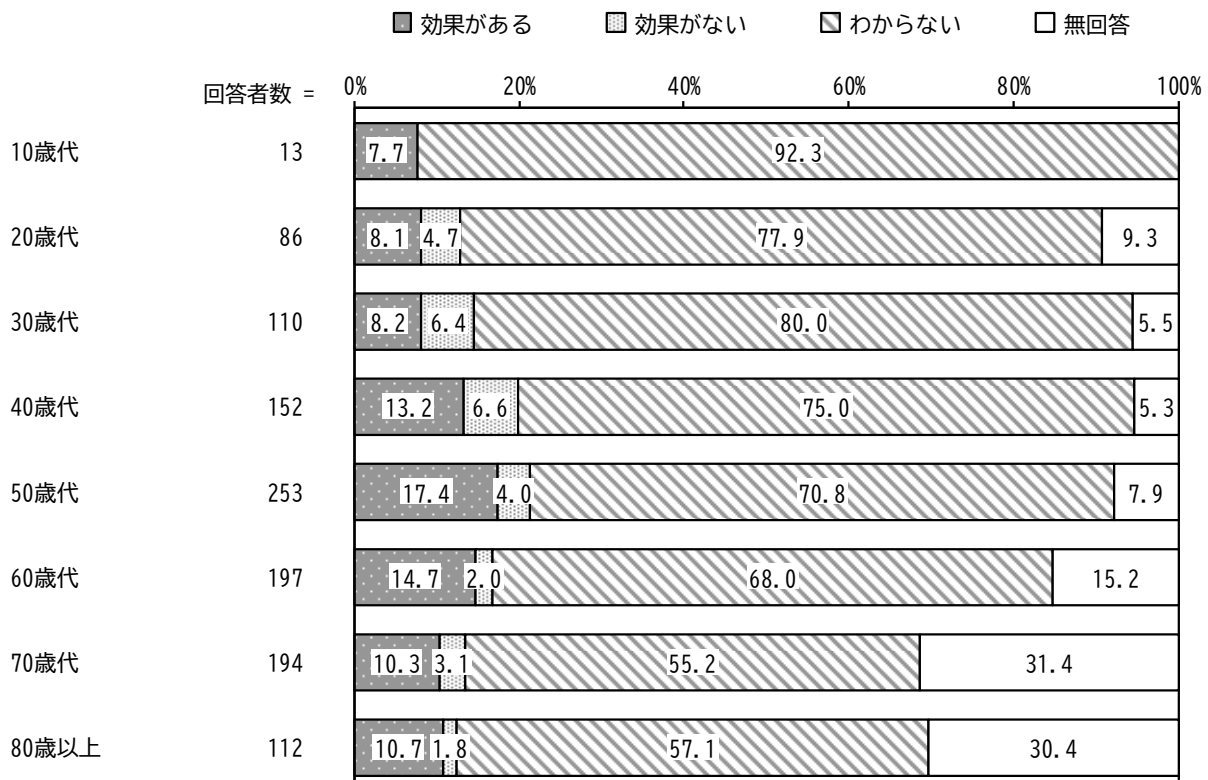
年代別にみると、10 歳代で「効果がある」の割合が高くなっています。



(7) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度

【年代別】

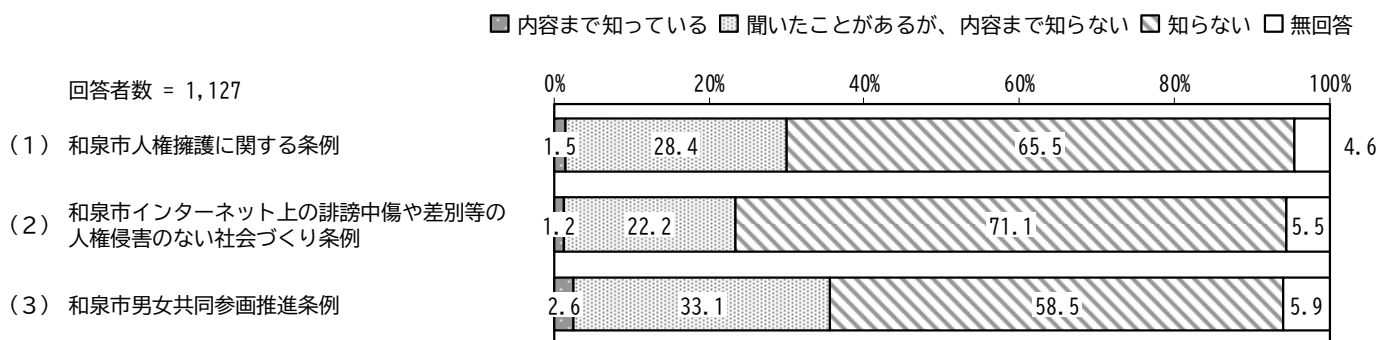
年代別にみると、10 歳代から 50 歳代まで年代が上がるほど「効果がある」の割合が高くなっています。



問 12 あなたは、次の条例について、知っていますか。また、効果があると思いますか。
 【(1)～(3)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

A 認知度

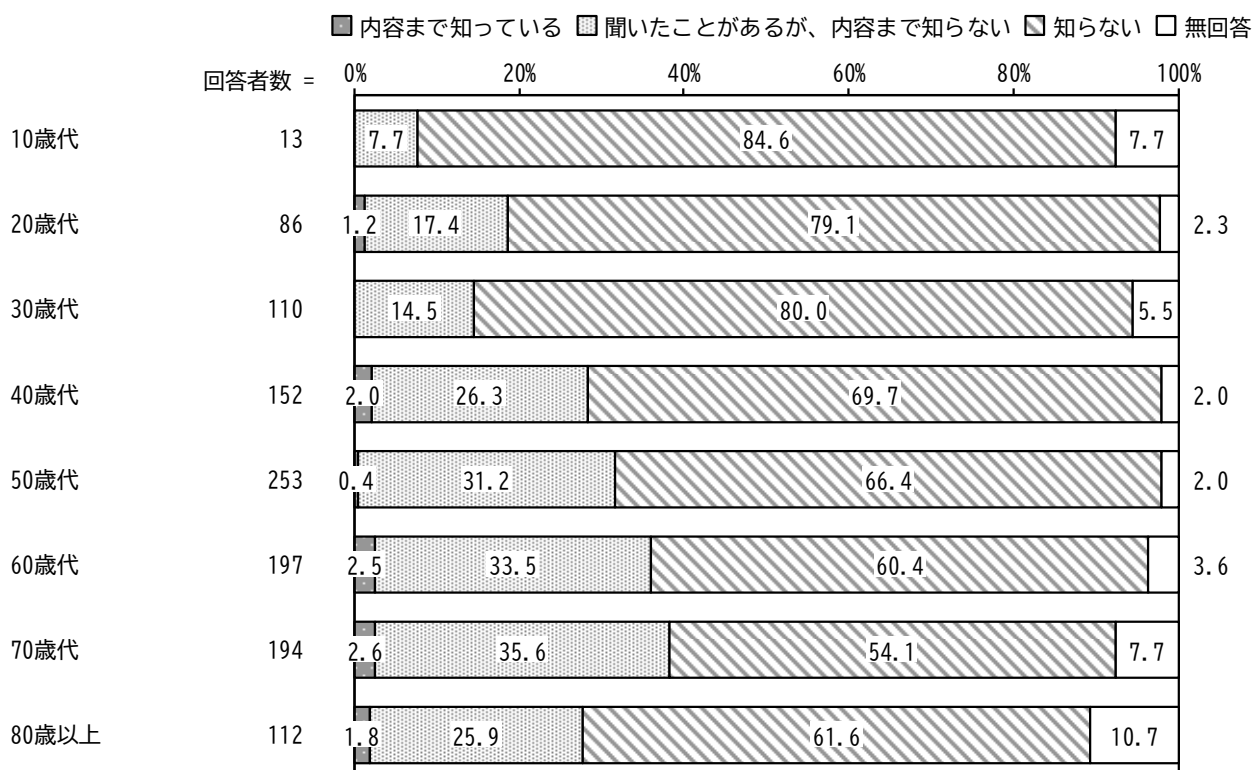
『(3) 和泉市男女共同参画推進条例』で「内容まで知っている」「聞いたことがあるが、内容まで知らない」が、『(2) 和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例』で「知らない」が高くなっています。



(1) 和泉市人権擁護に関する条例

【年代別】

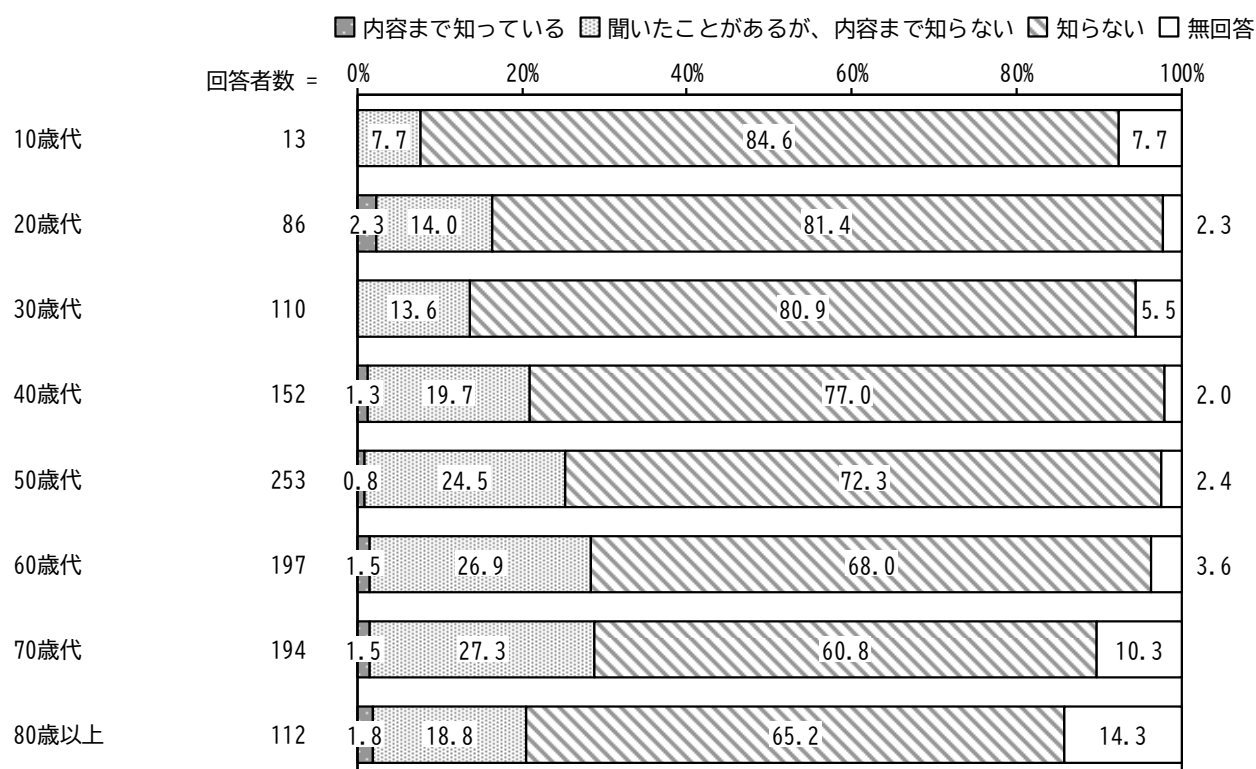
年代別にみると、10歳代から70歳代まで年代が上がるほど「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が高い傾向にあり、「知らない」の割合が低い傾向にあります。



(2) 和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例

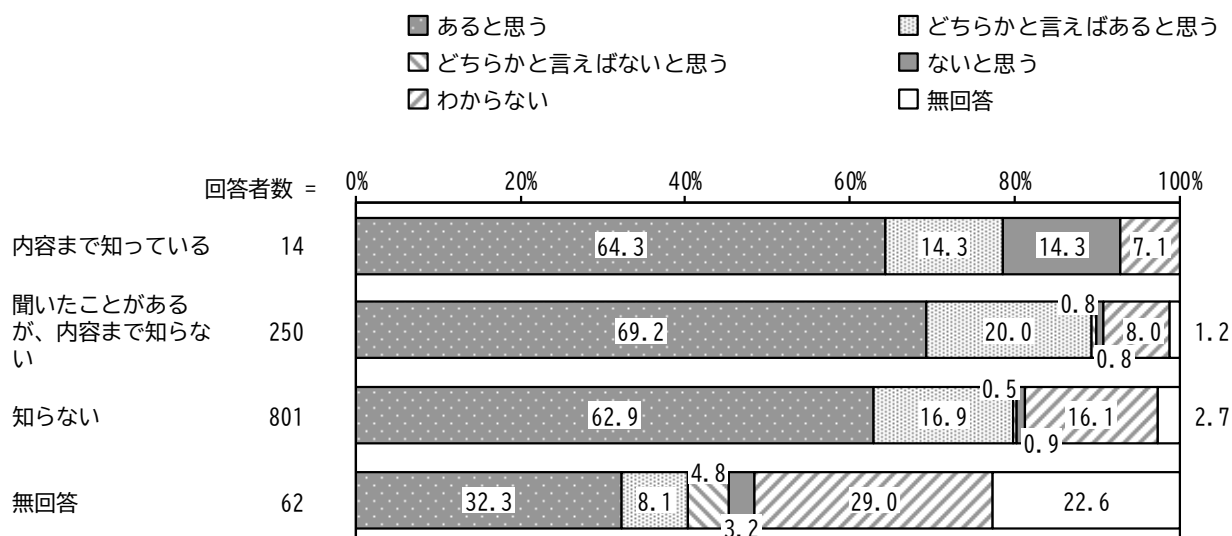
【年代別】

年代別にみると、10歳代から70歳代まで年代が上がるほど「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が高い傾向にあり、「知らない」の割合が低くなっています。



【インターネット上の問題点（子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生していること）について、市の条例（和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例）の認知度別】

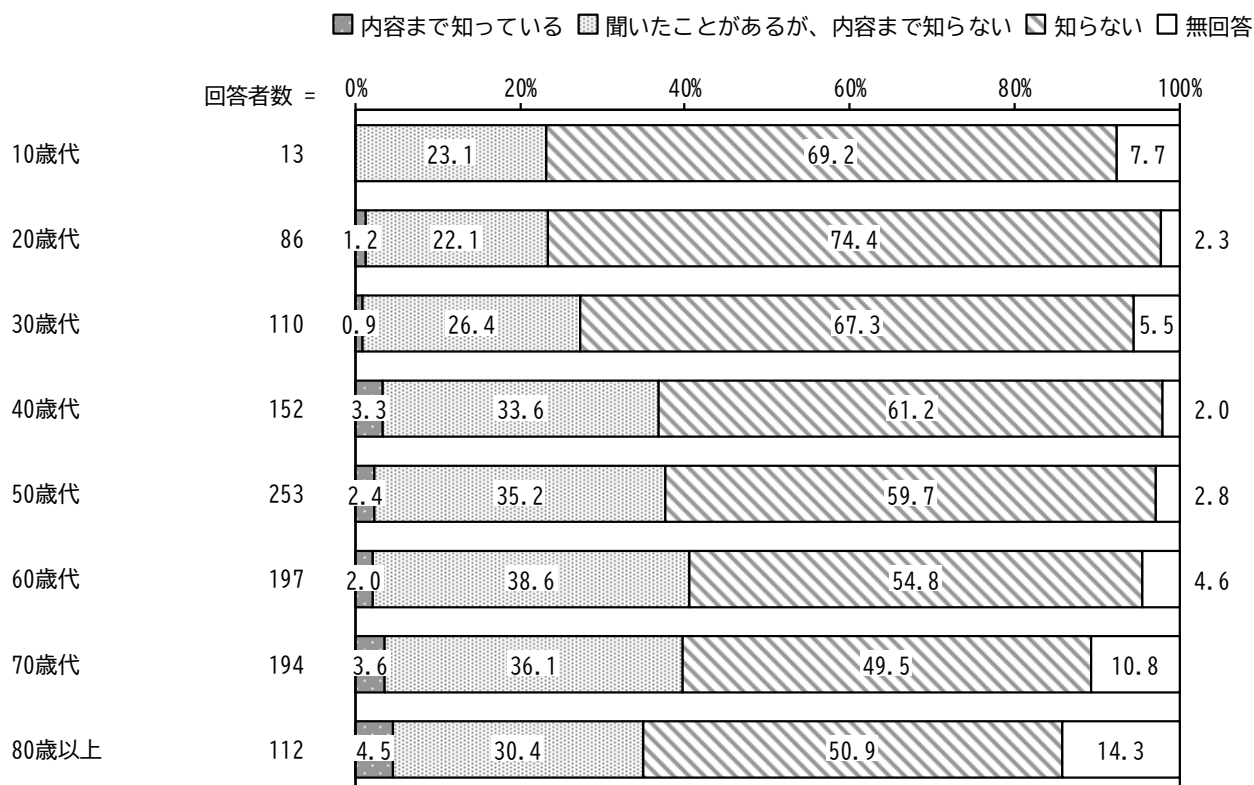
市の条例の認知度別にみると、認知している人ほど“ないと思う”（「どちらかと言えばないと思う」と「ないと思う」の合計）の割合が高くなっています。『聞いたことがあるが、内容まで知らない』で“あると思う”（「あると思う」と「どちらかと言えばあると思う」の合計）の割合が高くなっています。



（３）和泉市男女共同参画推進条例

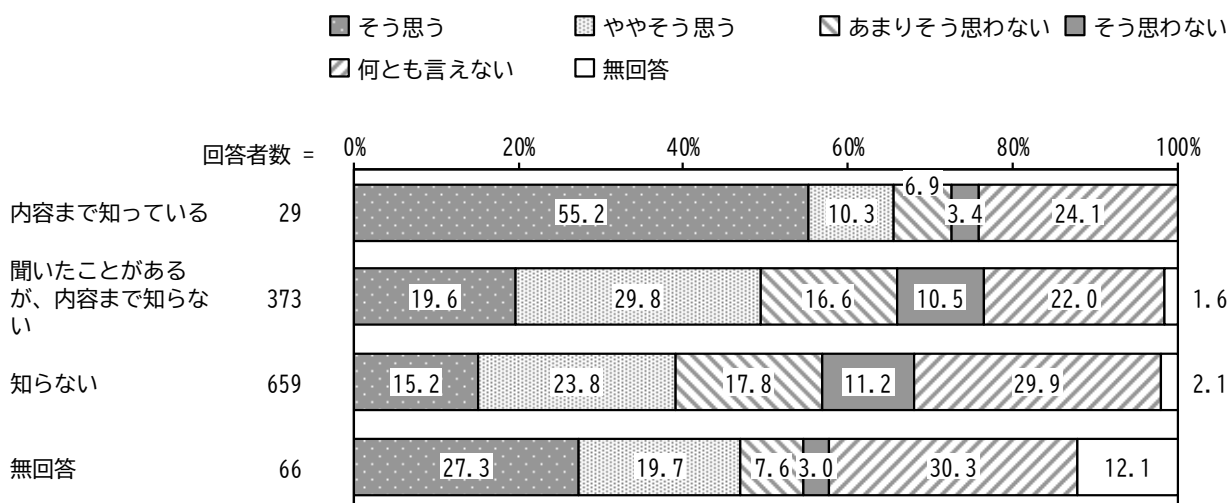
【年代別】

年代別にみると、70 歳代から 20 歳代まで年代が下がるほど「知らない」の割合が高くなっています。また、20 歳代で「聞いたことがあるが、内容まで知らない」の割合が低くなっています。



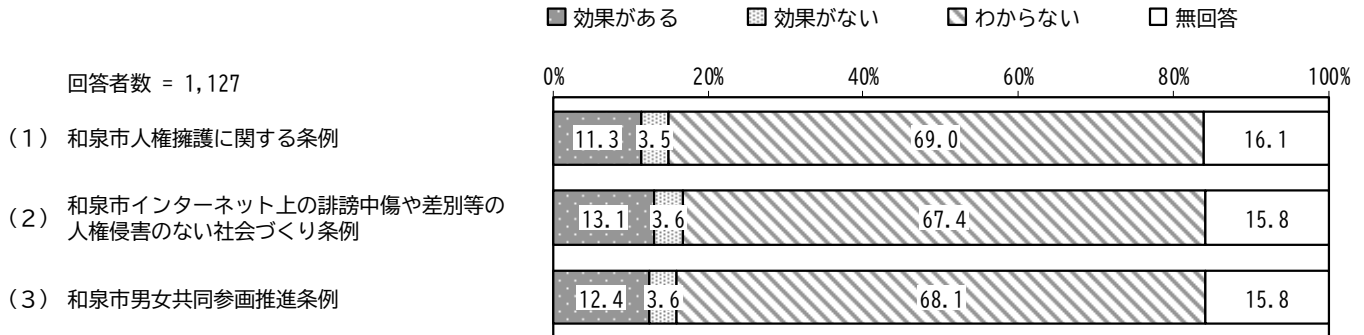
【「差別は法律で禁止する必要がある」という考えについて、市の条例（和泉市男女共同参画推進条例）の認知度別】

市の条例の認知度別にみると、認知している人ほど“そう思う”（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の割合が高くなっています。『知らない』で「何とも言えない」の割合が高くなっています。



B 効果

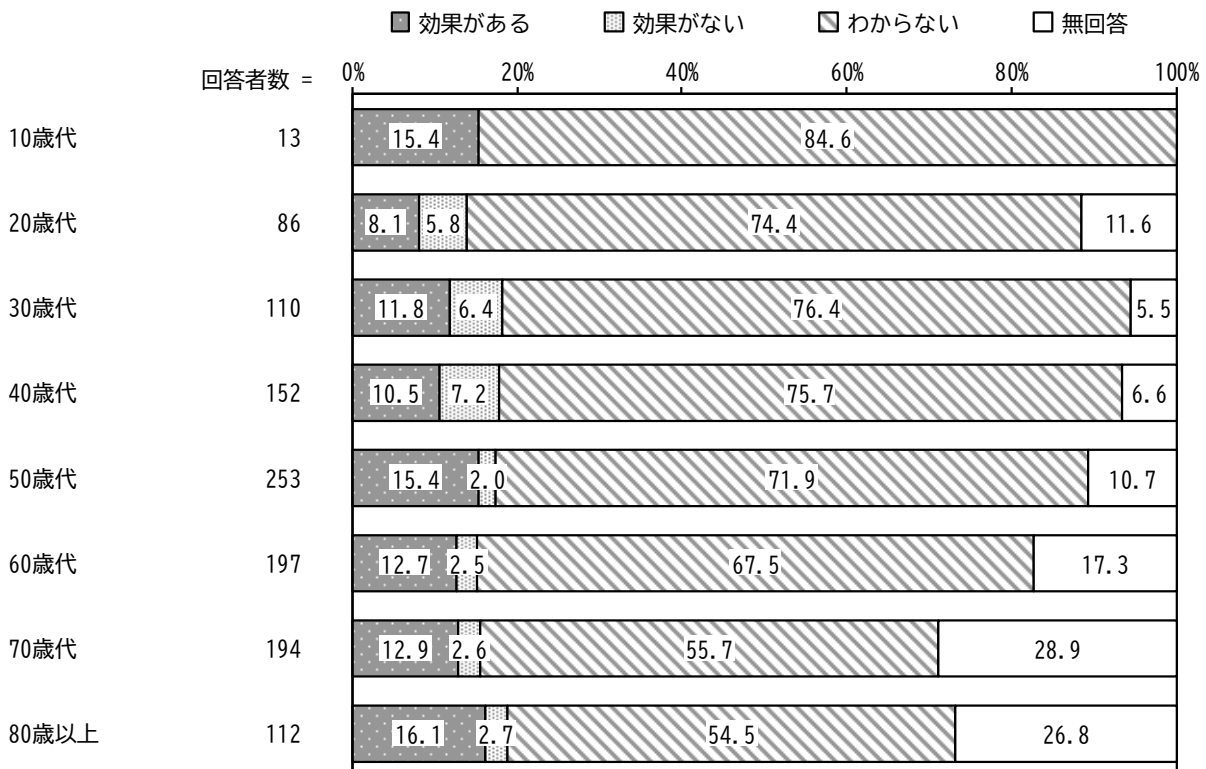
『(2) 和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例』で「効果がある」が、『(2) 和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例』『(3) 和泉市男女共同参画推進条例』で「効果がない」が、『(1) 和泉市人権擁護に関する条例』で「わからない」が高くなっています。



(2) 和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例

【年代別】

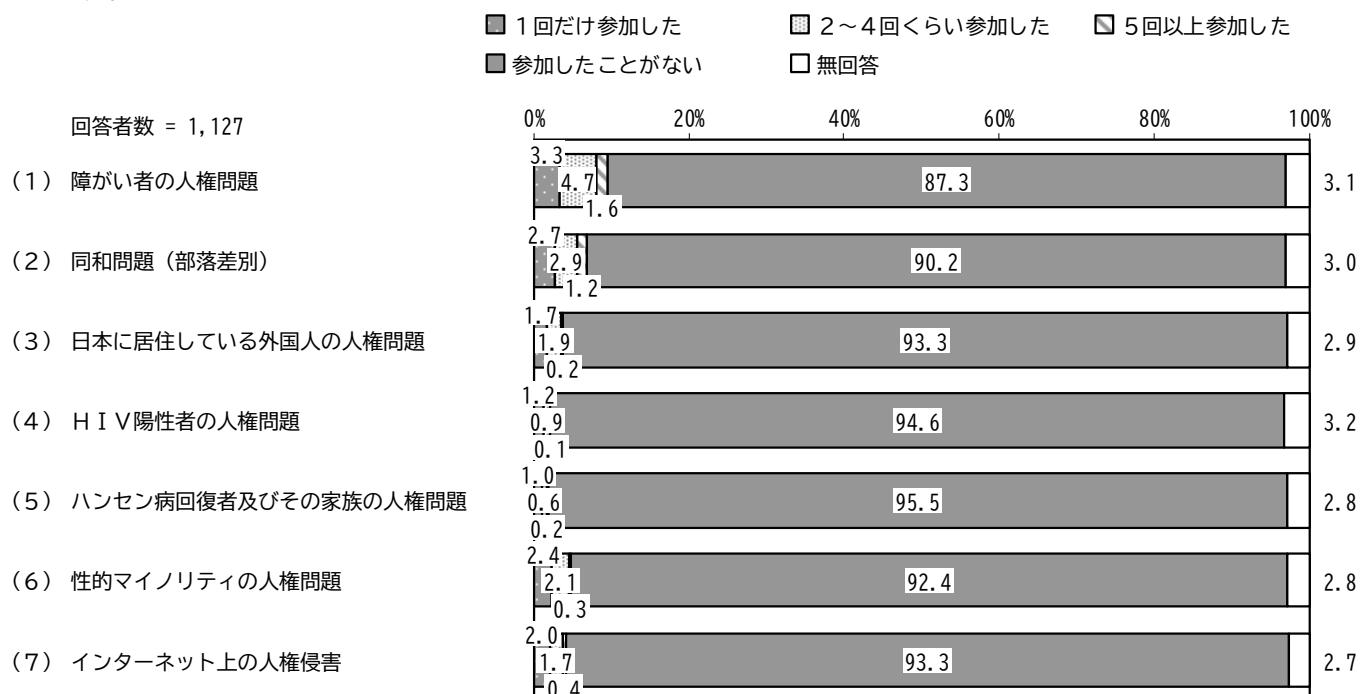
年代別にみると、20歳代で「効果がある」の割合が低くなっています。



問 13 あなたは、最近5年間で、次にあげる人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などに参加したことがありますか。

【(1)～(7)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

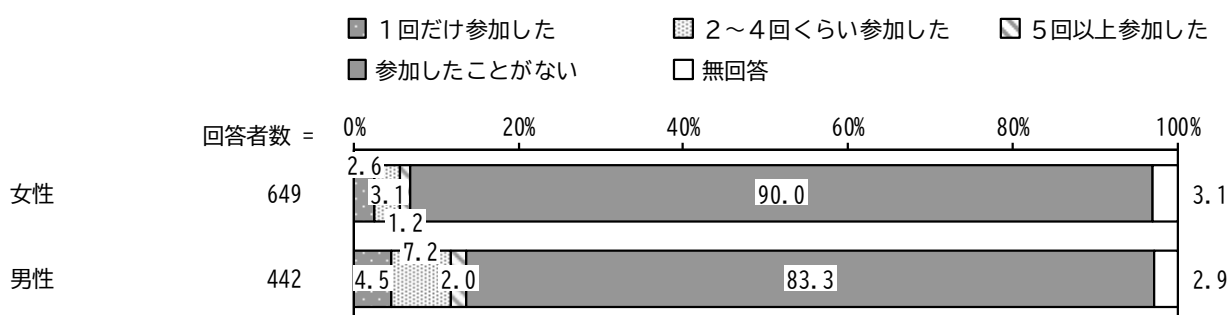
『(1) 障がい者の人権問題』で「1回だけ参加した」「2～4回くらい参加した」「5回以上参加した」が、『(5) ハンセン病回復者及びその家族の人権問題』で「参加したことがない」が高くなっています。



(1) 障がい者の人権問題

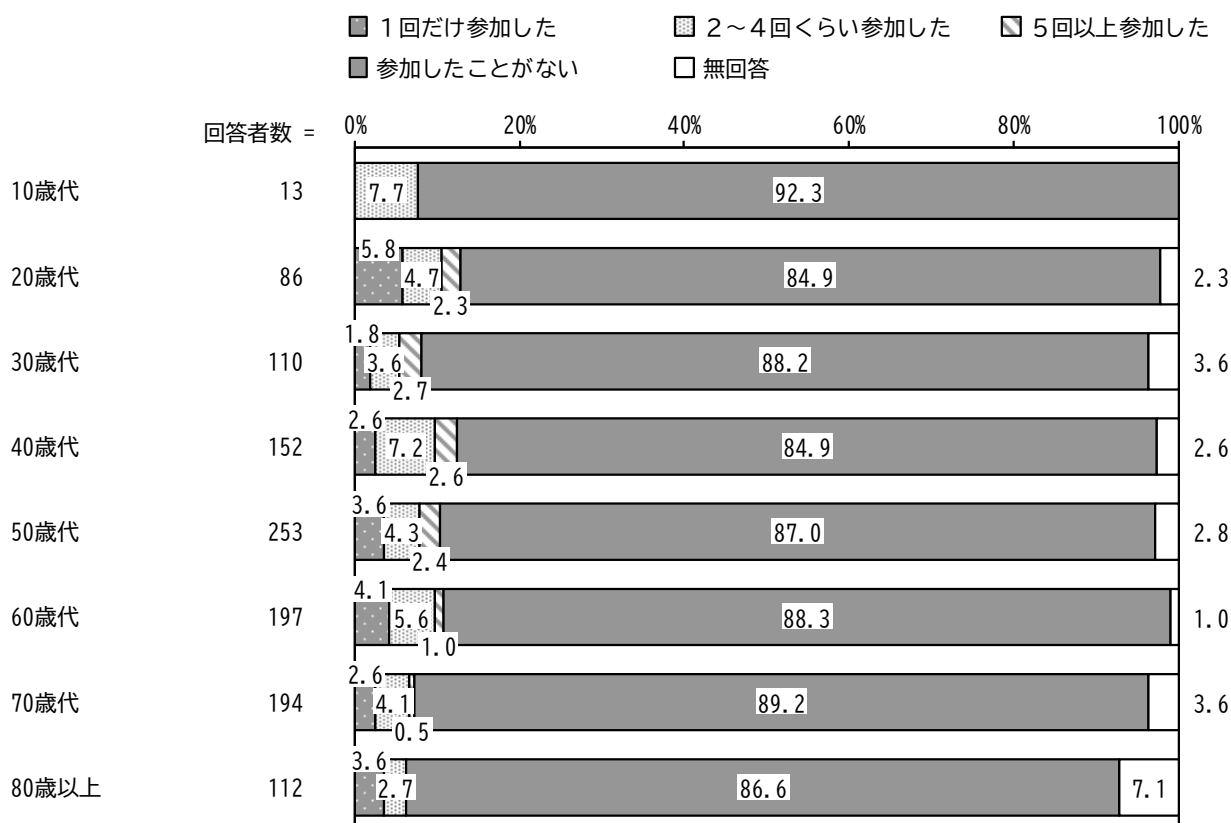
【性別】

性別にみると、女性で「参加したことがない」の割合が高くなっています。



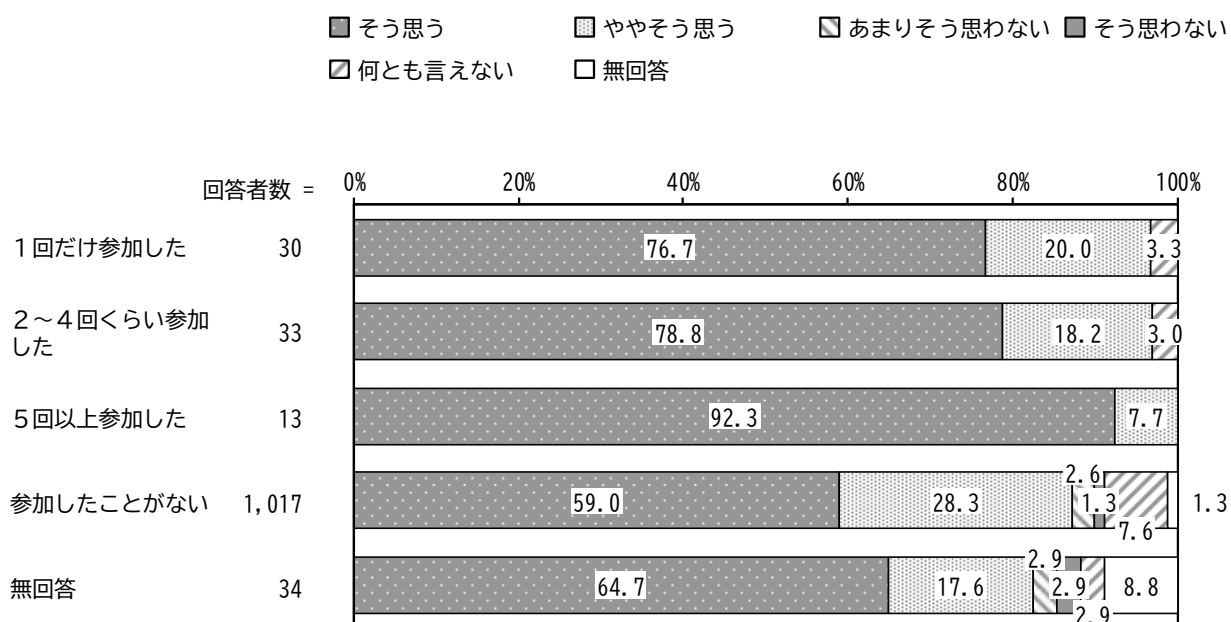
【年代別】

年代別にみると、10歳代で「参加したことがない」の割合が高くなっています。



【「差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」という考えについて、人権問題に関するイベントなど（障がい者の人権問題）への参加頻度別】

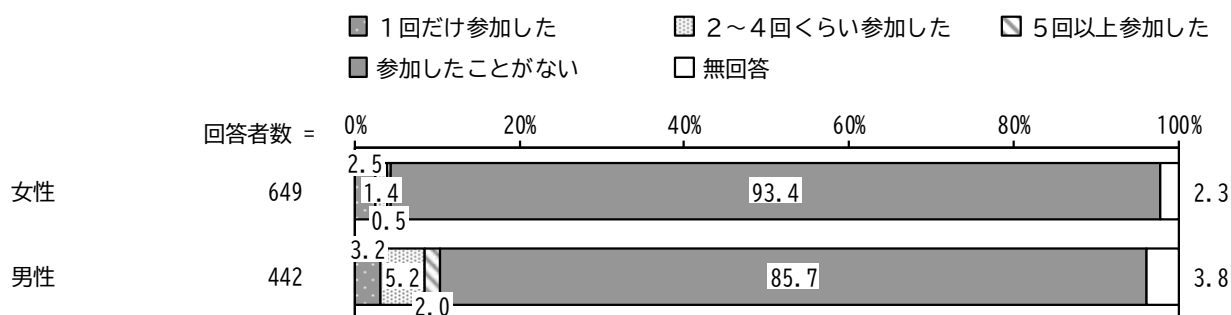
人権問題に関するイベントなどへの参加頻度別にみると、参加回数が多い人ほど“そう思う”（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の割合が高くなっています。『参加したことがない』で「何とも言えない」の割合がやや高くなっています。



（２）同和問題（部落差別）

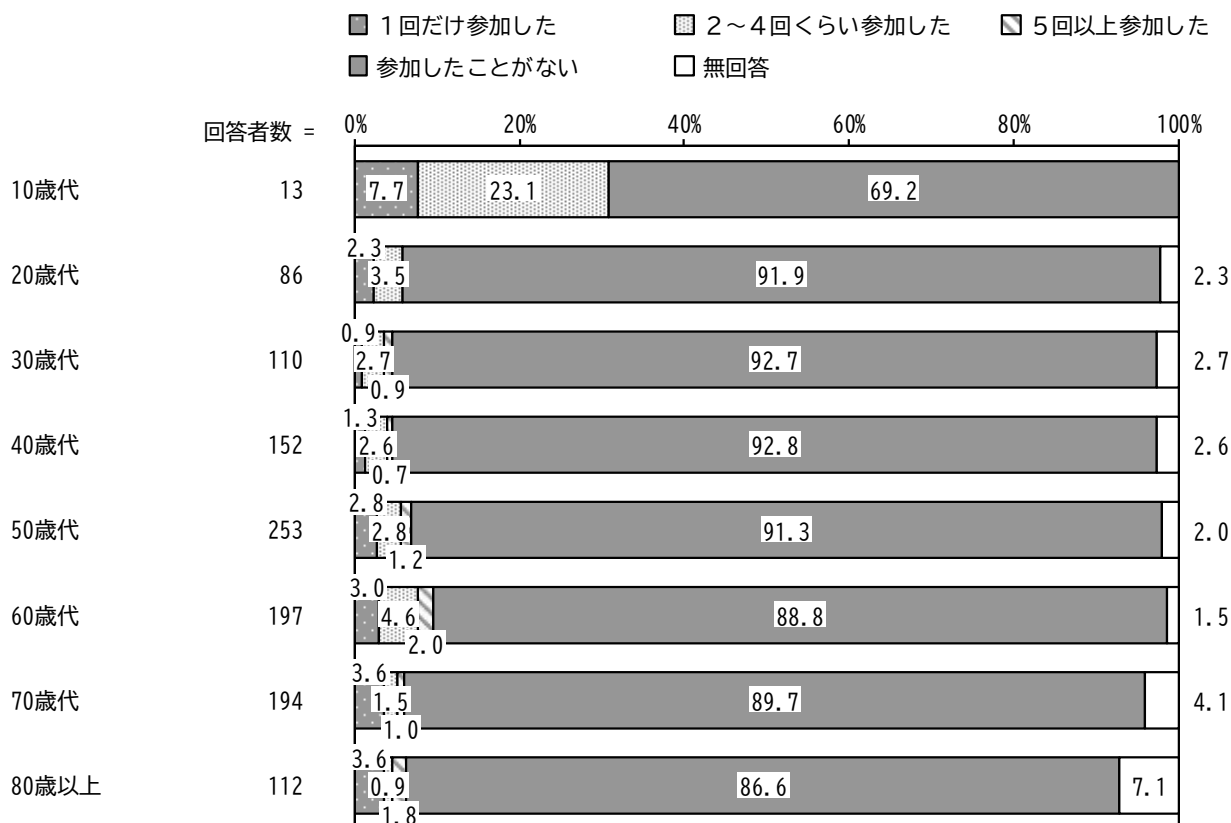
【性別】

性別にみると、女性で「参加したことがない」の割合が高くなっています。



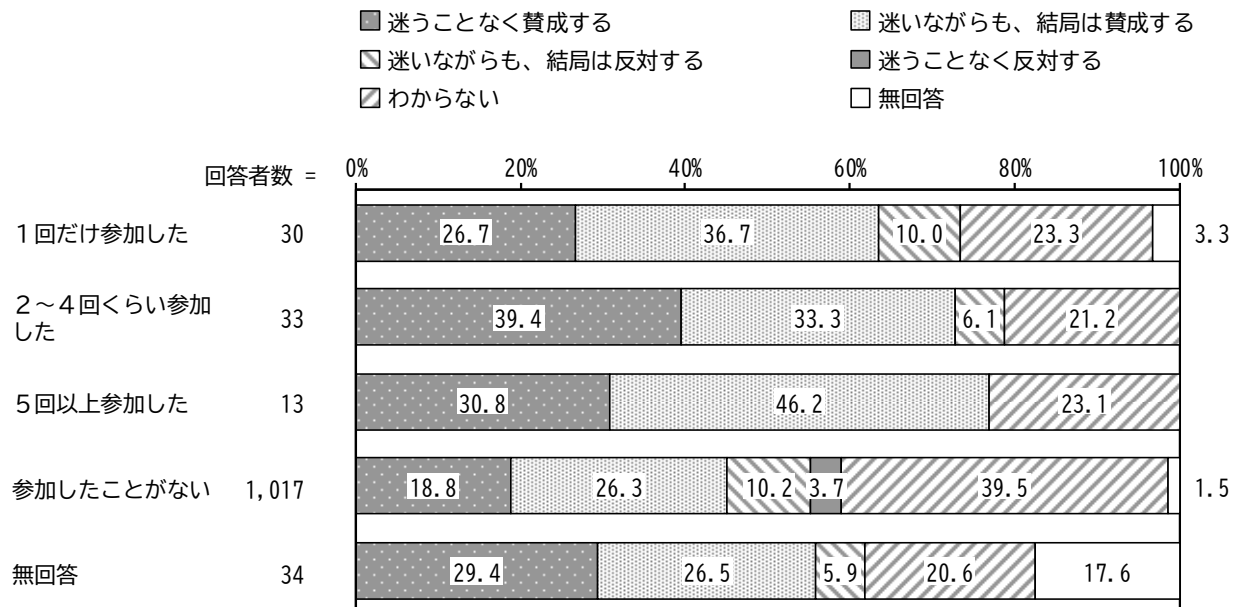
【年代別】

年代別にみると、10歳代で「2～4回くらい参加した」の割合が高く、「参加したことがない」の割合が低くなっています。



【「子どもが結婚しようとしている相手が同和地区の人だった場合に、親として子どもに対してとる態度」について、人権問題に関するイベントなど（同和問題（部落差別））への参加頻度別】

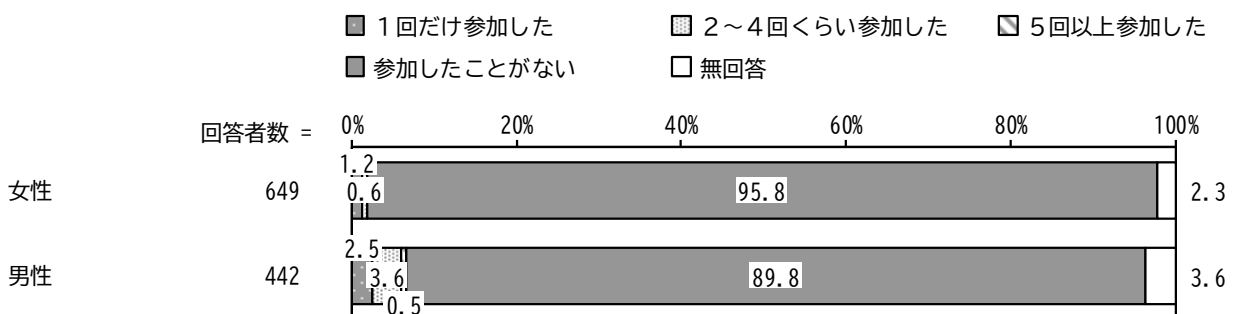
人権問題に関するイベントなどへの参加頻度別にみると、参加回数が多い人ほど“賛成する”（「迷うことなく賛成する」と「迷いながらも、結局は賛成する」の合計）の割合が高くなっています。『参加したことがない』で「わからない」の割合が高くなっています。



（３）日本に居住している外国人の人権問題

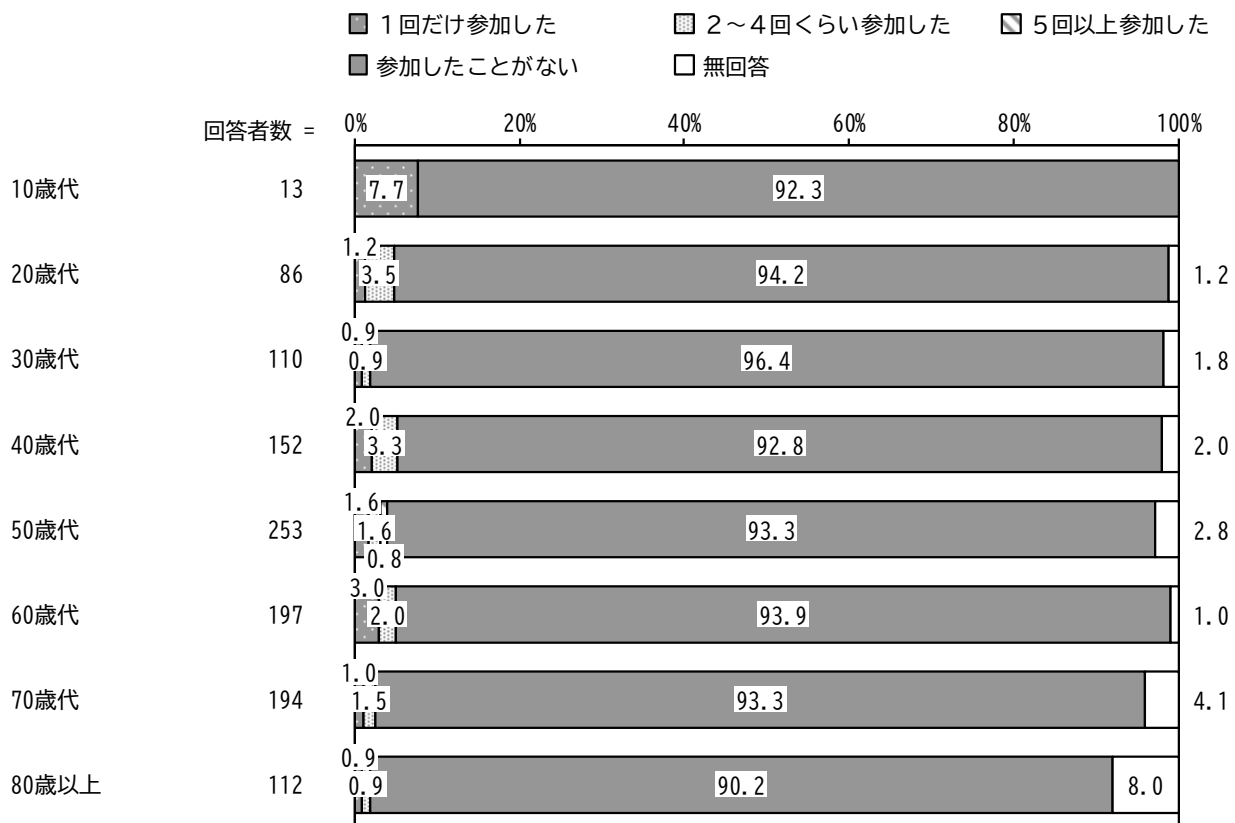
【性別】

性別にみると、女性で「参加したことがない」の割合が高くなっています。



【年代別】

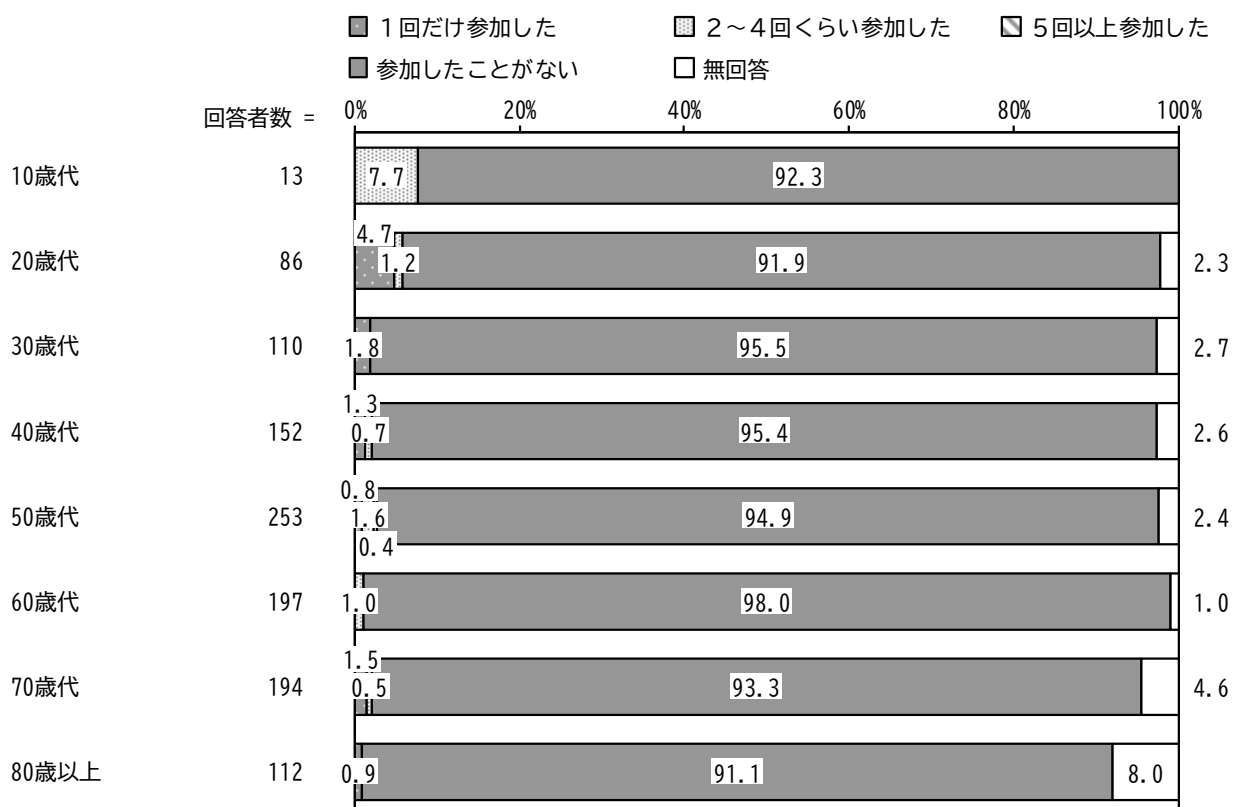
年代別にみると、10歳代で「1回だけ参加した」の割合が高くなっています。



(4) HIV陽性者の人権問題

【年代別】

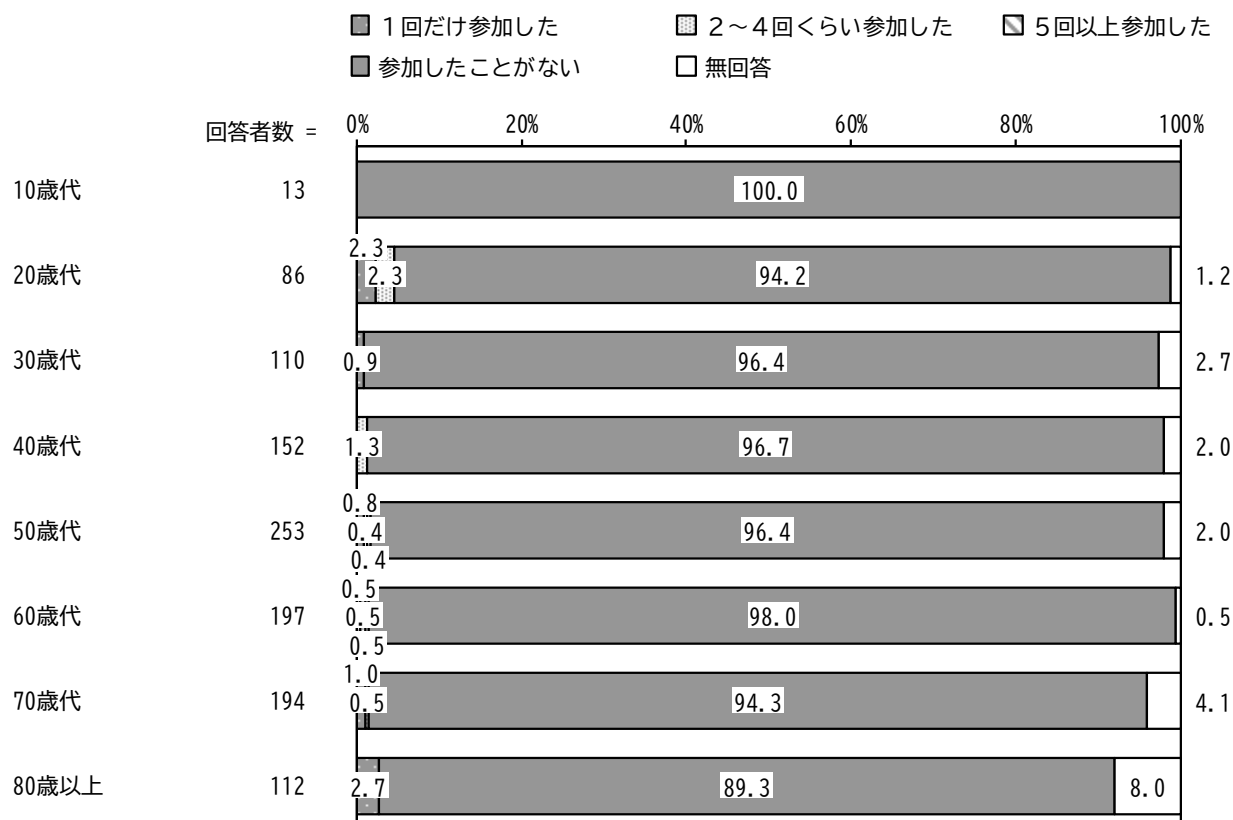
年代別にみると、10歳代で「2~4回くらい参加した」の割合が高くなっています。



(5) ハンセン病回復者及びその家族の人権問題

【年代別】

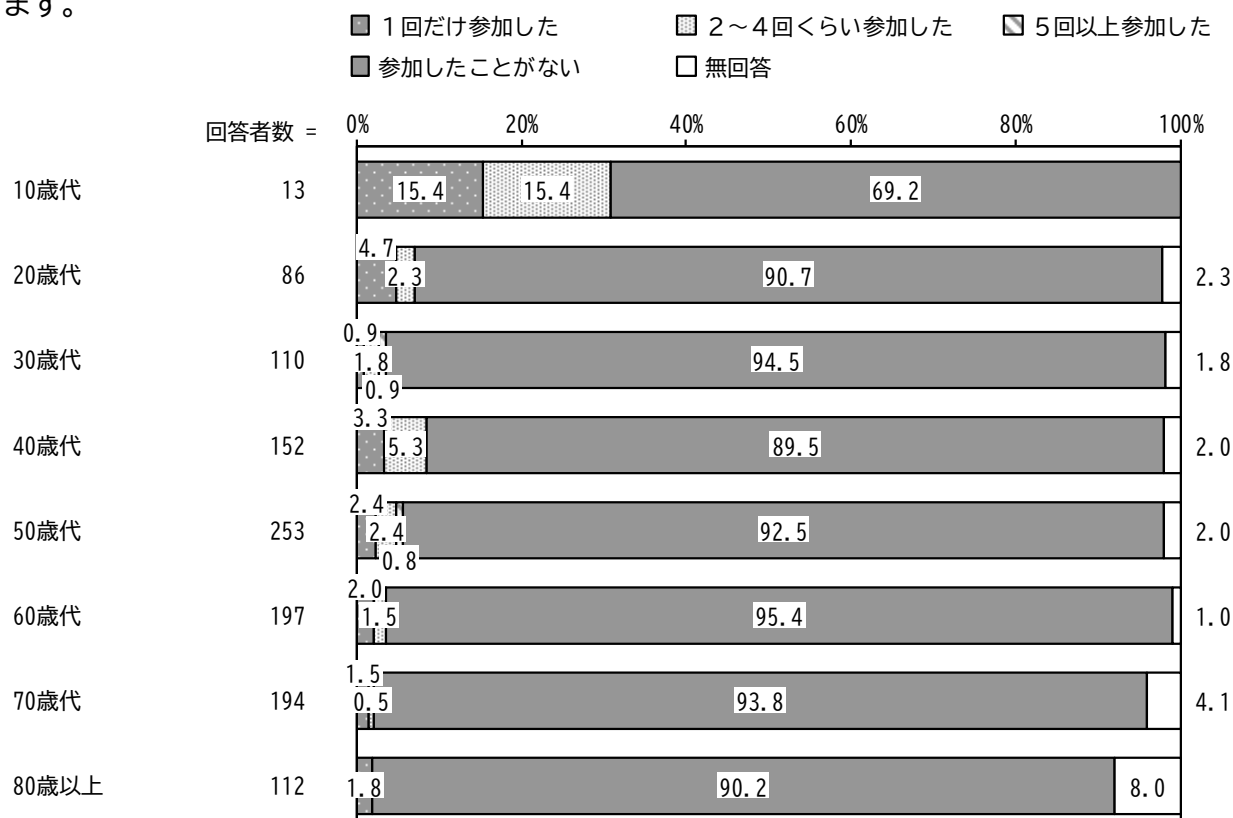
年代別にみると、80歳以上で「参加したことがない」の割合が低くなっています。



(6) 性的マイノリティの人権問題

【年代別】

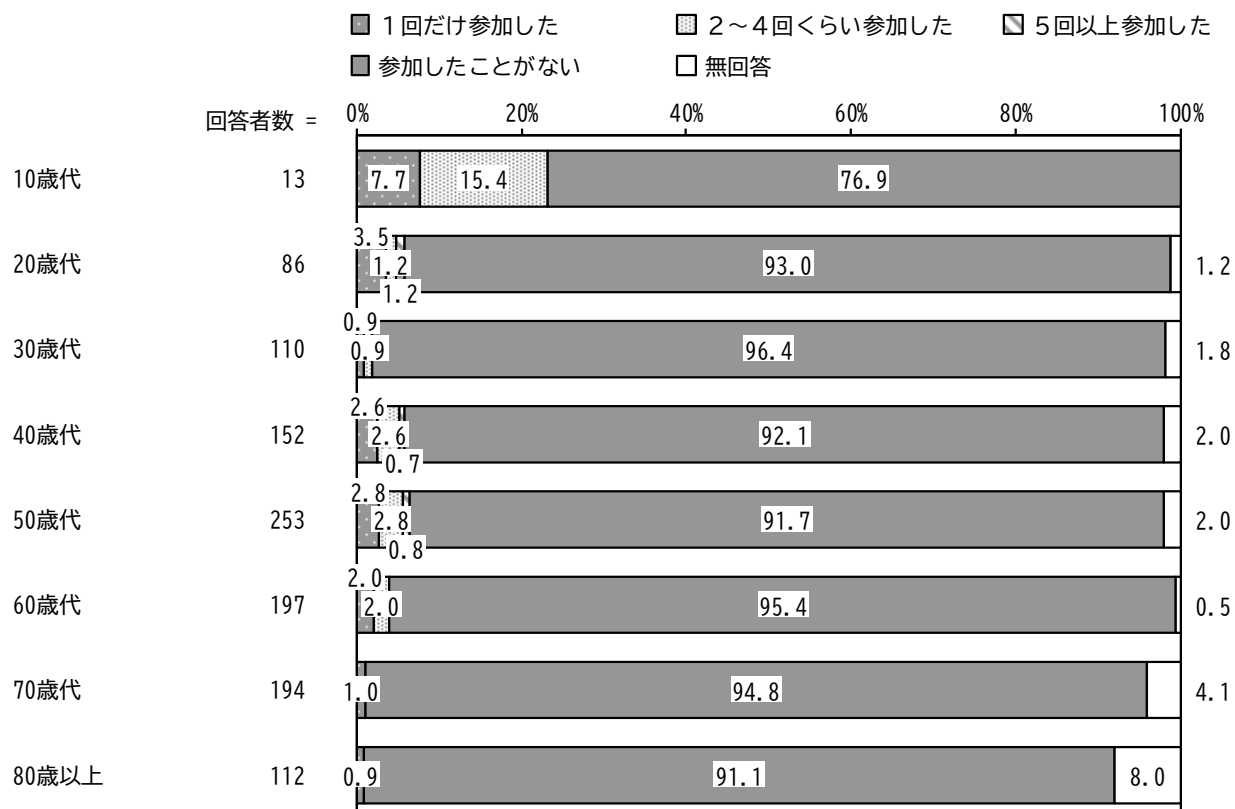
年代別にみると、10歳代で「1回だけ参加した」「2～4回くらい参加した」の割合が高くなっています。



(7) インターネット上の人権侵害

【年代別】

年代別にみると、10歳代で「2～4回くらい参加した」の割合が高く、「参加したことがない」の割合が低くなっています。



4 住まいのことや就職、結婚についての意識や考え方について

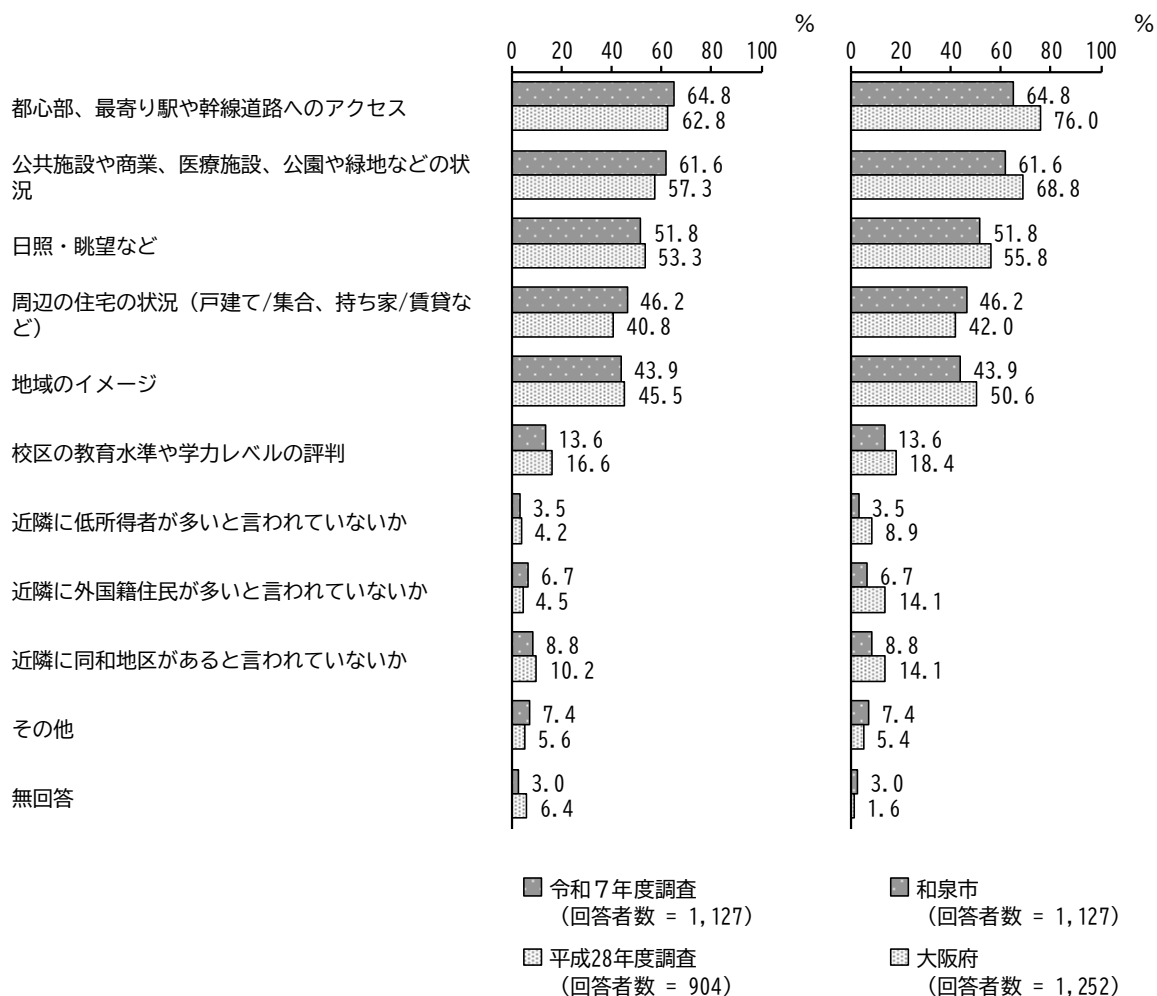
問 14 あなたが家を買ったり借りたりする際に重視する（した）立地条件は何ですか。
【あてはまるものすべてに○】

【経年・府比較】

「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」の割合が 64.8%と最も高く、次いで「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」の割合が 61.6%、「日照・眺望など」の割合が 51.8%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「周辺の住宅の状況（戸建て/集合、持ち家/賃貸など）」の割合が増加しています。

大阪府と比較すると、「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」「地域のイメージ」「近隣に低所得者が多いと言われていないか」「近隣に外国籍住民が多いと言われていないか」の割合が低くなっています。



※大阪府では、「近隣に低所得者が多いと言われていないか」が「低所得者が多い地域と言われていないか」、「近隣に外国籍住民が多いと言われていないか」が「外国籍住民が多い地域と言われていないか」、「近隣に同和地区があるとと言われていないか」が「同和地区がある地域と言われていないか」となっていました。

【性別・年代別】

性別にみると、女性で「日照・眺望など」の割合が高くなっています。

年代別にみると、30 歳代から 70 歳代まで年代が上がるほど「日照・眺望など」の割合が高くなっています。また、20 歳代で「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」、60 歳代で「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」の割合が高くなっています。

(単位：％)		回答者数	都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス	公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況	日照・眺望など	周辺の住宅の状況（戸建て／集合、持ち家／賃貸など）	地域のイメージ	校区の教育水準や学力レベルの評判	近隣に低所得者が多いと言われているか	近隣に外国籍住民が多いと言われているか	近隣に同和地区があると言われているか	その他	無回答
全 体		1,127	64.8	61.6	51.8	46.2	43.9	13.6	3.5	6.7	8.8	7.4	3.0
性別	女性	649	65.3	63.3	55.2	45.5	44.7	13.6	4.5	7.7	9.1	7.1	2.6
	男性	442	63.6	59.3	47.5	46.2	43.9	14.0	2.3	5.4	8.6	8.1	3.2
年代別	10歳代	13	76.9	69.2	61.5	30.8	61.5	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0
	20歳代	86	82.6	57.0	40.7	34.9	48.8	12.8	1.2	10.5	7.0	7.0	1.2
	30歳代	110	61.8	45.5	37.3	50.9	40.0	20.0	9.1	11.8	14.5	8.2	1.8
	40歳代	152	61.8	53.9	50.7	42.8	48.7	20.4	3.3	5.9	7.2	13.2	2.6
	50歳代	253	68.0	63.2	51.4	49.0	47.0	13.4	3.2	4.7	7.9	7.1	2.8
	60歳代	197	68.5	71.6	59.9	48.2	43.1	12.2	4.6	7.1	13.7	4.1	0.5
	70歳代	194	57.2	67.5	61.3	50.5	38.1	8.8	2.6	5.7	6.7	5.2	5.2
	80歳以上	112	55.4	58.9	46.4	38.4	40.2	10.7	1.8	7.1	5.4	9.8	7.1

【地区別】

地区別にみると、北池田で「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」、南池田で「周辺の住宅の状況（戸建て／集合、持ち家／賃貸など）」、南池田、南松尾はつが野で「地域のイメージ」、南松尾はつが野で「校区の教育水準や学力レベルの評判」の割合が高くなっています。

単位：％

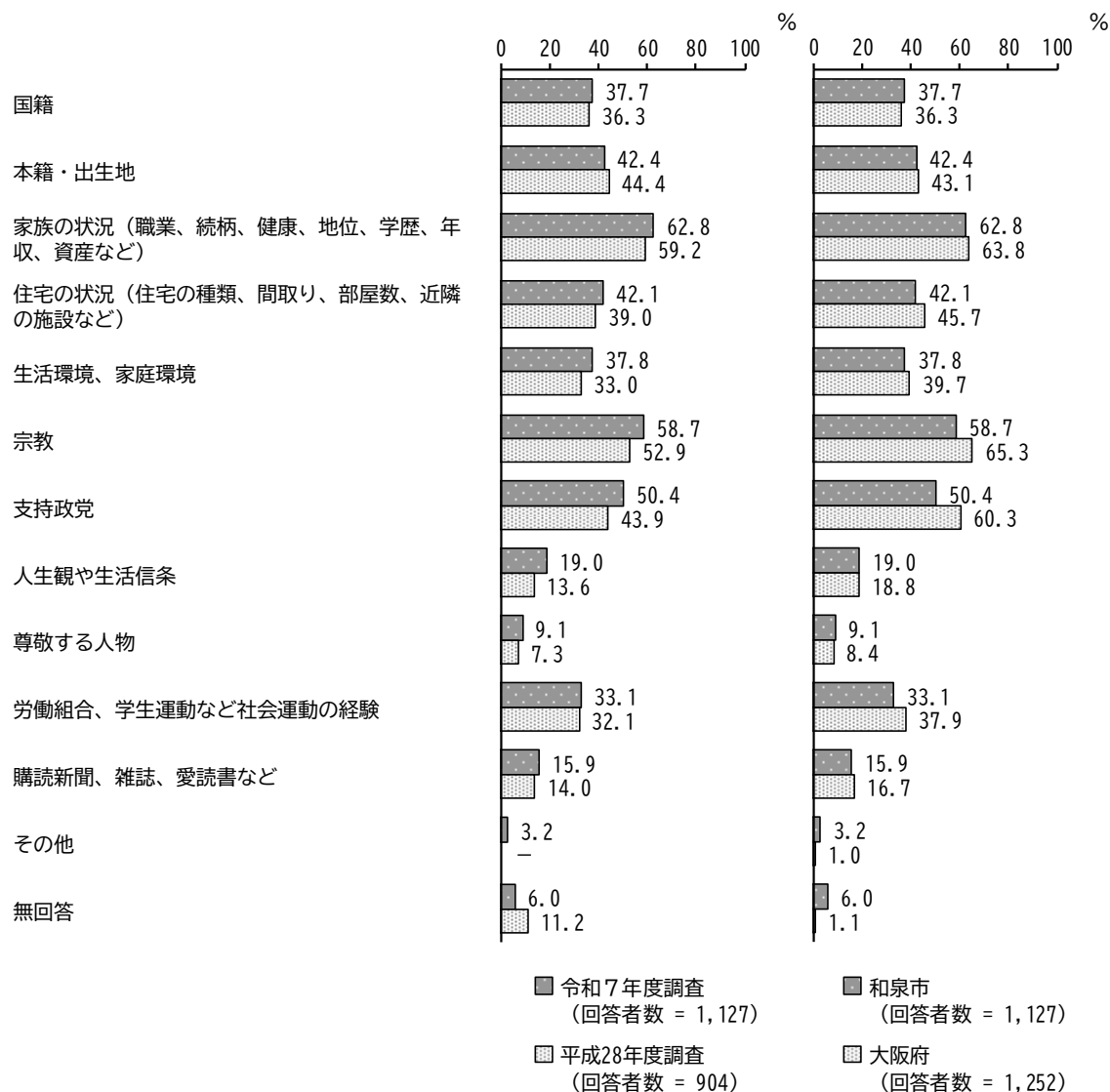
区分	回答者数（件）	都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス	公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況	日照・眺望など	周辺の住宅の状況（戸建て／集合、持ち家／賃貸など）	地域のイメージ	校区の教育水準や学力レベルの評判	近隣に低所得者が多いと言われているか	近隣に外国籍住民が多いと言われているか	近隣に同和地区があると言われているか	その他	無回答
全 体	1,127	64.8	61.6	51.8	46.2	43.9	13.6	3.5	6.7	8.8	7.4	3.0
和泉	300	69.7	62.3	51.0	44.7	41.3	11.7	4.0	8.0	7.3	5.7	3.0
郷荘	119	63.0	60.5	59.7	52.1	39.5	11.8	3.4	9.2	11.8	7.6	0.0
石尾	103	68.0	68.0	59.2	56.3	53.4	11.7	3.9	3.9	8.7	9.7	0.0
北池田	159	74.2	71.7	54.1	44.0	50.3	23.9	6.3	11.3	15.1	7.5	3.1
南池田	78	64.1	60.3	50.0	62.8	57.7	20.5	2.6	6.4	10.3	6.4	2.6
光明台	68	52.9	61.8	54.4	50.0	52.9	13.2	1.5	4.4	5.9	4.4	0.0
南松尾はつが野	36	33.3	58.3	36.1	47.2	58.3	36.1	2.8	5.6	8.3	2.8	8.3
槇尾	24	70.8	58.3	50.0	50.0	20.8	4.2	4.2	4.2	8.3	12.5	8.3
富秋	35	54.3	45.7	42.9	48.6	20.0	8.6	2.9	0.0	2.9	11.4	2.9
信太	116	57.8	54.3	49.1	31.0	38.8	5.2	1.7	4.3	4.3	9.5	6.0
中学校区がわからない	74	63.5	55.4	47.3	32.4	31.1	6.8	2.7	4.1	9.5	8.1	5.4

問 15 採用面接における質問で、あなたが人権上、問題があると思うことはどれですか。
【あてはまるものすべてに○】

【経年・府比較】

「家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）」の割合が 62.8%と最も高く、次いで「宗教」の割合が 58.7%、「支持政党」の割合が 50.4%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「宗教」「支持政党」「人生観や生活信条」の割合が増加しています。大阪府と比較すると、「宗教」「支持政党」の割合が低くなっています。



※平成 28 年度調査では、「その他」がありませんでした。

【性別・年代別】

性別にみると、女性で「住宅の状況（住宅の種類、間取り、部屋数、近隣の施設など）」「支持政党」の割合が高く、男性で「国籍」「本籍・出生地」の割合が高くなっています。

年代別にみると、20歳代から70歳代まで年代が上がるほど「労働組合、学生運動など社会運動の経験」の割合が高く、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「国籍」「家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）」「住宅の状況（住宅の種類、間取り、部屋数、近隣の施設など）」の割合が高い傾向にあります。また、20歳代で「宗教」の割合が高くなっています。

(単位：％)		回答者数	国籍	本籍・出生地	家族の状況 (職業、続柄、健康、 地位、学歴、 年収、資産など)	住宅の状況 (住宅の種類、 間取り、 部屋数、 近隣の施設など)	生活環境、 家庭環境	宗教	支持政党	人生観や生活信条	尊敬する人物	労働組合、 学生運動など社会 運動の経験	購読新聞、雑誌、 愛読書など	その他	無回答
全 体		1,127	37.7	42.4	62.8	42.1	37.8	58.7	50.4	19.0	9.1	33.1	15.9	3.2	6.0
性別	女性	649	34.4	39.0	64.1	46.5	38.5	57.2	52.2	19.0	8.8	31.9	15.7	3.4	6.2
	男性	442	42.1	46.6	60.2	35.3	36.7	61.8	46.8	19.2	9.3	36.0	15.6	2.9	5.4
年代別	10歳代	13	23.1	30.8	38.5	61.5	38.5	61.5	53.8	23.1	7.7	30.8	15.4	0.0	0.0
	20歳代	86	30.2	27.9	55.8	41.9	36.0	72.1	51.2	20.9	8.1	17.4	14.0	7.0	1.2
	30歳代	110	35.5	33.6	53.6	37.3	34.5	50.9	41.8	22.7	5.5	28.2	12.7	8.2	5.5
	40歳代	152	47.4	45.4	70.4	50.7	44.1	67.1	55.3	26.3	16.4	32.2	20.4	2.0	5.9
	50歳代	253	44.3	48.6	70.0	45.1	40.7	60.5	54.2	18.6	7.5	34.4	15.4	2.8	4.0
	60歳代	197	43.7	47.2	70.1	45.2	43.1	64.0	51.8	15.7	9.6	37.6	15.7	1.0	5.1
	70歳代	194	28.4	40.2	59.3	36.6	31.4	51.5	53.1	14.4	7.7	41.2	17.0	2.6	7.7
	80歳以上	112	24.1	37.5	45.5	29.5	27.7	41.1	33.0	17.0	5.4	26.8	12.5	3.6	14.3

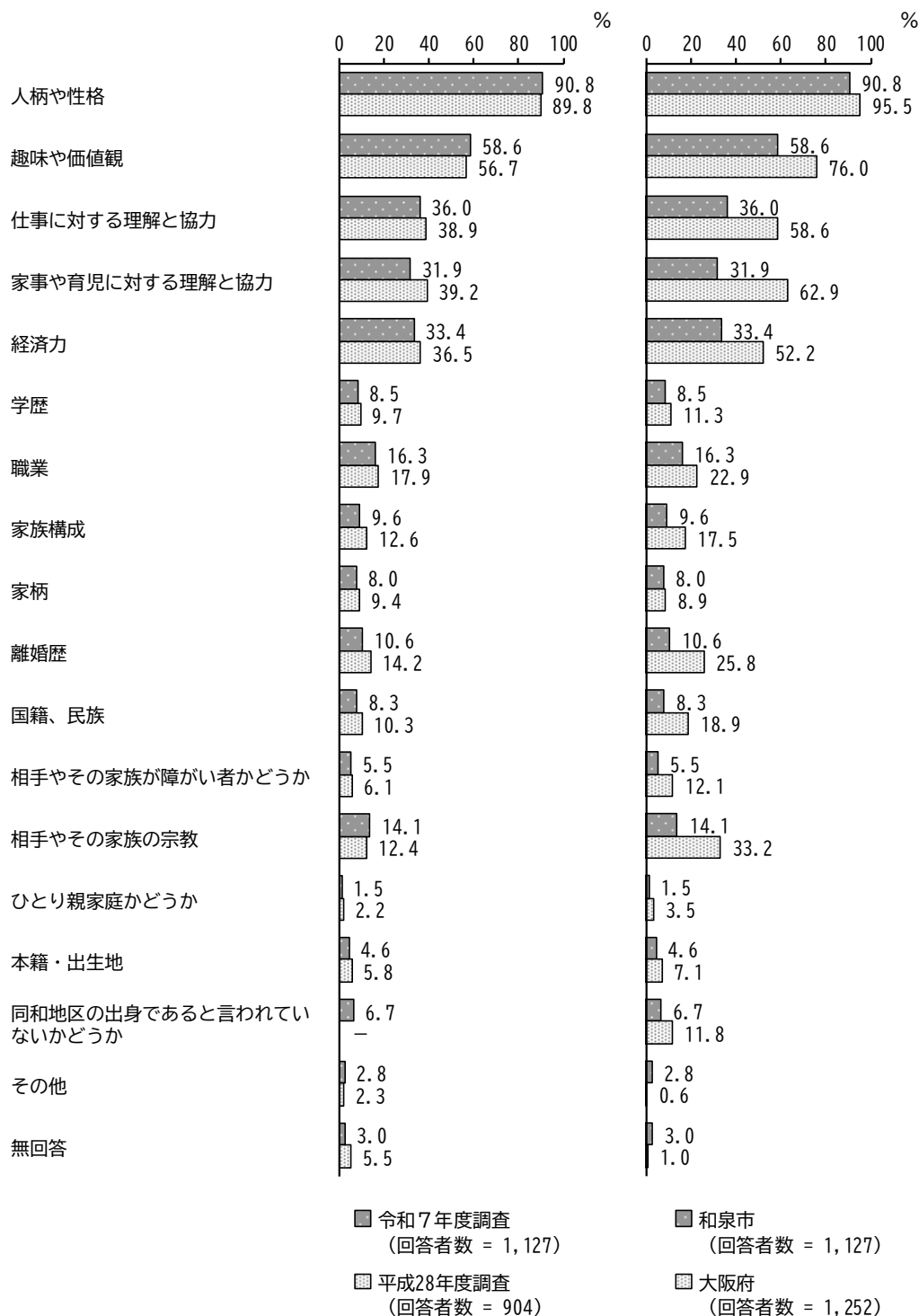
問 16 あなたが結婚相手・パートナーについて重視する（した）ことはどんなことですか。
【あてはまるものすべてに○】

【経年・府比較】

「人柄や性格」の割合が 90.8%と最も高く、次いで「趣味や価値観」の割合が 58.6%、「仕事に対する理解と協力」の割合が 36.0%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「家事や育児に対する理解と協力」の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「趣味や価値観」「仕事に対する理解と協力」「家事や育児に対する理解と協力」「経済力」「職業」「家族構成」「離婚歴」「国籍、民族」「相手やその家族が障がい者かどうか」「相手やその家族の宗教」の割合が低くなっています。



※平成 28 年度調査では、「同和地区の出身であると言われていないかどうか」がありませんでした。

【性別・年代別】

性別にみると、女性で「仕事に対する理解と協力」「家事や育児に対する理解と協力」「経済力」「職業」の割合が高くなっています。

年代別にみると、年代が下がるほど「仕事に対する理解と協力」「家事や育児に対する理解と協力」の割合が高い傾向にあり、50歳代から10歳代まで年代が下がるほど「職業」の割合が高い傾向にあります。また、30歳代で「趣味や価値観」、20歳代で「経済力」、20歳代、30歳代で「相手やその家族の宗教」の割合が高くなっています。

(単位：％)		回答者数	人柄や性格	趣味や価値観	仕事に対する理解と協力	家事や育児に対する理解と協力	経済力	学歴	職業	家族構成	家柄
全 体		1,127	90.8	58.6	36.0	31.9	33.4	8.5	16.3	9.6	8.0
性別	女性	649	91.2	57.0	39.4	36.1	46.8	10.2	22.7	11.6	8.2
	男性	442	91.0	60.9	31.4	25.8	13.6	6.6	7.0	6.8	8.1
年代別	10歳代	13	84.6	76.9	53.8	53.8	30.8	7.7	38.5	15.4	7.7
	20歳代	86	91.9	69.8	50.0	50.0	48.8	10.5	29.1	10.5	15.1
	30歳代	110	91.8	74.5	51.8	49.1	37.3	7.3	16.4	10.0	10.0
	40歳代	152	92.8	59.9	38.2	36.8	30.9	3.9	16.4	9.9	5.9
	50歳代	253	93.3	67.6	35.6	33.2	36.4	5.1	12.6	8.7	5.9
	60歳代	197	94.9	60.9	32.5	25.4	29.9	9.1	14.2	8.6	7.1
	70歳代	194	87.6	43.3	29.9	20.6	27.3	13.4	15.5	9.8	7.2
	80歳以上	112	79.5	32.1	24.1	20.5	31.3	12.5	17.0	11.6	10.7

(単位：％)		離婚歴	国籍、民族	相手やその家族が障がい者かどうか	相手やその家族の宗教	ひとり親家庭かどうか	本籍・出生地	同和地区の出身であると言われるかどうか	その他	無回答
全 体		10.6	8.3	5.5	14.1	1.5	4.6	6.7	2.8	3.0
性別	女性	12.2	8.6	5.5	15.3	1.4	4.6	6.8	2.6	2.8
	男性	8.1	7.5	5.2	12.0	1.4	4.8	6.6	2.7	2.9
年代別	10歳代	38.5	7.7	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0
	20歳代	19.8	14.0	15.1	25.6	5.8	3.5	7.0	3.5	1.2
	30歳代	18.2	14.5	10.9	25.5	2.7	4.5	10.0	2.7	1.8
	40歳代	6.6	4.6	2.6	10.5	0.7	2.0	5.3	2.0	2.6
	50歳代	8.3	6.7	2.4	11.1	0.4	4.3	7.1	2.8	2.0
	60歳代	9.1	10.2	6.1	13.7	1.5	4.6	9.1	1.0	0.0
	70歳代	8.8	4.1	3.6	11.9	1.0	5.7	3.1	3.1	6.2
	80歳以上	9.8	9.8	6.3	9.8	0.9	8.9	6.3	5.4	8.0

【地区別】

地区別にみると、南池田で「趣味や価値観」「学歴」「家族構成」、南松尾はつが野で「仕事に対する理解と協力」、郷荘、石尾、南松尾はつが野で「家事や育児に対する理解と協力」、榎尾で「経済力」「職業」「相手やその家族の宗教」、中学校区がわからないで「本籍・出生地」の割合が高くなっています。

単位：％

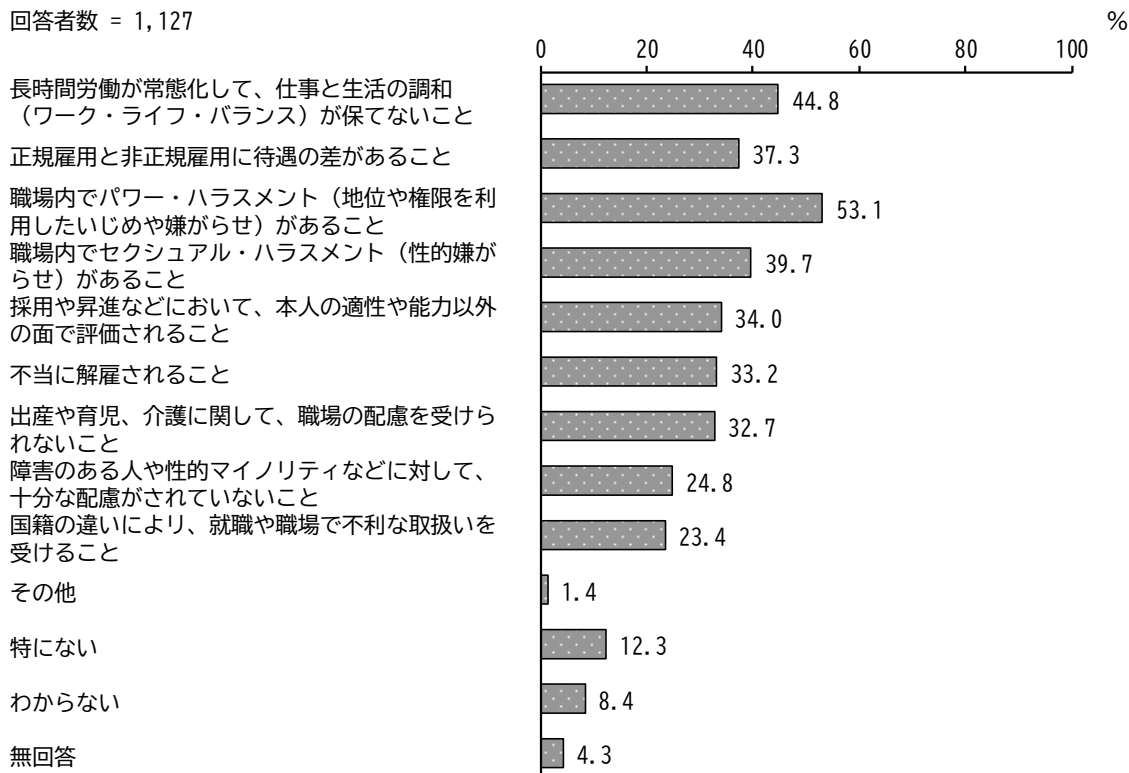
区分	回答者数 (件)	人柄や性格	趣味や価値観	仕事に対する理解と協力	家事や育児に対する理解と協力	経済力	学歴	職業	家族構成	家柄
全 体	1,127	90.8	58.6	36.0	31.9	33.4	8.5	16.3	9.6	8.0
和泉	300	89.3	58.0	38.0	27.7	32.3	10.0	16.0	8.0	7.3
郷荘	119	93.3	59.7	38.7	42.9	34.5	4.2	12.6	9.2	8.4
石尾	103	93.2	63.1	33.0	41.7	35.0	7.8	17.5	8.7	9.7
北池田	159	94.3	61.6	40.3	33.3	35.8	12.6	19.5	12.6	10.1
南池田	78	87.2	64.1	37.2	30.8	41.0	16.7	16.7	15.4	10.3
光明台	68	95.6	60.3	36.8	27.9	29.4	7.4	19.1	7.4	5.9
南松尾はつが野	36	88.9	61.1	50.0	41.7	36.1	2.8	16.7	5.6	8.3
榎尾	24	100.0	62.5	25.0	29.2	54.2	0.0	25.0	8.3	12.5
富秋	35	94.3	51.4	28.6	31.4	22.9	0.0	5.7	8.6	0.0
信太	116	87.9	51.7	31.9	27.6	30.2	6.0	10.3	10.3	6.9
中学校区がわからない	74	83.8	51.4	27.0	24.3	25.7	6.8	21.6	9.5	5.4

区分	離婚歴	国籍、民族	相手やその家族が障がい者かどうか	相手やその家族の宗教	ひとり親家庭かどうか	本籍・出生地	同和地区の出身であると言われるかどうか	その他	無回答
全 体	10.6	8.3	5.5	14.1	1.5	4.6	6.7	2.8	3.0
和泉	9.7	9.7	5.3	17.0	2.0	5.3	7.0	3.7	3.0
郷荘	12.6	11.8	4.2	12.6	0.8	5.9	7.6	1.7	0.8
石尾	12.6	4.9	5.8	10.7	1.0	3.9	7.8	3.9	1.0
北池田	12.6	10.1	8.2	13.2	1.3	4.4	10.7	2.5	3.1
南池田	15.4	10.3	7.7	16.7	5.1	5.1	7.7	2.6	2.6
光明台	8.8	4.4	4.4	16.2	1.5	2.9	2.9	1.5	0.0
南松尾はつが野	5.6	2.8	2.8	13.9	2.8	0.0	5.6	2.8	5.6
榎尾	4.2	4.2	4.2	20.8	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0
富秋	2.9	2.9	0.0	5.7	0.0	0.0	2.9	2.9	2.9
信太	12.9	9.5	6.0	11.2	0.0	1.7	4.3	2.6	5.2
中学校区がわからない	5.4	4.1	4.1	13.5	0.0	13.5	2.7	1.4	6.8

問 17 あなたは職場における人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

「職場内でパワー・ハラスメント（地位や権限を利用したいじめや嫌がらせ）があること」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと」の割合が 44.8%、「職場内でセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）があること」の割合が 39.7%となっています。

回答者数 = 1,127



【性別・年代別】

性別にみると、女性で「職場内でセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）があること」「出産や育児、介護に関して、職場の配慮を受けられないこと」「障害のある人や性的マイノリティなどに対して、十分な配慮がされていないこと」「国籍の違いにより、就職や職場で不利な取扱いを受けること」の割合が高くなっています。

年代別にみると、40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「不当に解雇されること」の割合が高く、「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと」

(単位：％)		回答者数	長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと	正規雇用と非正規雇用に待遇の差があること	職場内でパワー・ハラスメント（地位や権限を利用したいじめや嫌がらせ）があること	職場内でセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）があること	採用や昇進などにおいて、本人の適性や能力以外の面で評価されること	不当に解雇されること
全 体		1,127	44.8	37.3	53.1	39.7	34.0	33.2
性別	女性	649	46.5	39.4	53.9	43.8	35.7	35.1
	男性	442	41.9	34.8	51.8	34.4	31.9	30.3
年代別	10歳代	13	69.2	23.1	76.9	69.2	46.2	61.5
	20歳代	86	59.3	33.7	53.5	47.7	27.9	32.6
	30歳代	110	48.2	31.8	52.7	42.7	38.2	29.1
	40歳代	152	51.3	31.6	53.9	31.6	34.2	28.3
	50歳代	253	43.1	32.4	55.7	40.3	36.0	30.8
	60歳代	197	39.6	43.7	57.9	41.6	38.6	33.0
	70歳代	194	40.7	46.9	48.5	40.2	30.9	36.6
	80歳以上	112	37.5	37.5	42.0	32.1	25.9	39.3

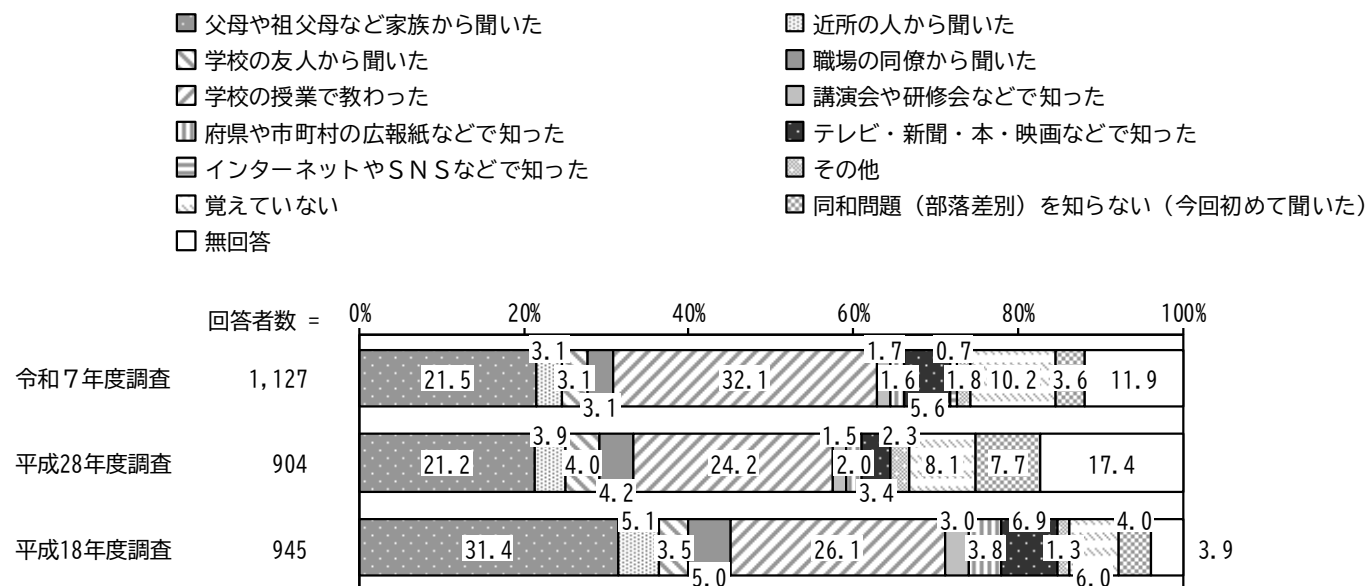
(単位：％)		出産や育児、介護に関して、職場の配慮を受けられないこと	障害のある人や性的マイノリティなどに対して、十分な配慮がされていないこと	国籍の違いにより、就職や職場で不利な取扱いを受けること	その他	特にない	わからない	無回答
全 体		32.7	24.8	23.4	1.4	12.3	8.4	4.3
性別	女性	38.4	29.3	26.8	1.2	10.6	9.4	4.8
	男性	24.2	18.6	19.2	1.8	14.9	7.2	3.4
年代別	10歳代	69.2	61.5	53.8	0.0	15.4	7.7	0.0
	20歳代	37.2	25.6	24.4	2.3	8.1	7.0	2.3
	30歳代	37.3	22.7	22.7	2.7	13.6	5.5	1.8
	40歳代	30.3	24.3	20.4	2.0	13.2	4.6	2.6
	50歳代	32.4	25.7	22.1	0.8	16.2	7.9	2.0
	60歳代	30.5	24.4	25.9	2.0	13.7	6.1	1.0
	70歳代	34.0	23.2	23.2	1.0	9.3	13.9	7.2
	80歳以上	25.0	23.2	23.2	0.0	7.1	14.3	16.1

5 同和問題（部落差別）について

問 18 あなたが同和問題（部落差別）や同和地区があることを初めて知ったきっかけは何ですか。【あてはまるもの1つに○】

「学校の授業で教わった」の割合が32.1%と最も高く、次いで「父母や祖父母など家族から聞いた」の割合が21.5%となっています。

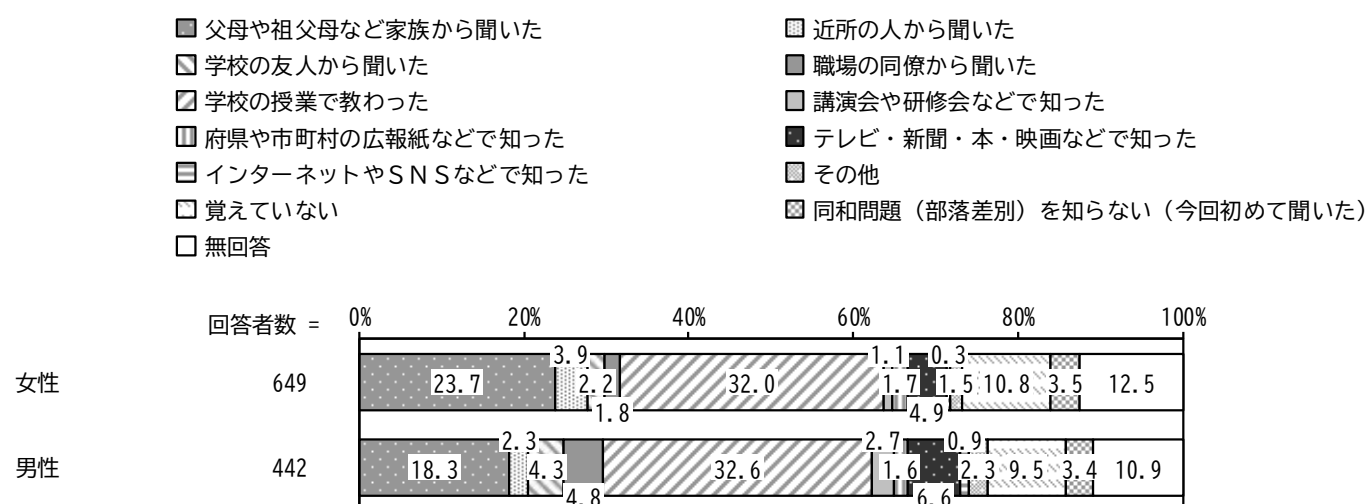
過去調査と比較すると、平成28年度調査から「学校の授業で教わった」の割合が増加しています。



※平成28年度調査、平成18年度調査では、「インターネットやSNSなどで知った」がありませんでした。

【性別】

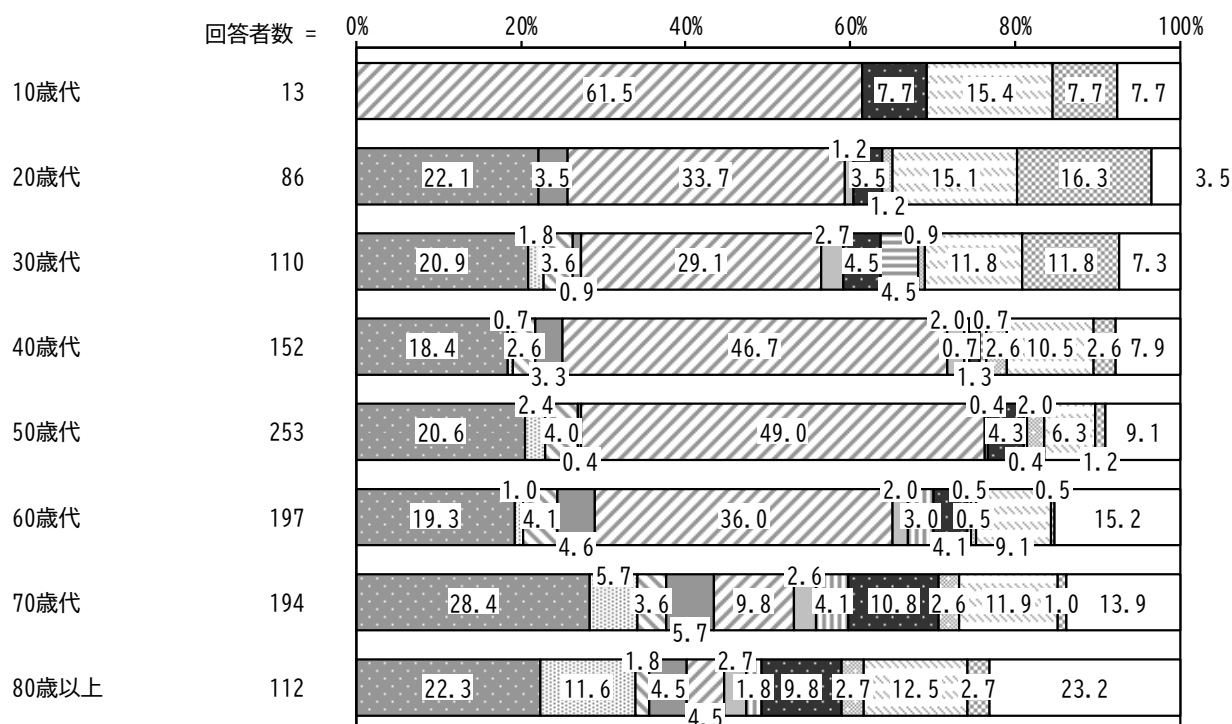
性別にみると、女性で「父母や祖父母など家族から聞いた」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別にみると、40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「近所の人から聞いた」の割合が高い傾向にあります。

- 父母や祖父母など家族から聞いた
- 近所の人から聞いた
- 学校の友人から聞いた
- 職場の同僚から聞いた
- 学校の授業で教わった
- 講演会や研修会などで知った
- 府県や市町村の広報紙などで知った
- テレビ・新聞・本・映画などで知った
- インターネットやSNSなどで知った
- その他
- 覚えていない
- 同和問題（部落差別）を知らない（今回初めて聞いた）
- 無回答

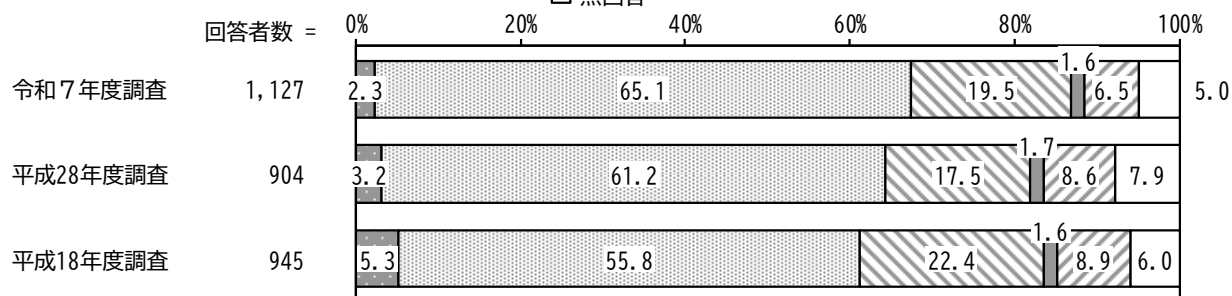


問 19 あなたが初めて同和問題（部落差別）のことを知ったとき、特にどのような印象を持ちましたか。【あてはまるもの1つに○】

「そのような差別があることを初めて知り、驚いた」の割合が65.1%と最も高く、次いで「差別を受けている人はかわいそうだった」の割合が19.5%となっています。

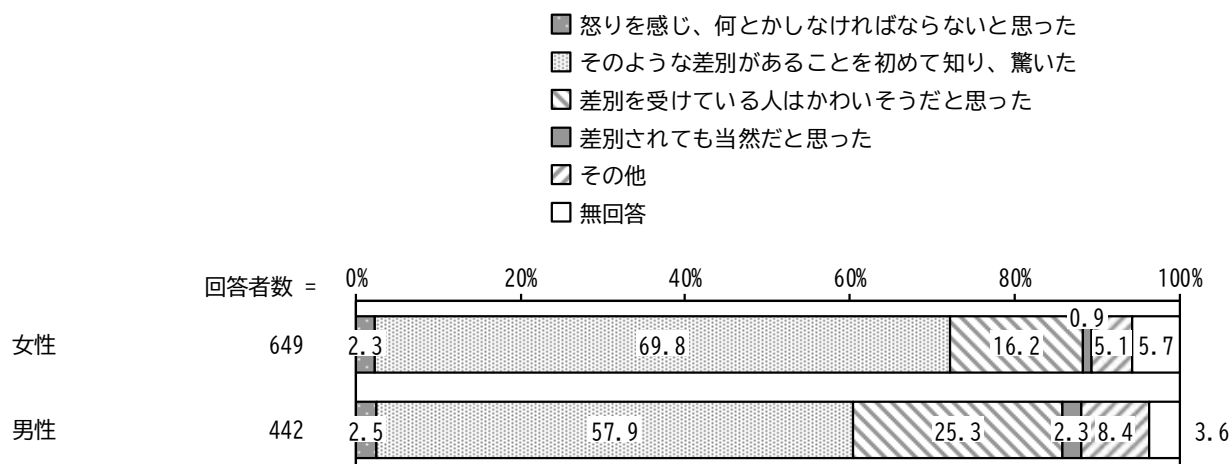
過去調査と比較すると、平成18年度調査から「そのような差別があることを初めて知り、驚いた」の割合が増加しています。

- 怒りを感じ、何とかしなければならなかった
- そのような差別があることを初めて知り、驚いた
- 差別を受けている人はかわいそうだった
- 差別されても当然だと思った
- その他
- 無回答



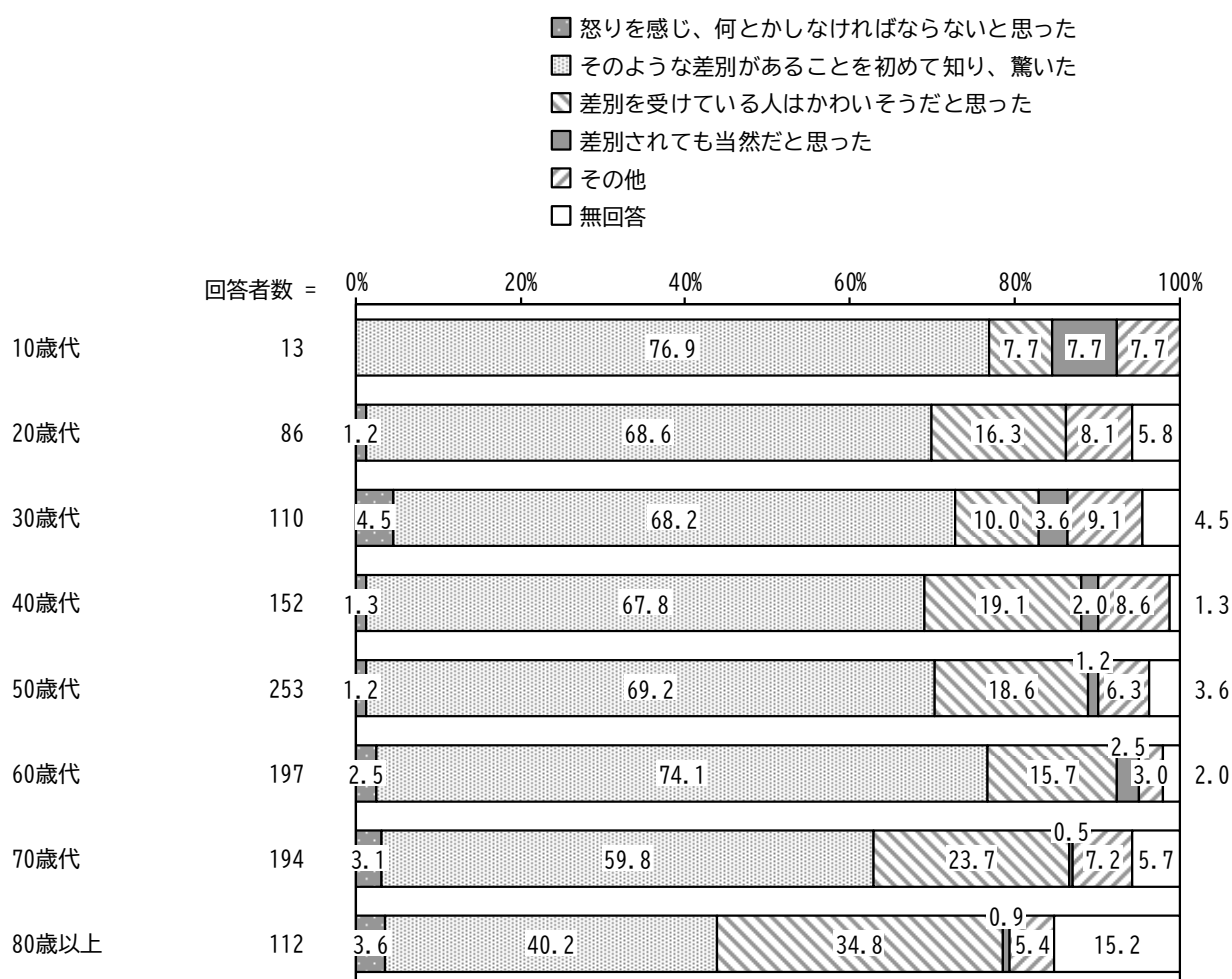
【性別】

性別にみると、女性で「そのような差別があることを初めて知り、驚いた」の割合が高く、男性で「差別を受けている人はかわいそうだった」の割合が高くなっています。



【年代別】

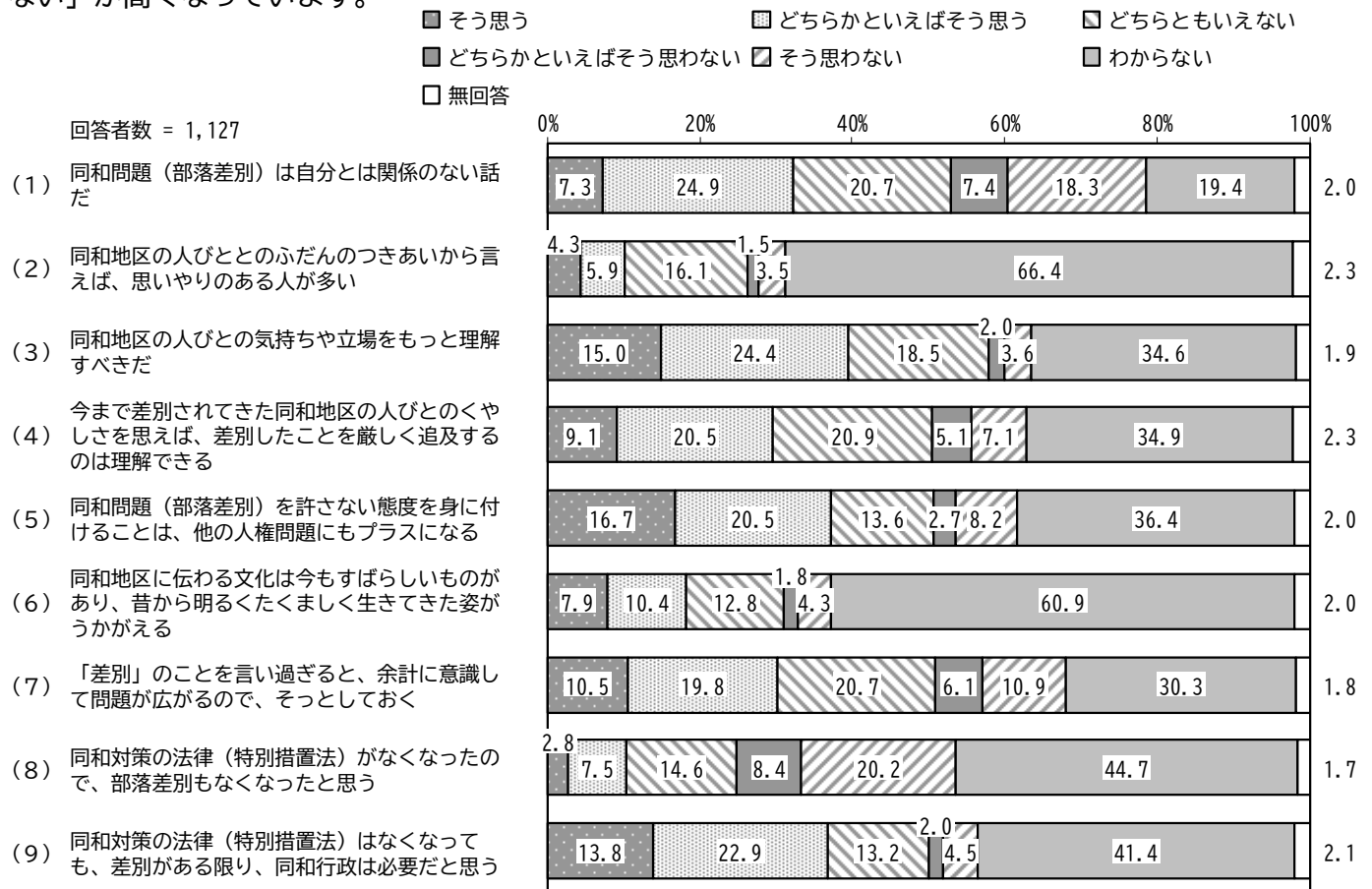
年代別にみると、10歳代で「そのような差別があることを初めて知り、驚いた」、80歳以上で「差別を受けている人はかわいそうだった」の割合が高くなっています。



問 20 あなたは、次のような意見をどのように思いますか。

【(1)～(9)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

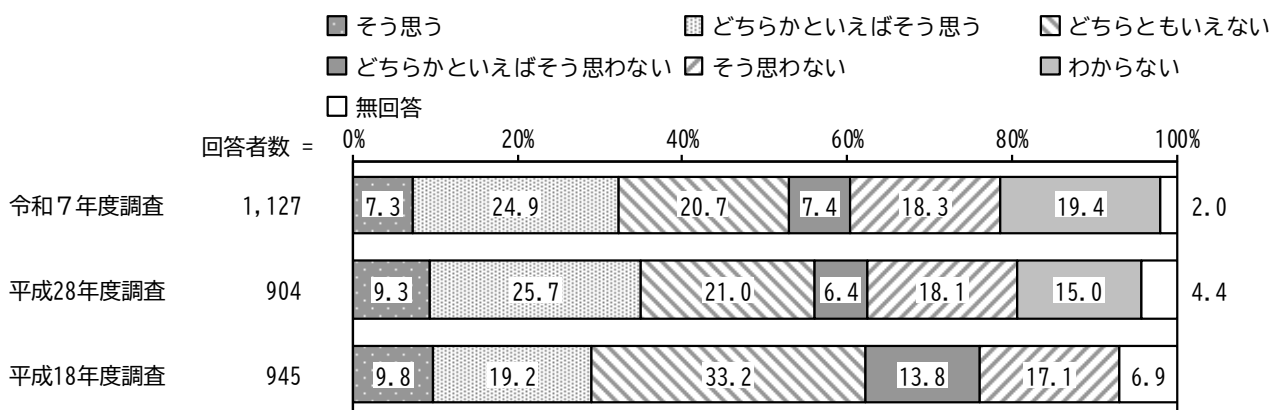
『(5) 同和問題（部落差別）を許さない態度を身に付けることは、他の人権問題にもプラスになる』で「そう思う」が、『(1) 同和問題（部落差別）は自分とは関係のない話だ』で「どちらかといえばそう思う」が、『(4) 今まで差別されてきた同和地区の人びとのくやしさを思えば、差別したことを厳しく追及するのは理解できる』で「どちらともいえない」が、『(8) 同和対策の法律（特別措置法）がなくなったので、部落差別もなくなったと思う』で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が、『(2) 同和地区の人びととのふだんのつきあいから言えば、思いやりのある人が多い』で「わからない」が高くなっています。



(1) 同和問題（部落差別）は自分とは関係のない話だ

【経年比較】

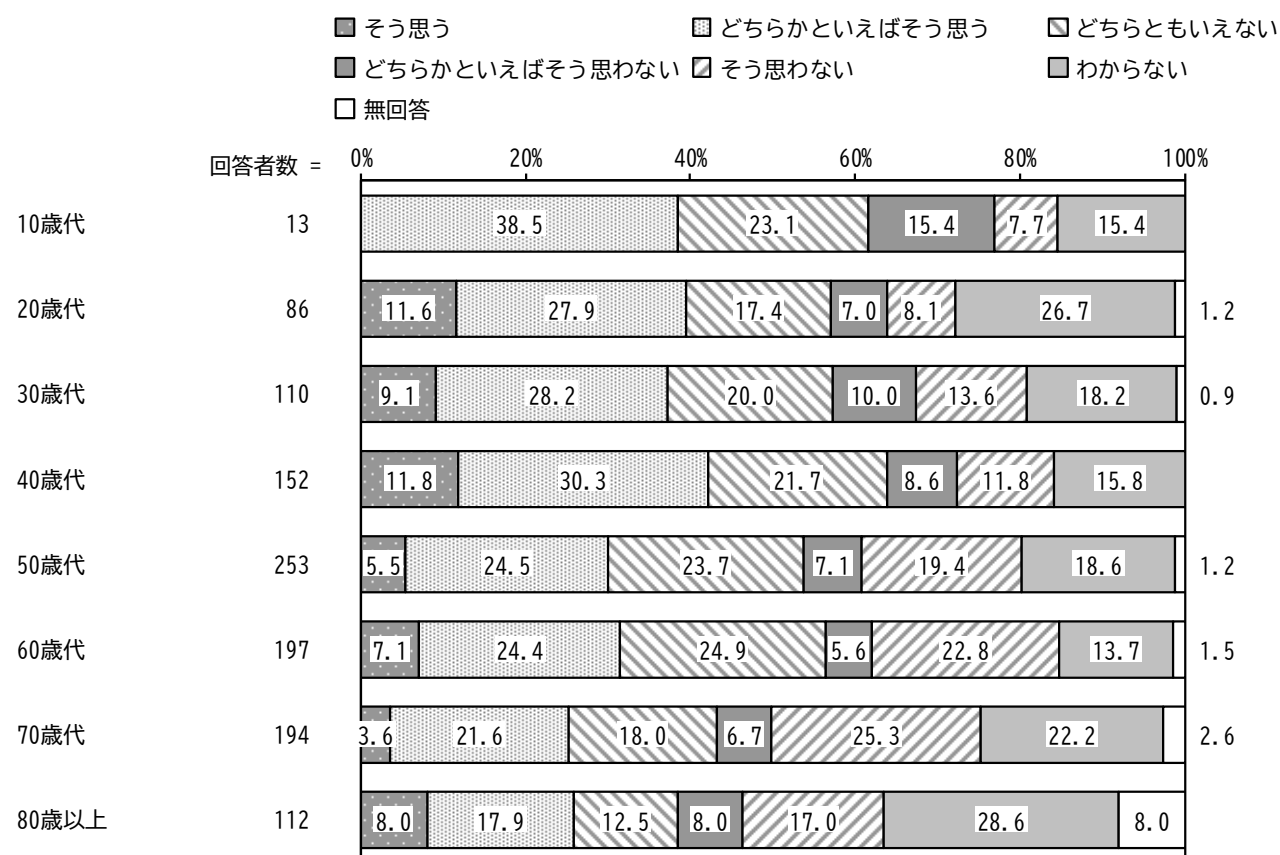
過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「どちらともいえない」の割合が減少しています。



※平成 18 年度調査では、「わからない」がありませんでした。

【年代別】

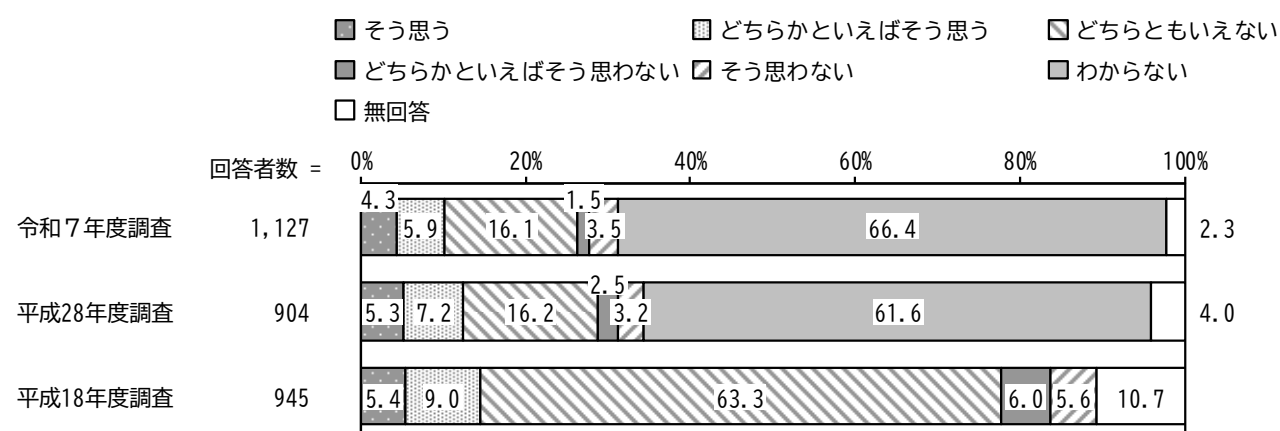
年代別にみると、10歳代から70歳代まで年代が上がるほど「そう思わない」の割合が高い傾向にあり、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。



(2) 同和地区の人びととのふだんのつきあいから言えば、思いやりのある人が多い

【経年比較】

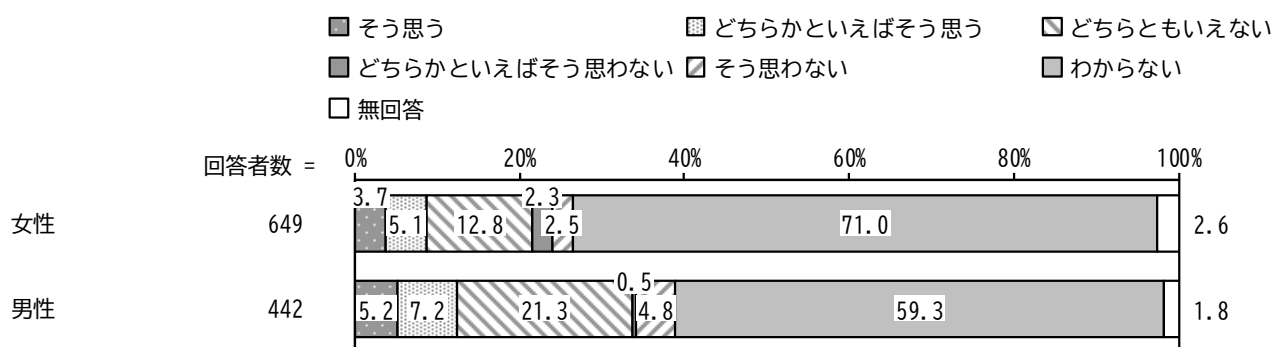
過去調査と比較すると、平成18年度調査から“そう思わない”の割合が減少しています。



※平成18年度調査では、「わからない」がありませんでした。

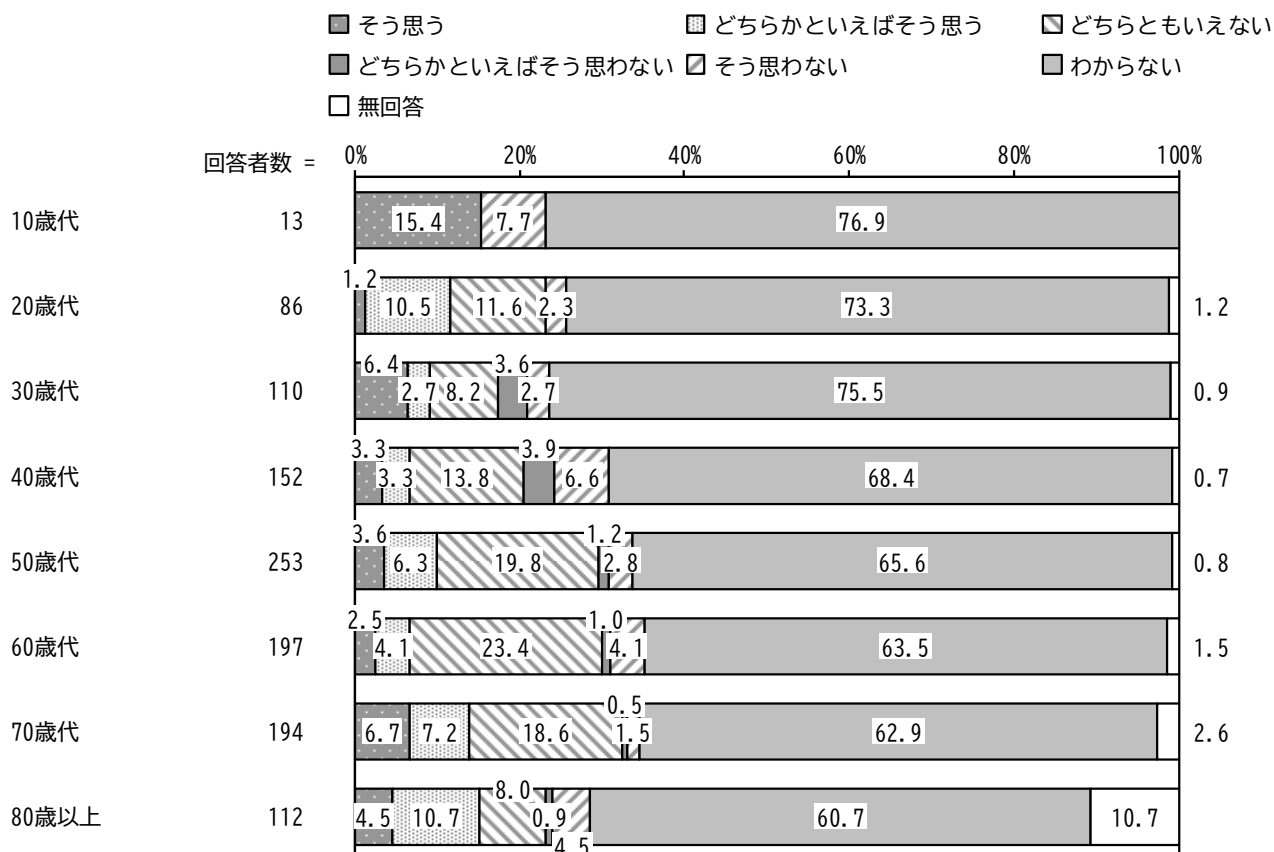
【性別】

性別にみると、男性で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。



【年代別】

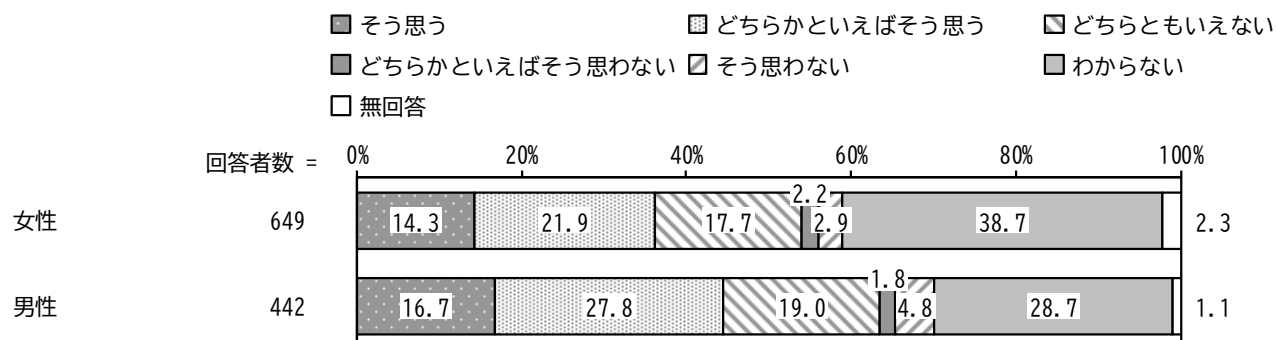
年代別にみると、10歳代、80歳以上で“そう思う”、40歳代で“そう思わない”の割合が高くなっています。



(3) 同和地区の人びとの気持ちや立場をもっと理解すべきだ

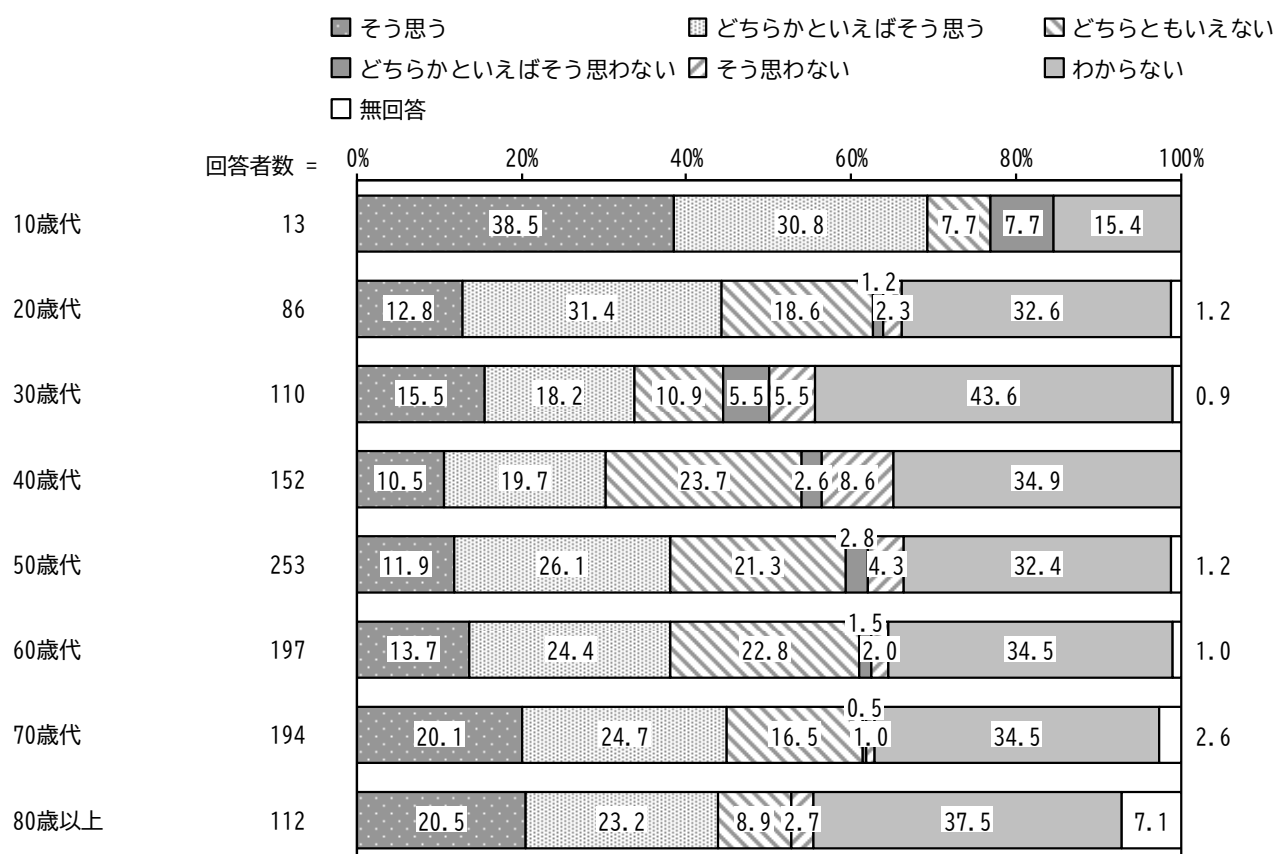
【性別】

性別にみると、男性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

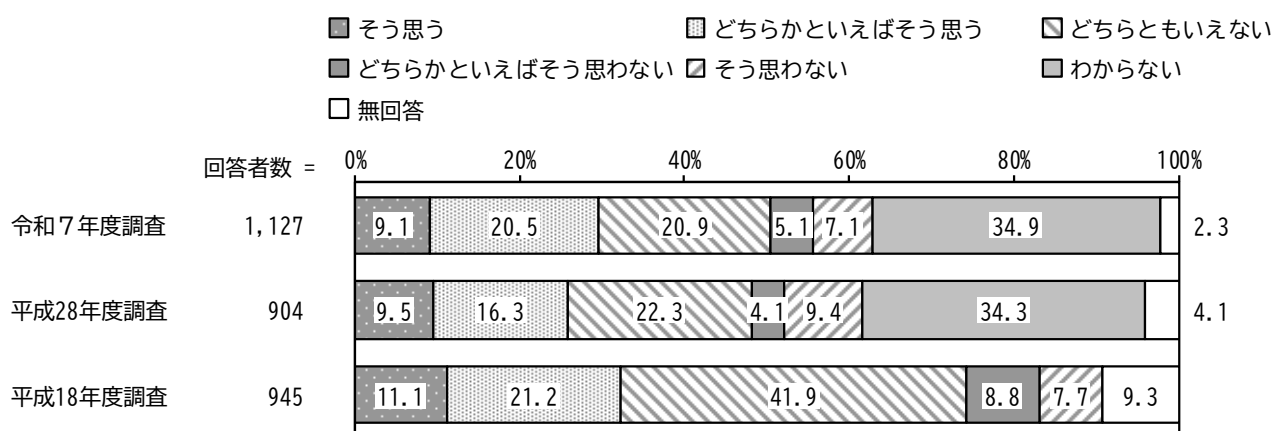
年代別にみると、40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「そう思う」の割合が高く、「どちらともいえない」の割合が低い傾向にあります。



(4) 今まで差別されてきた同和地区の人びとのくやしさを思えば、差別したことを厳しく追及するのは理解できる

【経年比較】

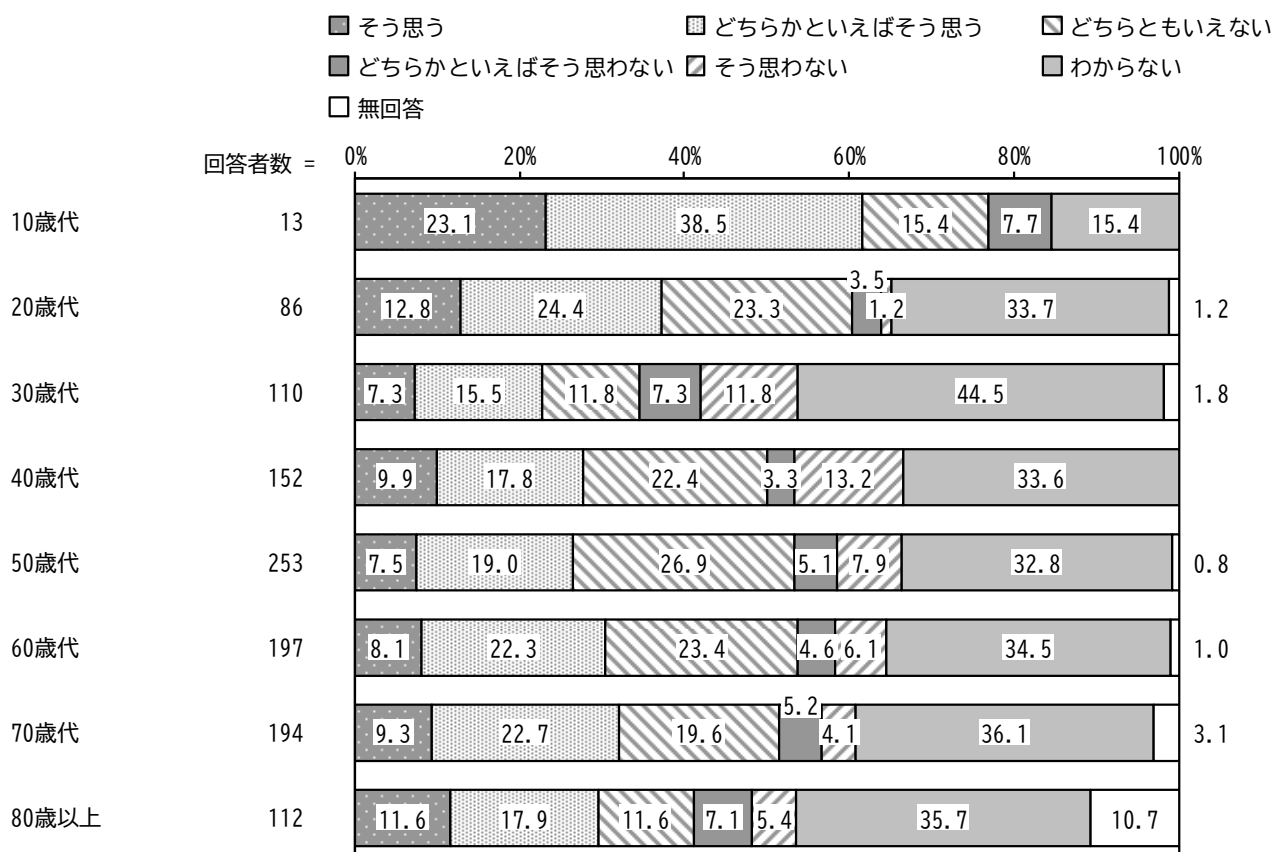
過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「どちらともいえない」の割合が減少しています。



※平成 18 年度調査では、「わからない」がありませんでした。

【年代別】

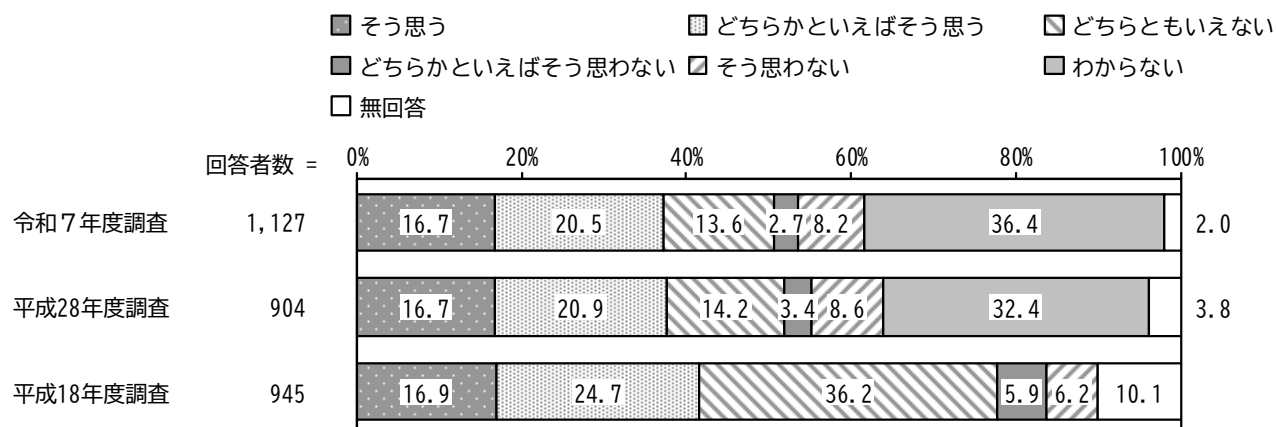
年代別にみると、30 歳代から 70 歳代まで年代が上がるほど“そう思う”の割合が高い傾向にあります。



(5) 同和問題（部落差別）を許さない態度を身に付けることは、他の人権問題にもプラスになる

【経年比較】

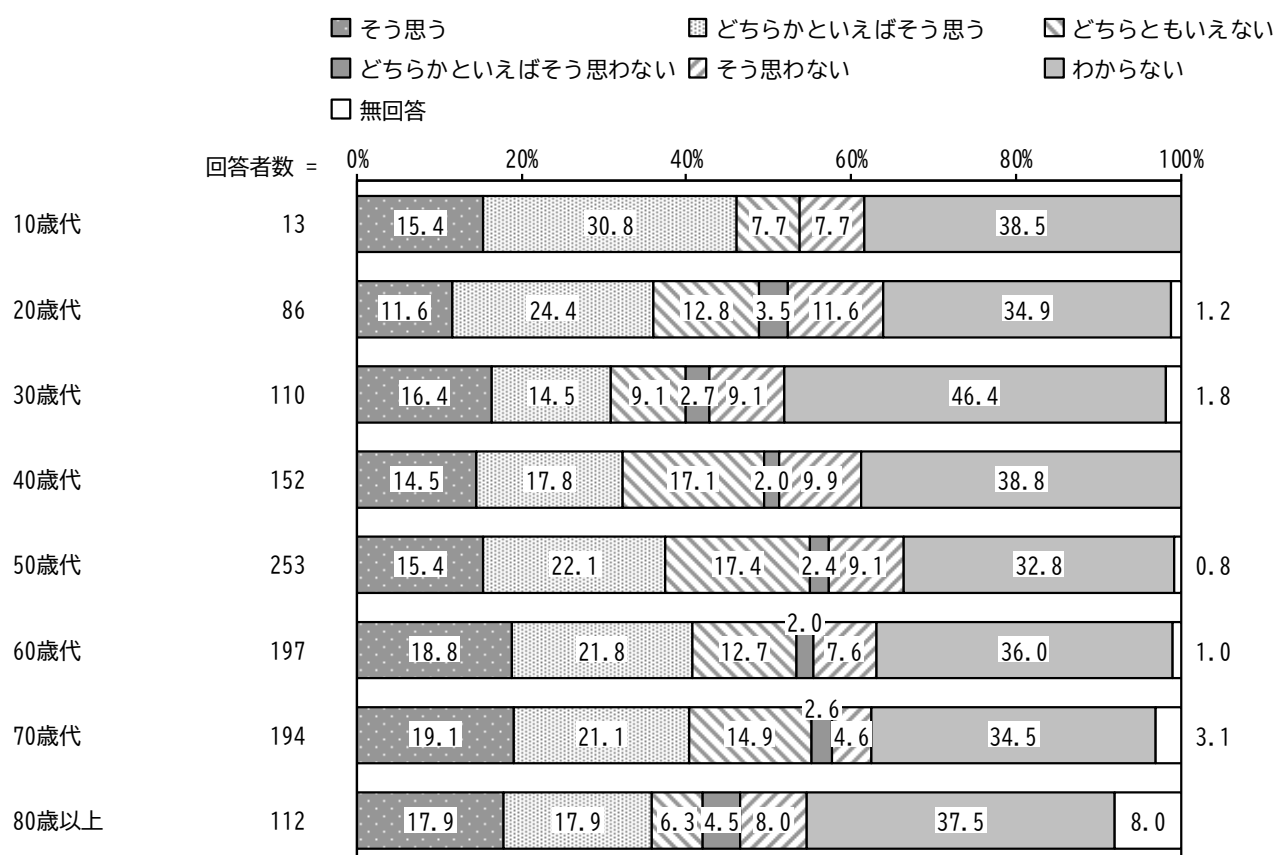
過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「どちらともいえない」の割合が減少しています。



※平成 18 年度調査では、「わからない」がありませんでした。

【年代別】

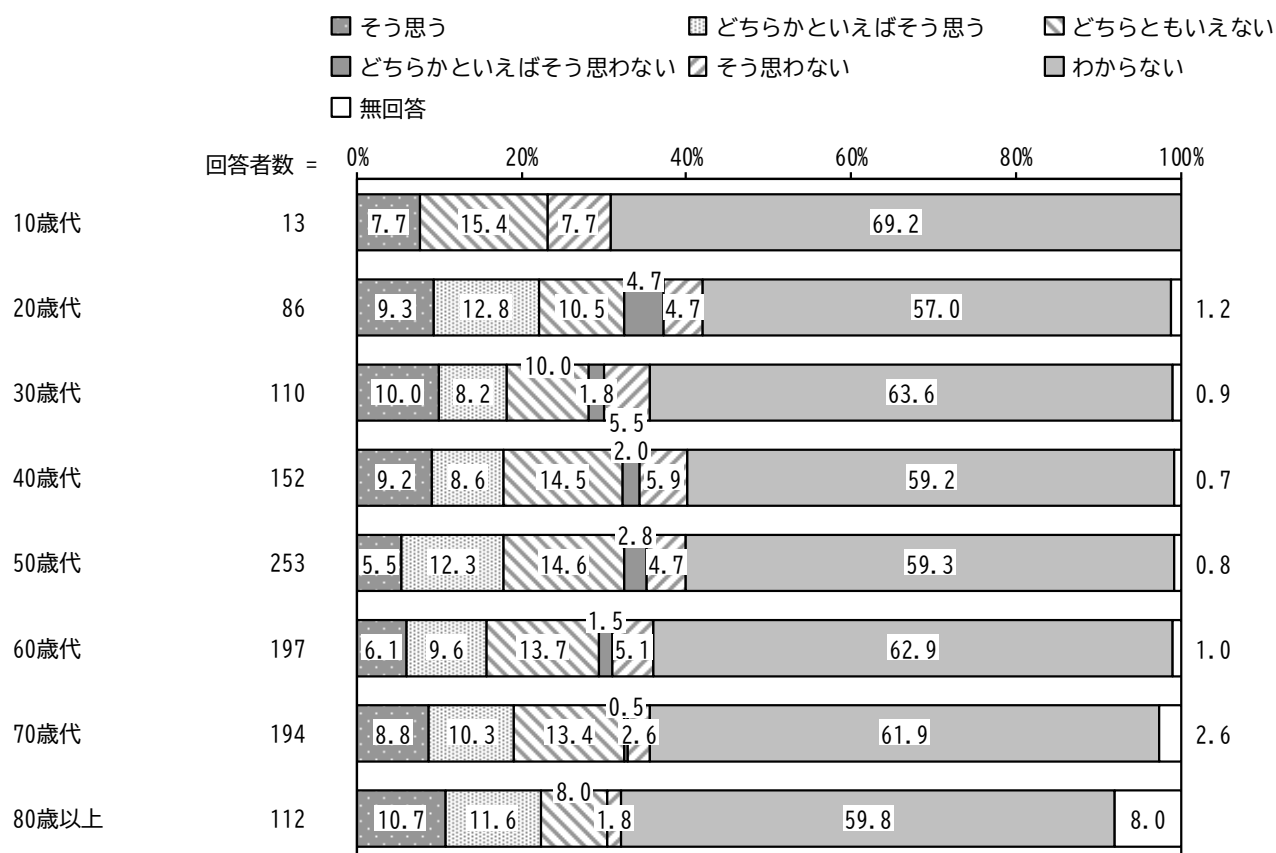
年代別にみると、10 歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



(6) 同和地区に伝わる文化は今も素晴らしいものがあり、昔から明るくたくましく生きてきた姿がうかがえる

【年代別】

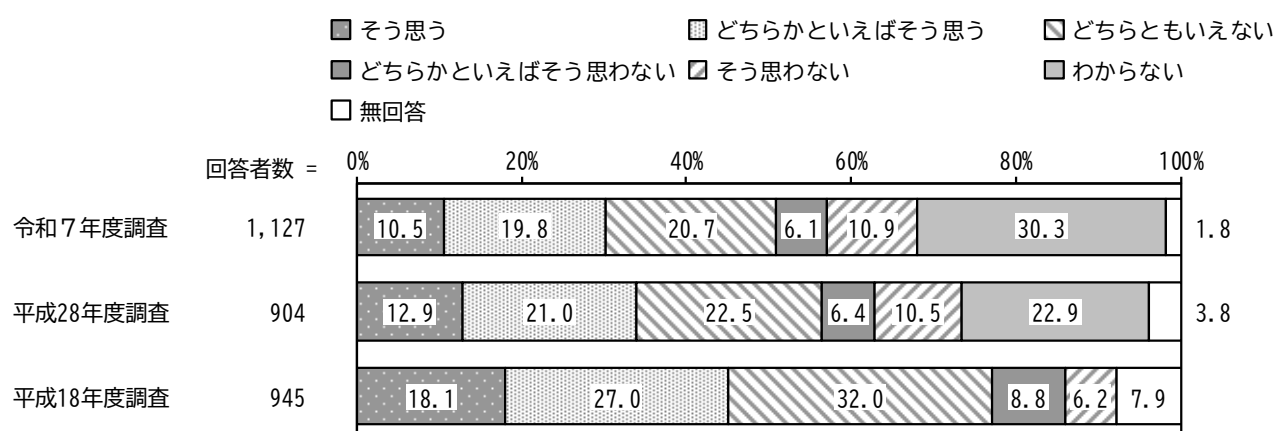
年代別にみると、10歳代で“そう思う”の割合が低くなっています。



(7) 「差別」のことを言い過ぎると、余計に意識して問題が広がるので、そっとしておく

【経年比較】

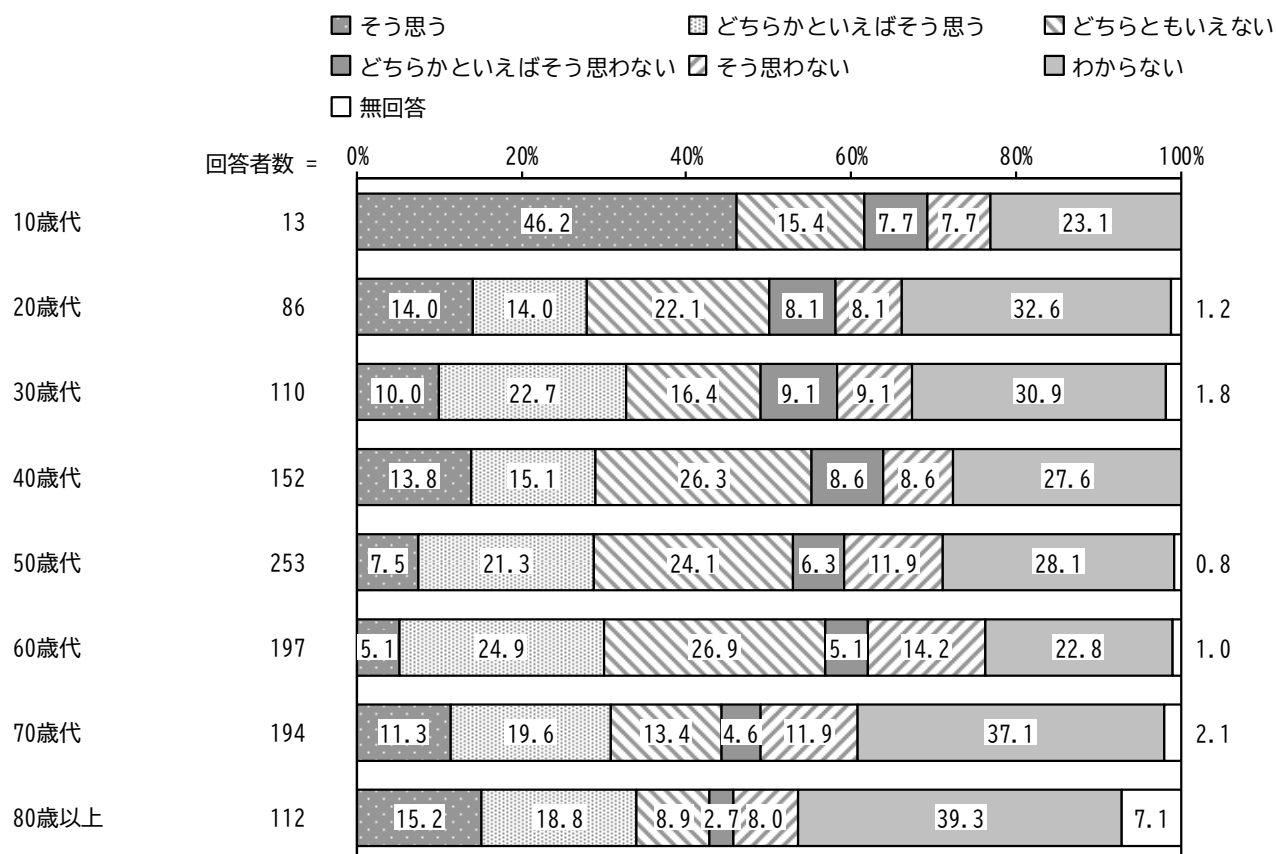
過去調査と比較すると、平成18年度調査から“そう思う”の割合が減少しています。



※平成18年度調査では、「わからない」がありませんでした。

【年代別】

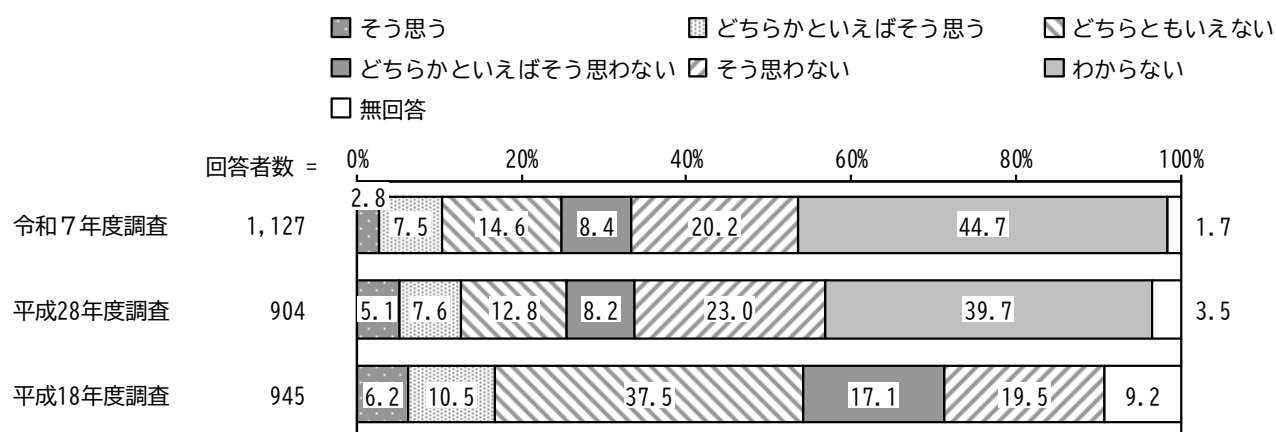
年代別にみると、10歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



（８）同和対策の法律（特別措置法）がなくなったので、部落差別もなくなったと思う

【経年比較】

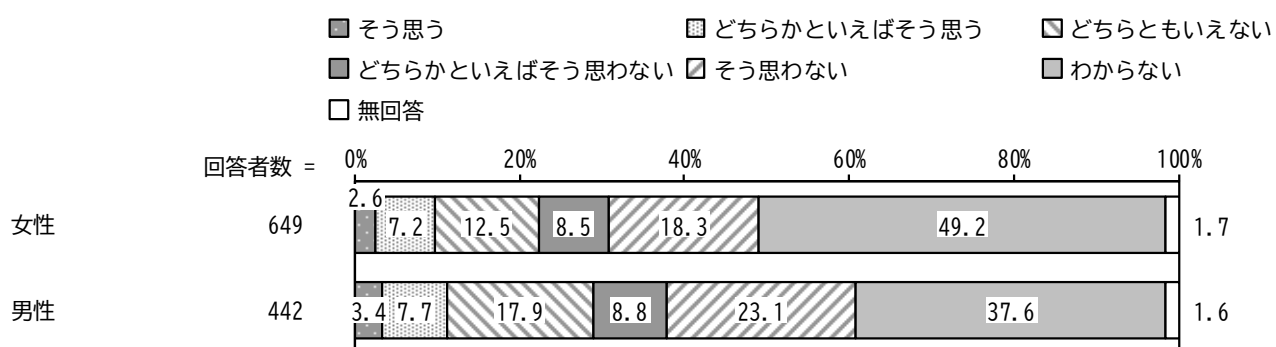
過去調査と比較すると、平成18年度調査から“そう思わない”の割合が減少しています。



※平成18年度調査では、「わからない」がありませんでした。

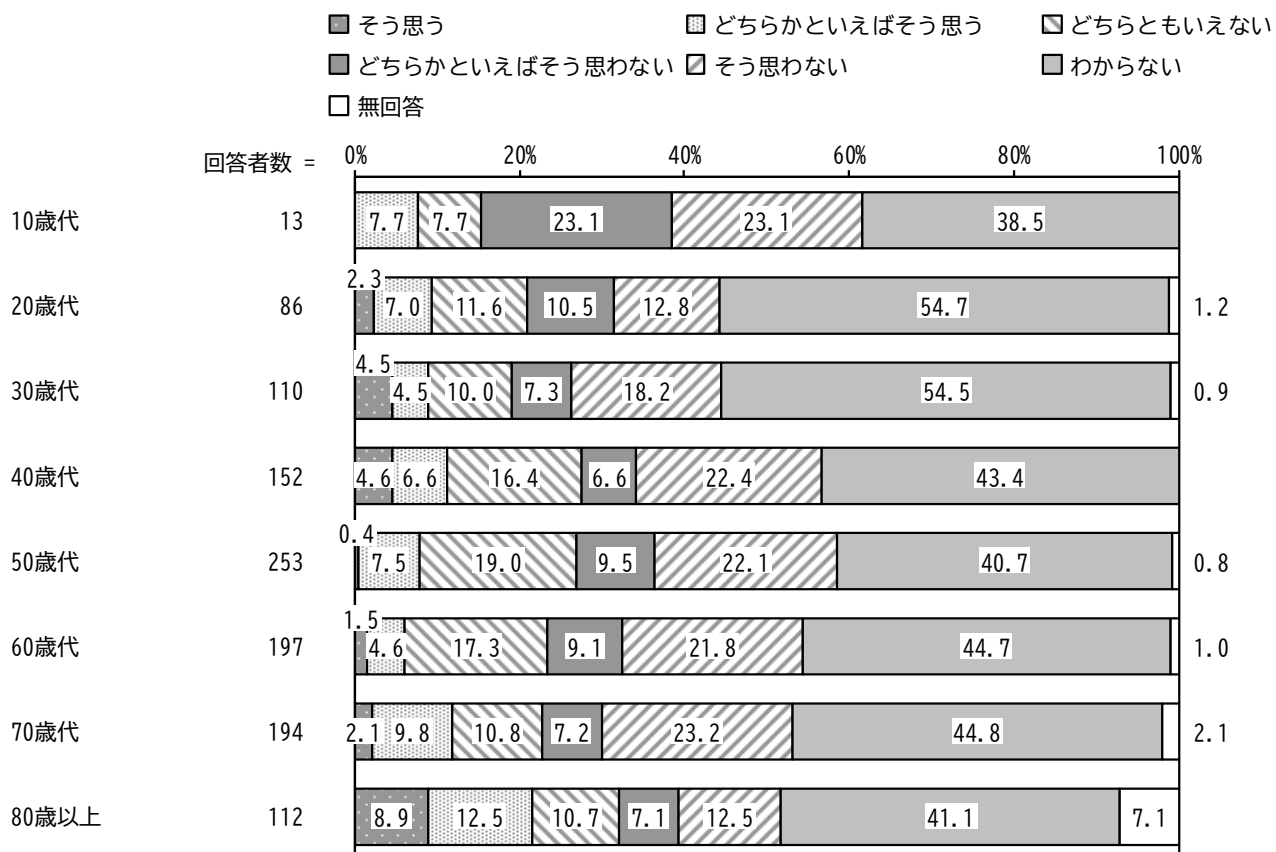
【性別】

性別にみると、男性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



【年代別】

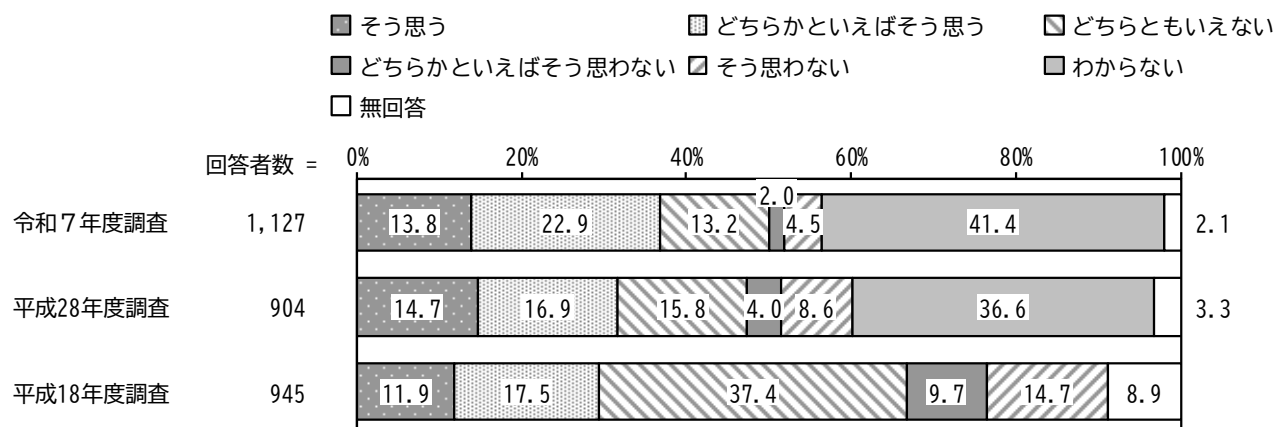
年代別にみると、10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「どちらともいえない」の割合が高い傾向にあります。



(9) 同和対策の法律（特別措置法）はなくなっても、差別がある限り、同和行政は必要だと思う

【経年比較】

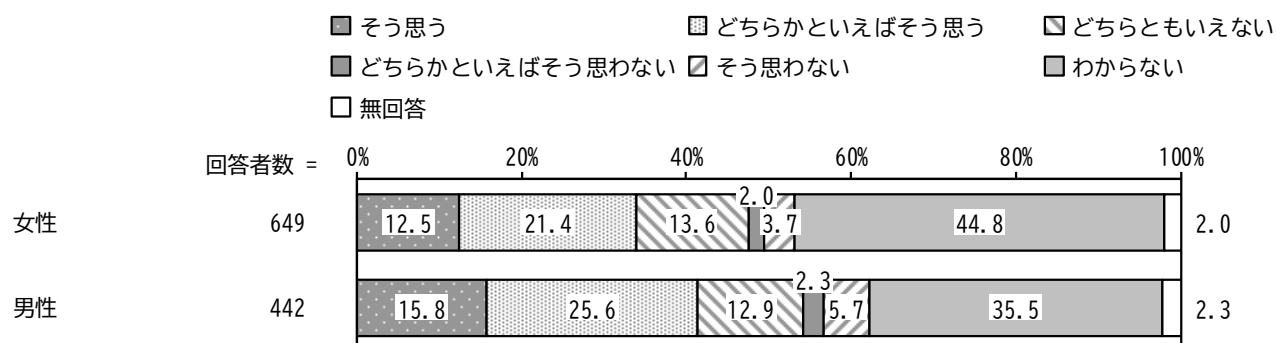
過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から “そう思わない” の割合が減少しています。



※平成 18 年度調査では、「わからない」がありませんでした。

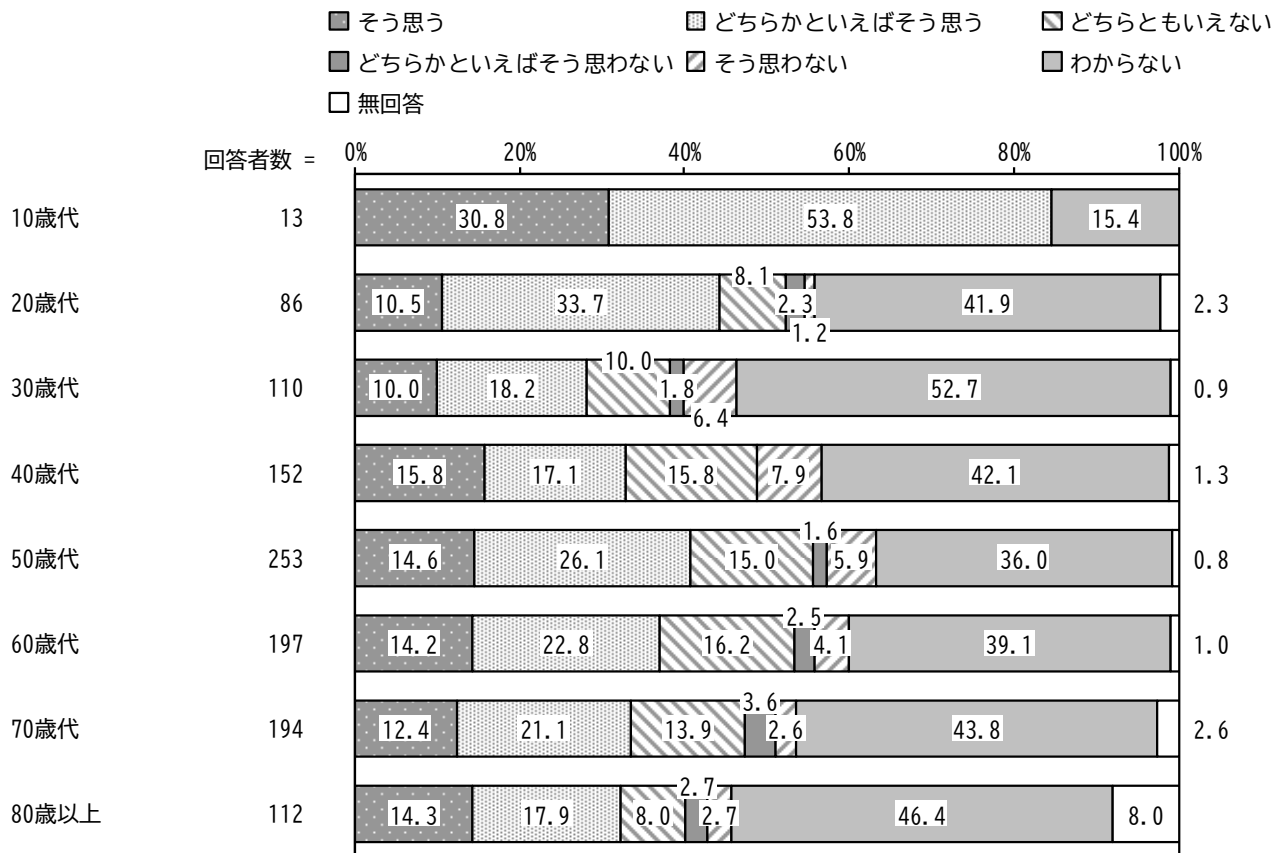
【性別】

性別にみると、男性で “そう思う” の割合が高くなっています。



【年代別】

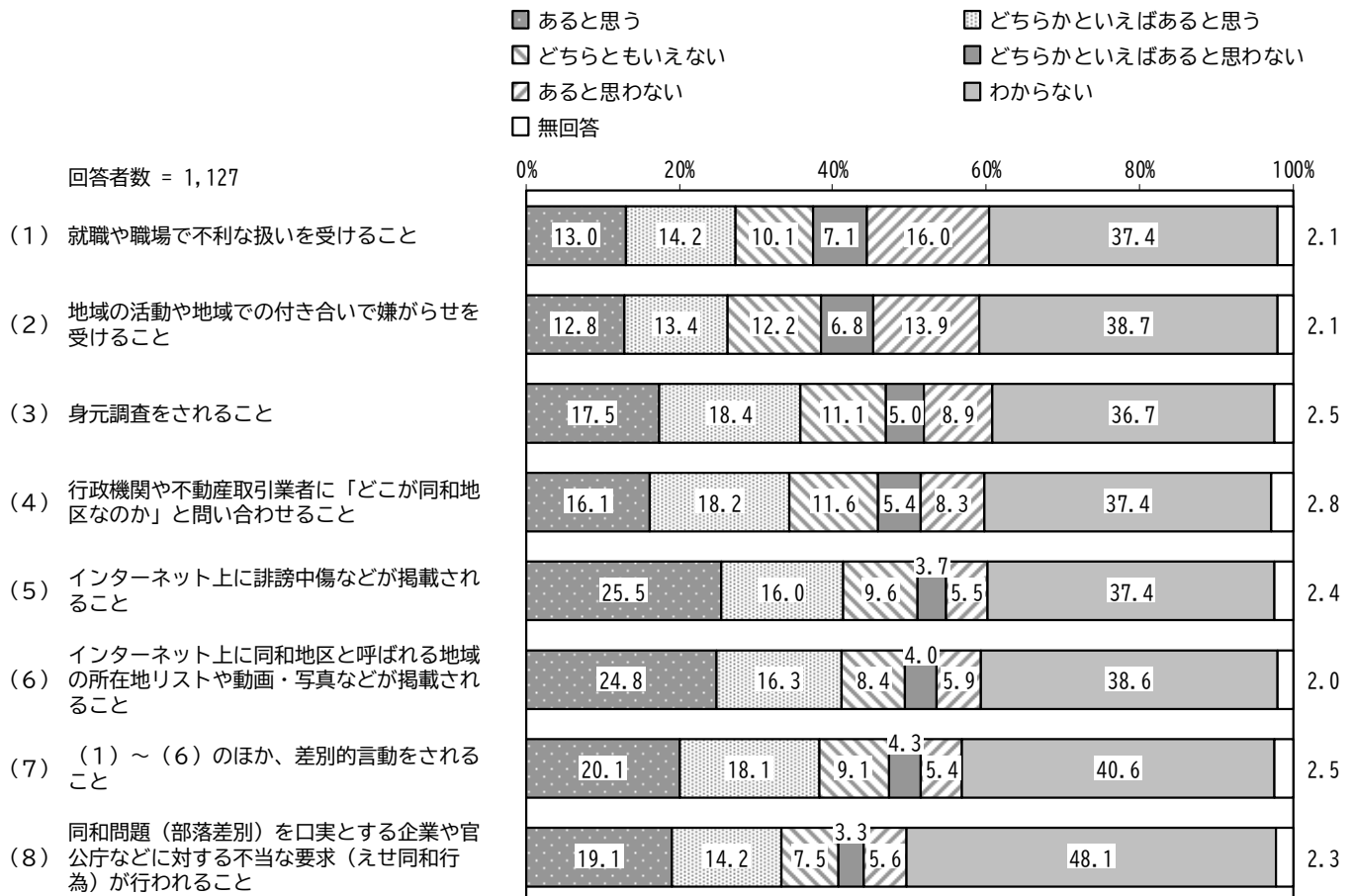
年代別にみると、10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「どちらともいえない」の割合が高い傾向にあります。



問 21 あなたは、現在、同和問題（部落差別）に関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。

【(1)～(8)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

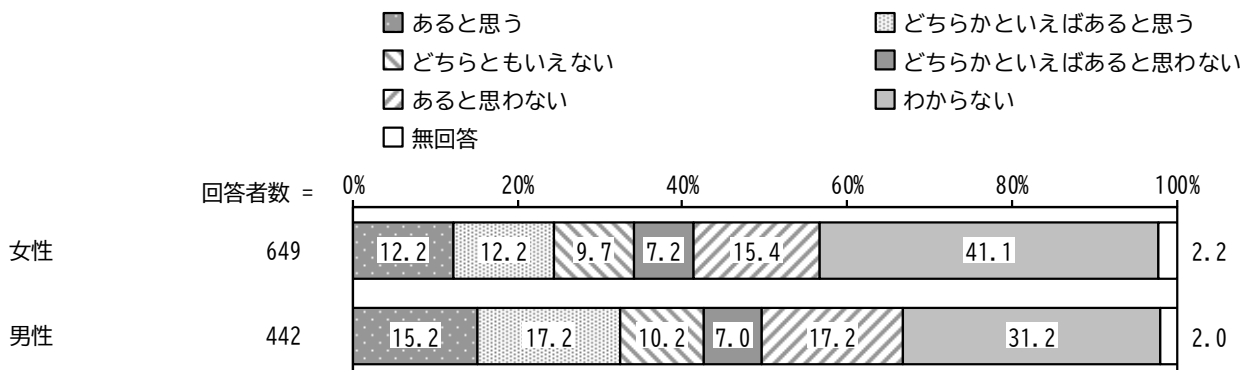
『(5) インターネット上に誹謗中傷などが掲載されること』で「あると思う」が、『(3) 身元調査をされること』で「どちらかといえばあると思う」が、『(2) 地域の活動や地域での付き合いで嫌がらせを受けること』で「どちらともいえない」が、『(1) 就職や職場で不利な扱いを受けること』で「どちらかといえばあると思わない」「あると思わない」が、『(8) 同和問題（部落差別）を口実とする企業や官公庁などに対する不当な要求（えせ同和行為）が行われること』で「わからない」が高くなっています。



(1) 就職や職場で不利な扱いを受けること

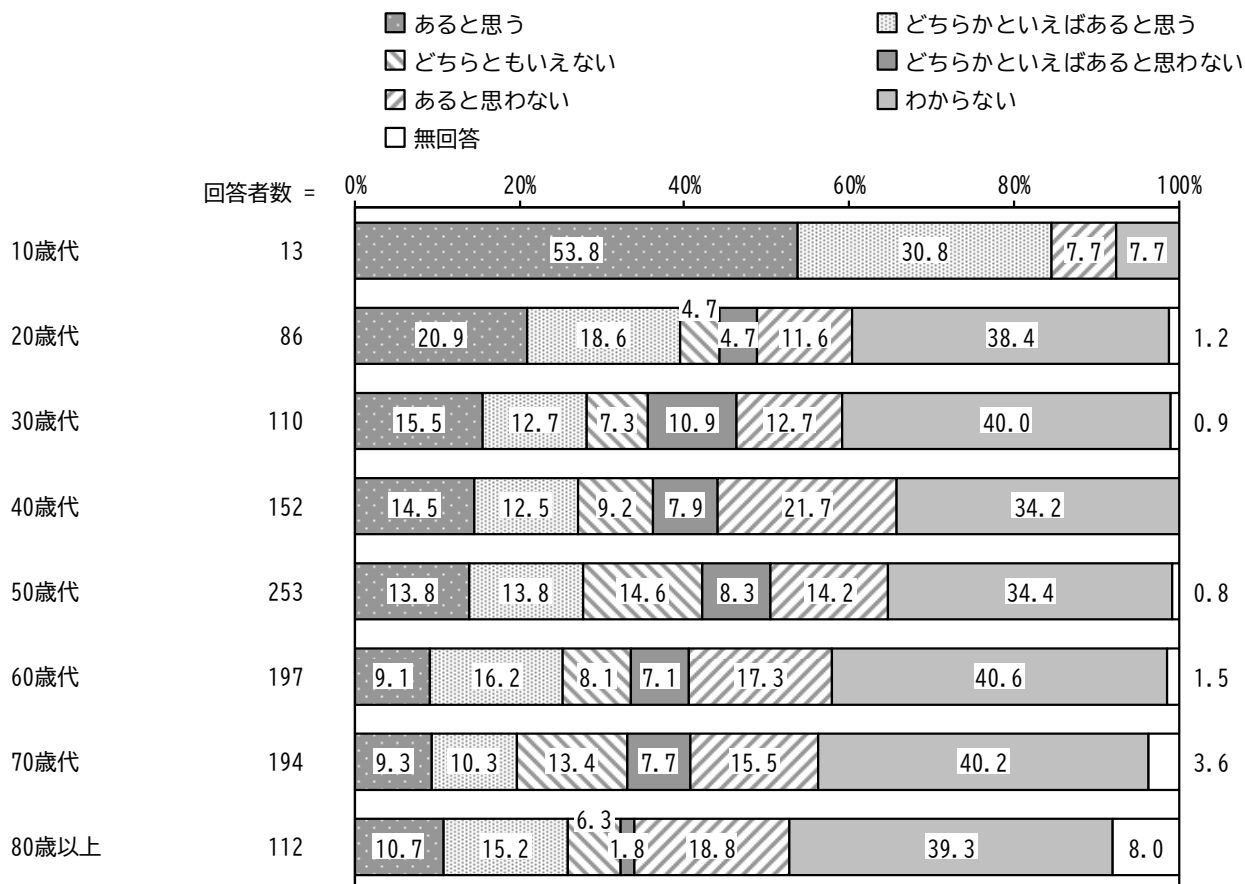
【性別】

性別にみると、男性で“あると思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

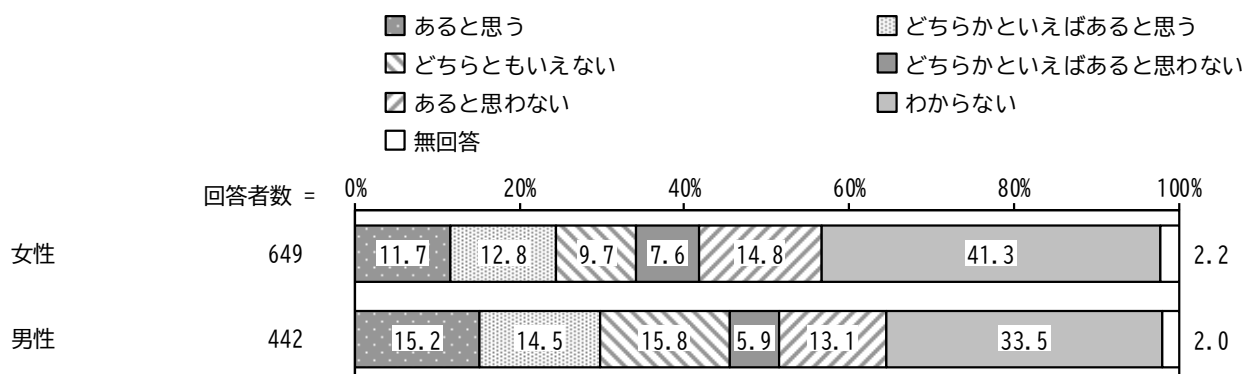
年代別にみると、70歳代から20歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高い傾向にあります。



(2) 地域の活動や地域での付き合いで嫌がらせを受けること

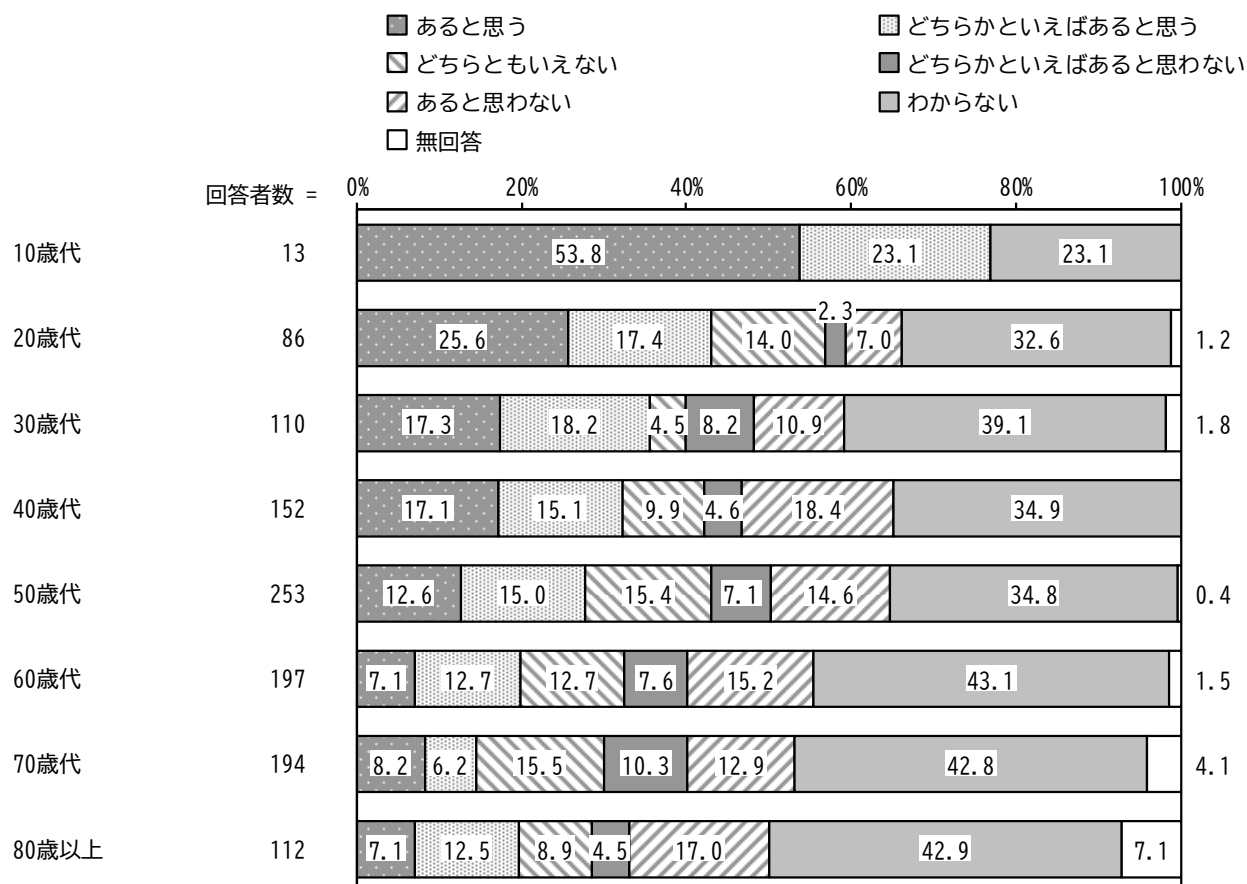
【性別】

性別にみると、男性で“あると思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

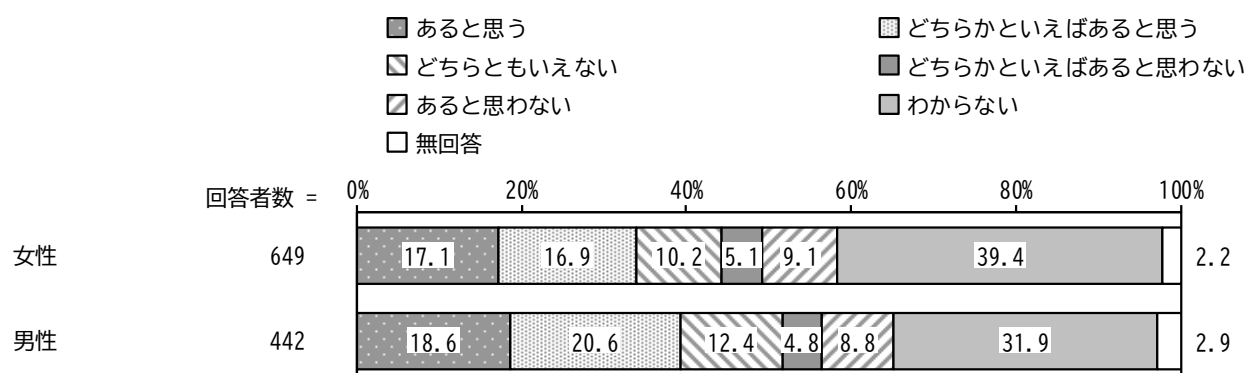
年代別にみると、70歳代から10歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高くなっています。



(3) 身元調査をされること

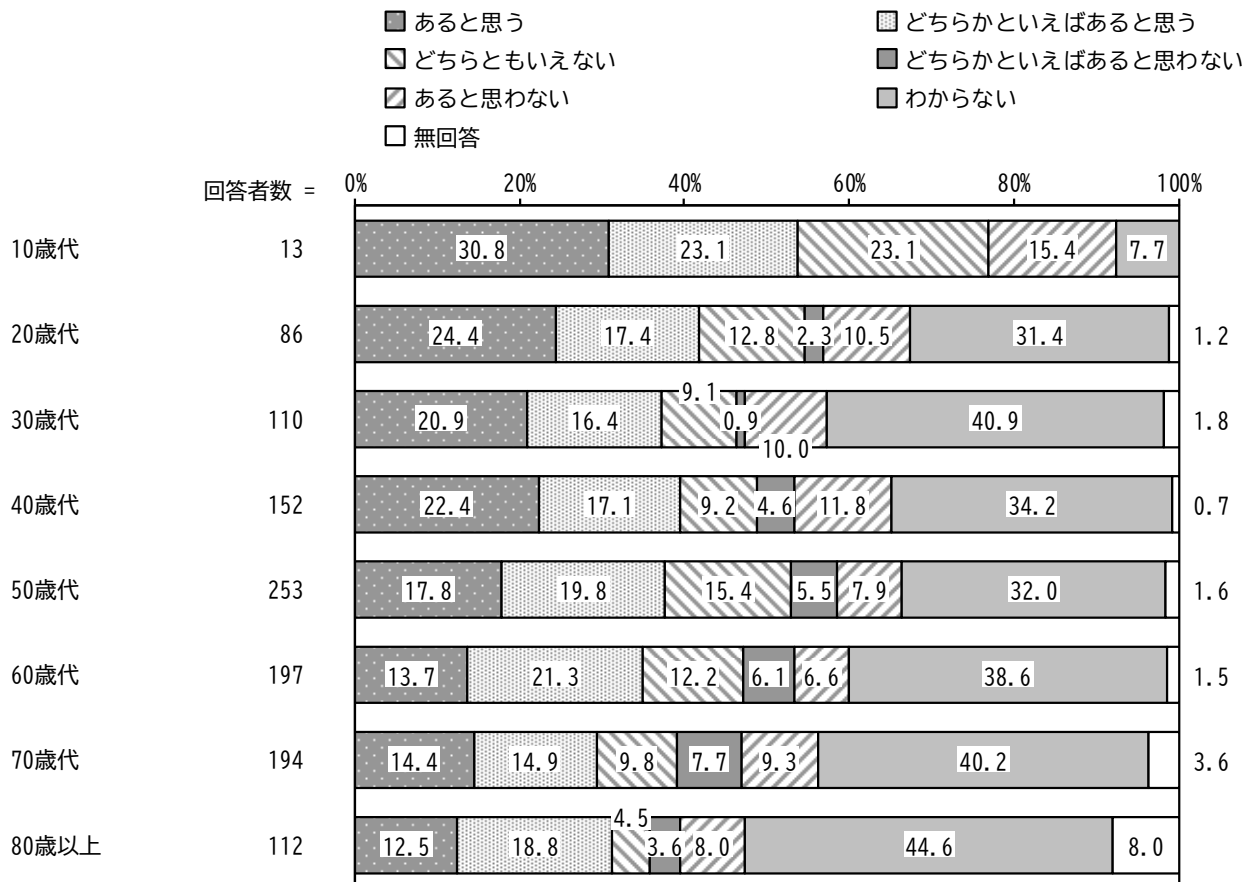
【性別】

性別にみると、男性で“あると思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

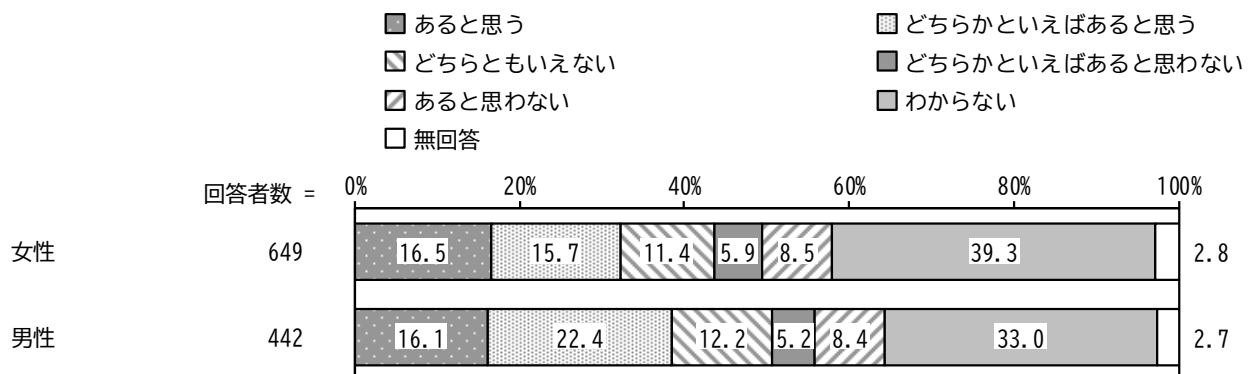
年代別にみると、60歳代から10歳代まで年代が下がるほど「あると思う」の割合が高い傾向にあります。



(4) 行政機関や不動産取引業者に「どこが同和地区なのか」と問い合わせること

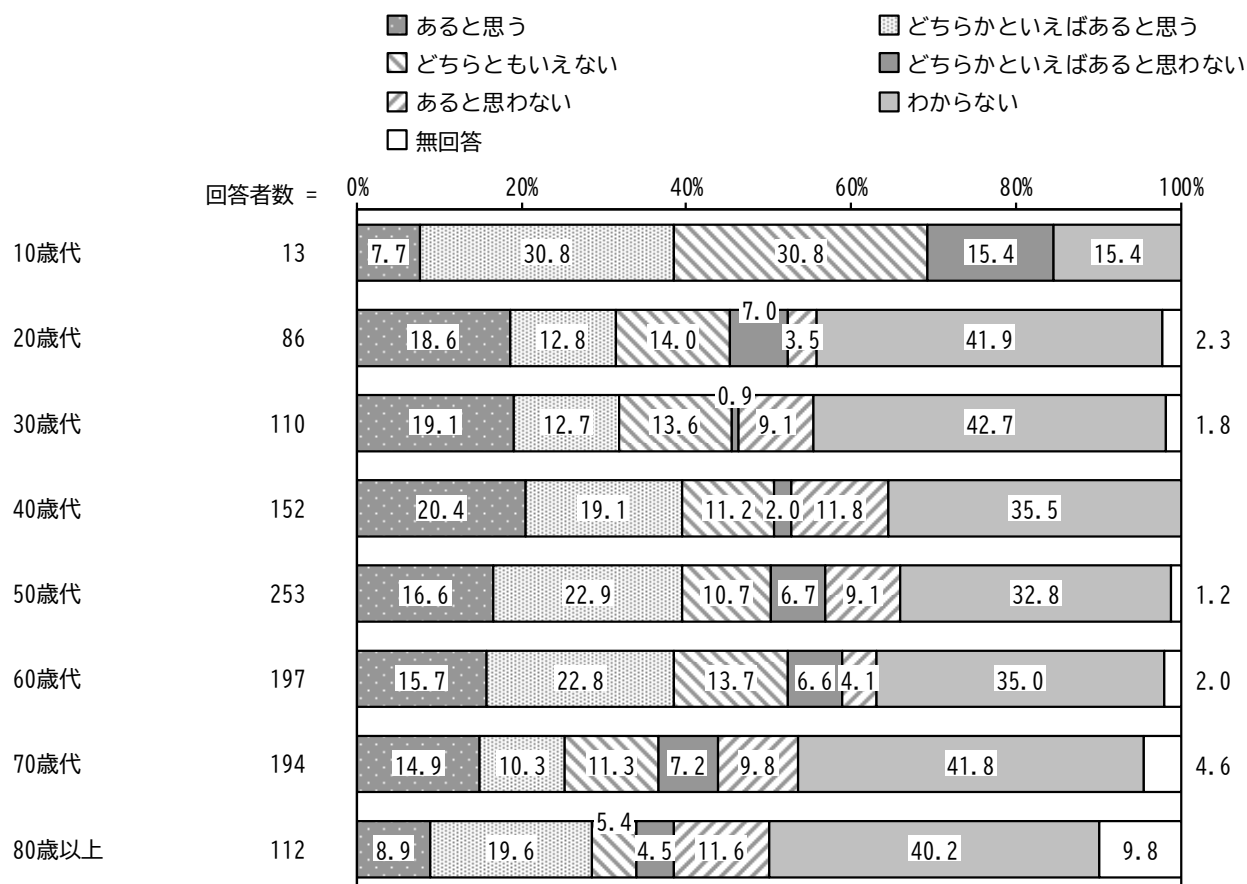
【性別】

性別にみると、男性で“あると思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

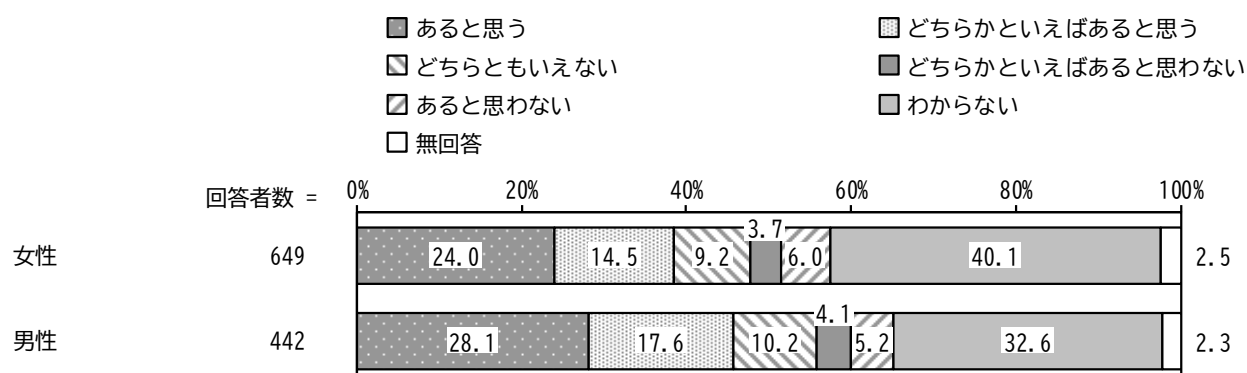
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「あると思う」の割合が高く、50歳代から10歳代まで年代が下がるほど「どちらともいえない」の割合が高い傾向にあります。



(5) インターネット上に誹謗中傷などが掲載されること

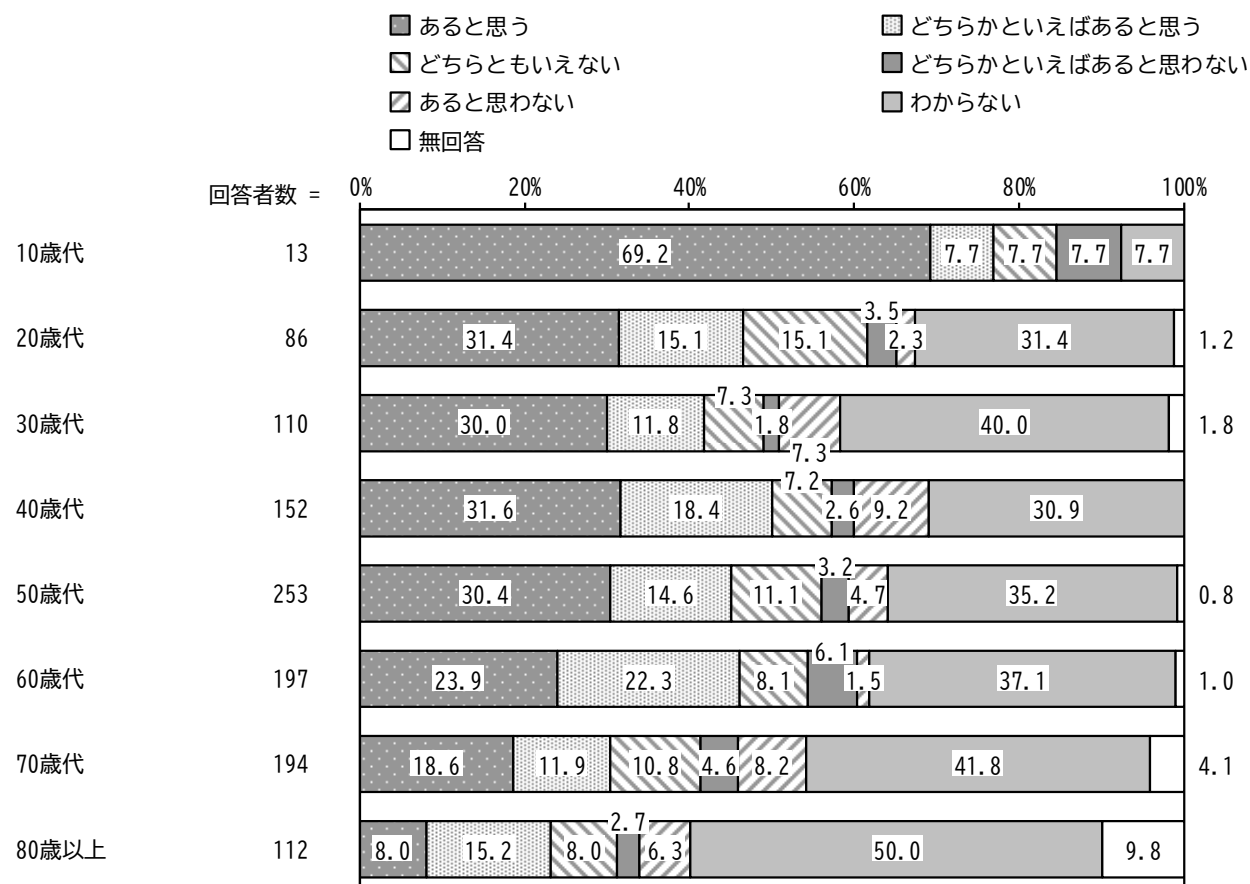
【性別】

性別にみると、男性で“あると思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

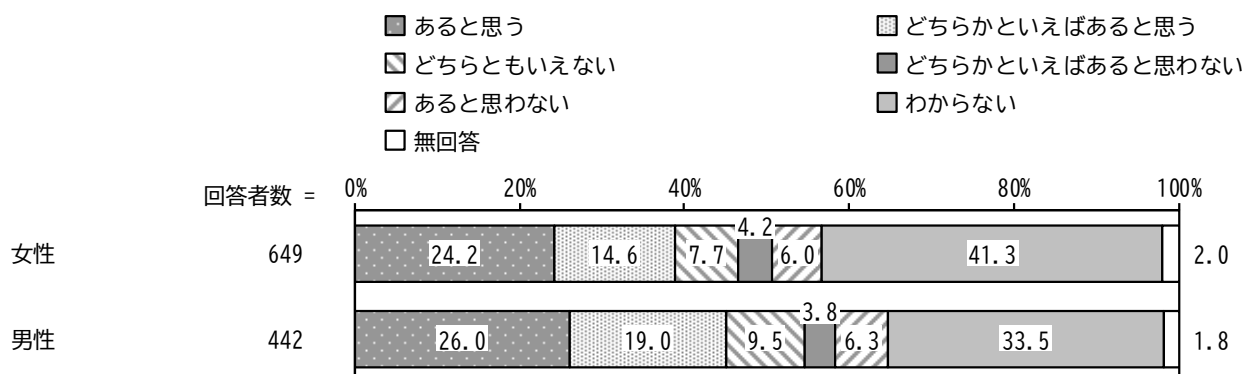
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高い傾向にあります。



(6) インターネット上に同和地区と呼ばれる地域の所在地リストや動画・写真などが掲載されること

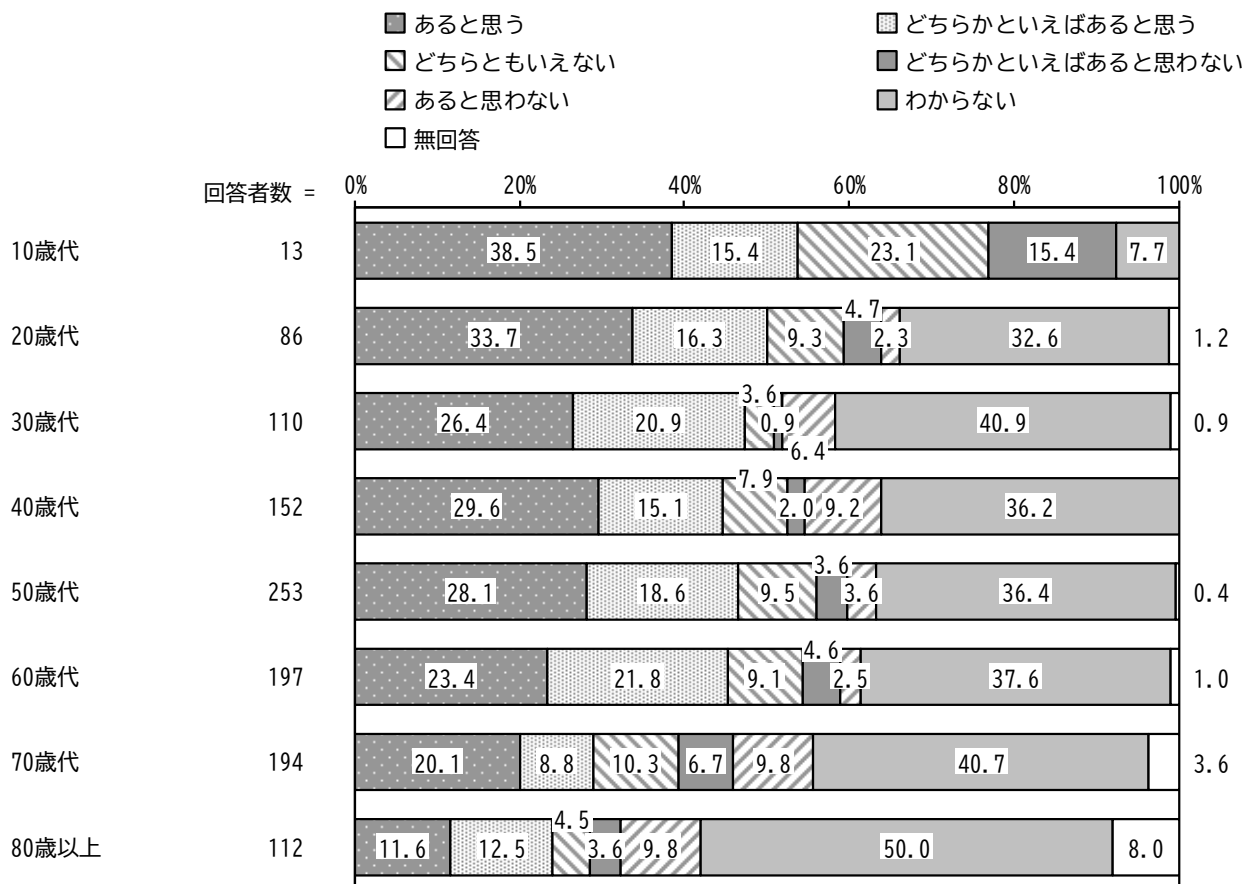
【性別】

性別にみると、男性で“あると思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

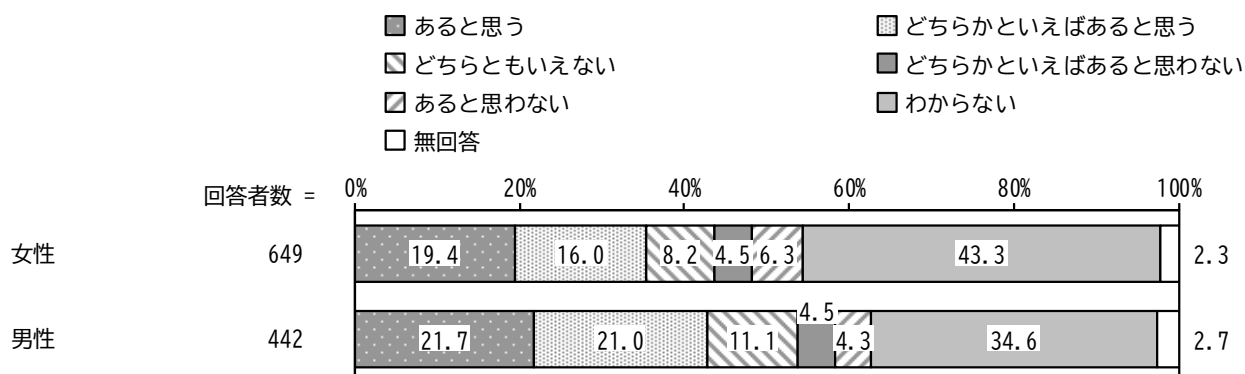
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「あると思う」の割合が高くなっています。



(7)(1)～(6)のほか、差別的言動をされること

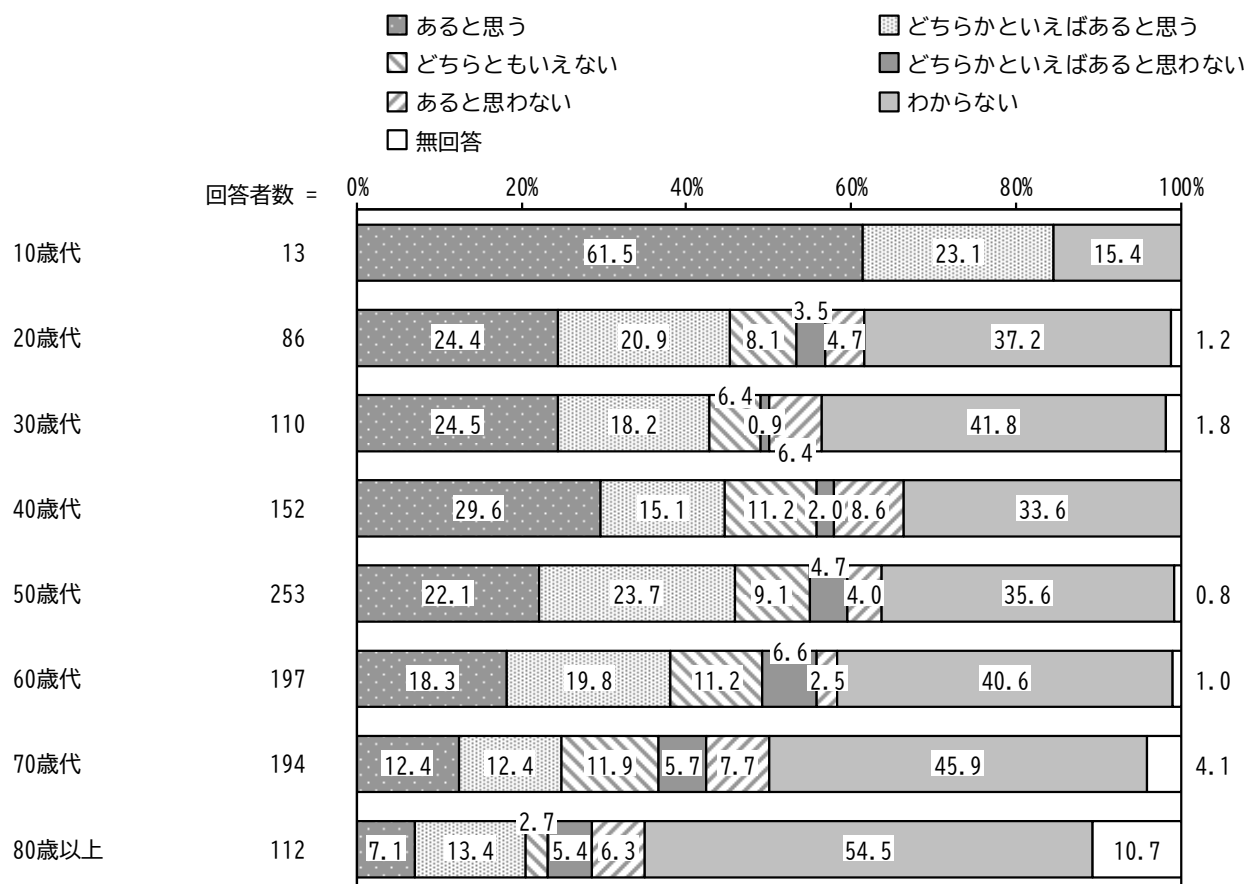
【性別】

性別にみると、男性で“あると思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

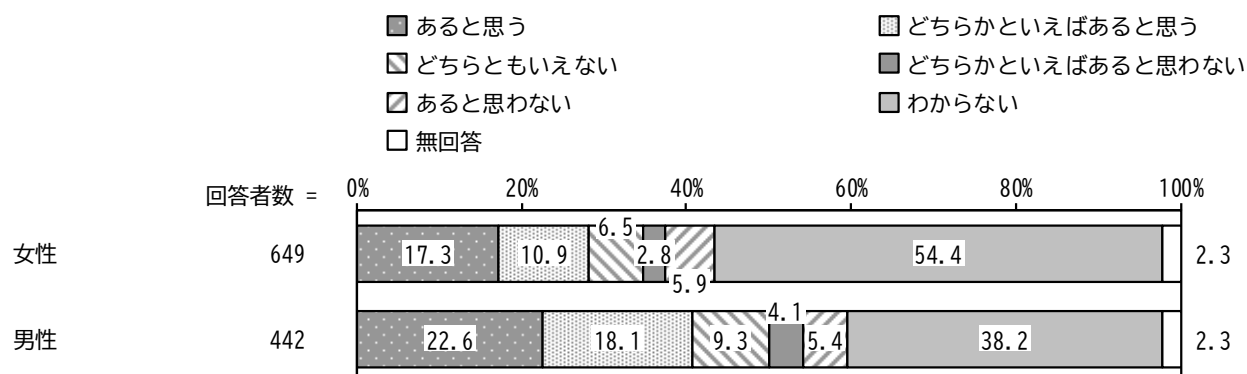
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「あると思う」の割合が高くなっています。



(8) 同和問題（部落差別）を口実とする企業や官公庁などに対する不当な要求（えせ同和行為）が行われること

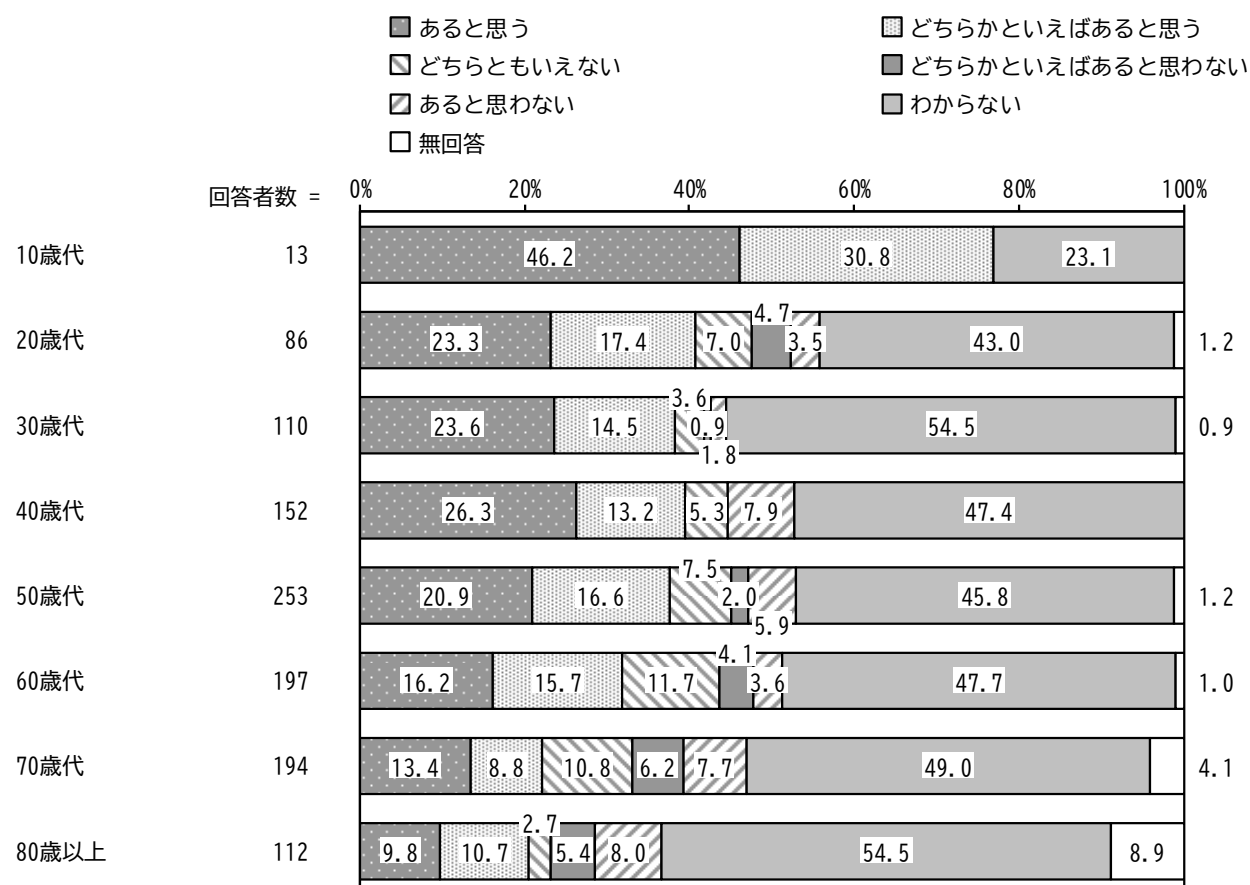
【性別】

性別にみると、男性で“あると思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別にみると、80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高い傾向にあります。



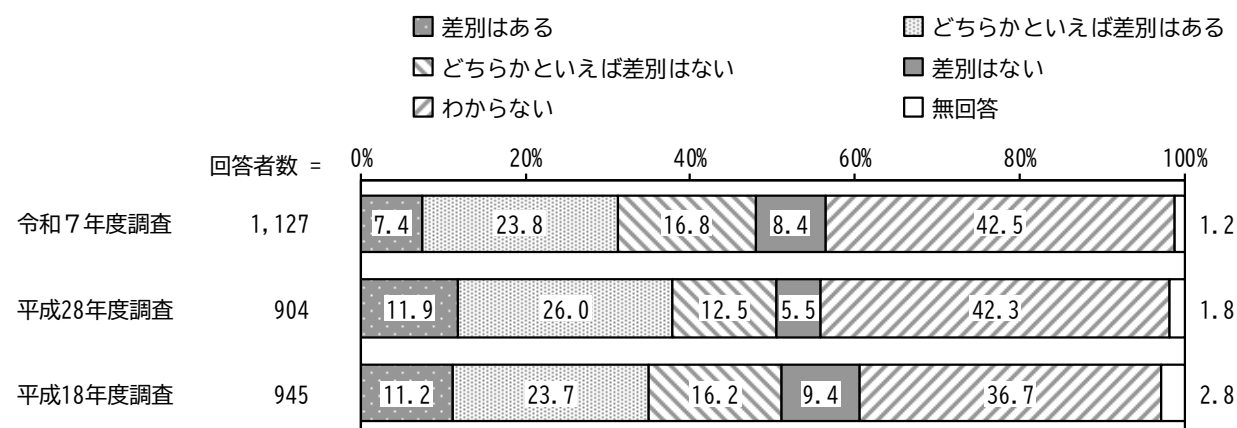
問 22 就職や結婚の場面において、あなたは、同和問題（部落差別）に関連する人権問題がどの程度あると思いますか。

【（１）と（２）それぞれについて、あてはまるもの１つに○】

（１）就職において

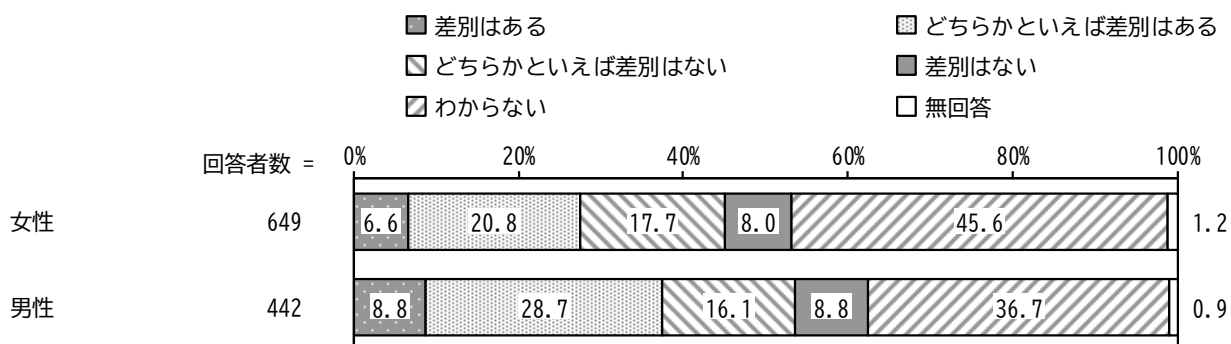
「差別はある」「どちらかといえば差別はある」を合わせた“差別はある”の割合が31.2%、「どちらかといえば差別はない」「差別はない」を合わせた“差別はない”の割合が25.2%となっています。

過去調査と比較すると、平成28年度調査から“差別はない”の割合が増加しています。



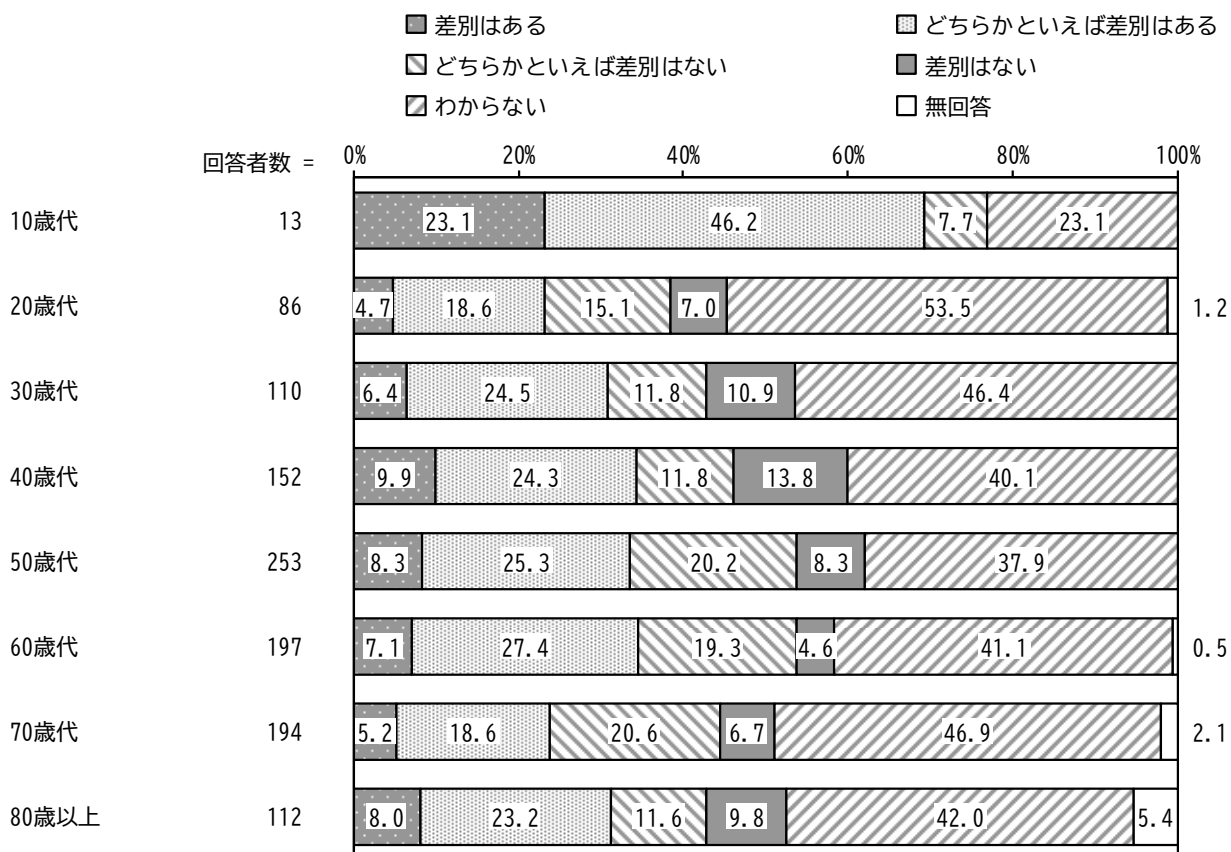
【性別】

性別にみると、男性で“差別はある”の割合が高くなっています。



【年代別】

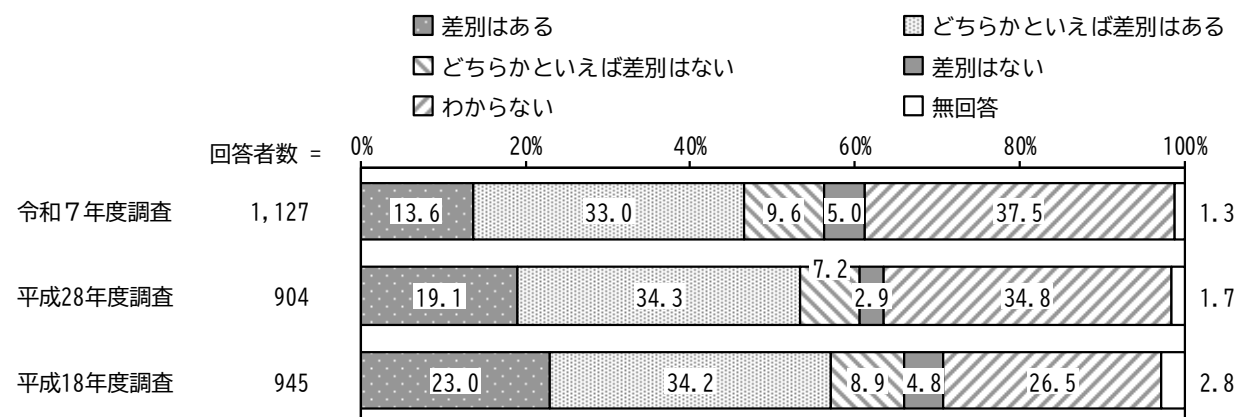
年代別にみると、20歳代から60歳代まで年代が上がるほど“差別はある”の割合が高い傾向にあります。



(2) 結婚において

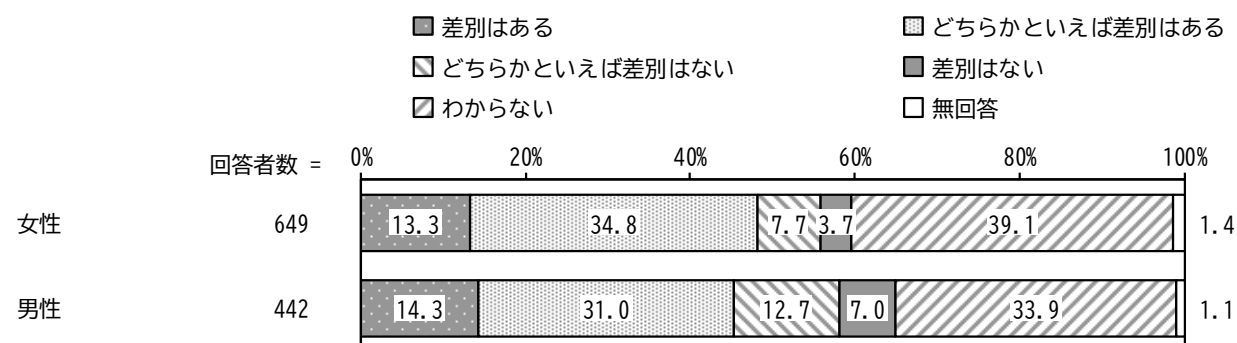
「差別はある」「どちらかといえば差別はある」を合わせた“差別はある”の割合が46.6%、「どちらかといえば差別はない」「差別はない」を合わせた“差別はない”の割合が14.6%となっています。

過去調査と比較すると、平成18年度調査から“差別はある”の割合が減少しています。



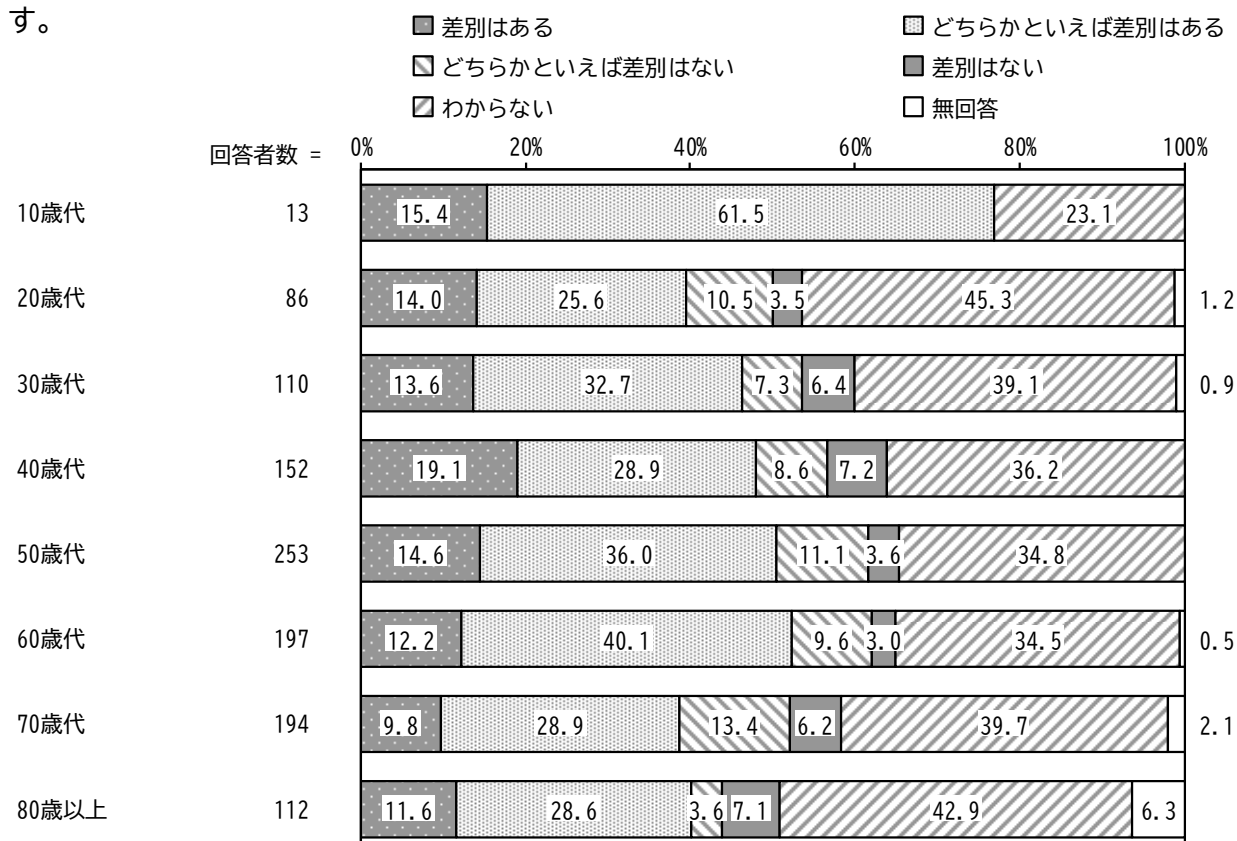
【性別】

性別にみると、男性で“差別はない”の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別にみると、20歳代から60歳代まで年代が上がるほど“差別はある”の割合が高くなっています。



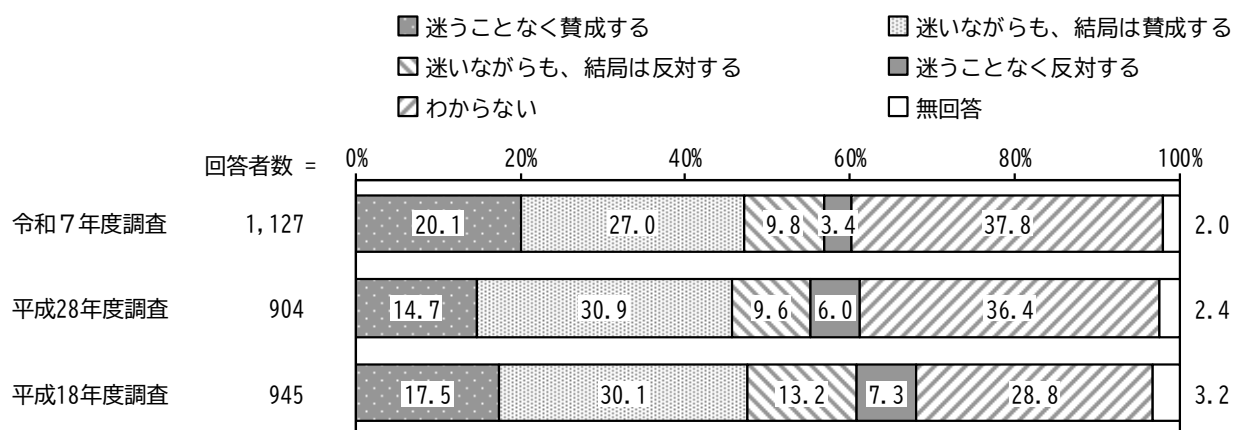
問 23 仮に、あなたの子ども（子どもがいない方は、いるものと仮定してください）が結婚しようとしている相手が同和地区の人だった場合、あなたは、親としてどのような態度をとりますか。また、あなたの親戚は、あなたやあなたの子どもに対してどのような態度をとると思いますか。

【（１）と（２）それぞれについて、あてはまるもの１つに○】

（１）あなたが親として子どもに対してとる態度

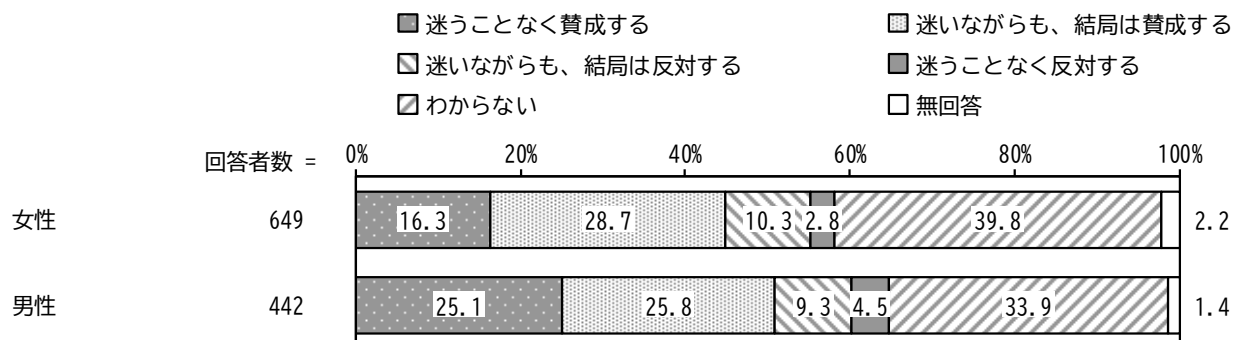
「迷うことなく賛成する」「迷いながらも、結局は賛成する」を合わせた“賛成する”の割合が47.1%、「迷いながらも、結局は反対する」「迷うことなく反対する」を合わせた“反対する”の割合が13.2%となっています。

過去調査と比較すると、平成18年度調査から“反対する”の割合が減少しています。



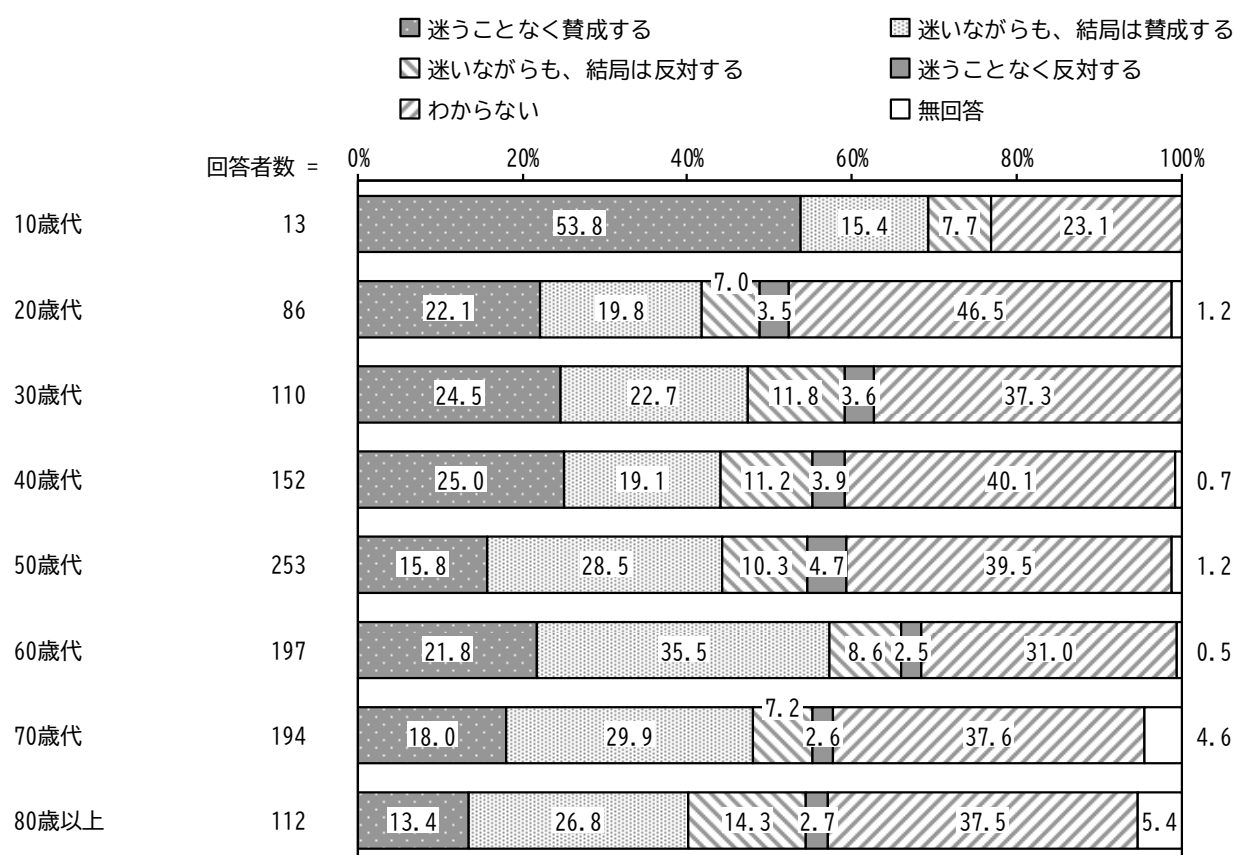
【性別】

性別にみると、男性で“賛成する”の割合が高くなっています。



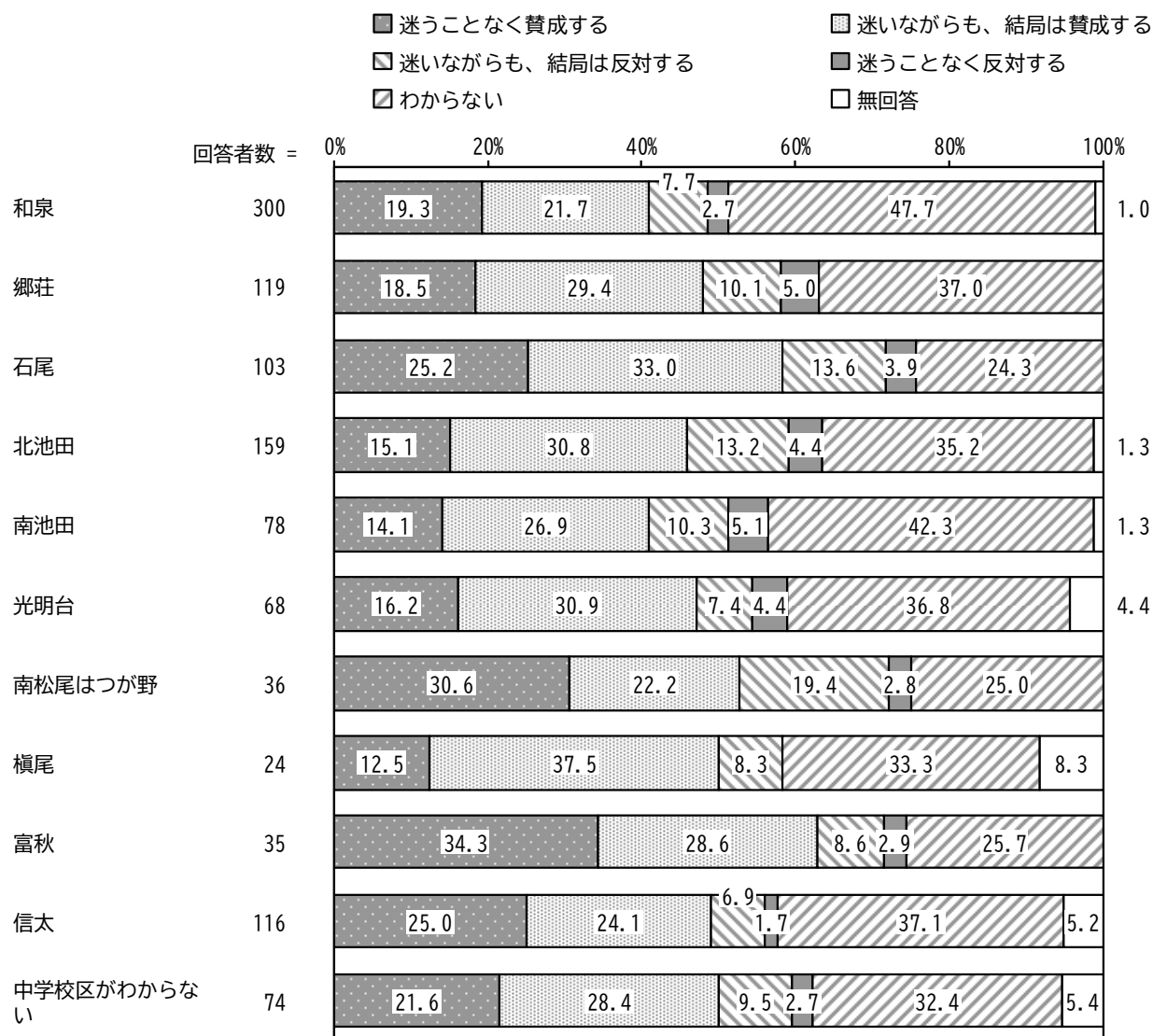
【年代別】

年代別にみると、10歳代で“賛成する”の割合が高くなっています。



【地区別】

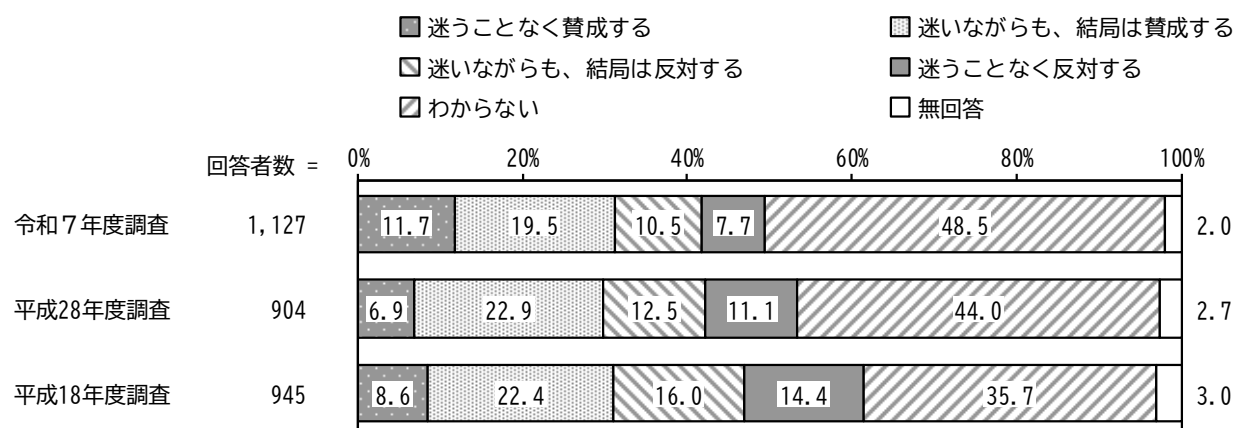
地区別にみると、富秋で“賛成する”の割合が高くなっています。



(2) あなたの親戚があなたやあなたの子どもに対してとると思われる態度

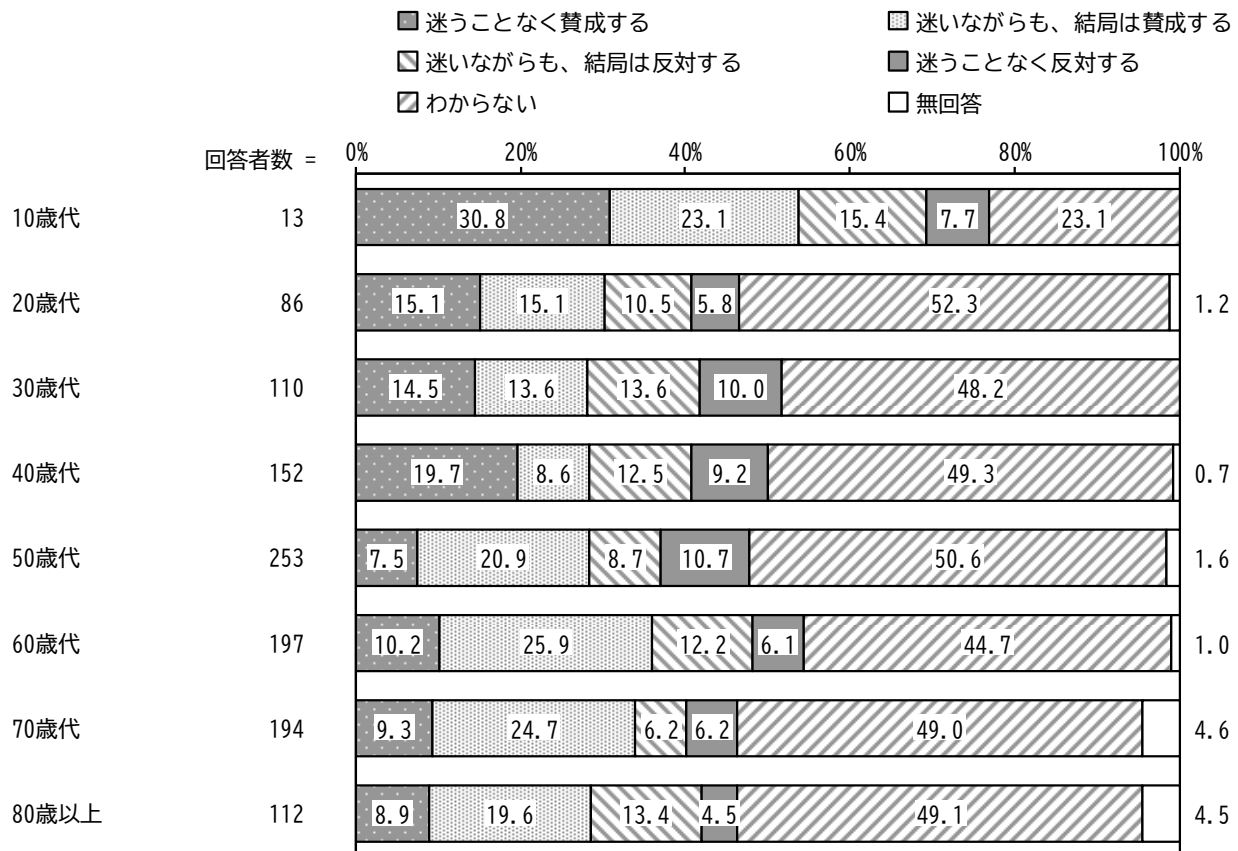
「迷うことなく賛成する」「迷いながらも、結局は賛成する」を合わせた“賛成する”の割合が31.2%、「迷いながらも、結局は反対する」「迷うことなく反対する」を合わせた“反対する”の割合が18.2%となっています。

過去調査と比較すると、平成18年度調査から“反対する”の割合が減少しています。



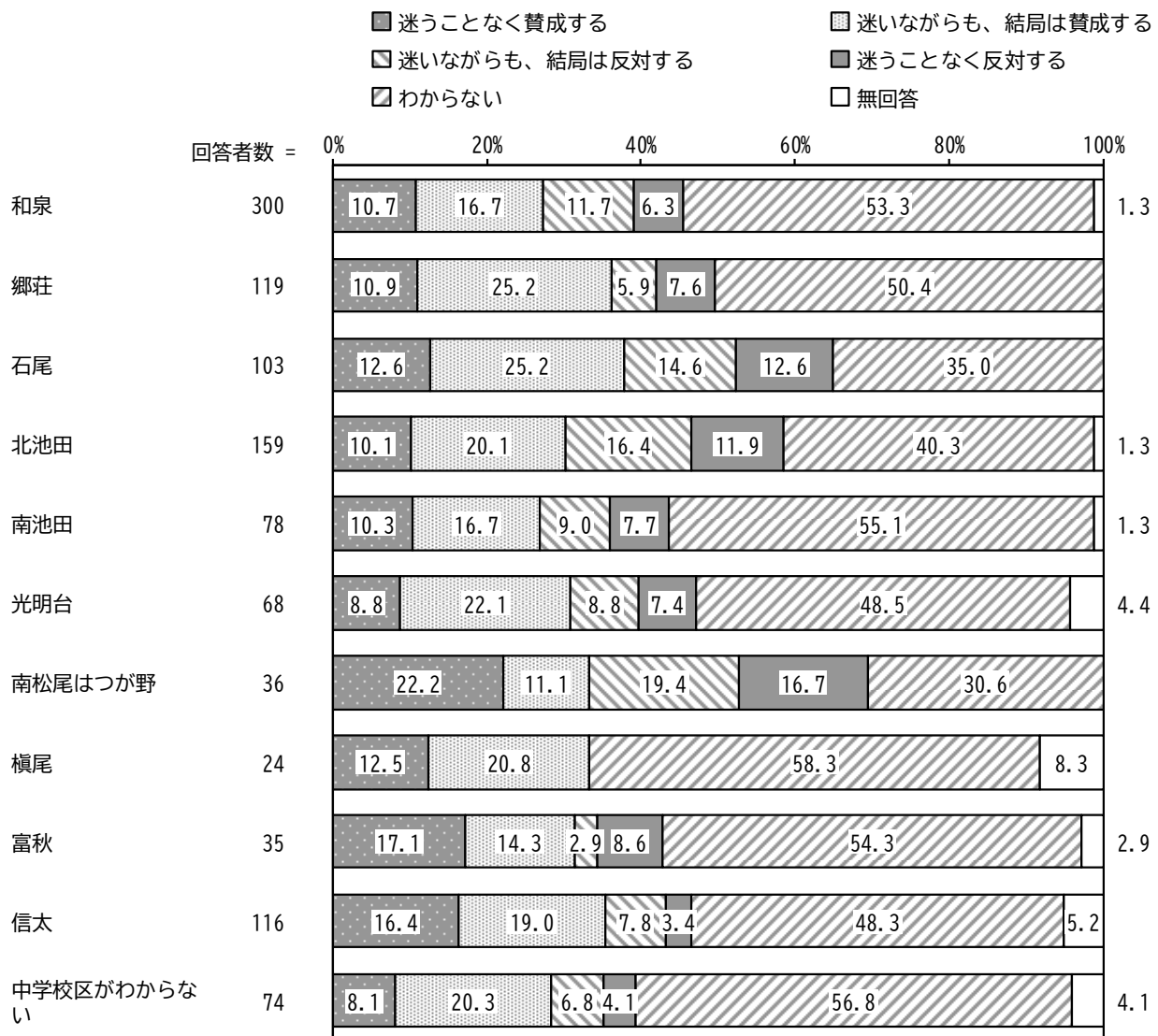
【年代別】

年代別にみると、70 歳代から 30 歳代まで年代が下がるほど“反対する”の割合が高くなっています。
また、40 歳代で「迷いながらも、結局は賛成する」の割合が低くなっています。



【地区別】

地区別にみると、南松尾はつが野で“反対する”の割合が高くなっています。

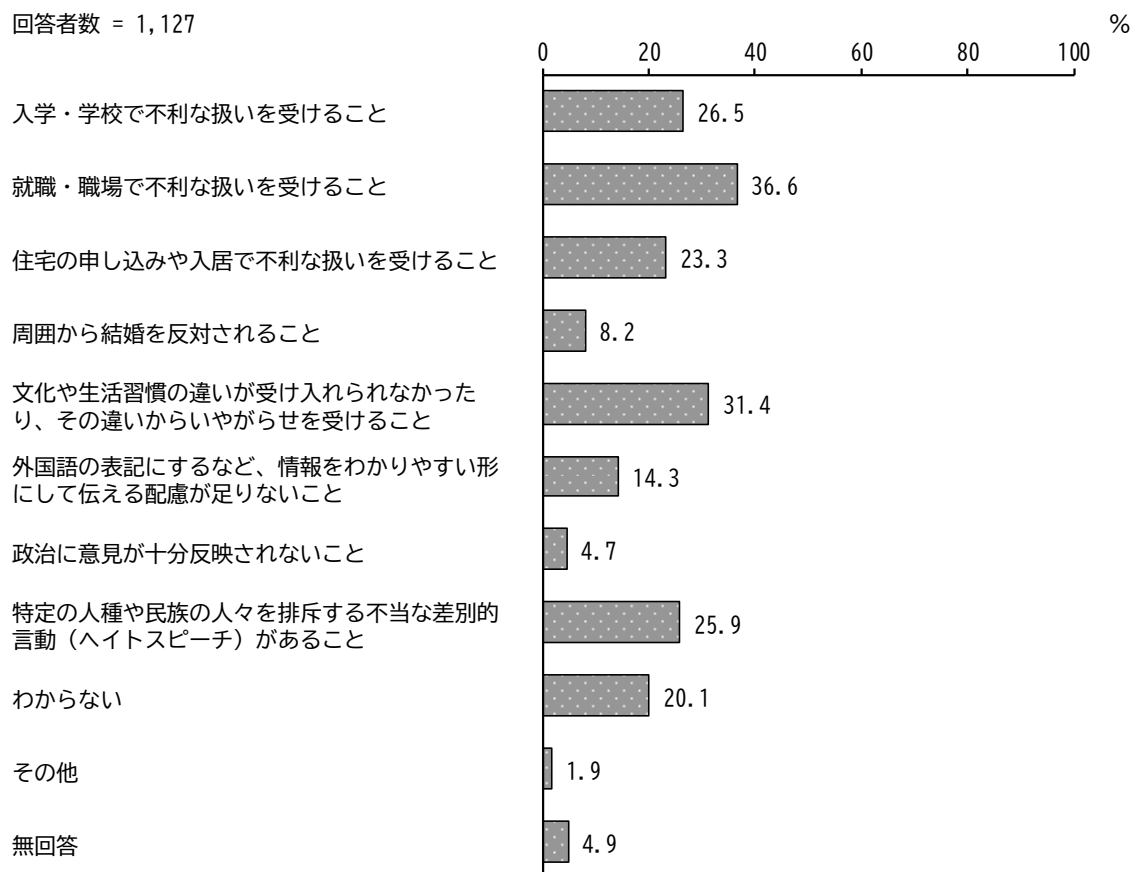


6 様々な人権課題について

問 24 日本に居住している外国人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるもの3つまで○】

「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が 36.6%と最も高く、次いで「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」の割合が 31.4%、「入学・学校で不利な扱いを受けること」の割合が 26.5%となっています。

回答者数 = 1,127



【性別・年代別】

年代別にみると、20 歳代から 70 歳代まで年代が上がるほど「外国語の表記にするなど、情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の割合が高くなっています。

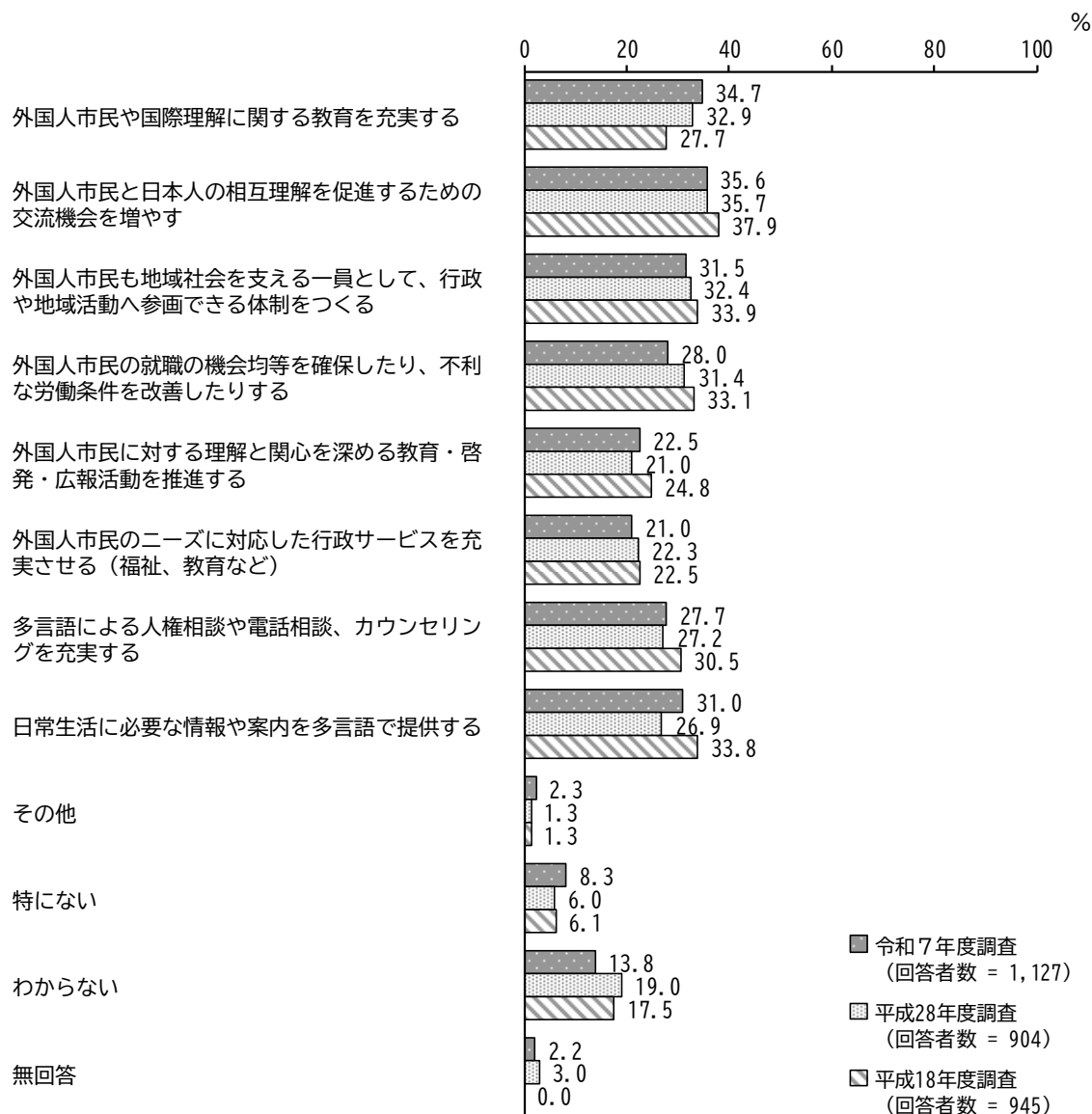
(単位：％)		回答者数	入学・学校で不利な扱いを受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	住宅の申し込みや入居で不利な扱いを受けること	周囲から結婚を反対されること	文化や生活習慣の違いを受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること
全 体		1,127	26.5	36.6	23.3	8.2	31.4
性別	女性	649	26.5	35.6	22.5	8.0	30.8
	男性	442	26.5	38.0	24.7	8.6	32.4
年代別	10歳代	13	61.5	38.5	23.1	7.7	46.2
	20歳代	86	23.3	43.0	24.4	9.3	34.9
	30歳代	110	23.6	33.6	20.9	13.6	31.8
	40歳代	152	30.9	38.8	25.7	7.9	32.9
	50歳代	253	24.9	36.4	22.9	7.5	34.0
	60歳代	197	25.9	41.1	23.4	6.1	32.5
	70歳代	194	23.7	31.4	25.3	6.7	26.8
	80歳以上	112	29.5	31.3	18.8	10.7	25.9

(単位：％)		外国語の表記にするなど、情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと	政治に意見が十分反映されないこと	特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動（ヘイトスピーチ）があること	わからない	その他	無回答
全 体		14.3	4.7	25.9	20.1	1.9	4.9
性別	女性	16.2	5.4	26.5	20.2	1.1	5.7
	男性	11.3	3.2	26.2	19.2	3.2	3.6
年代別	10歳代	7.7	0.0	30.8	15.4	0.0	7.7
	20歳代	8.1	2.3	20.9	19.8	4.7	3.5
	30歳代	10.9	3.6	19.1	23.6	3.6	3.6
	40歳代	12.5	4.6	22.4	17.1	2.0	3.3
	50歳代	14.2	4.7	26.1	22.5	0.4	3.2
	60歳代	15.2	5.6	32.5	16.8	2.5	3.6
	70歳代	19.6	5.2	25.8	19.6	1.0	8.2
	80歳以上	14.3	5.4	31.3	22.3	1.8	8.9

問 25 あなたは、外国人の人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。
【あてはまるものすべてに○】

「外国人市民と日本人の相互理解を促進するための交流機会を増やす」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「外国人市民や国際理解に関する教育を充実する」の割合が 34.7%、「外国人市民も地域社会を支える一員として、行政や地域活動へ参画できる体制をつくる」の割合が 31.5%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「外国人市民や国際理解に関する教育を充実する」の割合が増加しています。一方、「外国人市民の就職の機会均等を確保したり、不利な労働条件を改善したりする」の割合が減少しています。



【性別・年代別】

性別にみると、女性で「多言語による人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する」「日常生活に必要な情報や案内を多言語で提供する」の割合が高くなっています。

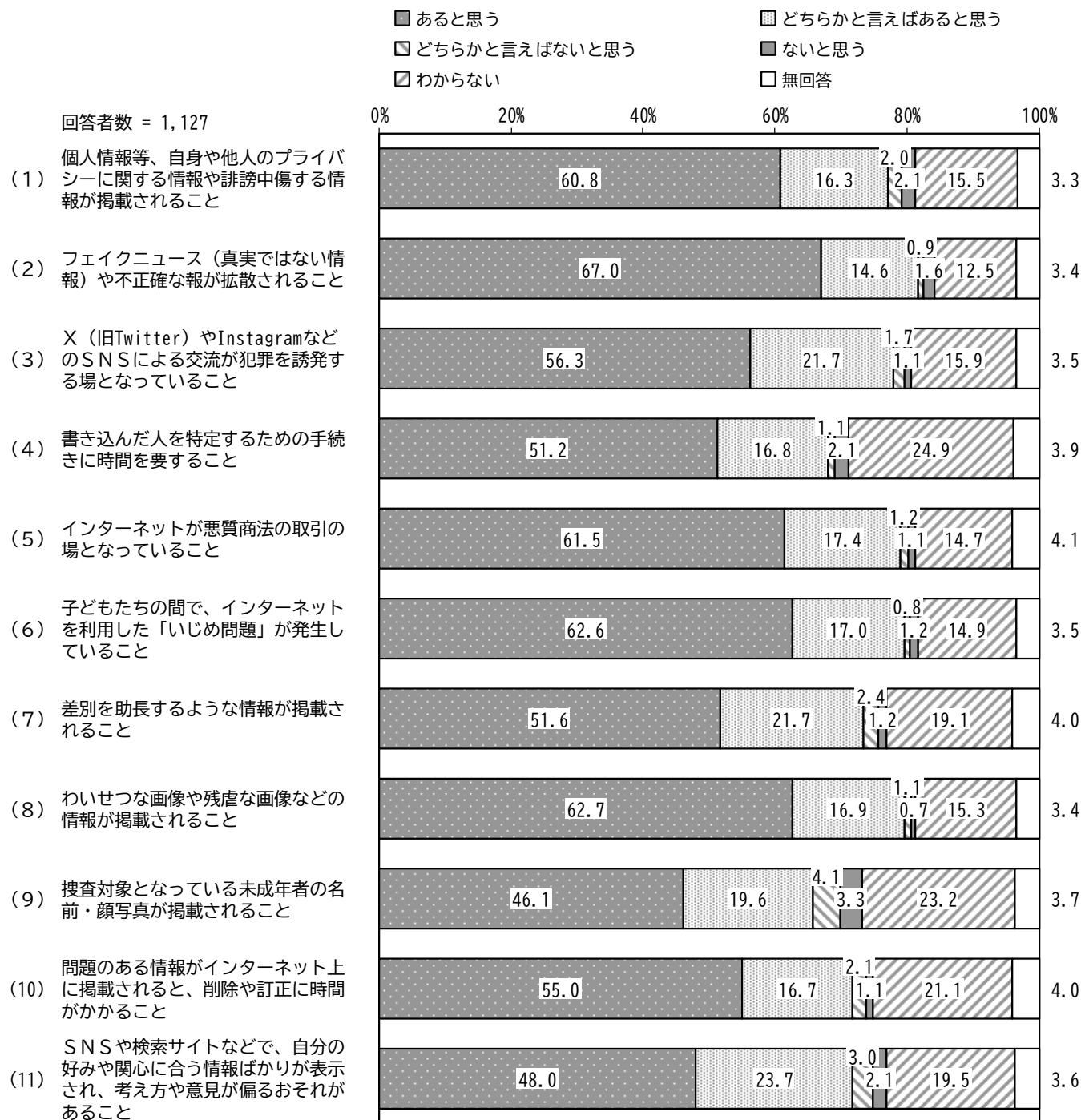
年代別にみると、30歳代から70歳代まで年代が上がるほど「外国人市民に対する理解と関心を深める教育・啓発・広報活動を推進する」「外国人市民のニーズに対応した行政サービスを充実させる（福祉、教育など）」「日常生活に必要な情報や案内を多言語で提供する」の割合が高く、20歳代から60歳代まで年代が上がるほど「多言語による人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する」の割合が高くなっています。

(単位：％)		回答者数	外国人市民や国際理解に関する教育を充実する	外国人市民と日本人の相互理解を促進するための交流機会を増やす	外国人市民も地域社会を支える一員として、行政や地域活動へ参画できる体制をつくる	外国人市民の就職の機会均等を確保したり、不利な労働条件を改善したりする	外国人市民に対する理解と関心を深める教育・啓発・広報活動を推進する	外国人市民のニーズに対応した行政サービスを充実させる（福祉、教育など）
全 体		1,127	34.7	35.6	31.5	28.0	22.5	21.0
性別	女性	649	34.7	33.9	32.2	30.0	23.1	22.2
	男性	442	35.7	38.5	32.1	25.8	22.2	20.1
年代別	10歳代	13	46.2	61.5	23.1	61.5	23.1	15.4
	20歳代	86	34.9	36.0	18.6	26.7	19.8	14.0
	30歳代	110	32.7	33.6	21.8	21.8	15.5	12.7
	40歳代	152	40.1	33.6	34.9	19.7	17.1	20.4
	50歳代	253	35.6	31.2	28.1	24.5	19.8	20.6
	60歳代	197	37.1	38.6	39.1	32.5	22.8	20.8
	70歳代	194	28.4	34.0	36.1	37.1	32.0	31.4
	80歳以上	112	34.8	43.8	33.9	25.9	27.7	20.5

(単位：％)		多言語による人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する	日常生活に必要な情報や案内を多言語で提供する	その他	特にな	わからない	無回答
全 体		27.7	31.0	2.3	8.3	13.8	2.2
性別	女性	30.0	35.7	1.7	5.7	15.1	2.3
	男性	24.7	23.8	3.2	12.0	12.2	1.8
年代別	10歳代	30.8	46.2	0.0	7.7	7.7	0.0
	20歳代	19.8	22.1	3.5	15.1	14.0	1.2
	30歳代	20.0	21.8	4.5	10.9	19.1	0.9
	40歳代	23.7	24.3	2.0	9.9	12.5	0.7
	50歳代	28.5	32.8	1.6	9.5	14.2	0.8
	60歳代	36.5	35.5	3.6	5.1	12.2	1.5
	70歳代	30.4	36.6	0.5	5.2	12.4	4.1
	80歳以上	25.9	32.1	1.8	7.1	16.1	7.1

問 26 あなたは現在、インターネットに関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。【(1)～(11)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

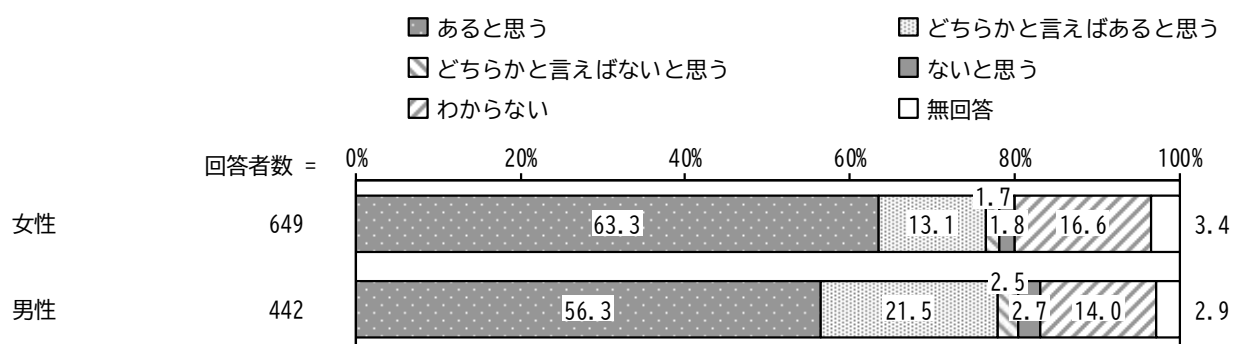
『(2) フェイクニュース（真実ではない情報）や不正確な情報が拡散されること』で「あると思う」が、『(11) SNSや検索サイトなどで、自分の好みや関心に合う情報ばかりが表示され、考え方や意見が偏るおそれがあること』で「どちらかと言えばあると思う」が、『(9) 捜査対象となっている未成年者の名前・顔写真が掲載されること』で「どちらかと言えばないと思う」「ないと思う」が、『(4) 書き込んだ人を特定するための手続きに時間を要すること』で「わからない」が高くなっています。



(1) 個人情報等、自身や他人のプライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載されること

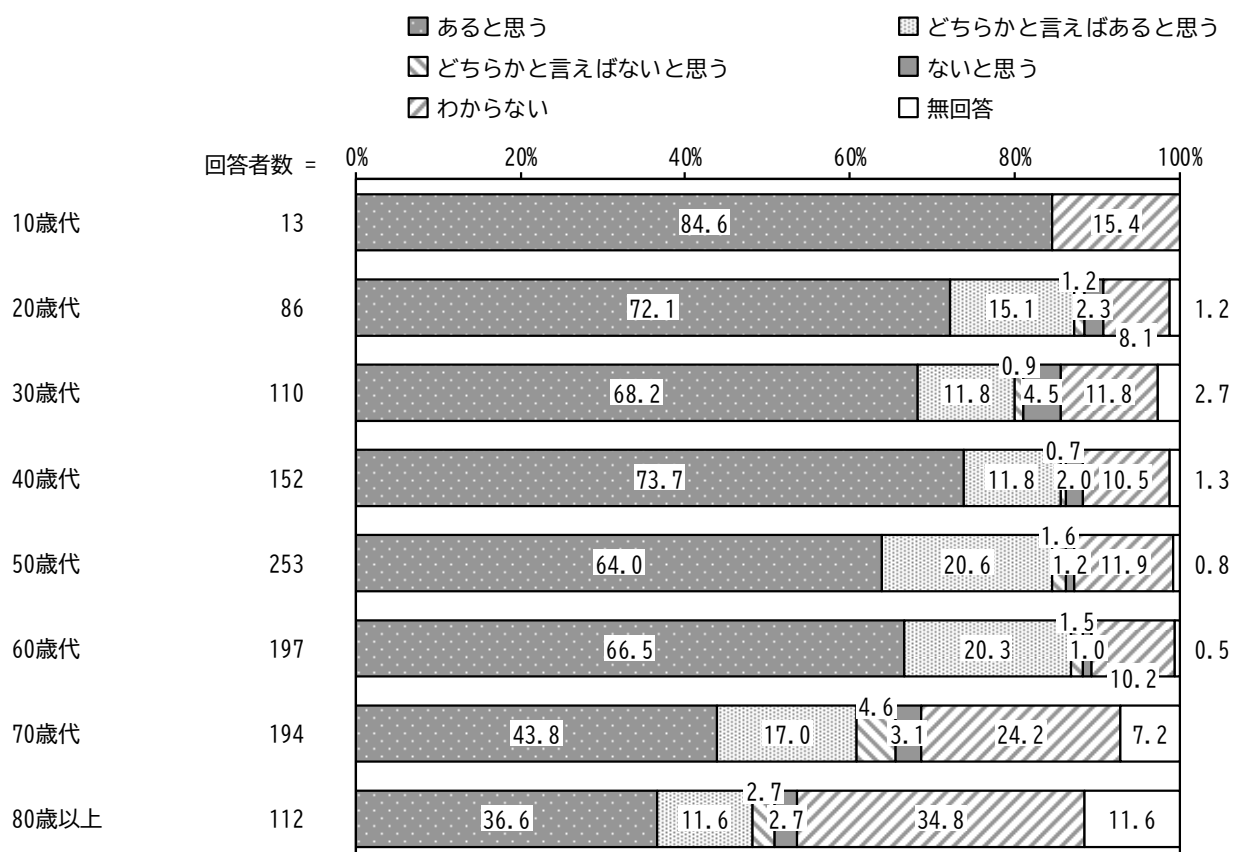
【性別】

性別にみると、女性で「あると思う」の割合が高く、男性で「どちらかと言えばあると思う」の割合が高くなっています。



【年代別】

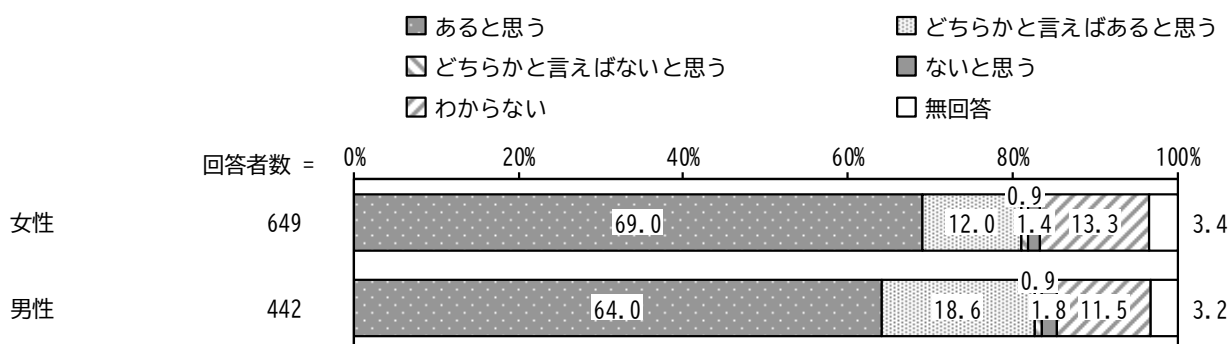
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「あると思う」の割合が高い傾向にあります。



（２）フェイクニュース（真実ではない情報）や不正確な報が拡散されること

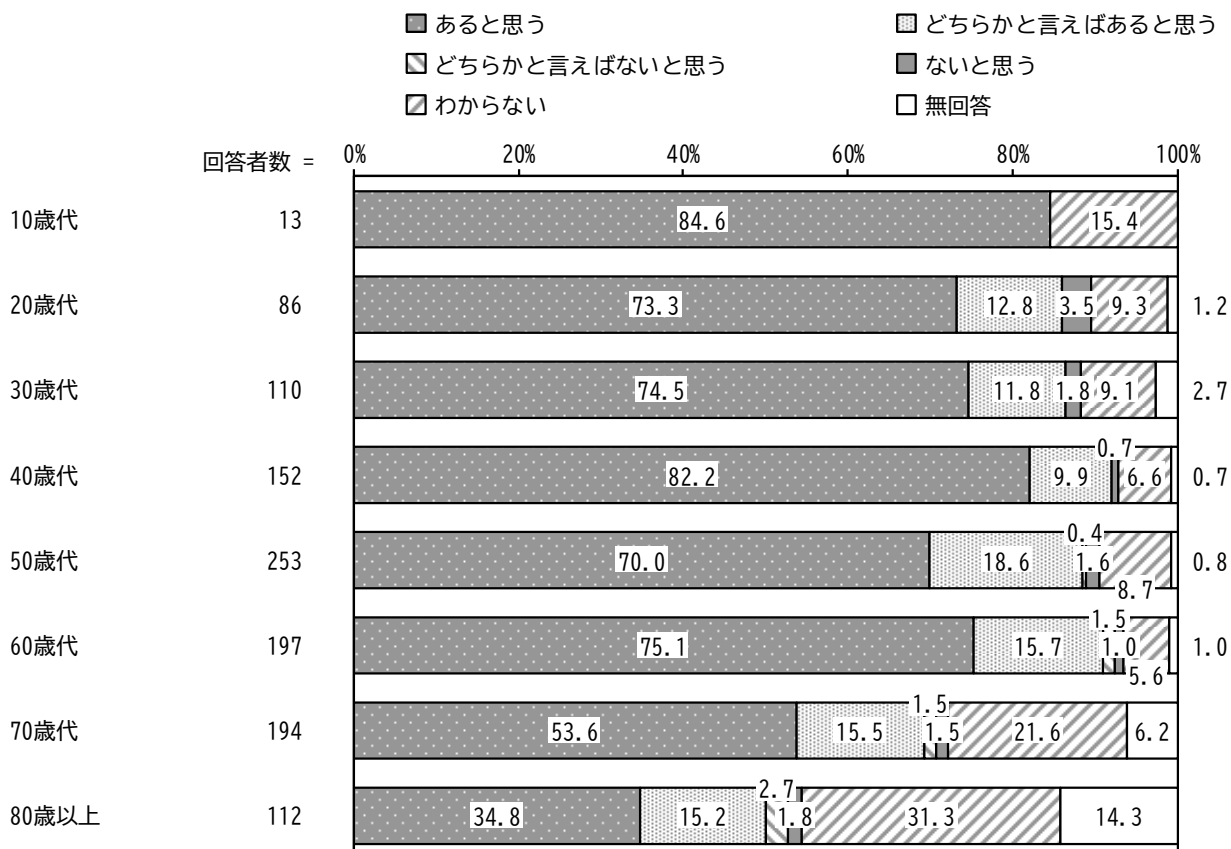
【性別】

性別にみると、女性で「あると思う」の割合が高く、男性で「どちらかと言えばあると思う」の割合が高くなっています。



【年代別】

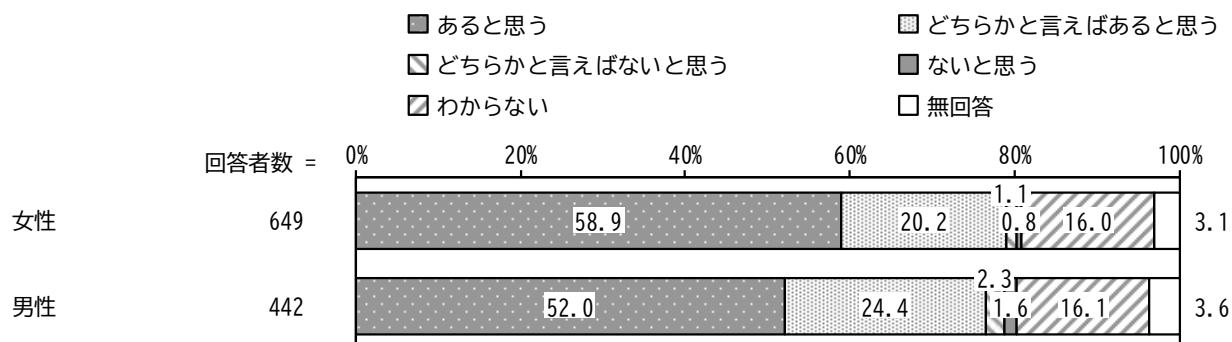
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高い傾向にあります。また、40歳代で「あると思う」の割合が高くなっています。



(3) X（旧 Twitter）や Instagram などの SNS による交流が犯罪を誘発する場となっていること

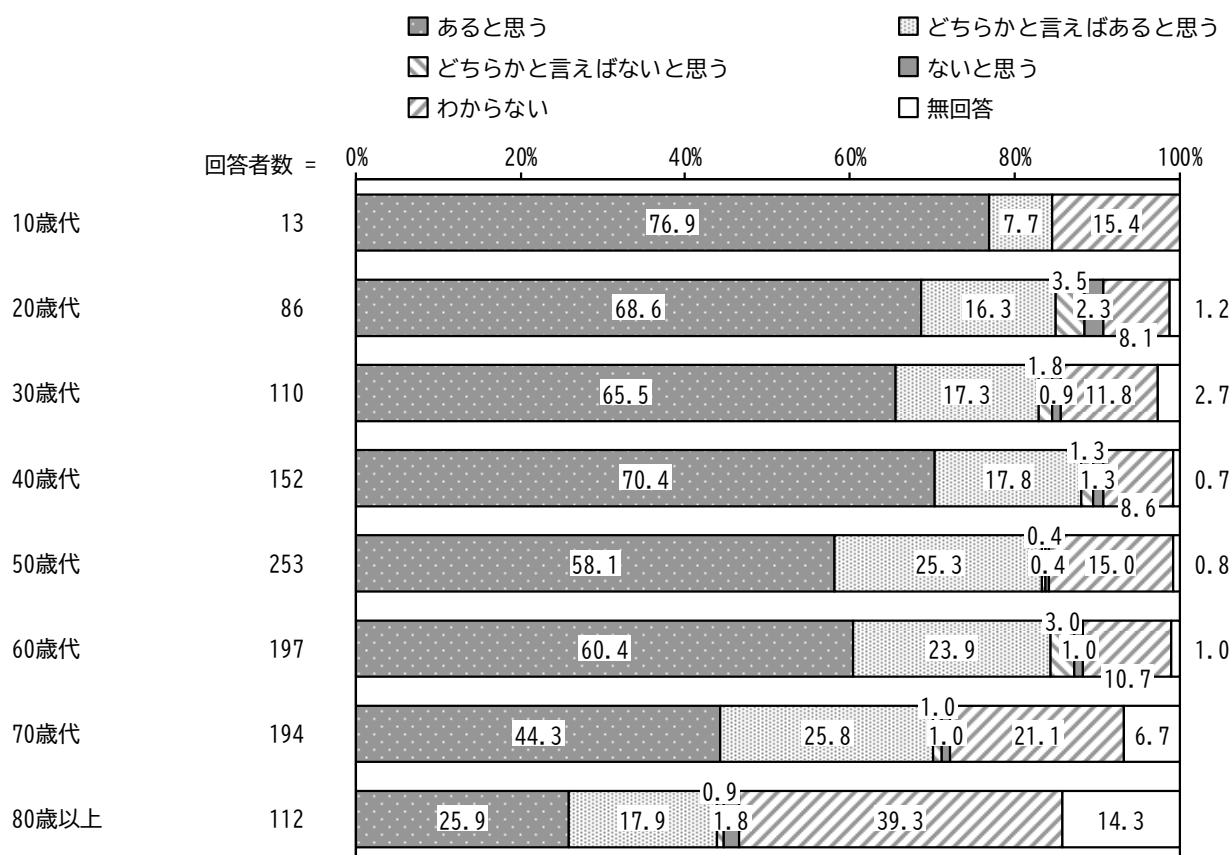
【性別】

性別にみると、女性で「あると思う」の割合が高くなっています。



【年代別】

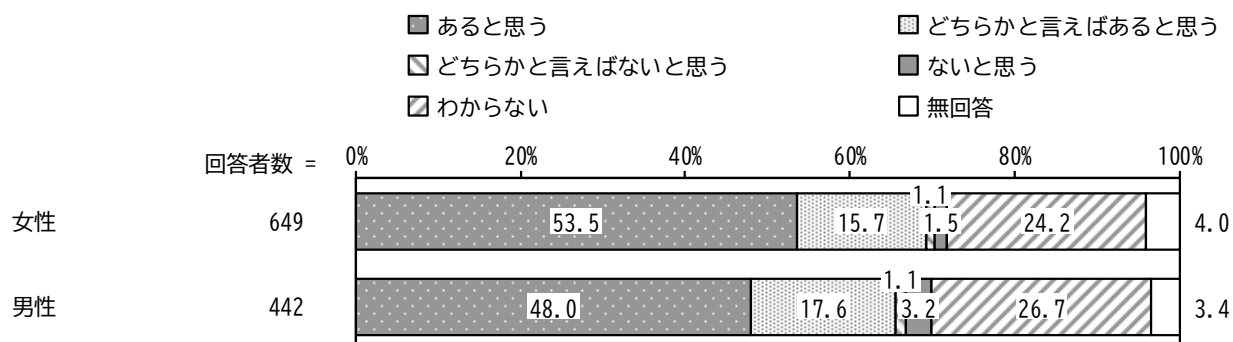
年代別にみると、80 歳以上から 40 歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高い傾向にあります。



(4) 書き込んだ人を特定するための手続きに時間を要すること

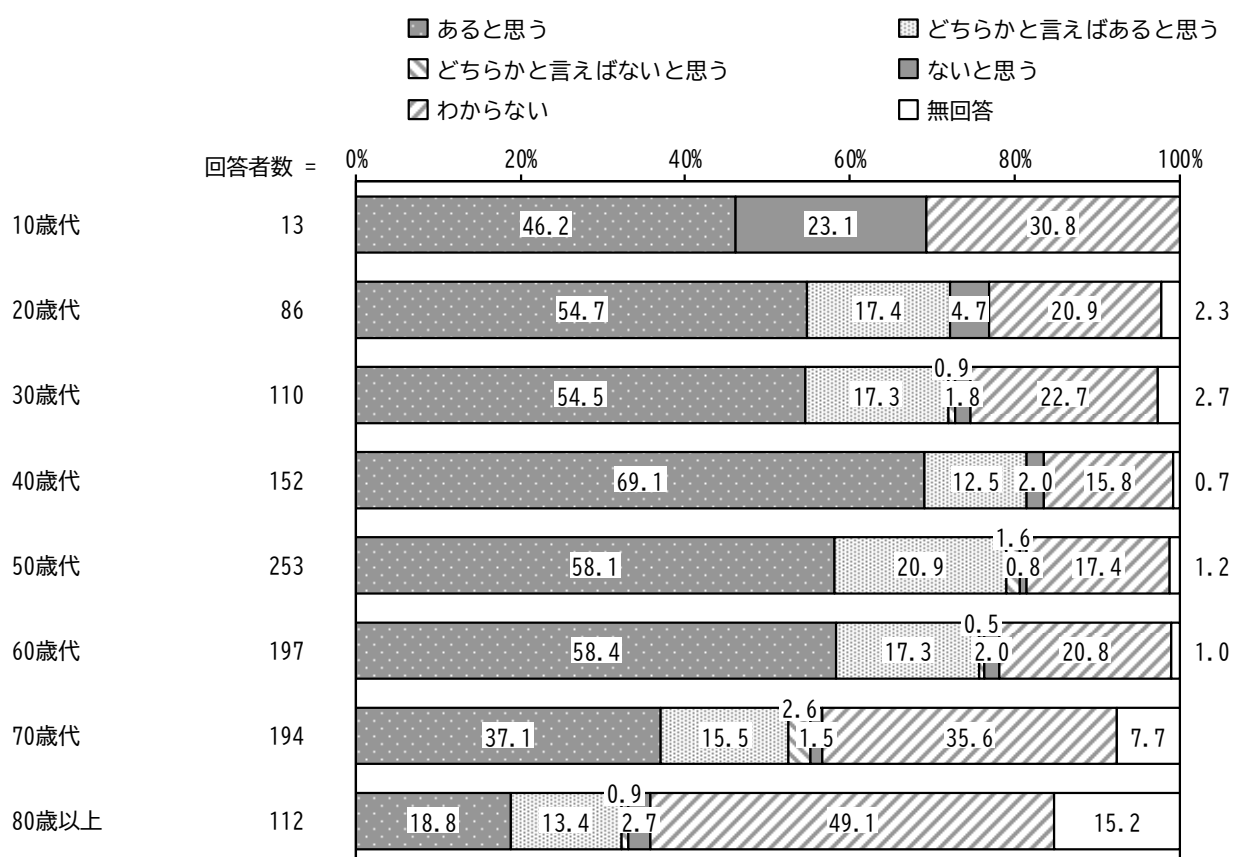
【性別】

性別にみると、女性で「あると思う」の割合が高くなっています。



【年代別】

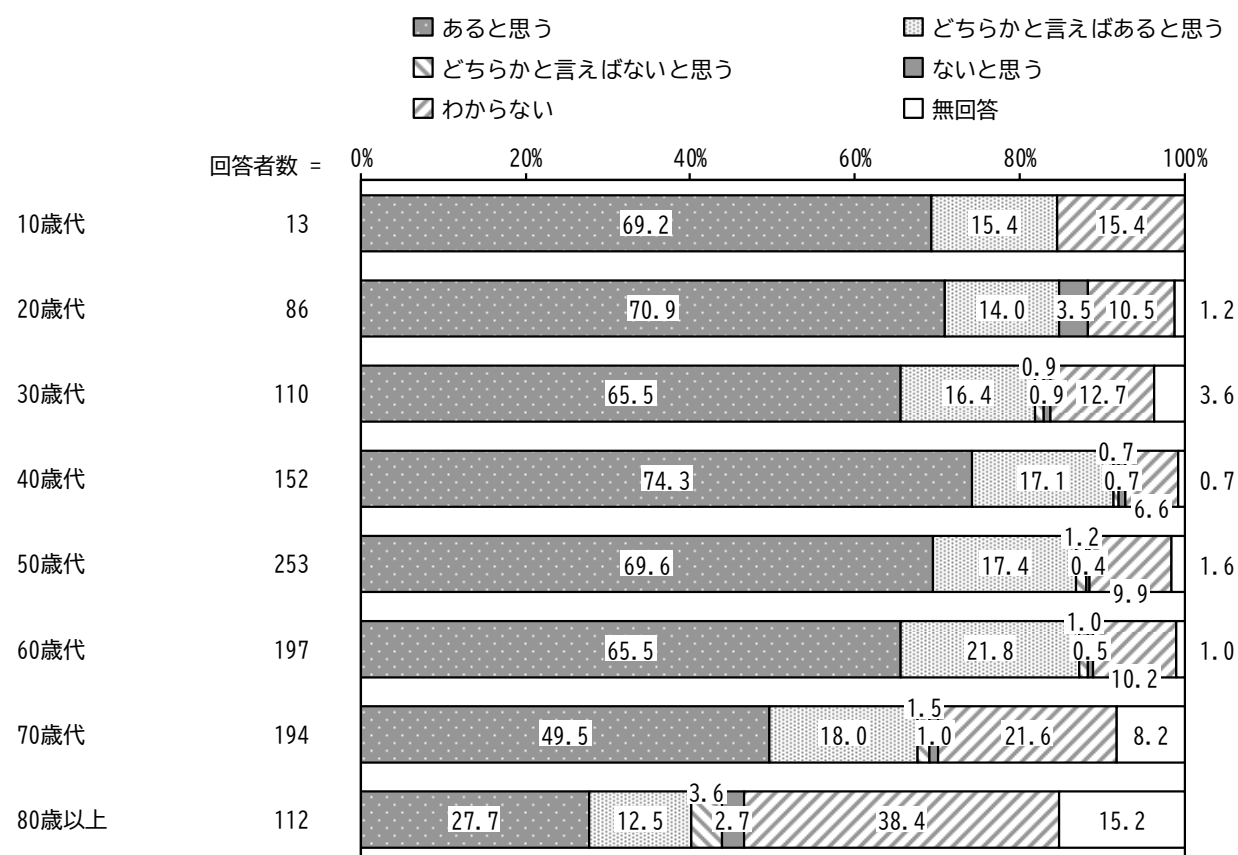
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高くなっています。また、40歳代で「あると思う」の割合が高くなっています。



（５）インターネットが悪質商法の取引の場となっていること

【年代別】

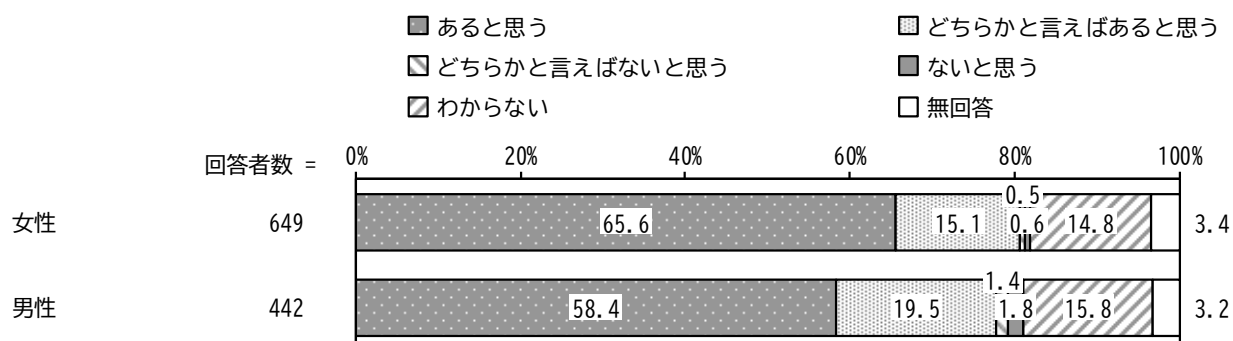
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「あると思う」の割合が高い傾向にあります。また、40歳代で「あると思う」の割合が高くなっています。



（６）子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生していること

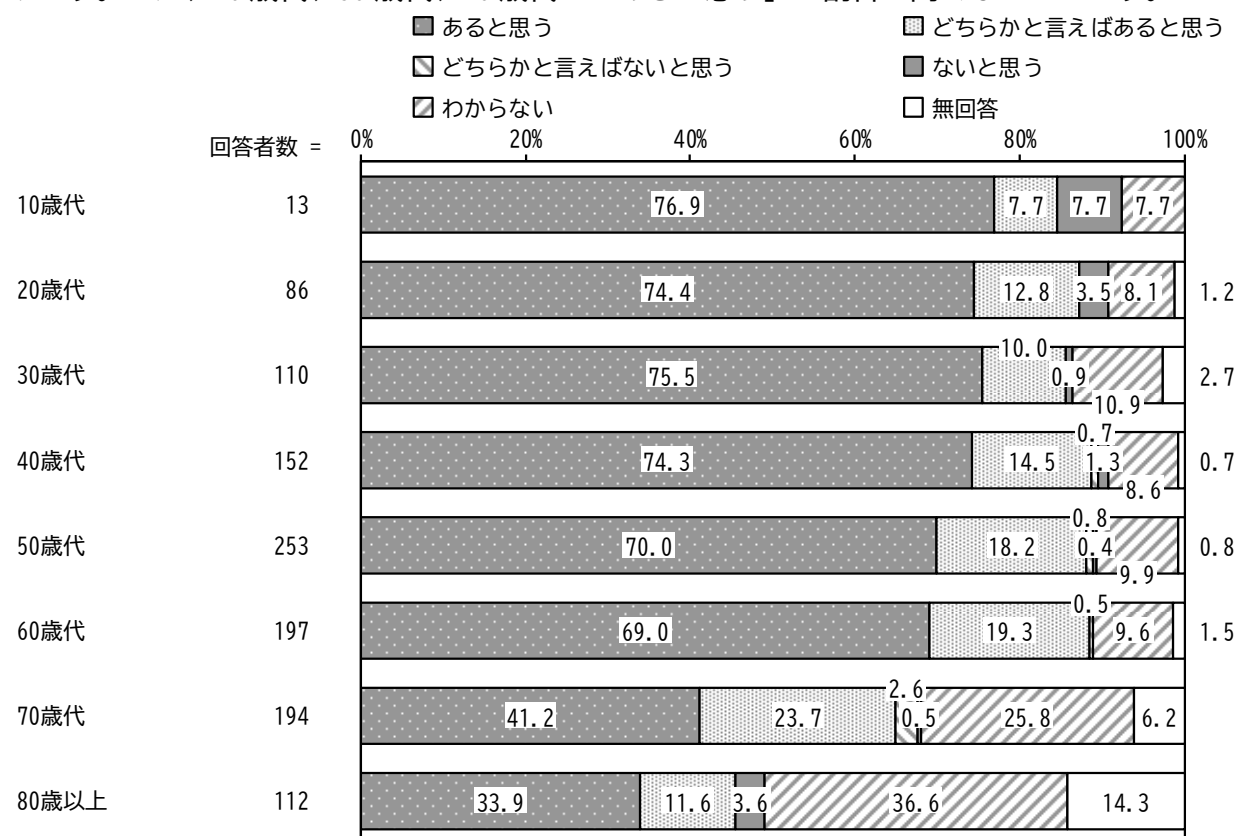
【性別】

性別にみると、女性で「あると思う」の割合が高くなっています。



【年代別】

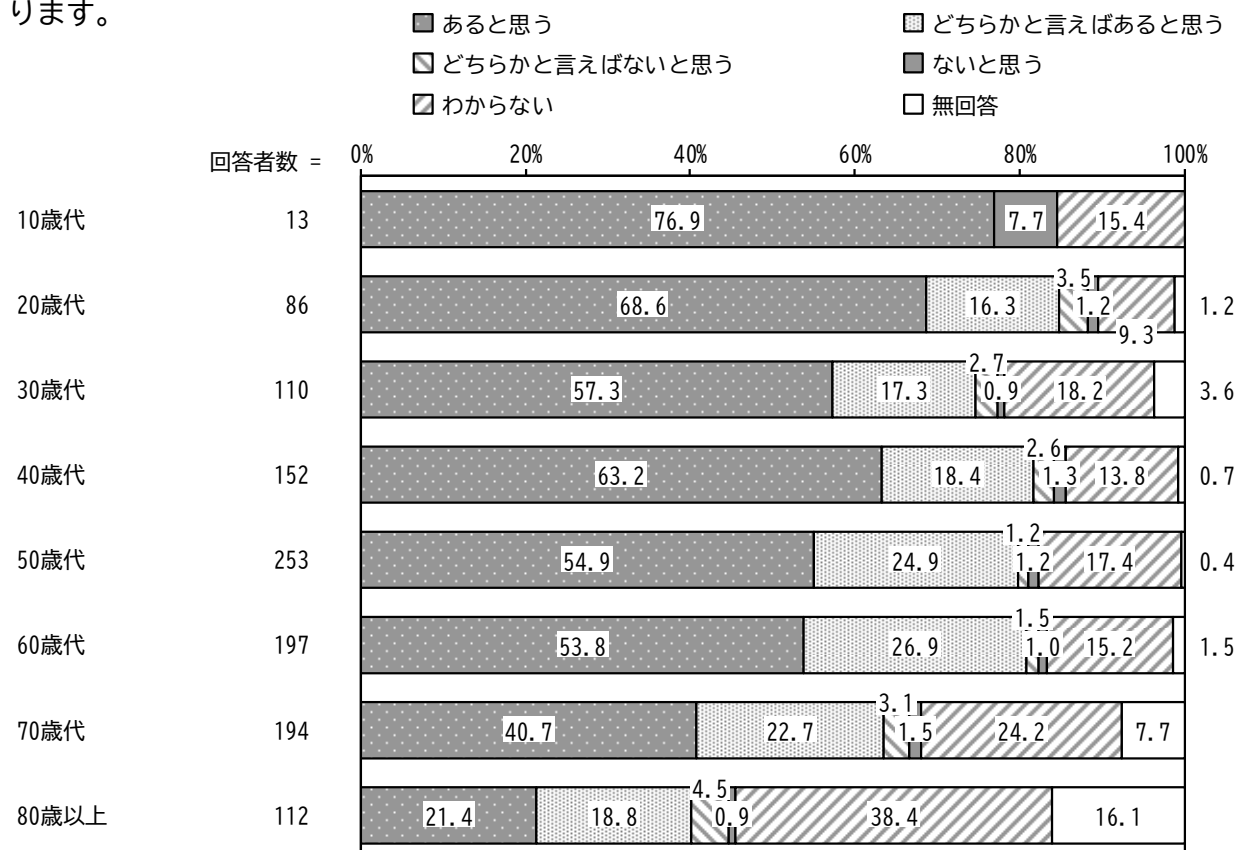
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高い傾向にあります。また、20歳代、30歳代、40歳代で「あると思う」の割合が高くなっています。



(7) 差別を助長するような情報が掲載されること

【年代別】

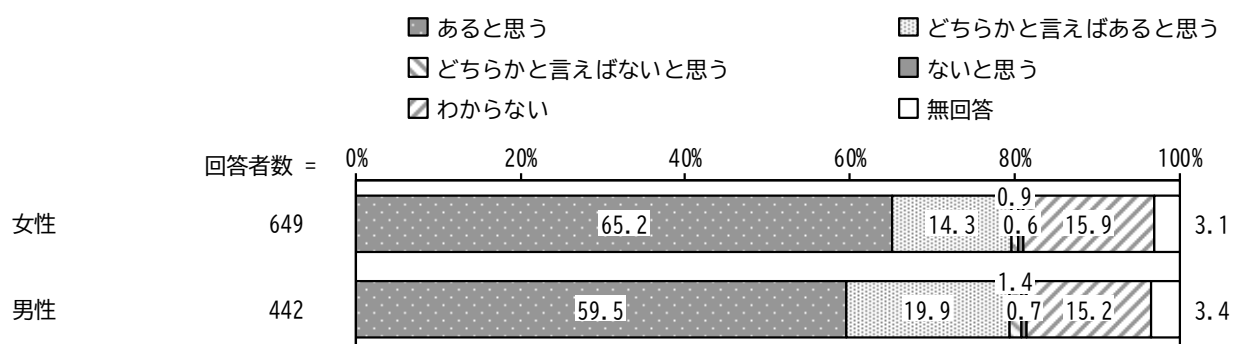
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高い傾向にあります。



（８）わいせつな画像や残虐な画像などの情報が掲載されること

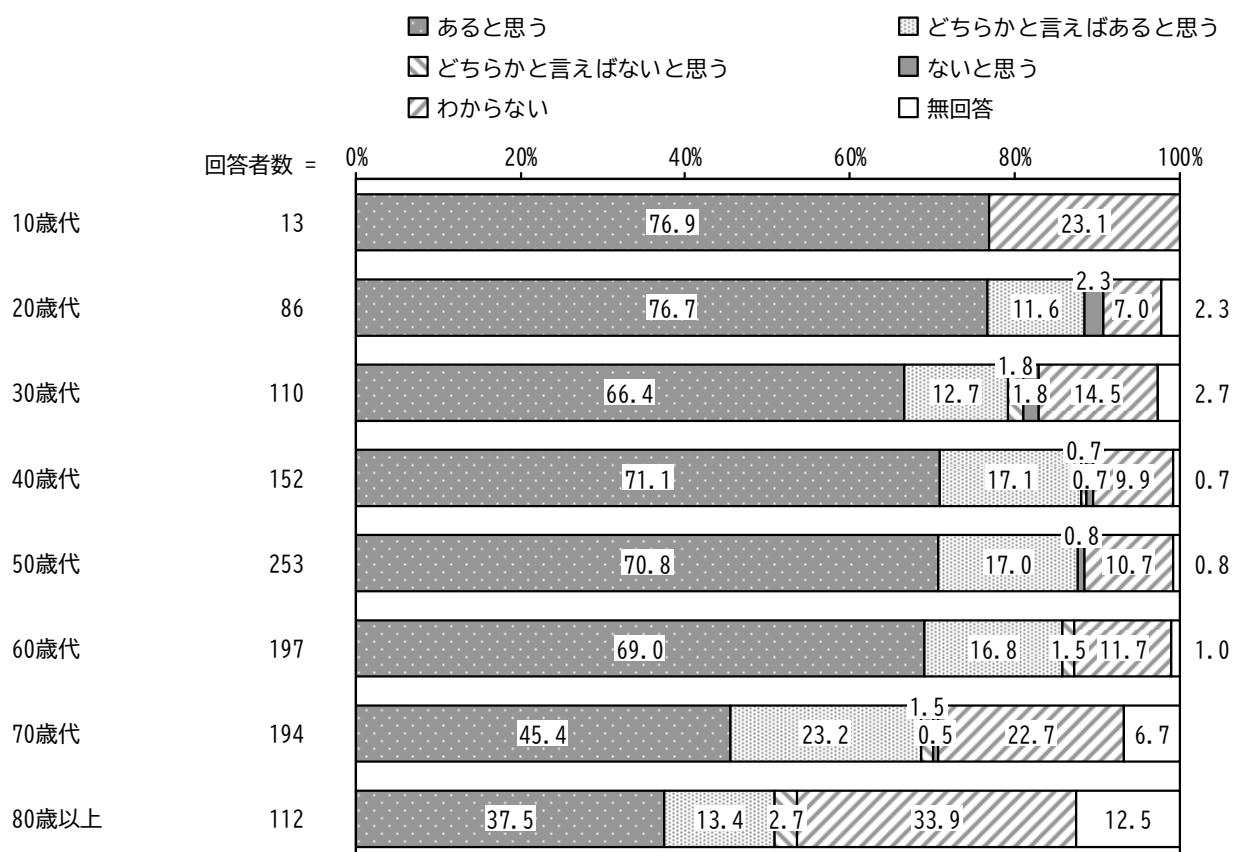
【性別】

性別にみると、女性で「あると思う」の割合が高く、男性で「どちらかと言えばあると思う」の割合が高くなっています。



【年代別】

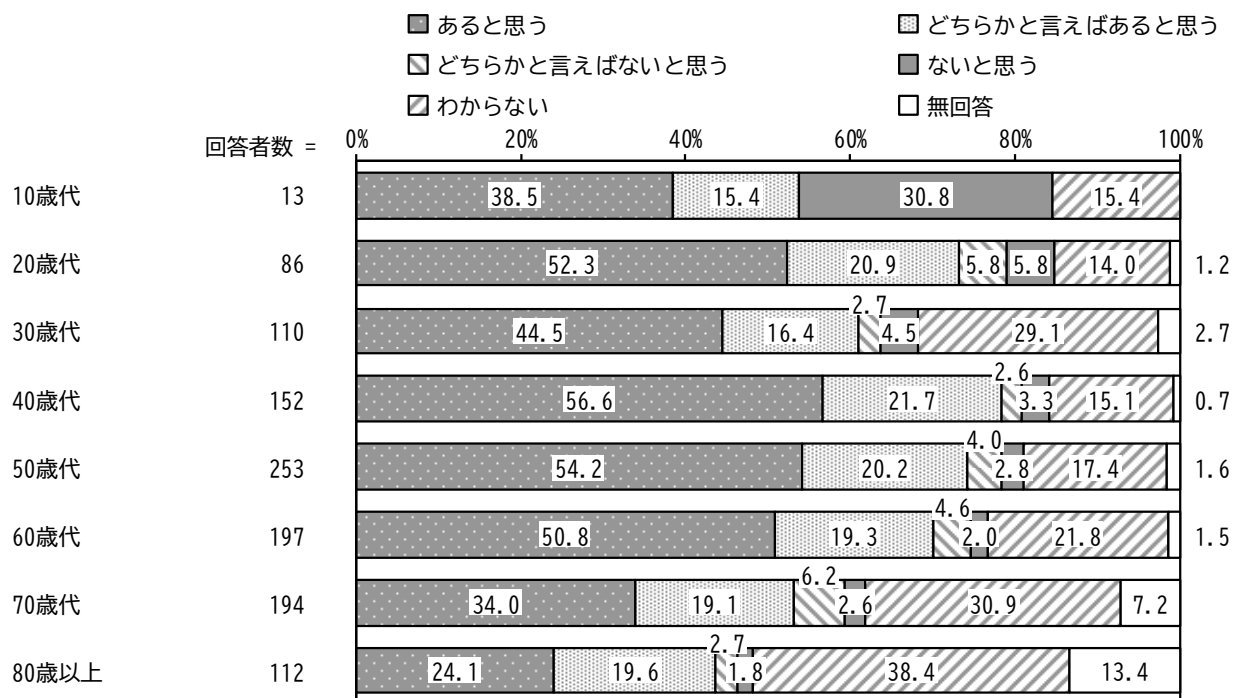
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高くなっています。また、20歳代で「あると思う」の割合が高くなっています。



(9) 捜査対象となっている未成年者の名前・顔写真が掲載されること

【年代別】

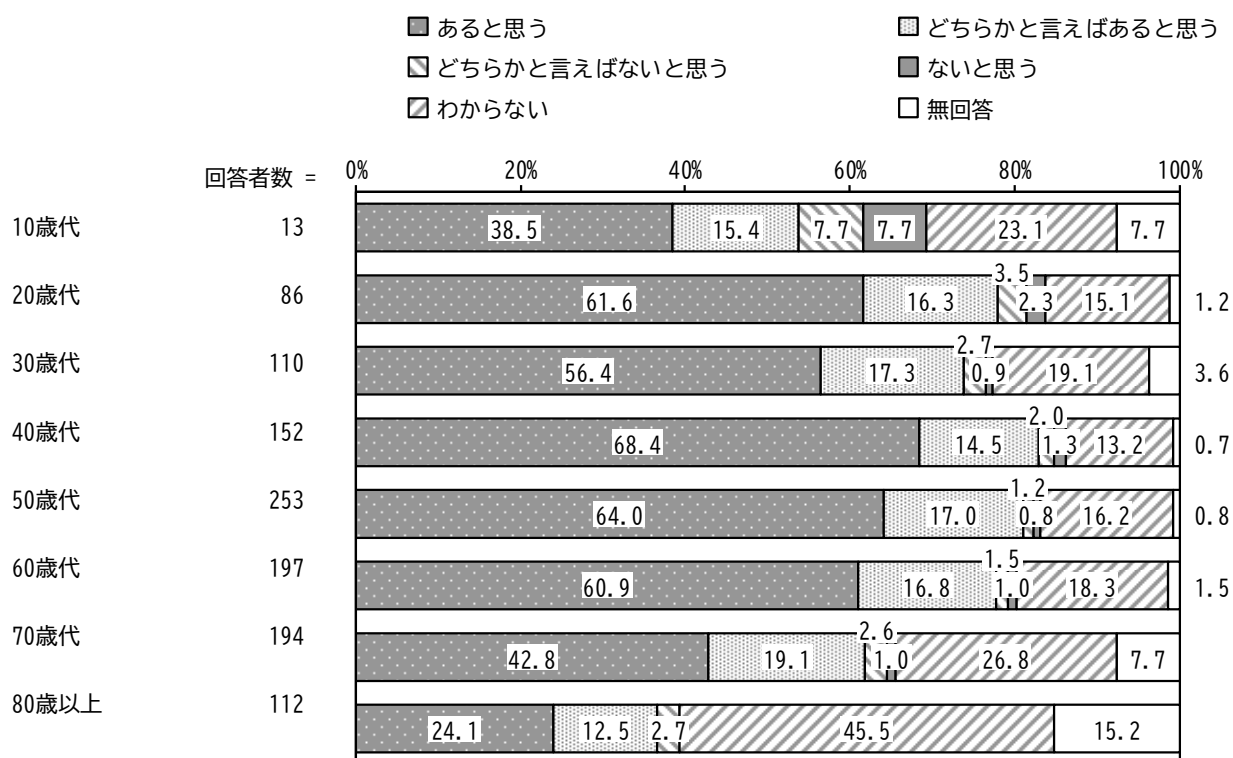
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高くなっています。また、40歳代で「あると思う」の割合が高くなっています。



(10) 問題のある情報がインターネット上に掲載されると、削除や訂正に時間がかかること

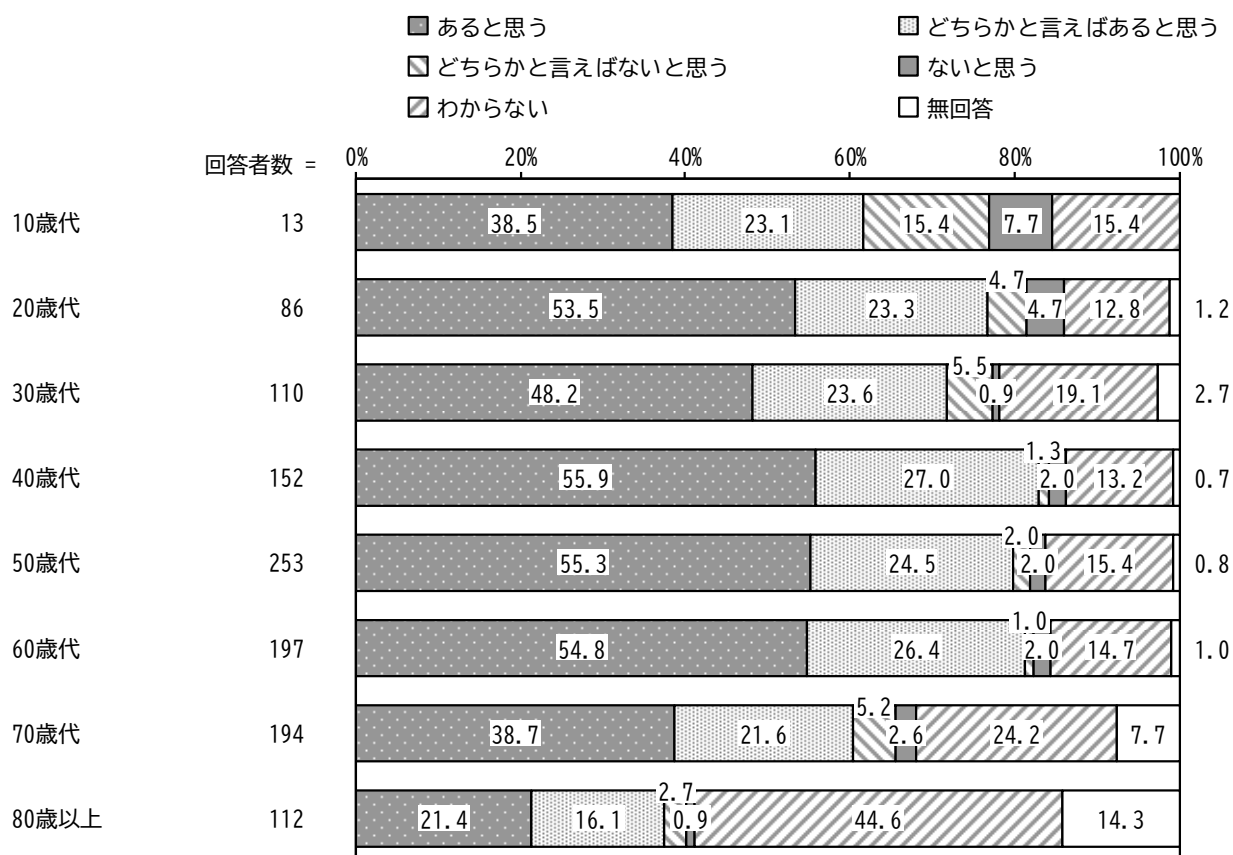
【年代別】

年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“あると思う”の割合が高くなっています。また、40歳代で「あると思う」の割合が高くなっています。



(11) SNSや検索サイトなどで、自分の好みや関心に合う情報ばかりが表示され、考え方や意見が偏るおそれがあること
【年代別】

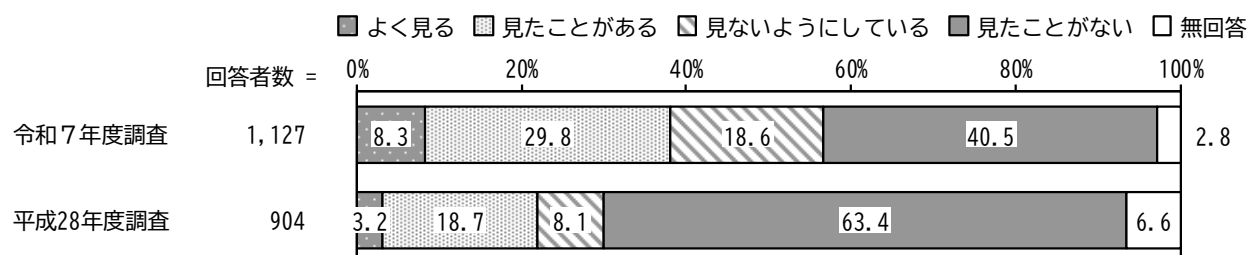
年代別にみると、60歳代から10歳代まで年代が下がるほど“ないと思う”の割合が高い傾向にあります。また、80歳以上で「あると思う」の割合が低くなっています。



問 27 インターネット上で、差別的な表現や他人を誹謗中傷するなど、人権侵害と思われるような書き込みやホームページについて、お聞きします。
あなたは、そのような内容のページを見たことがありますか。
【あてはまるもの1つに○】

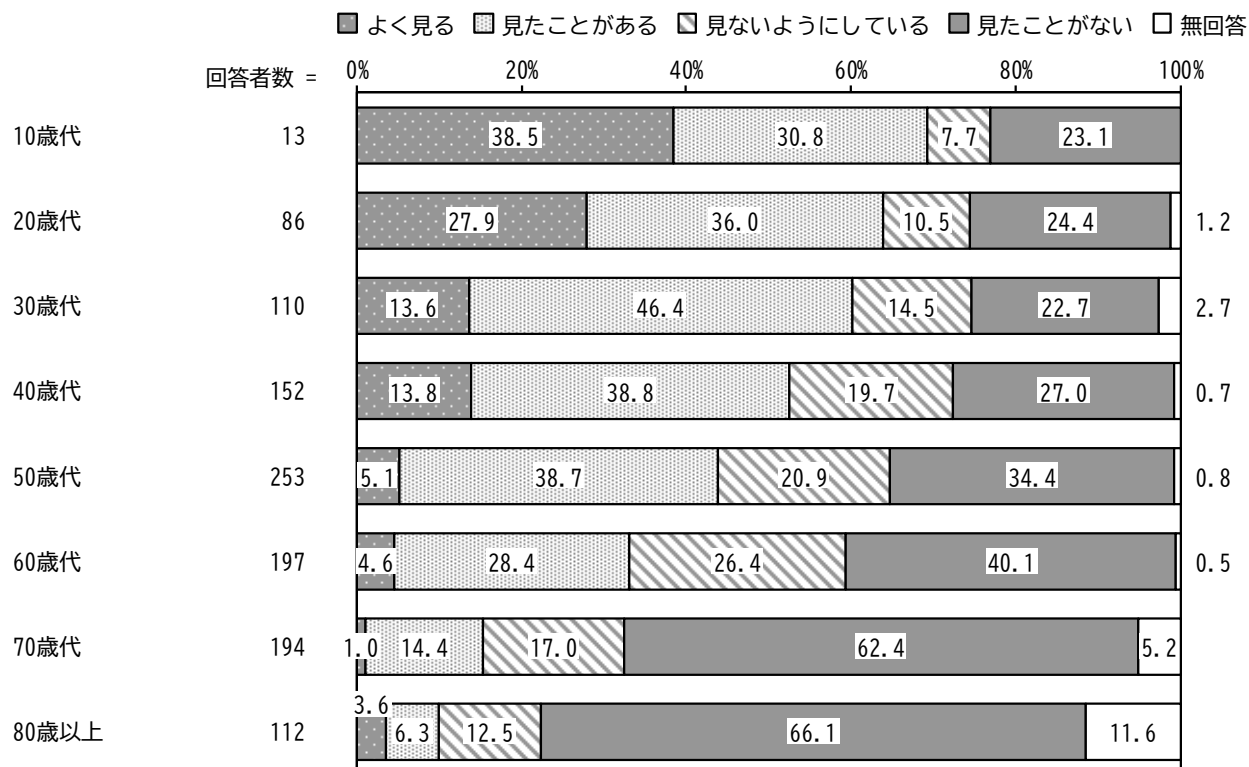
「見たことがない」の割合が40.5%と最も高く、次いで「見たことがある」の割合が29.8%、「見ないようにしている」の割合が18.6%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「よく見る」「見たことがある」「見ないようにしている」の割合が増加しています。一方、「見たことがない」の割合が減少しています。



【年代別】

年代別にみると、70歳代から10歳代まで年代が下がるほど「よく見る」の割合が高い傾向にあり、30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「見たことがない」の割合が高く、「見たことがある」の割合が低くなっています。



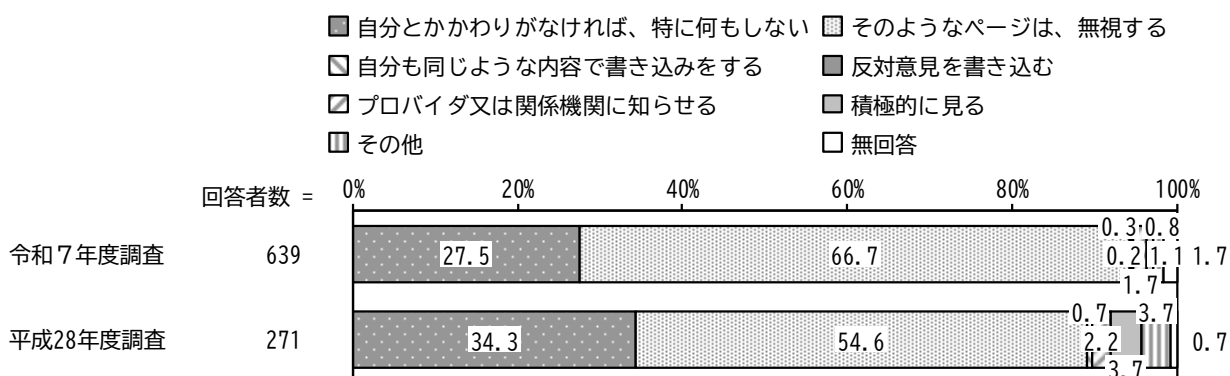
問 27-1 【問 27 で「よく見る」「見たことがある」「見ないようにしている」と回答した方におうかがいします。】

そのようなページを見たとき、どのようにされますか。

【あてはまるもの1つに○】

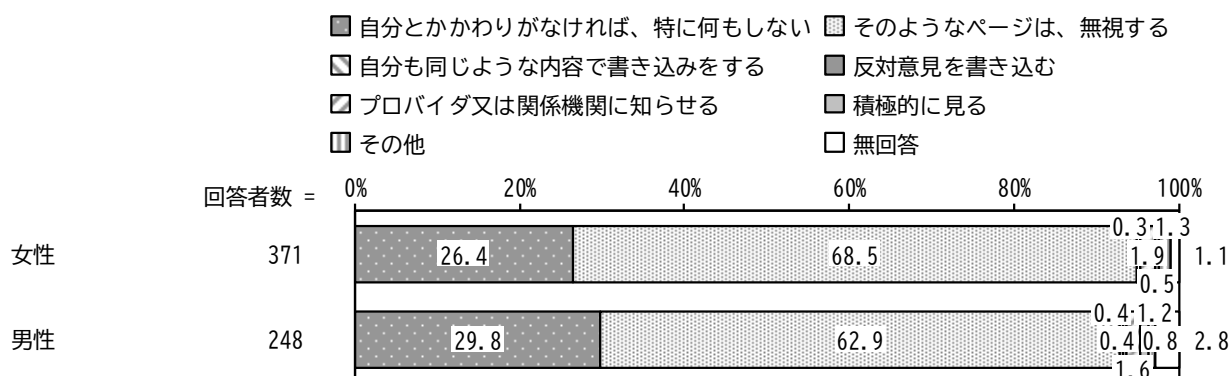
「そのようなページは、無視する」の割合が66.7%と最も高く、次いで「自分とかかわりがなければ、特に何もしない」の割合が27.5%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「そのようなページは、無視する」の割合が増加しています。一方、「自分とかかわりがなければ、特に何もしない」の割合が減少しています。



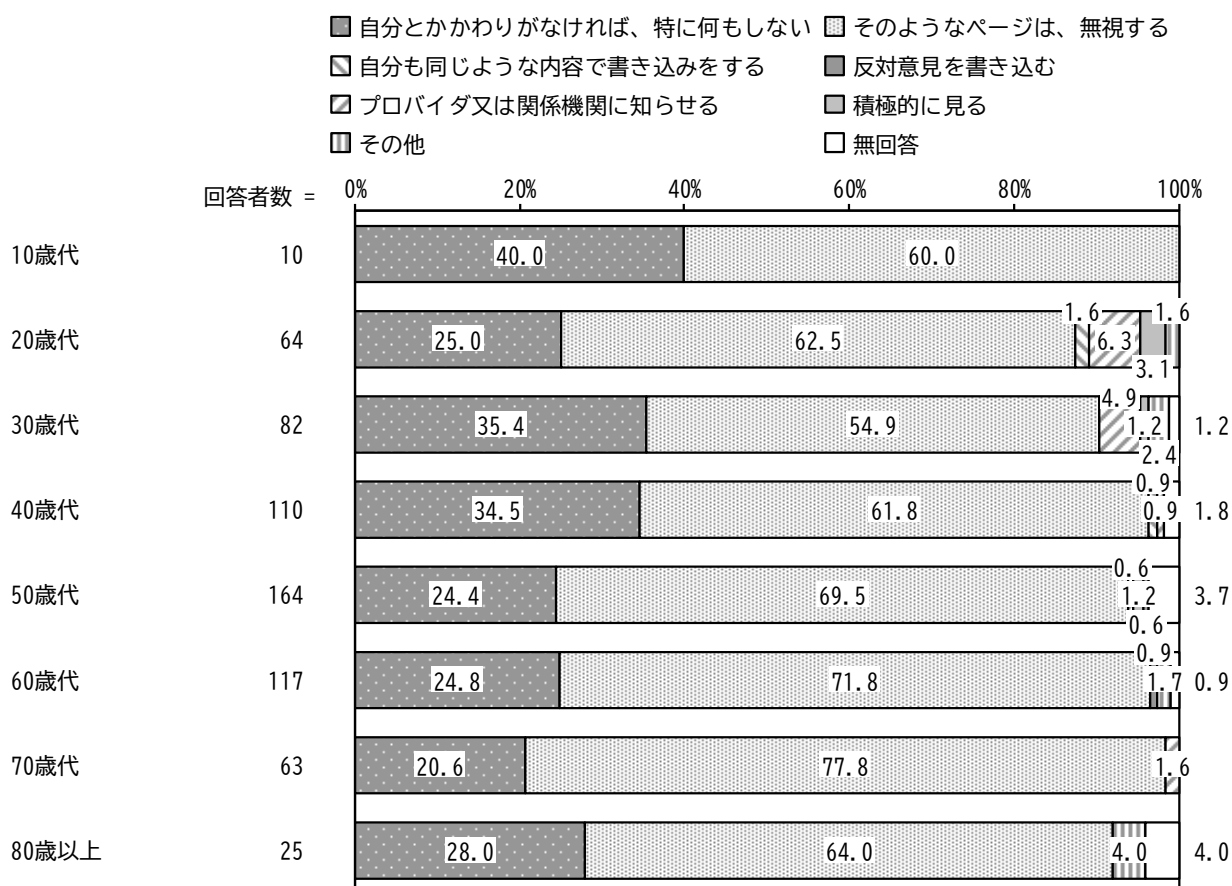
【性別】

性別にみると、女性で「そのようなページは、無視する」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別にみると、30 歳代から 70 歳代まで年代が上がるほど「そのようなページは、無視する」の割合が高く、「自分とかかわりがなければ、特に何もしない」の割合が低い傾向にあります。

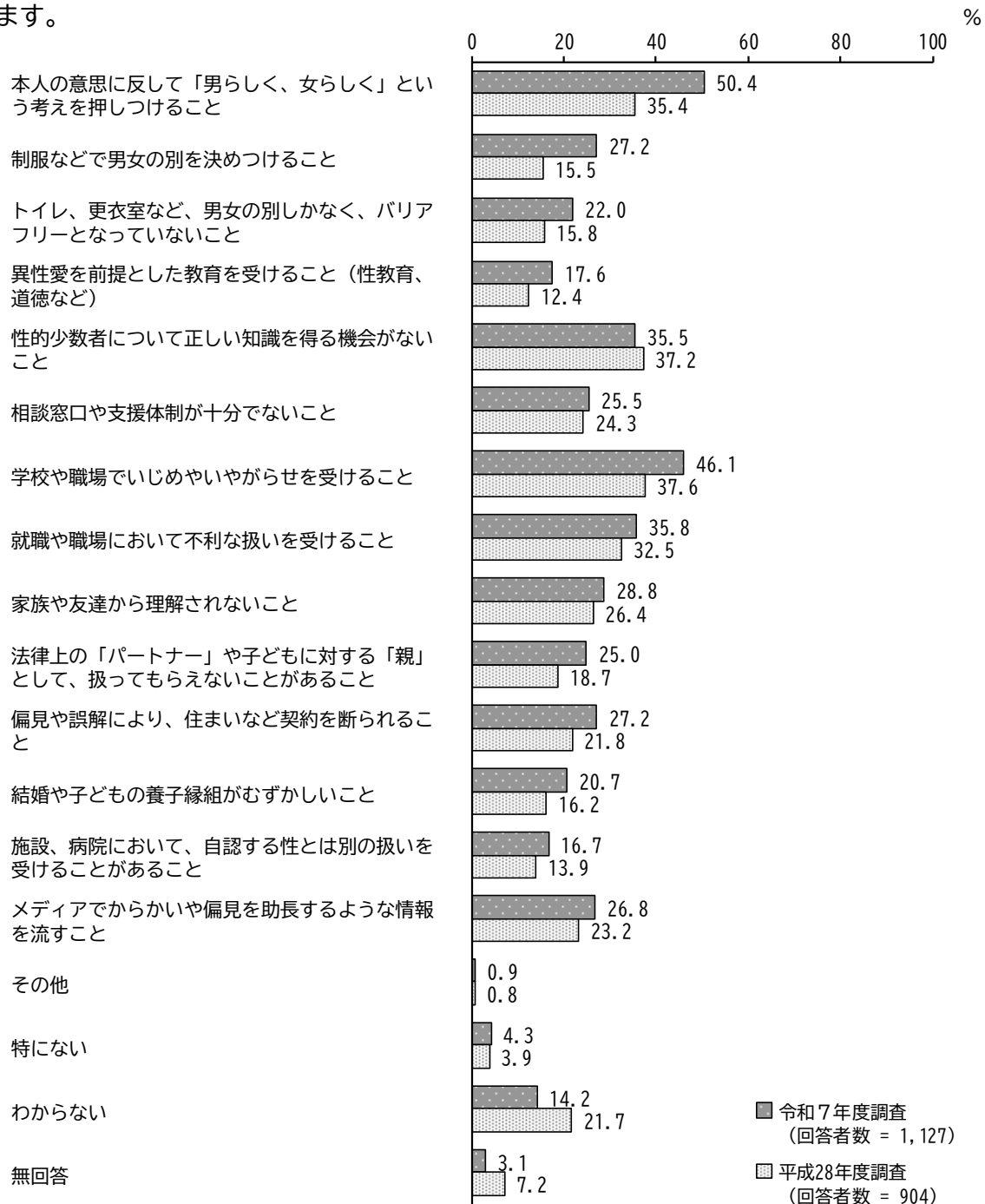


問 28 性的マイノリティの人々の人権についておたずねします。

性的マイノリティの人々に関する人権のことで、あなたが特に課題だと思われるのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】

「本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」の割合が 46.1%、「就職や職場において不利な扱いを受けること」の割合が 35.8%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」「制服などで男女の別を決めつけること」「トイレ、更衣室など、男女の別しかなく、バリアフリーとなっていないこと」「異性愛を前提とした教育を受けること（性教育、道徳など）」「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」「法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること」「偏見や誤解により、住まいなど契約を断られること」の割合が増加しています。



※平成 28 年度調査では、「相談窓口や支援体制が十分でないこと」が「相談場所がないこと」となっていました。

【性別・年代別】

性別にみると、女性で「本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」「制服などで男女の別を決めつけること」「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」「就職や職場において不利な扱いを受けること」「家族や友達から理解されないこと」「法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること」「結婚や子どもの養子縁組がむずかしいこと」「施設、病院において、自認する性とは別の扱いを受けることがあること」「メディアでからかいや偏見を助長するような情報を流すこと」の割合が高くなっています。

年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」「制服などで男女の別を決めつけること」「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」「家族や友達から理解されないこと」「法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること」「結婚や子どもの養子縁組がむずかしいこと」「施設、病院において、自認する性とは別の扱いを受けることがあること」の割合が高い傾向にあります。

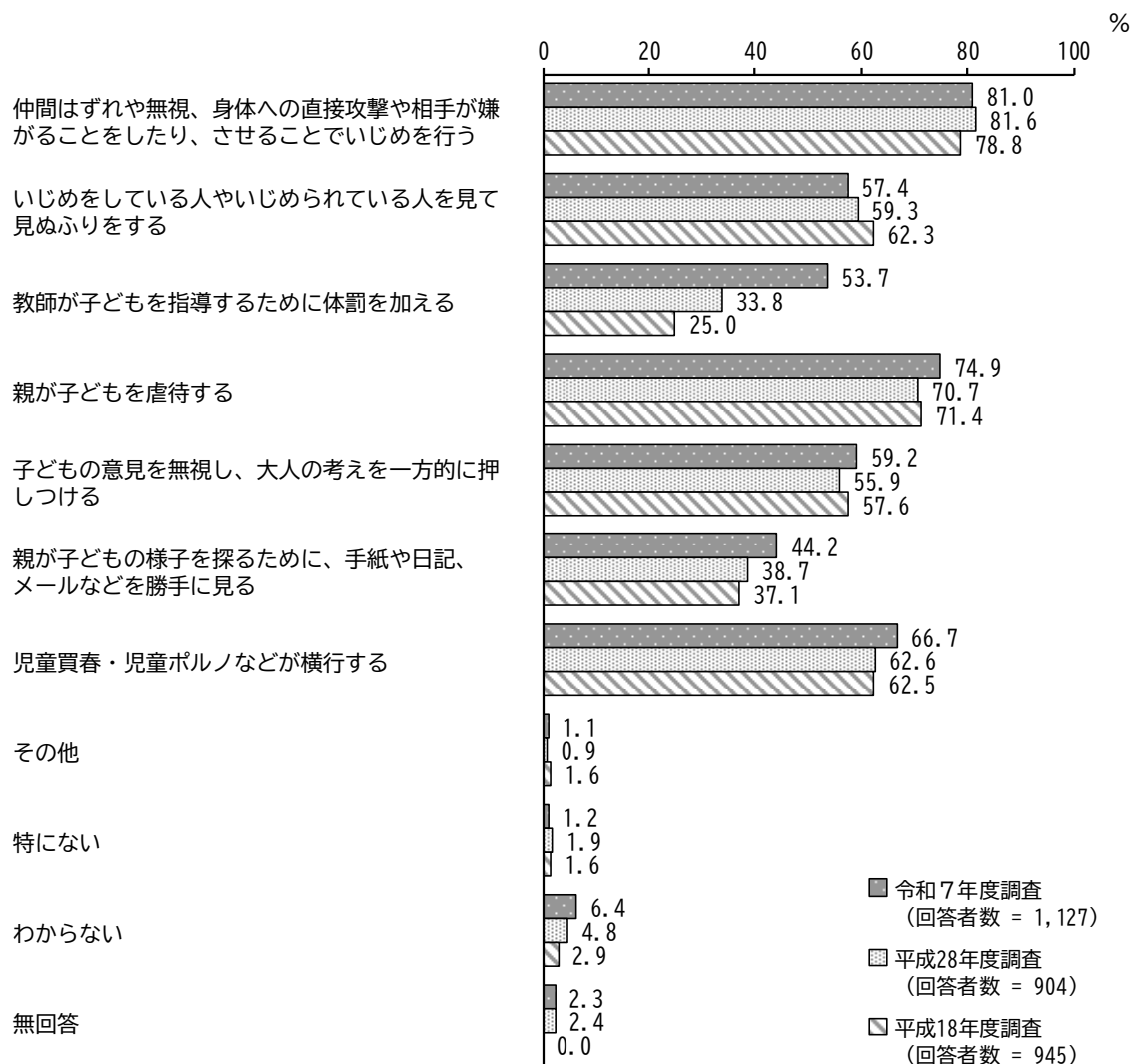
(単位：％)		回答者数	本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること	制服などで男女の別を決めつけること	トイレ、更衣室など、男女の別がなく、バリアフリーとなっていないこと	異性愛を前提とした教育を受けること（性教育、道徳など）	性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと	相談窓口や支援体制が十分でないこと	学校や職場でいじめやいやがらせを受けること	就職や職場において不利な扱いを受けること	家族や友達から理解されないこと
全 体		1,127	50.4	27.2	22.0	17.6	35.5	25.5	46.1	35.8	28.8
性別	女性	649	53.6	29.9	23.4	17.9	36.7	26.8	49.9	38.4	31.6
	男性	442	45.5	22.9	21.0	16.5	33.5	23.5	40.0	31.9	24.9
年代別	10歳代	13	69.2	23.1	7.7	38.5	38.5	46.2	84.6	69.2	53.8
	20歳代	86	46.5	24.4	19.8	18.6	36.0	24.4	54.7	37.2	31.4
	30歳代	110	57.3	29.1	15.5	18.2	26.4	20.9	49.1	32.7	30.9
	40歳代	152	59.2	36.8	25.7	23.0	38.2	27.0	51.3	38.8	36.8
	50歳代	253	56.9	35.6	23.3	17.4	33.2	25.3	47.8	35.2	30.4
	60歳代	197	56.9	30.5	26.4	13.7	44.7	32.5	50.3	44.7	31.0
	70歳代	194	38.7	14.9	20.6	15.5	37.1	21.6	38.7	33.5	21.6
	80歳以上	112	27.7	12.5	19.6	17.9	25.9	20.5	27.7	19.6	16.1

(単位：％)		法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること	偏見や誤解により、住まいなど契約を断られること	結婚や子どもの養子縁組がむずかしいこと	施設、病院において、自認する性とは別の扱いを受けることがあること	メディアでからかいや偏見を助長するような情報を流すこと	その他	特にない	わからない	無回答
全 体		25.0	27.2	20.7	16.7	26.8	0.9	4.3	14.2	3.1
性別	女性	28.4	29.0	23.7	19.7	29.4	0.6	3.7	14.3	3.4
	男性	19.9	24.9	15.8	12.2	23.1	1.1	5.4	14.0	2.7
年代別	10歳代	38.5	53.8	30.8	23.1	53.8	0.0	0.0	15.4	0.0
	20歳代	26.7	26.7	29.1	14.0	32.6	1.2	3.5	11.6	2.3
	30歳代	28.2	25.5	20.9	11.8	21.8	2.7	6.4	9.1	2.7
	40歳代	36.8	28.9	27.6	23.7	27.0	2.0	1.3	11.8	0.7
	50歳代	25.3	31.2	20.9	16.6	30.0	0.0	4.7	12.6	0.4
	60歳代	22.3	29.9	16.2	19.3	32.0	1.0	1.5	10.7	1.5
	70歳代	22.7	22.2	17.5	16.0	22.2	0.0	7.7	18.6	5.7
	80歳以上	11.6	17.9	15.2	9.8	15.2	0.0	6.3	26.8	11.6

問 29 あなたは、子どもに関する事柄で、人権尊重の観点から見て問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】

「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させることでいじめを行う」の割合が 81.0%と最も高く、次いで「親が子どもを虐待する」の割合が 74.9%、「児童買春・児童ポルノなどが横行する」の割合が 66.7%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「教師が子どもを指導するために体罰を加える」「親が子どもの様子を探るために、手紙や日記、メールなどを勝手に見る」の割合が増加しています。



※平成 28 年度調査では、「親が子どもを虐待する」が「親が子どもに暴力をふるう、精神的苦痛を与える、養育を放棄するなど虐待をする」となっていました。

平成 18 年度調査では、「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させることでいじめを行う」が「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させたりするなど、いじめを行う」、「親が子どもを虐待する」が「親が子どもに暴力をふるう、精神的苦痛を与える、養育を放棄するなど虐待をする」となっていました。

【性別・年代別】

性別にみると、女性で「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させることでいじめを行う」「教師が子どもを指導するために体罰を加える」「親が子どもを虐待する」「子どもの意見を無視し、大人の考えを一方的に押しつける」「親が子どもの様子を探るために、手紙や日記、メールなどを勝手に見る」「児童買春・児童ポルノなどが横行する」の割合が高くなっています。

年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させることでいじめを行う」の割合が高い傾向にあります。また、60歳代で「児童買春・児童ポルノなどが横行する」の割合が高くなっています。

(単位：％)		回答者数	仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させることでいじめを行う	いじめをしている人やいじめられている人を見て見ぬふりをする	教師が子どもを指導するために体罰を加える	親が子どもを虐待する	子どもの意見を無視し、大人の考えを一方的に押しつける
全 体		1,127	81.0	57.4	53.7	74.9	59.2
性別	女性	649	83.4	57.6	61.5	78.3	62.1
	男性	442	77.6	57.7	41.9	69.5	54.5
年代別	10歳代	13	76.9	53.8	69.2	84.6	76.9
	20歳代	86	77.9	51.2	60.5	76.7	68.6
	30歳代	110	78.2	50.9	54.5	80.0	61.8
	40歳代	152	90.8	60.5	61.8	81.6	68.4
	50歳代	253	88.1	60.5	51.0	74.3	57.7
	60歳代	197	88.3	66.5	56.9	82.2	65.0
	70歳代	194	74.7	55.7	52.6	68.6	51.5
	80歳以上	112	56.3	44.6	36.6	58.9	42.9

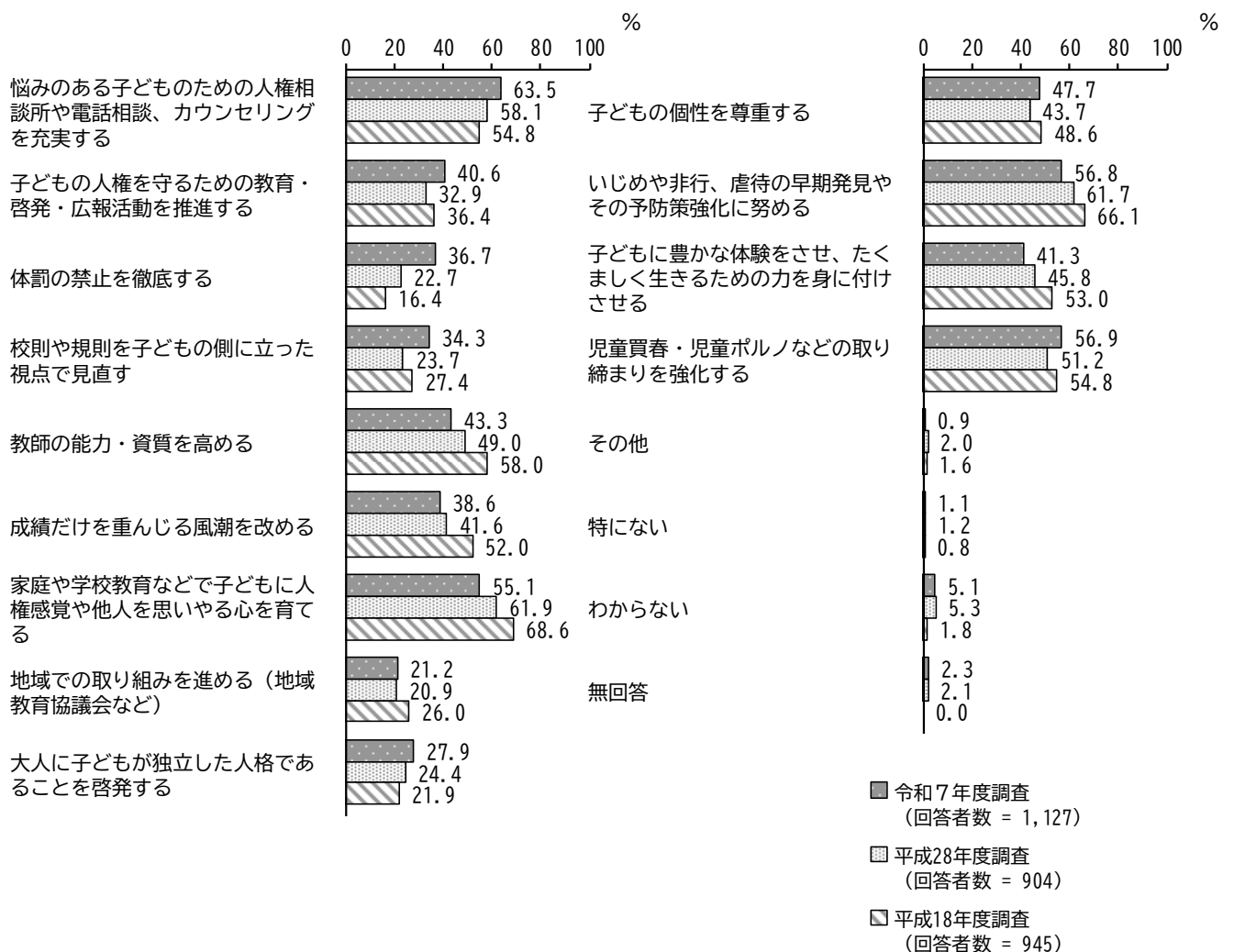
(単位：％)		親が子どもの様子を探るために、手紙や日記、メールなどを勝手に見る	児童買春・児童ポルノなどが横行する	その他	特にない	わからない	無回答
全 体		44.2	66.7	1.1	1.2	6.4	2.3
性別	女性	48.7	70.7	1.2	1.4	5.7	2.6
	男性	37.6	60.4	0.9	0.9	7.7	1.8
年代別	10歳代	61.5	69.2	0.0	0.0	15.4	0.0
	20歳代	48.8	62.8	4.7	1.2	7.0	1.2
	30歳代	37.3	69.1	1.8	0.0	7.3	2.7
	40歳代	47.4	73.7	1.3	0.0	4.6	0.0
	50歳代	43.9	70.4	0.8	2.0	4.0	0.4
	60歳代	52.8	81.2	0.5	0.5	3.6	1.0
	70歳代	42.3	53.6	0.5	1.5	8.8	4.1
	80歳以上	30.4	47.3	0.0	3.6	13.4	8.9

問 30 あなたは、子どもの人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。
【あてはまるものすべてに○】

「悩みのある子どものための人権相談所や電話相談、カウンセリングを充実する」の割合が 63.5%と最も高く、次いで「児童買春・児童ポルノなどの取り締まりを強化する」の割合が 56.9%、「いじめや非行、虐待の早期発見やその予防策強化に努める」の割合が 56.8%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「悩みのある子どものための人権相談所や電話相談、カウンセリングを充実する」「体罰の禁止を徹底する」「大人に子どもが独立した人格であることを啓発する」の割合が増加しています。一方、「教師の能力・資質を高める」「成績だけを重んじる風潮を改める」「家庭や学校教育などで子どもに人権感覚や他人を思いやる心を育てる」「いじめや非行、虐待の早期発見やその予防策強化に努める」「子どもに豊かな体験をさせ、たくましく生きるための力を身に付けさせる」の割合が減少しています。

また、平成 28 年度調査から「子どもの人権を守るための教育・啓発・広報活動を推進する」「校則や規則を子どもの側に立った視点で見直す」「児童買春・児童ポルノなどの取り締まりを強化する」の割合が増加しています。



【性別・年代別】

性別にみると、女性で「体罰の禁止を徹底する」「教師の能力・資質を高める」「成績だけを重んじる風潮を改める」「家庭や学校教育などで子どもに人権感覚や他人を思いやる心を育てる」「大人に子どもが独立した人格であることを啓発する」「子どもの個性を尊重する」「いじめや非行、虐待の早期発見やその予防策強化に努める」「子どもに豊かな体験をさせ、たくましく生きるための力を身に付けさせる」「児童買春・児童ポルノなどの取り締まりを強化する」の割合が高く、男性で「子どもの人権を守るための教育・啓発・広報活動を推進する」の割合が高くなっています。

年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「大人に子どもが独立した人格であることを啓発する」の割合が高い傾向にあり、50歳代から10歳代まで年代が下がるほど「校則や規則を子どもの側に立った視点で見直す」の割合が高い傾向にあります。また、60歳代で「家庭や学校教育などで子どもに人権感覚や他人を思いやる心を育てる」の割合が高くなっています。

(単位：％)	回答者数	人権相談所や電話相談、力 ウンセリングを充実する	子どもの人権を守るための 教育・啓発・広報活動を推進 する	体罰の禁止を徹底する	校則や規則を子どもの側に 立った視点で見直す	教師の能力・資質を高める	成績だけを重んじる風潮を 改める	家庭や学校教育などで子 どもに人権感覚や他人を思い やる心を育てる	地域での取り組みを進める (地域教育協議会など)
全 体	1,127	63.5	40.6	36.7	34.3	43.3	38.6	55.1	21.2
性別									
女性	649	65.3	38.1	39.3	34.7	44.8	42.8	58.7	22.5
男性	442	60.6	43.9	33.0	32.4	39.8	32.4	48.6	18.1
年代別									
10歳代	13	53.8	23.1	53.8	69.2	30.8	38.5	46.2	30.8
20歳代	86	64.0	43.0	46.5	50.0	38.4	37.2	46.5	22.1
30歳代	110	59.1	36.4	28.2	34.5	38.2	33.6	48.2	16.4
40歳代	152	65.1	49.3	39.5	36.2	46.1	40.8	58.6	23.0
50歳代	253	63.6	42.3	36.0	26.9	42.7	39.5	54.2	19.4
60歳代	197	72.1	45.2	38.1	38.6	46.7	37.6	66.0	25.4
70歳代	194	62.4	32.0	37.1	30.9	47.9	43.8	55.2	16.5
80歳以上	112	51.8	36.6	31.3	29.5	33.9	33.0	46.4	25.0

(単位：％)	大人に子どもが独立した人 格であることを啓発する	子どもの個性を尊重する	いじめや非行、虐待の早期 発見やその予防策強化に努 める	子どもに豊かな体験をさ せ、たくましく生きるため の力を身に付けさせる	児童買春・児童ポルノなど の取り締まりを強化する	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	27.9	47.7	56.8	41.3	56.9	0.9	1.1	5.1	2.3
性別									
女性	29.9	51.0	60.4	46.4	60.9	0.6	0.9	5.1	2.5
男性	23.5	41.4	51.4	32.1	50.7	1.4	1.1	5.4	2.0
年代別									
10歳代	15.4	53.8	69.2	53.8	61.5	0.0	0.0	15.4	0.0
20歳代	26.7	52.3	55.8	39.5	59.3	1.2	1.2	7.0	2.3
30歳代	22.7	55.5	54.5	46.4	62.7	1.8	0.0	8.2	2.7
40歳代	38.2	49.3	62.5	50.0	59.9	1.3	0.7	3.3	0.7
50歳代	28.5	41.5	54.5	37.9	59.7	0.4	1.2	4.0	0.4
60歳代	30.5	56.3	66.0	42.1	65.0	0.5	1.5	2.5	0.5
70歳代	25.3	44.8	52.6	34.0	45.4	1.0	1.0	4.6	3.6
80歳以上	19.6	38.4	46.4	42.0	43.8	0.9	1.8	10.7	8.9

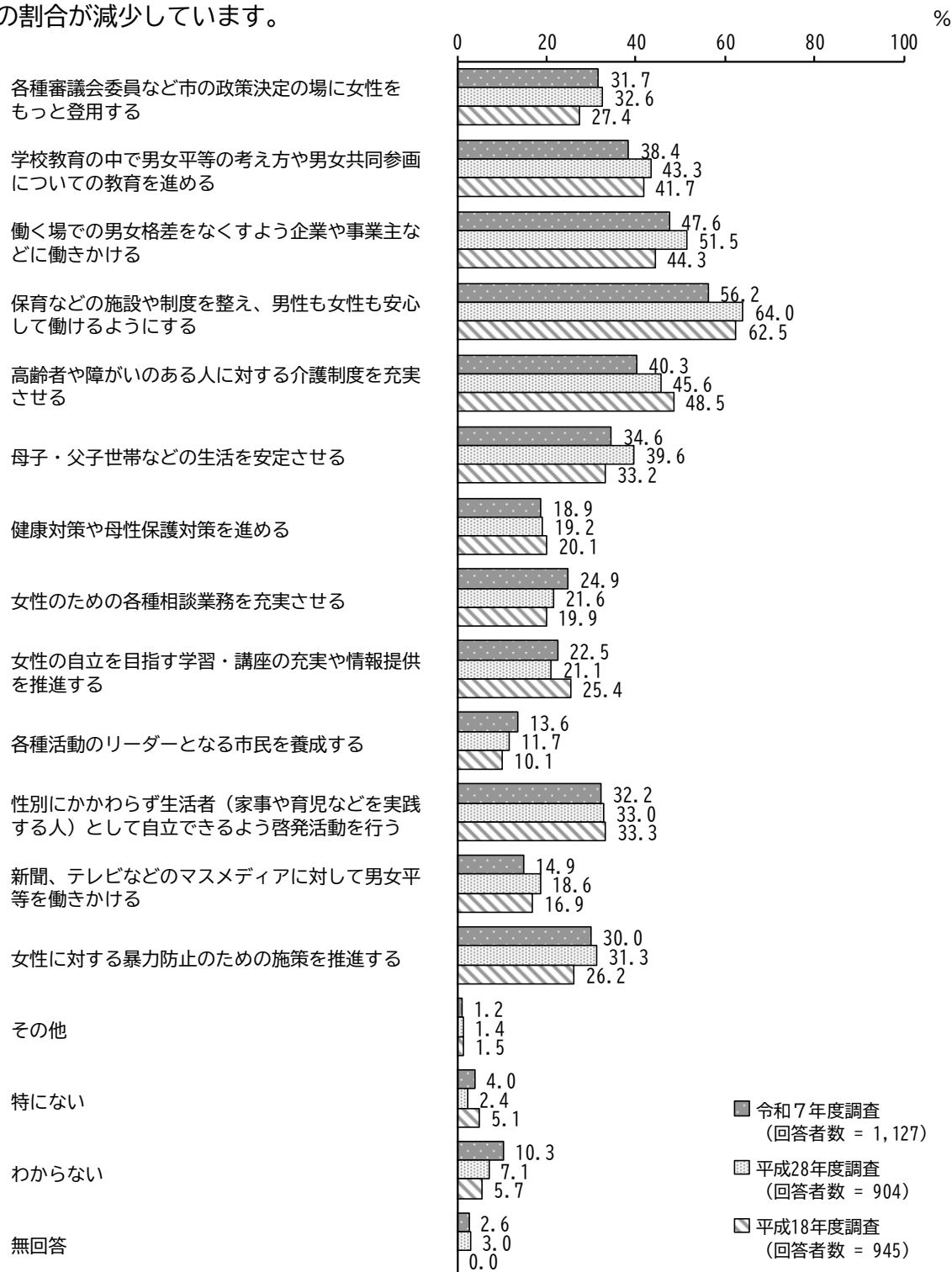
問 31 あなたは、女性の人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

「保育などの施設や制度を整え、男性も女性も安心して働けるようにする」の割合が 56.2%と最も高く、次いで「働く場での男女格差をなくすよう企業や事業主などに働きかける」の割合が 47.6%、「高齢者や障がいのある人に対する介護制度を充実させる」の割合が 40.3%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「高齢者や障がいのある人に対する介護制度を充実させる」の割合が減少しています。

また、平成 28 年度 調査から「保育などの施設や制度を整え、男性も女性も安心して働けるようにする」の割合が減少しています。



※平成 18 年度調査では、「性別にかかわらず生活者（家事や育児などを実践する人）として自立できるよう啓発活動を行う」が「男性も生活者（家事や育児などを実践する人）として自立できるよう啓発活動を行う」となっていました。

【性別・年代別】

性別にみると、女性で「各種審議会委員など市の政策決定の場に女性をもっと登用する」「働く場での男女格差をなくすよう企業や事業主などに働きかける」「保育などの施設や制度を整え、男性も女性も安心して働けるようにする」「高齢者や障がいのある人に対する介護制度を充実させる」「女性の自立を目指す学習・講座の充実や情報提供を推進する」「性別にかかわらず生活者（家事や育児などを実践する人）として自立できるよう啓発活動を行う」「女性に対する暴力防止のための施策を推進する」の割合が高くなっています。

年代別にみると、50歳代から10歳代まで年代が下がるほど「働く場での男女格差をなくすよう企業や事業主などに働きかける」「健康対策や母性保護対策を進める」の割合が高い傾向にあります。

(単位：％)		回答者数	各種審議会委員など市の政策決定の場に女性をもっと登用する	学校教育の中で男女平等の考え方や男女共同参画についての教育を進める	働く場での男女格差をなくすよう企業や事業主などに働きかける	保育などの施設や制度を整え、男性も女性も安心して働けるようにする	高齢者や障がいのある人に対する介護制度を充実させる	母子・父子世帯などの生活を安定させる	健康対策や母性保護対策を進める	女性のための各種相談業務を充実させる
性別	全 体	1,127	31.7	38.4	47.6	56.2	40.3	34.6	18.9	24.9
	女性	649	34.2	39.8	51.2	62.9	44.8	36.5	20.0	26.8
性別	男性	442	27.8	36.7	41.9	46.4	33.9	32.1	17.0	21.9
年代別	10歳代	13	46.2	38.5	61.5	53.8	30.8	30.8	30.8	15.4
	20歳代	86	32.6	36.0	54.7	52.3	32.6	43.0	29.1	30.2
	30歳代	110	30.9	38.2	47.3	64.5	29.1	28.2	21.8	25.5
	40歳代	152	36.8	44.7	47.4	59.9	46.1	39.5	22.4	23.7
	50歳代	253	24.5	32.0	45.1	53.8	36.8	32.8	13.8	22.5
	60歳代	197	38.6	43.7	48.2	64.0	45.7	42.1	19.3	27.9
	70歳代	194	28.9	35.6	50.5	51.0	44.3	29.9	16.5	26.3
	80歳以上	112	31.3	41.1	41.1	47.3	42.9	27.7	16.1	22.3

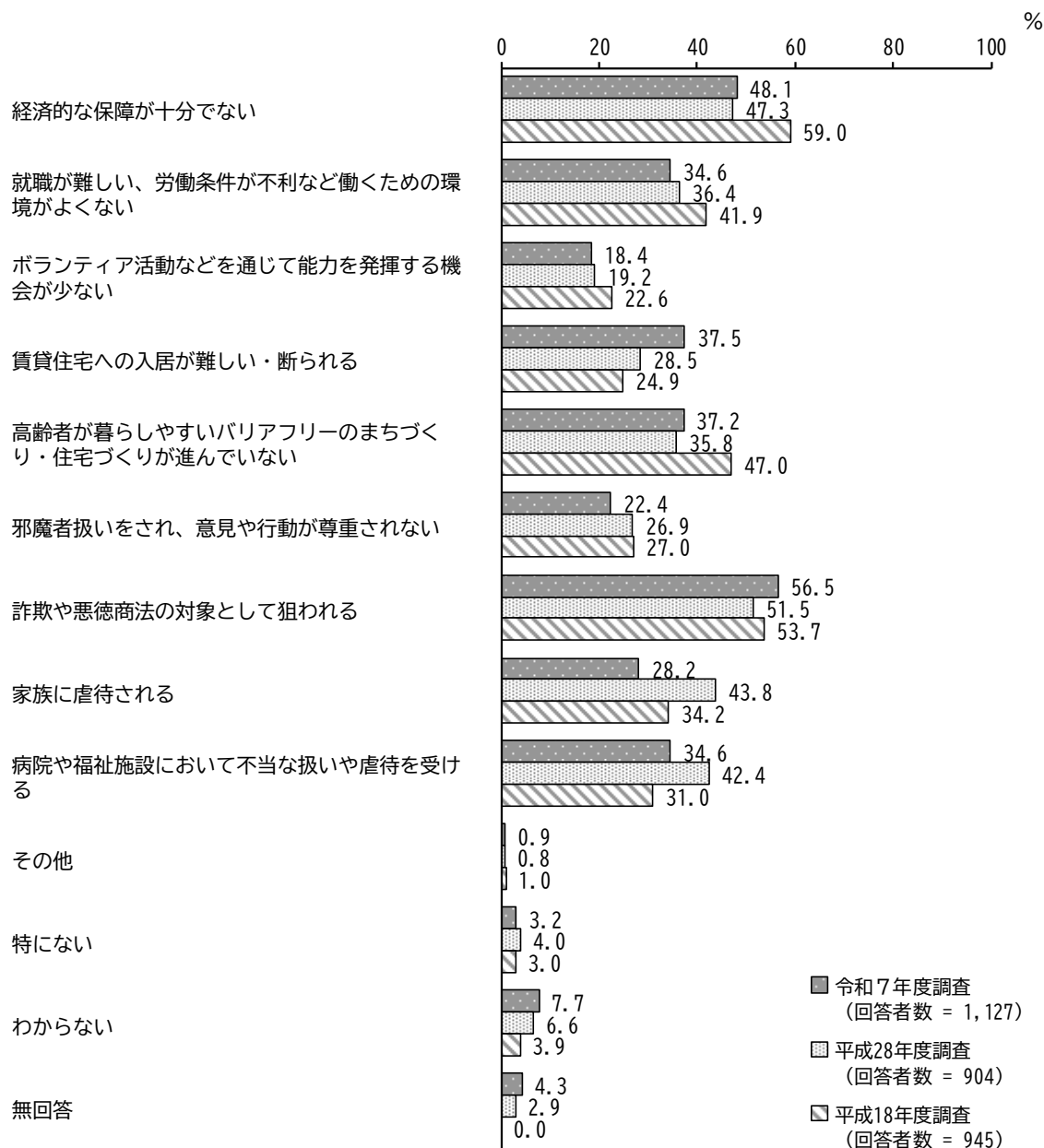
(単位：％)		女性の自立を目指す学習・講座の充実や情報提供を推進する	各種活動のリーダーとなる市民を養成する	性別にかかわらず生活者（家事や育児などを実践する人）として自立できるよう啓発活動を行う	新聞、テレビなどのマスメディアに対して男女平等を働きかける	女性に対する暴力防止のための施策を推進する	その他	特にな	わからない	無回答
性別	全 体	22.5	13.6	32.2	14.9	30.0	1.2	4.0	10.3	2.6
	女性	24.7	14.3	34.8	15.6	32.4	0.6	2.8	8.5	2.3
性別	男性	19.5	12.2	27.1	13.8	25.6	2.0	5.7	13.1	2.9
年代別	10歳代	7.7	15.4	30.8	23.1	38.5	0.0	0.0	23.1	0.0
	20歳代	22.1	16.3	33.7	19.8	36.0	1.2	5.8	11.6	2.3
	30歳代	24.5	9.1	38.2	11.8	28.2	1.8	4.5	7.3	2.7
	40歳代	24.3	19.1	37.5	18.4	27.6	3.3	2.6	9.9	1.3
	50歳代	18.6	10.3	28.9	10.7	28.5	0.0	5.5	9.5	0.8
	60歳代	25.4	13.7	33.5	15.2	38.6	1.0	3.6	9.1	0.5
	70歳代	22.7	11.9	30.9	13.9	23.2	1.0	2.6	9.3	3.6
	80歳以上	25.0	18.8	26.8	19.6	28.6	0.9	4.5	17.0	9.8

問 32 あなたは、高齢者に関する事柄で、人権尊重の観点から見て問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】

「詐欺や悪徳商法の対象として狙われる」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「経済的な保障が十分でない」の割合が 48.1%、「賃貸住宅への入居が難しい・断られる」の割合が 37.5%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「賃貸住宅への入居が難しい・断られる」の割合が増加しています。一方、「就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない」の割合が減少しています。

また、平成 28 年度調査から「家族に虐待される」「病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける」の割合が減少しています。



※平成 28 年度調査、平成 18 年度調査では、「家族に虐待される」が「家族に介護を放棄されたり、虐待されたりする」となっていました。

【性別・年代別】

性別にみると、女性で「賃貸住宅への入居が難しい・断られる」「邪魔者扱いをされ、意見や行動が尊重されない」「詐欺や悪徳商法の対象として狙われる」「家族に虐待される」「病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける」の割合が高くなっています。

年代別にみると、20歳代から70歳代まで年代が上がるほど「経済的な保障が十分でない」の割合が高く、10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「賃貸住宅への入居が難しい・断られる」の割合が高く、「病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける」の割合が低い傾向にあります。また、20歳代で「就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない」「邪魔者扱いをされ、意見や行動が尊重されない」、60歳代で「詐欺や悪徳商法の対象として狙われる」の割合が高くなっています。

(単位：％)		回答者数	経済的な保障が十分でない	就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない	ボランティア活動などを通じて能力を発揮する機会が少ない	賃貸住宅への入居が難しい・断られる	高齢者が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり・住宅づくりが進んでいない	邪魔者扱いをされ、意見や行動が尊重されない
全 体		1,127	48.1	34.6	18.4	37.5	37.2	22.4
性別	女性	649	47.0	34.2	19.0	41.1	38.7	25.6
	男性	442	50.0	36.0	17.4	32.1	33.9	17.6
年代別	10歳代	13	53.8	30.8	15.4	23.1	69.2	30.8
	20歳代	86	37.2	45.3	14.0	29.1	33.7	32.6
	30歳代	110	37.3	32.7	12.7	32.7	27.3	19.1
	40歳代	152	42.8	38.2	27.0	34.2	36.2	21.1
	50歳代	253	50.2	39.5	21.7	47.0	43.1	27.3
	60歳代	197	53.3	37.6	17.3	44.7	39.6	21.3
	70歳代	194	54.6	25.8	14.4	35.1	33.5	15.5
	80歳以上	112	48.2	24.1	17.0	25.9	35.7	22.3

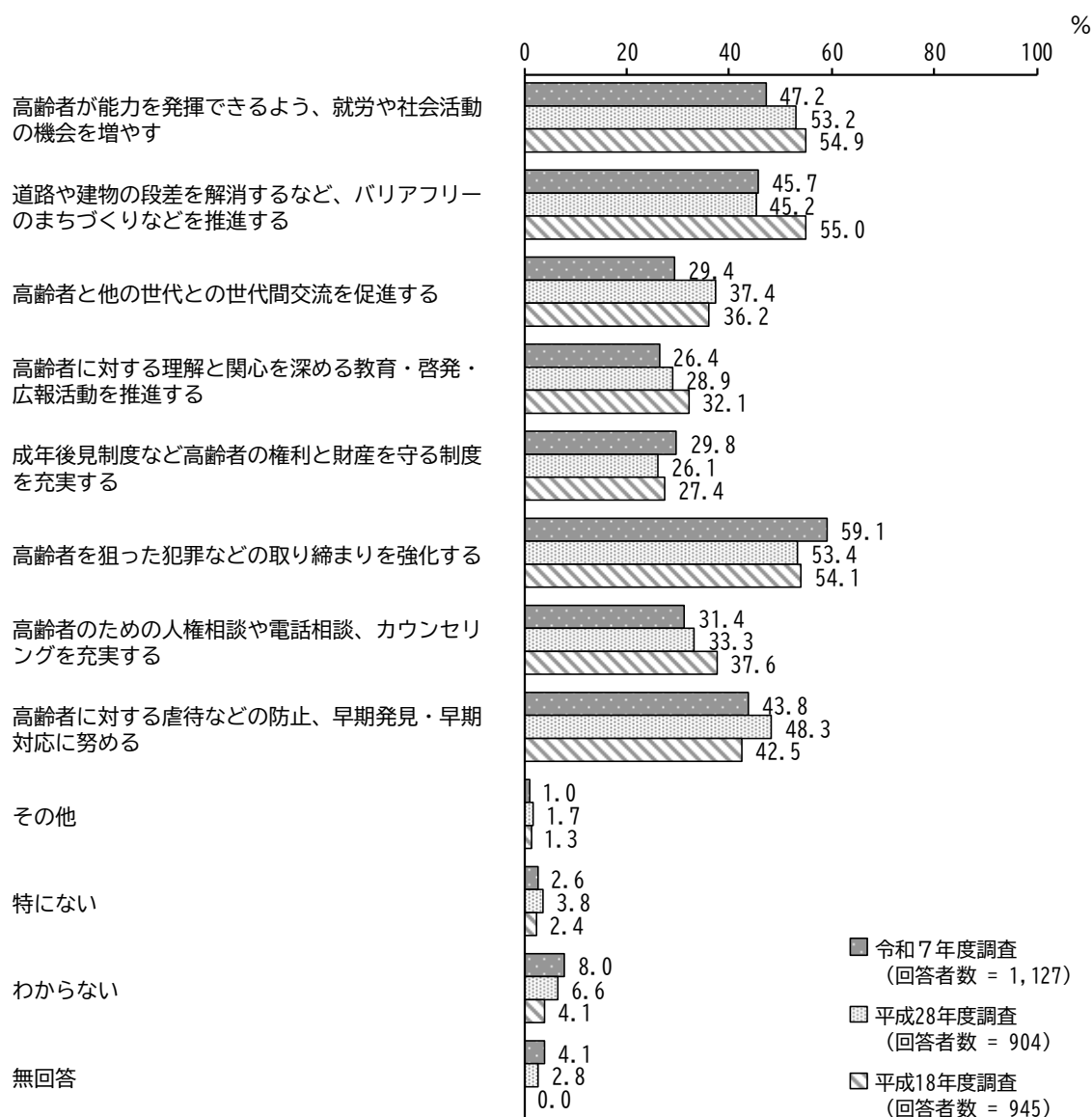
(単位：％)		詐欺や悪徳商法の対象として狙われる	家族に虐待される	病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける	その他	特にない	わからない	無回答
全 体		56.5	28.2	34.6	0.9	3.2	7.7	4.3
性別	女性	59.2	31.0	39.4	0.5	2.9	7.2	4.5
	男性	53.6	23.8	27.1	1.4	3.6	7.9	4.3
年代別	10歳代	61.5	69.2	76.9	0.0	0.0	23.1	0.0
	20歳代	55.8	39.5	44.2	0.0	1.2	10.5	3.5
	30歳代	50.9	34.5	40.0	0.9	0.9	12.7	3.6
	40歳代	59.2	30.3	36.2	2.0	3.3	11.8	3.9
	50歳代	60.9	30.8	34.8	0.4	1.2	5.9	1.2
	60歳代	67.5	32.0	40.1	0.5	1.5	3.6	3.6
	70歳代	51.0	17.5	27.8	0.5	8.2	5.2	6.7
	80歳以上	40.2	11.6	16.1	1.8	6.3	8.9	10.7

問 33 あなたは、高齢者の人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。
【あてはまるものすべてに○】

「高齢者を狙った犯罪などの取り締まりを強化する」の割合が 59.1%と最も高く、次いで「高齢者が能力を発揮できるよう、就労や社会活動の機会を増やす」の割合が 47.2%、「道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する」の割合が 45.7%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「高齢者が能力を発揮できるよう、就労や社会活動の機会を増やす」「高齢者に対する理解と関心を深める教育・啓発・広報活動を推進する」「高齢者のための人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する」の割合が減少しています。

また、平成 28 年度調査から「高齢者を狙った犯罪などの取り締まりを強化する」の割合が増加しています。一方、「高齢者和其他の世代との世代間交流を促進する」の割合が減少しています。



【性別・年代別】

性別にみると、女性で「道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する」「成年後見制度など高齢者の権利と財産を守る制度を充実する」「高齢者を狙った犯罪などの取り締まりを強化する」「高齢者に対する虐待などの防止、早期発見・早期対応に努める」の割合が高くなっています。

年代別にみると、10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「高齢者が能力を発揮できるよう、就労や社会活動の機会を増やす」の割合が高くなっています。

(単位：％)		回答者数	高齢者が能力を発揮できるよう、就労や社会活動の機会を増やす	道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する	高齢者その他の世代との世代間交流を促進する	高齢者に対する理解と関心を深める教育・啓発・広報活動を推進する	成年後見制度など高齢者の権利と財産を守る制度を充実する	高齢者を狙った犯罪などの取り締まりを強化する
性別	全 体	1,127	47.2	45.7	29.4	26.4	29.8	59.1
	女性	649	48.1	47.9	29.7	27.1	33.0	62.4
年代別	男性	442	46.2	42.1	29.4	25.3	24.9	53.8
	10歳代	13	15.4	61.5	38.5	38.5	46.2	69.2
	20歳代	86	34.9	47.7	30.2	27.9	26.7	54.7
	30歳代	110	46.4	40.9	20.0	19.1	30.0	51.8
	40歳代	152	51.3	47.4	30.3	27.0	32.2	55.9
	50歳代	253	54.5	47.0	34.4	28.9	25.7	63.6
	60歳代	197	59.9	45.7	36.5	23.9	37.6	66.0
	70歳代	194	38.1	46.9	22.2	28.4	26.8	55.2
	80歳以上	112	31.3	40.2	24.1	25.0	27.7	55.4

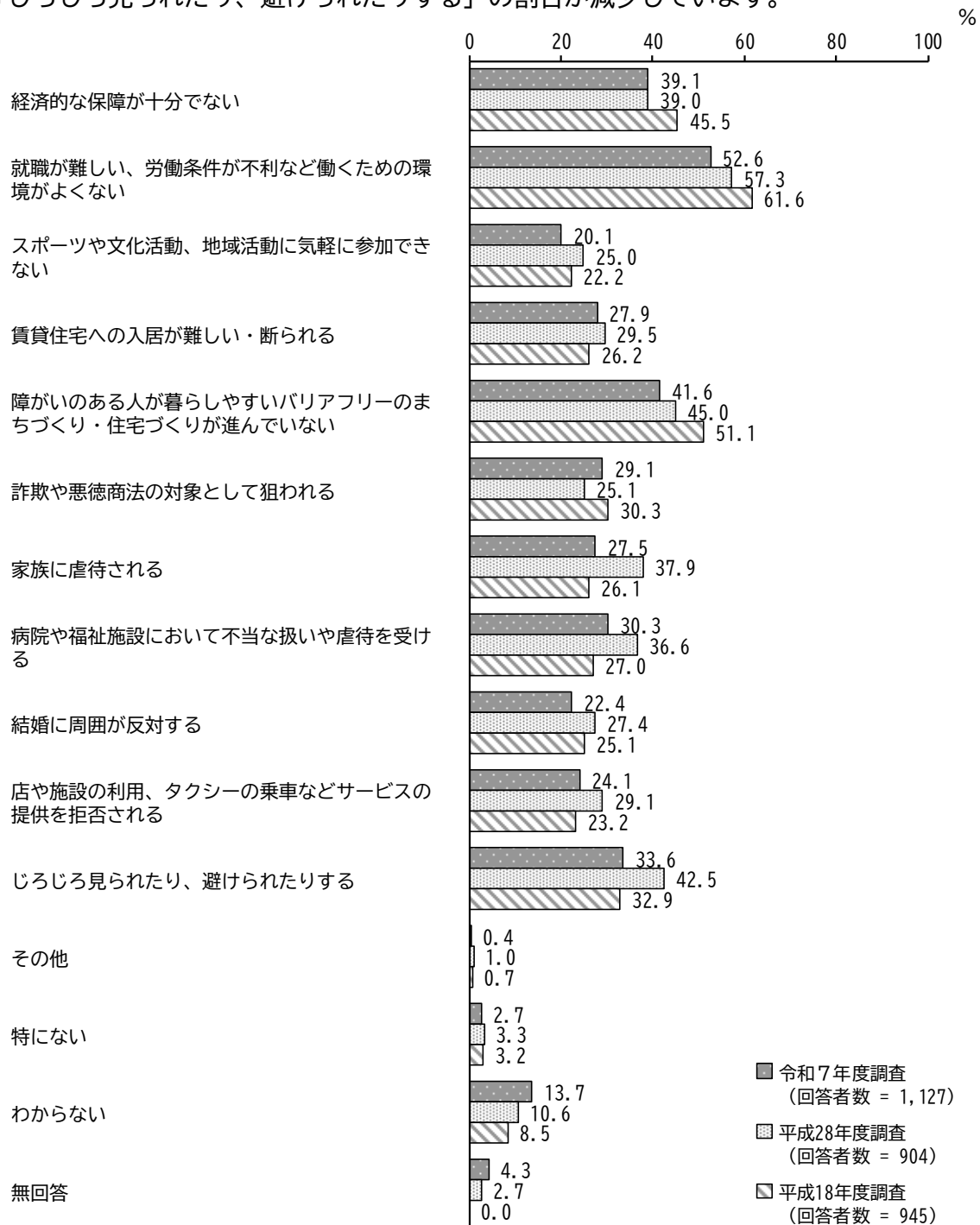
(単位：％)		高齢者のための人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する	高齢者に対する虐待などの防止、早期発見・早期対応に努める	その他	特にな	わからない	無回答
性別	全 体	31.4	43.8	1.0	2.6	8.0	4.1
	女性	33.3	48.5	0.8	2.5	7.1	4.2
年代別	男性	28.7	36.9	0.9	2.7	9.0	4.1
	10歳代	46.2	69.2	0.0	0.0	23.1	0.0
	20歳代	31.4	47.7	1.2	1.2	11.6	4.7
	30歳代	23.6	42.7	2.7	1.8	11.8	4.5
	40歳代	31.6	40.1	2.0	5.3	9.9	2.0
	50歳代	32.0	45.1	0.4	0.4	7.1	1.2
	60歳代	36.0	50.8	0.5	1.5	4.6	3.6
	70歳代	32.0	39.7	0.0	4.6	5.7	6.7
	80歳以上	26.8	34.8	0.9	4.5	9.8	8.9

問 34 あなたは、障がいのある人に関する事柄で、人権尊重の観点から見て問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】

「就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「障がいのある人が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり・住宅づくりが進んでいない」の割合が 41.6%、「経済的な保障が十分でない」の割合が 39.1%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない」「障がいのある人が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり・住宅づくりが進んでいない」の割合が減少しています。

また、平成 28 年度調査から「家族に虐待される」「病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける」「じろじろ見られたり、避けられたりする」の割合が減少しています。



※平成 28 年度調査、平成 18 年度調査では、「家族に虐待される」が「家族に介護を放棄されたり、虐待されたりする」となっていました。

【性別・年代別】

性別にみると、女性で「賃貸住宅への入居が難しい・断られる」「障がいのある人が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり・住宅づくりが進んでいない」「詐欺や悪徳商法の対象として狙われる」「家族に虐待される」「病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける」「店や施設の利用、タクシーの乗車などサービスの提供を拒否される」「じろじろ見られたり、避けられたりする」の割合が高くなっています。

年代別にみると、10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「経済的な保障が十分でない」の割合が高い傾向にあり、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「賃貸住宅への入居が難しい・断られる」「家族に虐待される」の割合が高い傾向にあります。

(単位：％)		回答者数	経済的な保障が十分でない	就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよいくない	スポーツや文化活動、地域活動に気軽に参加できない	賃貸住宅への入居が難しい・断られる	障がいのある人が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり・住宅づくりが進んでいない	詐欺や悪徳商法の対象として狙われる	家族に虐待される
全 体		1,127	39.1	52.6	20.1	27.9	41.6	29.1	27.5
性別	女性	649	37.8	52.9	20.3	30.7	43.6	31.6	29.7
	男性	442	41.2	52.7	20.4	24.0	38.5	25.6	24.2
年代別	10歳代	13	30.8	69.2	23.1	53.8	46.2	53.8	61.5
	20歳代	86	33.7	47.7	26.7	30.2	39.5	30.2	47.7
	30歳代	110	35.5	44.5	16.4	20.9	29.1	22.7	27.3
	40歳代	152	41.4	52.0	26.3	32.2	42.8	32.2	31.6
	50歳代	253	39.9	56.1	17.4	28.9	42.7	30.4	28.9
	60歳代	197	41.6	64.5	19.8	31.0	46.2	34.5	29.4
	70歳代	194	41.2	49.5	20.1	27.3	43.8	23.7	17.0
	80歳以上	112	33.0	40.2	17.0	17.0	38.4	22.3	13.4

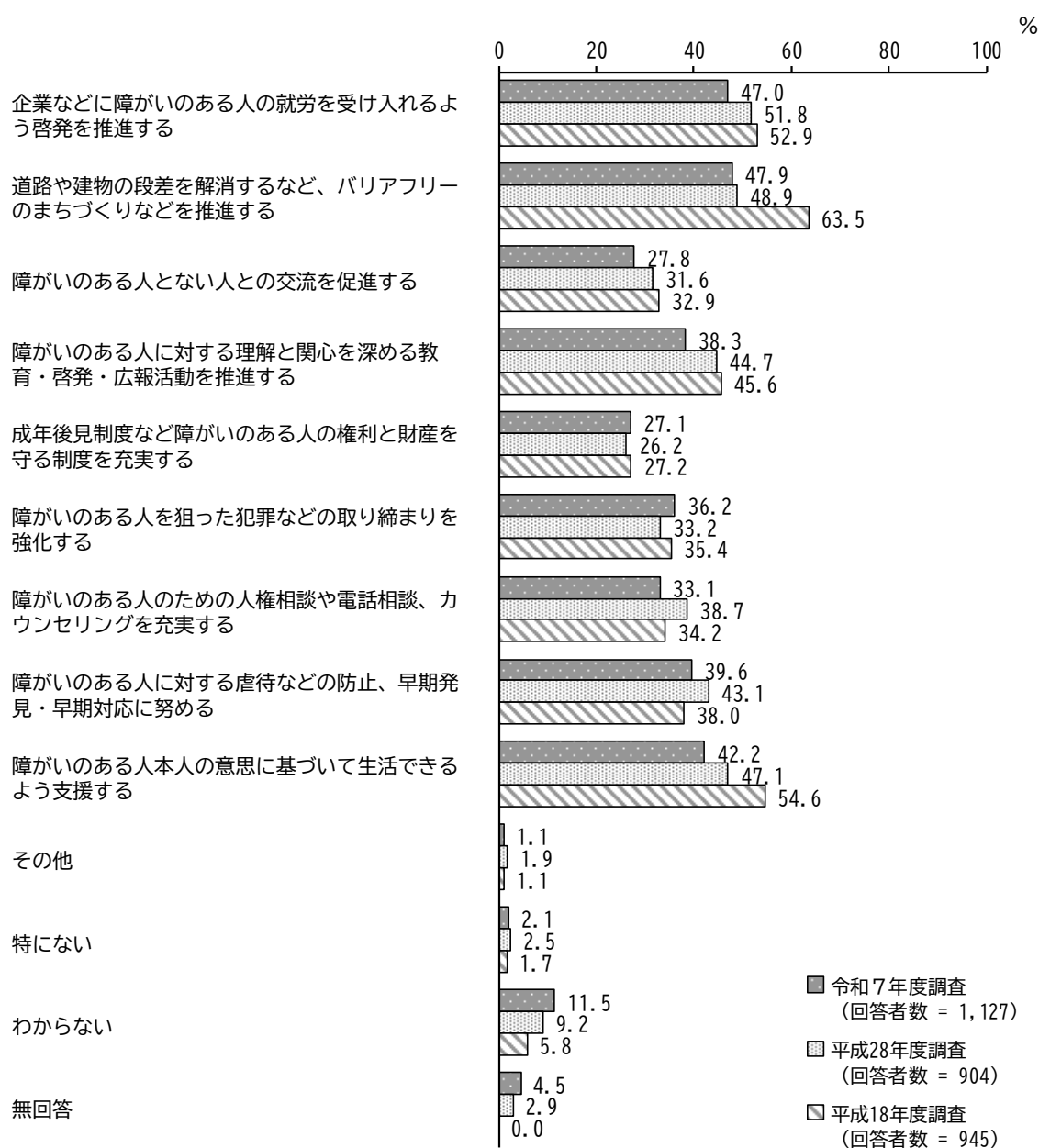
(単位：％)		病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける	結婚に周囲が反対する	店や施設の利用、タクシーの乗車などサービスの提供を拒否される	じろじろ見られたり、避けられたりする	その他	特にな	わからない	無回答
全 体		30.3	22.4	24.1	33.6	0.4	2.7	13.7	4.3
性別	女性	34.8	24.0	26.7	37.8	0.2	1.8	13.4	4.5
	男性	24.0	20.4	19.9	27.6	0.9	3.6	13.8	4.3
年代別	10歳代	61.5	61.5	53.8	46.2	0.0	0.0	15.4	0.0
	20歳代	44.2	25.6	24.4	41.9	0.0	2.3	12.8	3.5
	30歳代	29.1	19.1	20.9	30.9	1.8	1.8	18.2	3.6
	40歳代	30.9	25.0	23.0	36.2	0.0	3.9	14.5	2.6
	50歳代	31.2	22.5	29.2	36.4	0.4	2.0	13.4	0.8
	60歳代	35.0	22.8	25.4	38.6	1.0	1.5	10.2	3.6
	70歳代	23.7	19.6	18.6	25.8	0.0	2.6	13.9	8.2
	80歳以上	17.0	18.8	19.6	22.3	0.0	6.3	16.1	10.7

問 35 あなたは、障がいのある人の人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

「道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する」の割合が47.9%と最も高く、次いで「企業などに障がいのある人の就労を受け入れるよう啓発を推進する」の割合が47.0%、「障がいのある人本人の意思に基づいて生活できるよう支援する」の割合が42.2%となっています。

過去調査と比較すると、平成18年度調査から「企業などに障がいのある人の就労を受け入れるよう啓発を推進する」「道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する」「障がいのある人となない人との交流を促進する」「障がいのある人に対する理解と関心を深める教育・啓発・広報活動を推進する」「障がいのある人本人の意思に基づいて生活できるよう支援する」の割合が減少しています。

また、平成28年度調査から「障がいのある人のための人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する」の割合が減少しています。



【性別・年代別】

性別にみると、女性で「道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する」「成年後見制度など障がいのある人の権利と財産を守る制度を充実する」「障がいのある人に対する虐待などの防止、早期発見・早期対応に努める」「障がいのある人本人の意思に基づいて生活できるよう支援する」の割合が高くなっています。

年代別にみると、10歳代で「道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する」「障がいのある人を狙った犯罪などの取り締まりを強化する」「障がいのある人のための人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する」「障がいのある人に対する虐待などの防止、早期発見・早期対応に努める」「障がいのある人本人の意思に基づいて生活できるよう支援する」の割合が高くなっています。

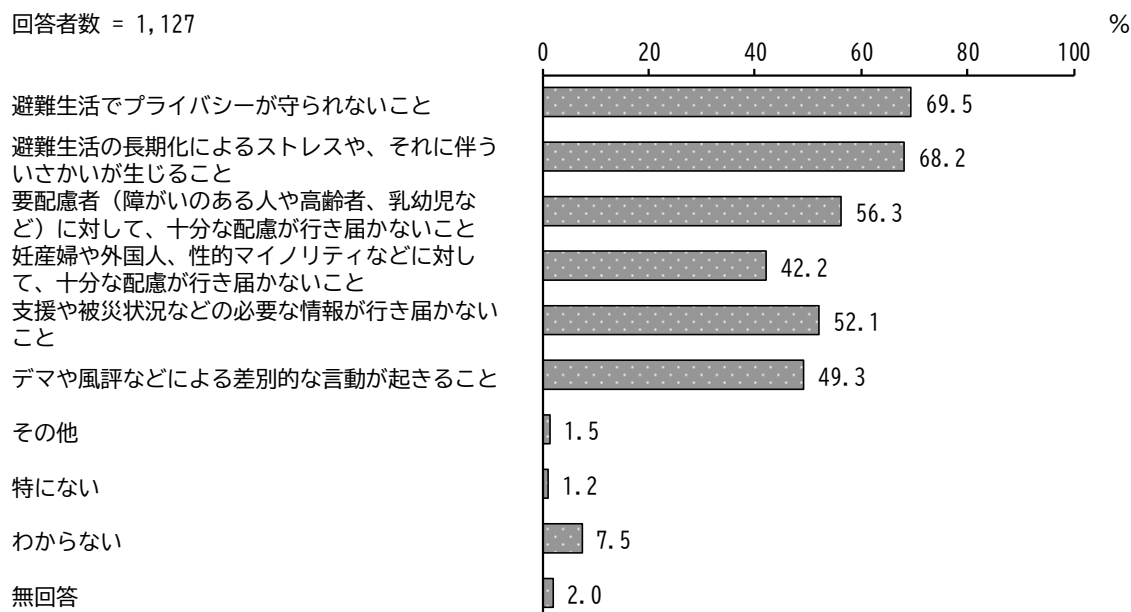
(単位：％)		回答者数	企業などに障がいのある人の就労を受け入れるよう啓発を推進する	道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する	障がいのある人との交流を促進する	障がいのある人に対する理解と関心を深める教育・啓発・広報活動を推進する	成年後見制度など障がいのある人の権利と財産を守る制度を充実する	障がいのある人を狙った犯罪などの取り締まりを強化する
全 体		1,127	47.0	47.9	27.8	38.3	27.1	36.2
性別	女性	649	46.2	51.2	28.2	37.6	30.7	37.3
	男性	442	48.0	43.7	27.4	39.6	21.9	34.2
年代別	10歳代	13	38.5	61.5	30.8	30.8	30.8	53.8
	20歳代	86	45.3	39.5	26.7	34.9	29.1	38.4
	30歳代	110	32.7	38.2	18.2	32.7	25.5	26.4
	40歳代	152	48.0	48.0	30.9	42.8	30.3	38.8
	50歳代	253	51.0	51.0	28.9	37.9	24.1	39.1
	60歳代	197	53.3	55.3	31.0	45.7	32.5	44.2
	70歳代	194	45.9	51.0	27.3	36.6	25.3	29.9
	80歳以上	112	42.9	38.4	24.1	31.3	22.3	27.7

(単位：％)		障がいのある人のための人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する	障がいのある人に対する虐待などの防止、早期発見・早期対応に努める	障がいのある人本人の意思に基づいて生活できるよう支援する	その他	特にない	わからない	無回答
全 体		33.1	39.6	42.2	1.1	2.1	11.5	4.5
性別	女性	34.2	42.4	47.5	1.5	0.9	11.1	4.8
	男性	32.4	35.5	35.7	0.5	3.8	11.5	4.3
年代別	10歳代	46.2	61.5	69.2	0.0	0.0	15.4	0.0
	20歳代	30.2	41.9	39.5	1.2	1.2	14.0	4.7
	30歳代	27.3	35.5	40.0	2.7	0.9	16.4	4.5
	40歳代	34.9	38.8	42.8	1.3	3.3	8.6	2.6
	50歳代	28.1	37.5	37.9	2.0	2.4	13.0	1.2
	60歳代	41.6	48.2	50.3	0.0	1.0	7.1	3.6
	70歳代	33.5	37.1	43.8	0.5	2.6	10.3	7.7
	80歳以上	33.0	32.1	36.6	0.0	3.6	15.2	10.7

問 36 あなたは地震や台風などの災害が起きた場合に、人権上、特に問題となるのはどのようなことだと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

「避難生活でプライバシーが守られないこと」の割合が 69.5%と最も高く、次いで「避難生活の長期化によるストレスや、それに伴ういさかいが生じること」の割合が 68.2%、「要配慮者（障がいのある人や高齢者、乳幼児など）に対して、十分な配慮が行き届かないこと」の割合が 56.3%となっています。

回答者数 = 1,127



【性別・年代別】

性別にみると、女性で「避難生活でプライバシーが守られないこと」「要配慮者（障がいのある人や高齢者、乳幼児など）に対して、十分な配慮が行き届かないこと」「妊産婦や外国人、性的マイノリティなどに対して、十分な配慮が行き届かないこと」「支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと」の割合が高くなっています。

年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「妊産婦や外国人、性的マイノリティなどに対して、十分な配慮が行き届かないこと」の割合が高い傾向にあり、20歳代から60歳代まで年代が上がるほど「避難生活の長期化によるストレスや、それに伴ういさかいが生じること」の割合が高い傾向にあります。

(単位：%)		回答者数	避難生活でプライバシーが守られないこと	避難生活の長期化によるストレスやそれに伴ういさかいが生じること	要配慮者（障がいのある人や高齢者、乳幼児など）に対して、十分な配慮が行き届かないこと	妊産婦や外国人、性的マイノリティなどに対して、十分な配慮が行き届かないこと	支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと	デマや風評などによる差別的な言動が起きること	その他	特にない	わからない	無回答
全 体		1,127	69.5	68.2	56.3	42.2	52.1	49.3	1.5	1.2	7.5	2.0
性別	女性	649	72.3	69.6	59.9	44.5	56.5	50.7	1.2	1.2	6.8	2.3
	男性	442	65.2	65.6	50.7	39.1	45.2	47.3	2.0	0.9	8.4	1.4
年代別	10歳代	13	61.5	61.5	76.9	69.2	38.5	53.8	0.0	0.0	15.4	0.0
	20歳代	86	60.5	58.1	40.7	47.7	47.7	53.5	3.5	2.3	11.6	2.3
	30歳代	110	70.0	69.1	58.2	40.9	54.5	51.8	0.9	1.8	7.3	2.7
	40歳代	152	70.4	73.0	54.6	49.3	53.9	55.9	3.9	0.7	9.2	1.3
	50歳代	253	74.7	70.0	56.1	42.3	51.4	52.2	1.2	0.4	5.1	0.4
	60歳代	197	72.6	76.1	66.0	43.7	61.4	55.3	0.0	0.5	3.0	0.5
	70歳代	194	69.6	66.5	58.8	36.6	51.5	35.1	1.5	1.5	8.2	1.5
	80歳以上	112	58.9	53.6	44.6	33.0	38.4	42.9	0.9	2.7	13.4	8.0

7 身の周りの人権侵害について

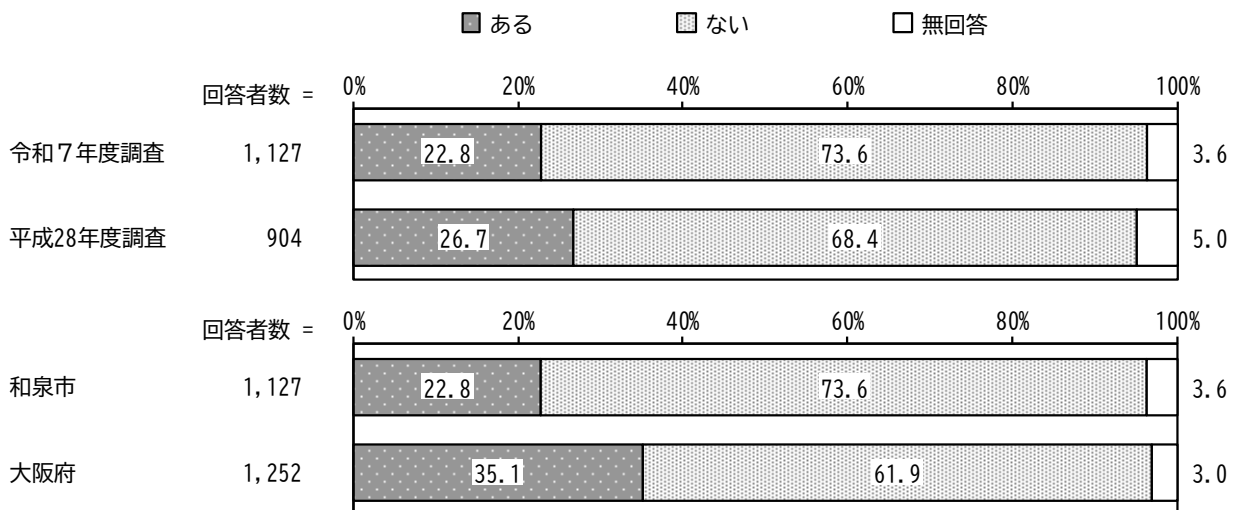
問 37 あなたは、最近5年間に人権上、問題と思われる言動を身近で見聞きしたことがありますか。複数ある場合は、一番印象に残っているものについてお答えください。
【どちらかに○】

【経年・府比較】

「ある」の割合が22.8%、「ない」の割合が73.6%となっています。

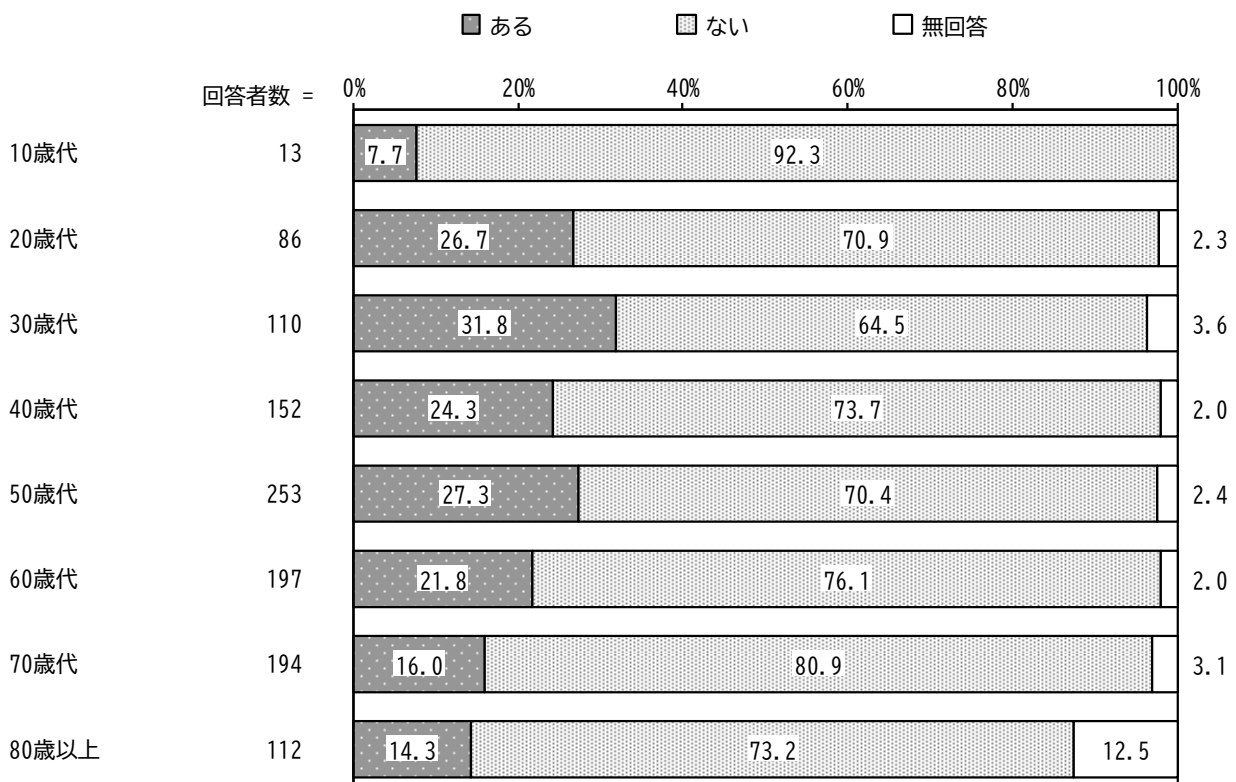
平成28年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加しています。

大阪府と比較すると、「ある」の割合が低くなっています。



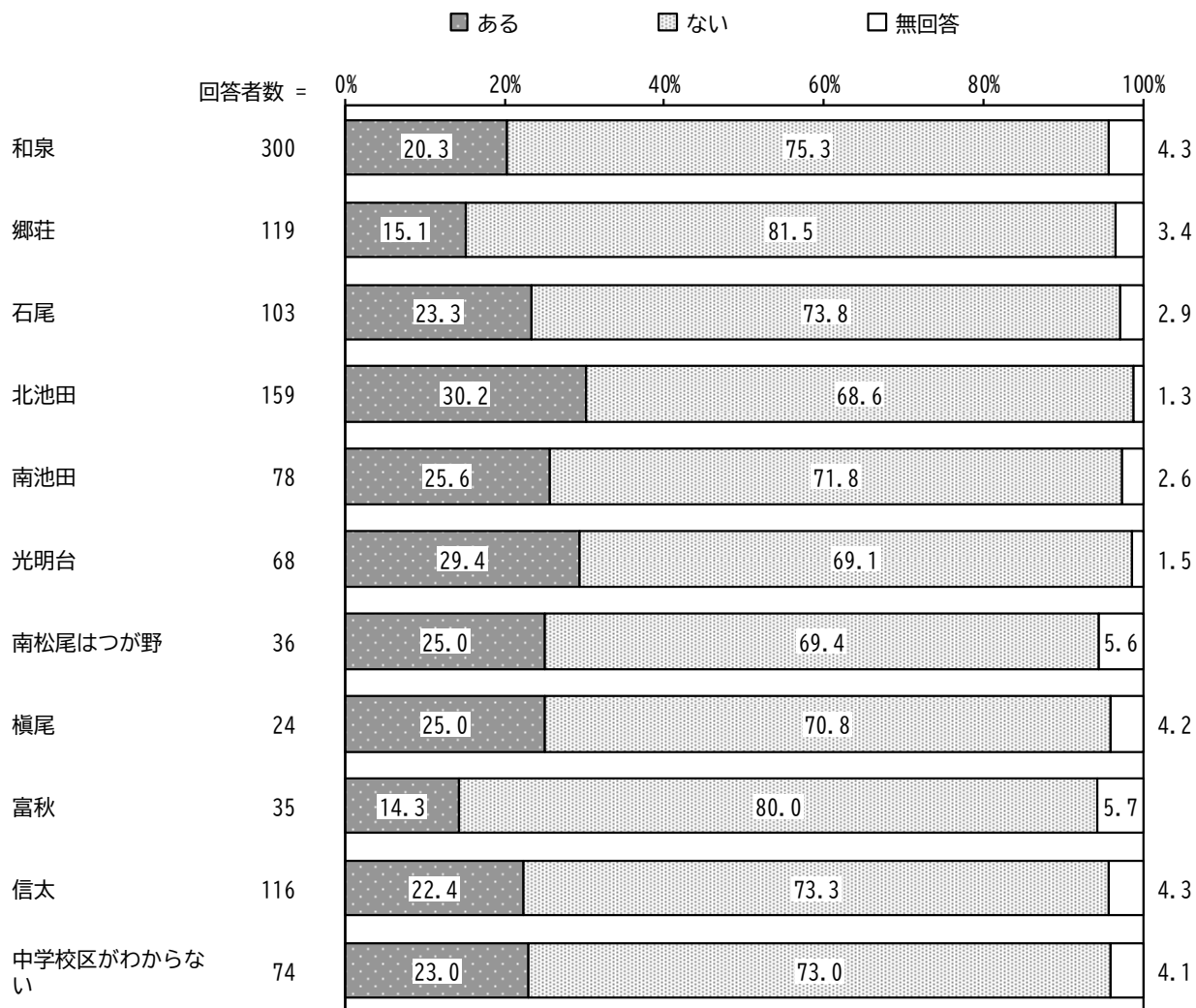
【年代別】

年代別にみると、80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「ある」の割合が高い傾向にあります。



【地区別】

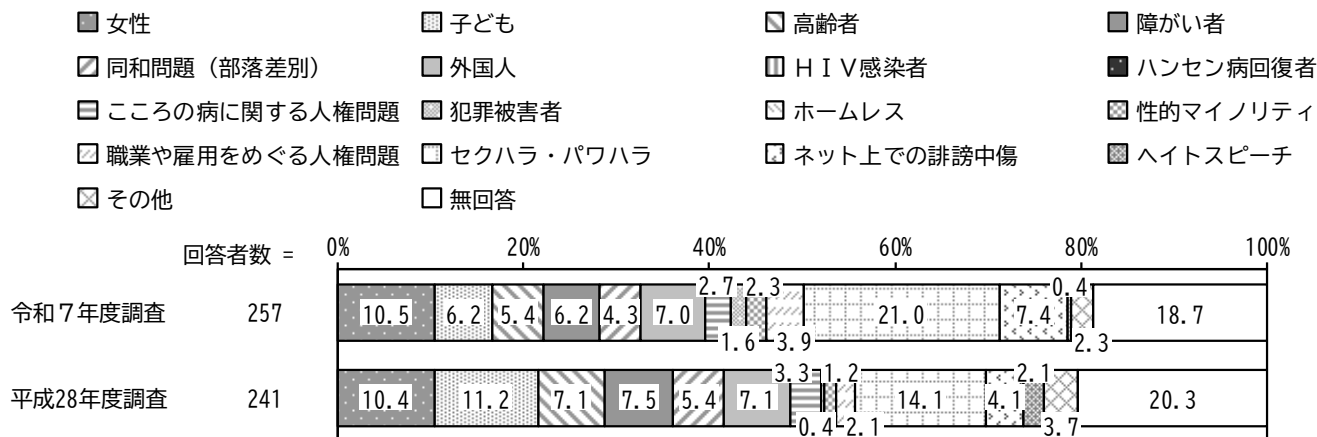
地区別にみると、北池田、光明台で「ある」、郷荘、富秋で「ない」の割合が高くなっています。



問 37-1 それはどのような人権問題に関するものでしたか。【あてはまるもの1つに○】

「セクハラ・パワハラ」の割合が21.0%と最も高く、次いで「女性」の割合が10.5%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「セクハラ・パワハラ」の割合が増加しています。

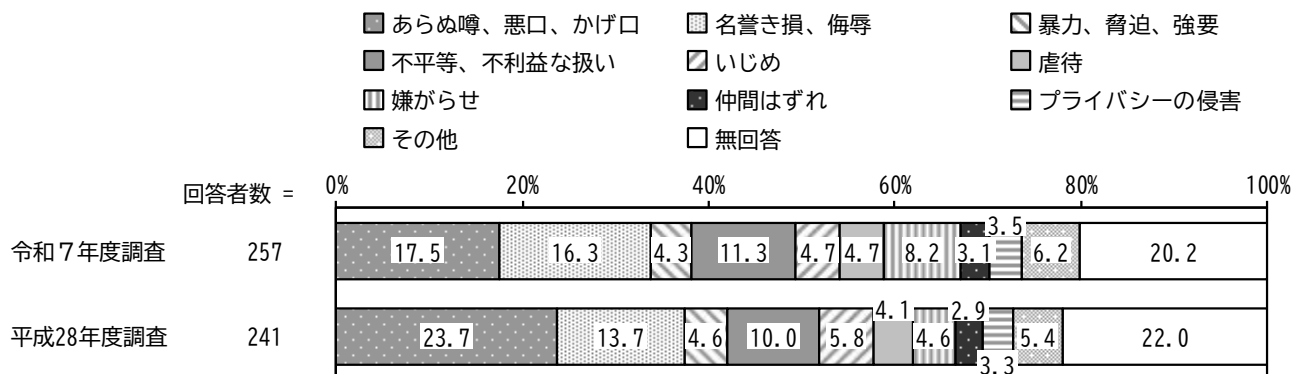


※平成28年度調査では、「HIV感染者」と「ハンセン病回復者」が「HIV感染者・ハンセン病回復者」となっていました。

問 37-2 それはどのような内容でしたか。【あてはまるもの1つに○】

「あらぬ噂、悪口、かげ口」の割合が17.5%と最も高く、次いで「名誉き損、侮辱」の割合が16.3%、「不平等、不利益な扱い」の割合が11.3%となっています。

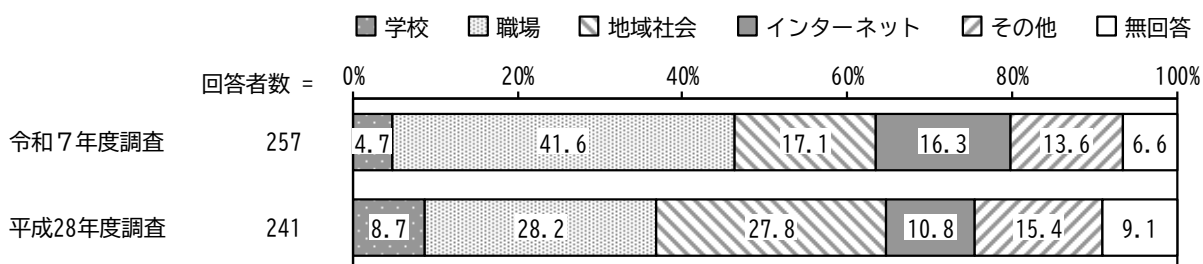
平成28年度調査と比較すると、「あらぬ噂、悪口、かげ口」の割合が減少しています。



問 37-3 それはどこで見聞きしましたか。【あてはまるもの1つに○】

「職場」の割合が41.6%と最も高く、次いで「地域社会」の割合が17.1%、「インターネット」の割合が16.3%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「職場」「インターネット」の割合が増加しています。一方、「地域社会」の割合が減少しています。

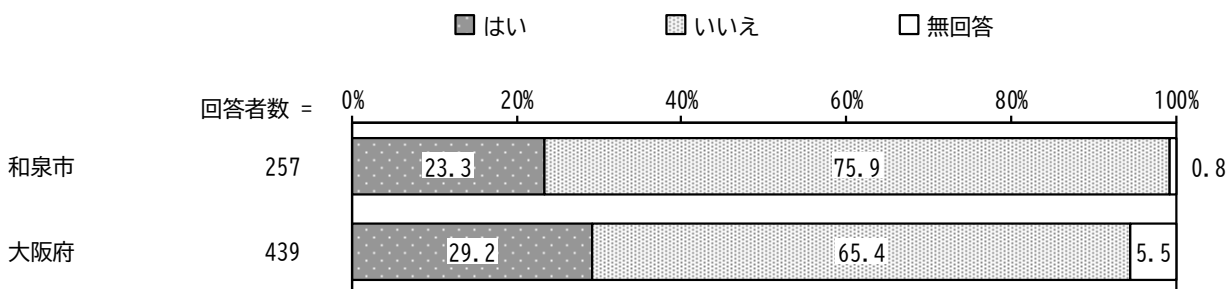


問 37-4 それはあなた自身に対するものでしたか。【どちらかに○】

【経年・府比較】

「はい」の割合が23.3%、「いいえ」の割合が75.9%となっています。

大阪府と比較すると、「いいえ」の割合が高くなっています。



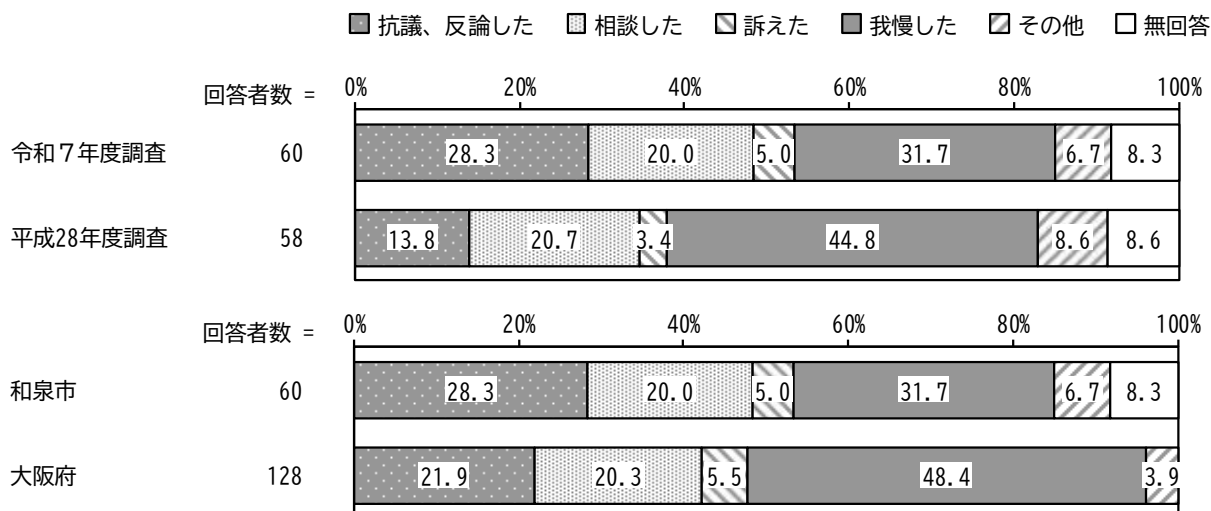
問 37-5 a どう対応しましたか。【あてはまるもの1つに○】

【経年・府比較】

「我慢した」の割合が31.7%と最も高く、次いで「抗議、反論した」の割合が28.3%、「相談した」の割合が20.0%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「抗議、反論した」の割合が増加しています。一方、「我慢した」の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「抗議、反論した」の割合が高くなっています。



※大阪府では、「相談した」が「相談（通報）した」となっていました。

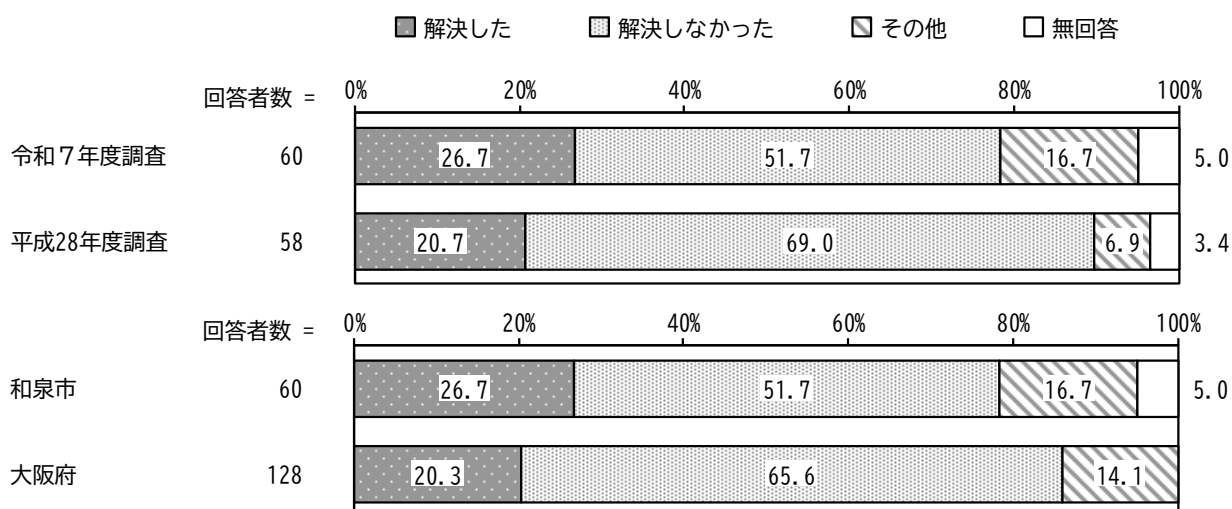
問 37-6 a 最終的に解決しましたか。【あてはまるもの1つに○】

【経年・府比較】

「解決した」の割合が26.7%、「解決しなかった」の割合が51.7%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「解決しなかった」の割合が減少しています。

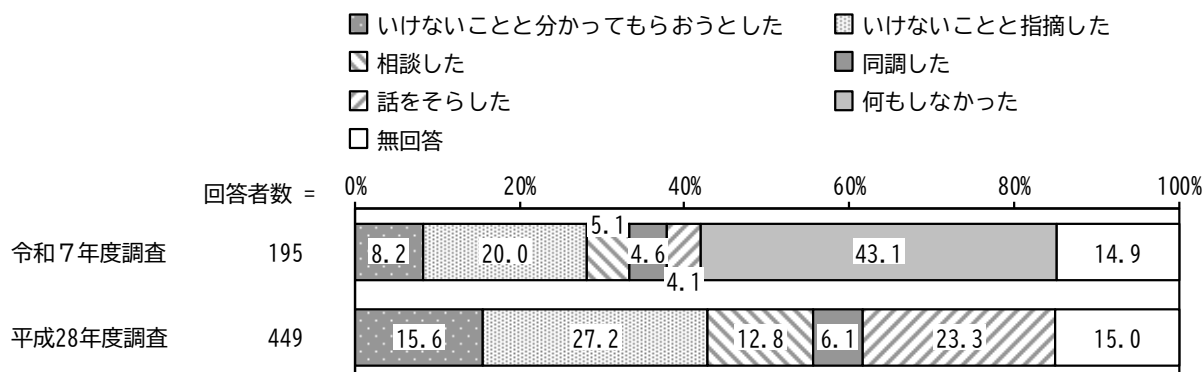
大阪府と比較すると、「解決した」の割合が高くなっています。



問 37-5b どう対応しましたか。【あてはまるもの1つに○】

「何もしなかった」の割合が43.1%と最も高く、次いで「いけないことと指摘した」の割合が20.0%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「いけないことと分かってもらおうとした」「いけないことと指摘した」「相談した」「話をそらした」の割合が減少しています。



※平成28年度調査では、「何もしなかった」がありませんでした。

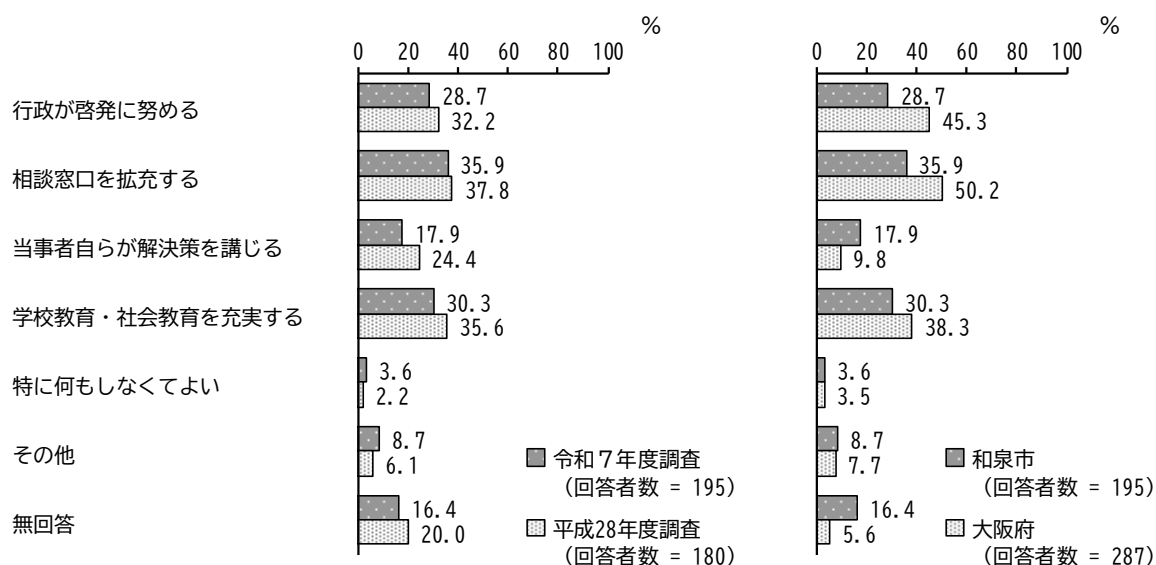
問 37-6b そのような問題（事案）についてどうしたらよいと考えますか。【あてはまるものすべてに○】

【経年・府比較】

「相談窓口を拡充する」の割合が35.9%と最も高く、次いで「学校教育・社会教育を充実する」の割合が30.3%、「行政が啓発に努める」の割合が28.7%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「当事者自らが解決策を講じる」「学校教育・社会教育を充実する」の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「当事者自らが解決策を講じる」の割合が高くなっています。一方、「行政が啓発に努める」「相談窓口を拡充する」「学校教育・社会教育を充実する」の割合が低くなっています。



※大阪府では、「行政が啓発に努める」が「さまざまな人権問題をめぐる誤解や偏見、差別をなくし、一人ひとりの人権意識を高めるために、行政が正しい知識と理解を深める人権啓発に努める」、「相談窓口を拡充する」が「人権侵害を受けた当事者が救済されるよう人権課題に対応する専門の相談機関・相談窓口を拡充する」、「当事者自らが解決策を講じる」が「人権侵害を受けた当事者自らが解決策を講じる」、「学校教育・社会教育を充実する」が「発達段階に応じた学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」となっていました。

8 自由意見

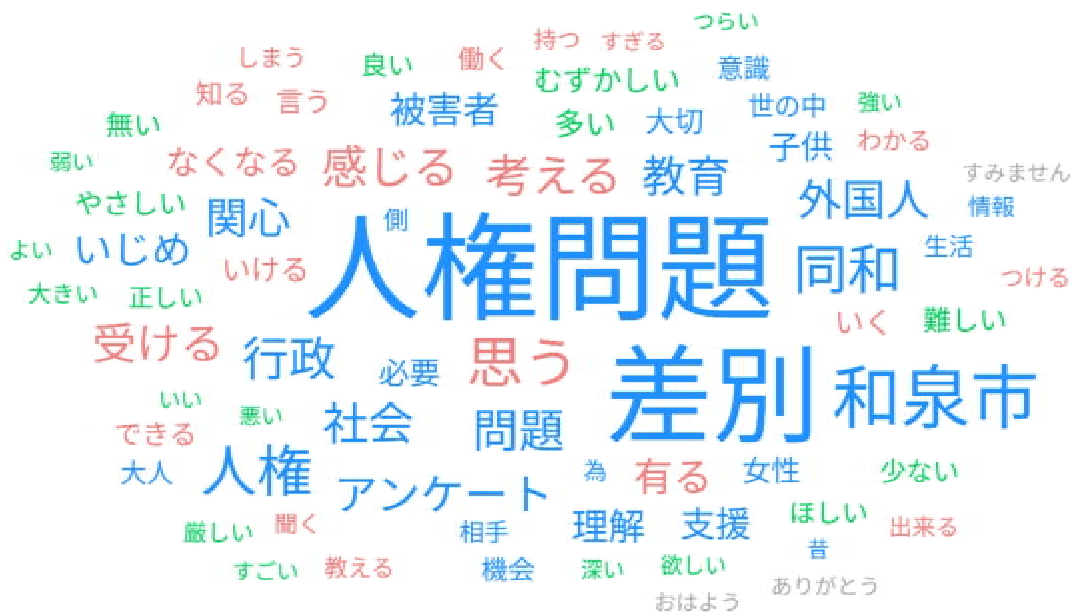
問 38 最後に、あなたがふだん人権問題について考えていることや感じていることがありましたら、ご自由にお書きください。

ふだん人権問題について考えていることや感じていることについて、393 件の回答が寄せられました。カテゴリ分けした分類をみると、「思いやり・モラル・差別全般の意識について」の意見が 89 件と最も多くなっています。

カテゴリ名	件数	カテゴリ名	件数
思いやり・モラル・差別全般の意識について	89	女性の人権・男女共同参画について	14
行政・政治の対応・要望について	47	性的マイノリティ（LGBTQ+）の人権について	8
逆差別・過剰な配慮・権利主張について	36	高齢者の人権・福祉について	8
障がい者の人権・支援について	27	地域社会・近隣トラブルについて	8
同和問題（部落差別）について	26	犯罪・司法に関する人権について	5
学校教育・家庭教育について	24	生活保護・経済的困窮について	5
職場の人権・ハラスメントについて	22	医療・福祉施設・従事者の人権について	4
外国人の人権・多文化共生について	21	災害・有事における人権について	1
子どもの人権・いじめ・虐待について	18	その他	14
インターネット・SNS 上の人権問題について	16	合計	393

【テキストマイニング】

テキストマイニングの結果から、「人権問題」や「教育」への関心が高い一方、「同和」や「外国人」に対する「差別」が見られます。人権問題については、周知啓発に加え、不公平感を解消する実効性のある「支援」と仕組み作りが求められています。



※スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示しています。

IV 有識者からの寄稿文

「和泉市人権問題に関する市民アンケート調査」結果から見える課題

関西大学社会学部教授 内田龍史

和泉市では、現行の「和泉市人権教育・啓発推進計画」の計画期間が令和8（2026）年度末で終了します。このため、市では令和8年度末までに新たな計画を策定するための作業を進めており、その計画策定に向けて、市民の人権問題に関する意識や経験を把握するために「和泉市人権問題に関する市民アンケート調査」を令和7（2025）年12月11日から令和8（2026）年1月8日にかけて実施しました。

ここでは、2016年に実施された前回（平成28年・2016年）・前々回（平成18年・2006年）調査との比較に重点を置き、特に変化が見られた調査結果や年齢階層別集計をもとに、そこから見える課題を示します。

1 人権問題に関する認識の高まり（問4・5）

問4では、さまざまな人権問題の認知度とそれへの関心をたずねています。

さまざまな人権問題の認知度（p8～15）については、前回調査と比較すると、「高齢者」「ハンセン病患者・回復者およびその家族」「ホームレス」を除いて「知らない」とする割合が低下しており、全体的に認知度は高まっています。また、「日本に居住している外国人」「感染症」「性的マイノリティ」「インターネット」「北朝鮮当局によって拉致された被害者」「人身取引」「働く人の権利」は「内容まで知っている」とする割合が上昇し、認知度が高まっています。「感染症」に関しては本調査から新型コロナウイルス感染症が含まれたことの影響があると考えられますが、人権問題は、それが人権問題であると認識されることによって初めて、問題を解決しようという意識や行動が生まれます。今後もこれらの人権問題に対する認知度を高めていく必要があります。年齢階層別に見ると、「無回答」の割合が高い70歳以上の高齢層で多くの項目において認知度が低い傾向が見られますが、それ以外にも30歳代で「日本に居住している外国人」（p9）、「震災時の災害に伴う人権問題」（p10）を除き、認知度が低い傾向が見られます。30歳代で認知度が低い理由は定かではありませんが、調査結果から鑑みると、とくに高齢層や30歳代の認知度を高める取り組みが求められます。

さまざまな人権問題への関心（p16～23）についても、「日本に居住している外国人」「感染症」「人身取引」「働く人の権利」は「関心がある」とする割合が上昇し、関心が高まっています。他方で「同和問題（部落差別）」や「性的マイノリティ」「ホームレス」「アイヌの人々」に関してはおよそ4分の1が「関心がない」と回答しています。とくに、和泉市において「同和問題（部落差別）」は身近な問題であるはずですし、「性的マイノリティ」「ホームレス」「アイヌの人々」の人権問題についてもそれへの関心を高めていく必要があります。

問5では、さまざまな事項において、人権上の問題があるかどうかの認識をたずねています（p24～34）。前回調査と比較すると、「職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う」「痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う」「職場で性的マイノリティを公表している人と席が隣になることを嫌がる」「人前で部下を長時間にわたり大声で叱る」「ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う」などで「問題があると思う」割合が上昇しており、ジェンダーに関する認識や働き方に関する人権上の問題認識が高まっていると言えます。

2 差別についての認識（問6）

問6では、差別に関する考え方をたずねています(p34)。

まず、「そう思う」とする割合が高い項目は、「差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」(60.6%)、「差別をなくすために、行政は努力する必要がある」(46.5%)、「差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」(42.9%)です。逆に「そう思わない」の割合が高い項目は、「人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない」(49.2%)であり、全体として差別克服に向けて望ましい認識を持っていることがわかります。

前回調査と比較すると、「差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」で否定的な回答の割合が上昇、「差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」で肯定的な回答の割合が低下、「差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ」で肯定的な回答の割合が上昇しており、差別克服に向けて望ましい認識が広がってきたことがわかります。他方で、「どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」を肯定する割合も上昇しており、およそ4分の3を占めるに至っています。完全になくすことへの諦めの認識も広がっていることが懸念されます。

年齢階層別に見ると、「差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」で「そう思う」とする割合が30歳代で顕著に低くなっています(p35)。「差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」では、80歳以上を除いて相対的に30歳代以下で肯定的に回答しています(p35)。「差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」も、80歳以上を除いて30歳代以下で肯定的に回答しています(p35)。さらに、「どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」は、若年層ほど「そう思う」と回答する傾向があります(p35)。これらの結果からは、若年層において差別問題の解決は被差別者に責任があるという考え方が相対的に強く、差別撤廃についても悲観的にとらえる傾向があると言えます。若年層に対して、その認識の転換を促すような、より積極的な働きかけが求められると言えるでしょう。

逆に高齢層では、「差別は法律で禁止する必要がある」(p35)で「そう思う」とする割合が人数の少ない10歳代を除けば高くなっていることが特徴です。

3 人権問題に対する情報や知識の入手経路（問7）

人権問題についての情報や知識の入手経路（問7）は、「新聞・TV・ラジオ」が61.7%と最も割合が高く、以下「学校教育」が48.1%、「インターネット」が34.2%と続きます(p40)。前回調査と比較して、「新聞・TV・ラジオ」の割合がやや低下し、「インターネット」が14ポイント程度上昇していることから、インターネットでの情報発信がより重要性を増していると言えます。また、「学校教育」を選択した人の中では、「小学校」で知ったが62.2%、「中学校」で知ったが66.4%となっており、いずれも前回調査よりも10ポイント程度上昇しています。

4 差別や人権侵害への対応（問 9・10）

問 9 では、誰かが人を差別するような言動をとったときにどのような対応をするかについてたずねています（p48）。過去の調査と比較して、「今までそういう場面に出会ったことがない」割合が増加しているほかは、大きな変化は見られません。また、問 10 では、「あなた自身やあなたの家族が人権を侵害されるようなことがあったとき」への対応をたずねていますが、20 年前の調査と比較して、「相手に抗議する」割合が低下し、なんらかの相談をする人の割合が上昇しています（p49）。年齢階層別に見ると、80 歳以上から 20 歳代まで年代が下がるほど「相手に抗議する」の割合が高い傾向にあり、70 歳代から 10 歳代まで年代が下がるほど「インターネットや生成 AI に相談する」の割合が高い傾向にあります（p50）。

5 人権問題に対する行政の取組（問 11～問 13）

行政の施策の認知（問 11）については、「啓発ポスター」（p51）、「講演会・映画会」（p53）、「人権相談窓口」（p55）などで「知らない」の割合が前回調査と比較して上昇しています。また、これらの効果については「無回答」の割合が高くなっているほかは、大きな変化は見られません。

和泉市における条例の認知（問 12）についても大きな変化は見られず（p63）、これらの効果についても「無回答」の割合が高くなっているほかは、大きな変化は見られません（p66）。

なお、最近 5 年間で人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などへの参加状況（問 13）についても参加した割合は低く、それぞれ 9 割前後が「参加したことがない」と回答しています（p67）。

いずれにせよ、行政の取り組みの認知に広がりがあるとは言えないことから、それらを高め、イベントへの参加を促す工夫が求められます。

6 同和問題（部落差別）について（問 18～問 23）

同和問題（部落差別）や同和地区があることを初めて知ったきっかけ（問 18）は「学校の授業で教わった」が 32.1%と最も高く、20 年前の調査と比較すると、前回調査でその割合はやや低下しましたが、それから 6 ポイント上昇しています（p83）。逆に、「父母や祖父母など家族から聞いた」は前回調査までに 10 ポイント程度低下しています。年齢階層別に見ると、「学校の授業で教わった」割合は人数の少ない 10 歳代を除けば 50 歳代で最も割合が高く、半数程度を占めていましたが、30 歳代では 29.1%と 20 ポイント程度低くなっていました（p84）。しかし、20 歳代では 33.7%とやや割合が上昇しています（p84）。2002 年に同和対策に関する一連の特別措置法が期限切れを迎えて以降、学校で同和問題（部落差別）について教える機会が全国的に減少傾向が見られます。50 歳代から 30 歳代にかけての「学校の授業で教わった」割合の低下には、こうした背景があると考えられます。しかしながら、2016 年に部落差別解消推進法が制定され、部落差別解消のための教育・啓発が推奨されることになったため、20 代より若い世代でその割合が上昇したのだと思われます。他方で「同和問題（部落差別を知らない）」割合は、30 歳代で 11.8%、20 歳代で 16.3%となっており、他の年代と比較して高くなっています（p84）。これらの層に、同和問題（部落差別）に関する啓発をいかに届けていくかが課題になります。

同和問題（部落差別）を初めて知ったときの印象（問 19）は「そのような差別があることを初めて知り、驚いた」が 65.1%と多数を占めており、20 年前の調査と比較してその割合が上昇しています（p84）。

同和問題に関する意見（問 20）としては、「今まで差別されてきた同和地区の人びとのくやしさを思

えば、差別したことを厳しく追及するのは理解できる」を除くと、いずれの項目においても「わからない」とする回答の割合が前回調査よりも上昇しています（p86～96）。同和問題（部落差別）の実態がつかみにくく、市民の認識としてそのリアリティが薄れている可能性があります。また、多くの項目で30歳代で「わからない」とする割合が最も高くなっています。先述したように、30歳代で同和問題（部落差別）について学んでいないことがその要因であると考えられます。

また、同和問題（部落差別）に関する人権侵害や問題認識（問21）については、「わからない」割合がおおよそ4～5割となっており（p97）、これらの結果からも、同和問題（部落差別）に関するリアリティが薄れている可能性が示唆されます。他方で年齢階層別に見ると、「行政機関や不動産取引業者に「どこが同和地区なのか」と問い合わせること」（p100～101）を除けば、おおむね若年になるほど「あると思う」「どちらかといえばあると思う」をあわせた割合が高くなっています。

就職や結婚における同和問題（部落差別）に関連する差別認識（問22）については、人数の少ない10歳代を除けば、20年前の調査と比較して、おおむね「わからない」割合が上昇しています。年齢階層別に見ると、おおむね50歳代で「わからない」とする割合が低く、それより若年になるほど、あるいは高齢になるほどその割合が高くなっており、そのリアリティにおいて、世代による差は大きいと言えます（p105～107）。

あなたの子ども（子どもがいない方は、いるものと仮定してください）が結婚しようとしている相手と同和地区の人だった場合（問23・（1））の態度についても、20年前の調査と比較して「わからない」とする割合が上昇し、「迷うことなく反対する」「迷いながらも、結局は反対する」割合は低下していますが、「迷うことなく賛成する」「迷いながらも、結局は賛成する」割合はほぼ変化はありません（p108）。

「賛成する」割合をいかに増やしていくことができるのかが課題として浮かびあがります。年齢階層別に見ると、人数の少ない10歳代を除けば、60歳代で「迷うことなく賛成する」「迷いながらも、結局は賛成する」をあわせた割合が最も高くなっており、それ以外の年齢層では「わからない」とする割合の高さが目立ちます（p109）。

あなたの親戚があなたやあなたの子どもに対してとると思われる態度（問23・（2））についても、20年前の調査と比較して「わからない」とする割合が上昇し、「迷うことなく反対する」「迷いながらも、結局は反対する」割合は低下していますが、「迷うことなく賛成する」「迷いながらも、結局は賛成する」をあわせた割合はほぼ変化はありません（p110）。

7 様々な人権課題について（問24～問35）

日本に居住している外国人に関する問題認識（問24・p113）や、外国人の人権を守るために必要なこと（問25・p115）については、前回・前々回調査と比較して大きな違いは見られません。

インターネット上の問題認識（問26）については、全体的に「あると思う」とする割合が高くなっています（p117）が、特に70歳以上で「わからない」とする割合が高く、60歳代以下で「あると思う」と回答する割合が高くなっており、世代間の格差は大きいと言えます（p118～126）。

インターネット上での人権侵害と思われる書き込みを見たことがあるかどうか（問27）については、前回調査と比較して「見たことがない」割合が40.5%と、前回調査の63.4%から23ポイント程度低下し、「よく見る」「見たことがある」割合が16ポイント程度上昇しています（p126）。年齢階層別に見ると、おおむね高齢になるほど「見たことがない」割合が高く、80歳以上では66.1%となっている一方、若年になるほど「よく見る」「見たことがある」割合が高く、20歳代ではそれらをあわせた割合が6割を越えます（p127）。

それらの書き込みを見た人の対応（問27-1）については、「そのようなページは、無視する」の割

合が 66.7%と最も高く、次いで「自分とかかわりがなければ、特に何もしない」の割合が 27.5%となっています（p127）。前回調査と比較すると、「そのようなページは、無視する」の割合が増加し、「自分とかかわりがなければ、特に何もしない」割合が減少しています。

性的マイノリティの人権問題（問 28）に関しては、「性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと」を除き、おおむね前回調査よりも選択する割合が高くなっています（p129）。性的マイノリティの人権問題に関する認識が高まっていると言えるでしょう。

子どもの人権問題（問 29）については、20 年前の調査と比較して「教師が子どもを指導するために体罰を加える」「親が子どもの様子を探るために、手紙や日記、メールなどを勝手に見る」で問題であるとする割合が上昇しています（p131）。特に、「体罰」に関しては 20 年前の調査では 25.0%だったものが、本調査においては 53.7%と過半数を占めています。「体罰」に関する認識は大きく変化したと言えるでしょう。また、子どもの人権を守るために必要なこと（問 30）については、20 年前の調査と比較して「悩みのある子どものための人権相談所や電話相談、カウンセリングを充実する」「体罰の禁止を徹底する」「大人に子どもが独立した人格であることを啓発する」の割合が上昇していますが、多くの項目でその割合が減少しています（p133）。特に、「教師の能力・資質を高める」「家庭や学校教育などで子どもに人権感覚や他人を思いやる心を育てる」は 10 ポイント以上低下しており、年齢階層別に見ると、若年層ほどその割合が低くなっています。学校教育に関する期待が減っている可能性が示唆されます。

女性の人権を守るために必要なこと（問 31）については、20 年前の調査と比較して大きな変化は見られませんが、「高齢者や障がいのある人に対する介護制度を充実させる」割合が 8 ポイント程度低下しているほか、前回調査と比較すると全体的に選択する割合が低下する項目が多くなっています（p135）。これらは男性よりも女性で選択する項目が多くなっており（p136）、女性の方がより積極的な働きかけを求めていると言えるでしょう。

高齢者の人権問題（問 32）については、20 年前の調査と比較して「賃貸住宅への入居が難しい・断られる」割合が 24.9%から 37.5%へと 10 ポイント以上上昇していますが、一方で「経済的な保障が十分でない」は 59.0%から 48.1%へと 10 ポイント以上低下しています（p137）。また、高齢者の人権を守るために必要なこと（問 33）については、20 年前の調査と比較して「高齢者を狙った犯罪などの取り締まりを強化する」の割合が上昇していますが、多くの項目でその割合が減少しています（p139）。年齢階層別に見ると、「高齢者が能力を発揮できるよう、就労や社会活動の機会を増やす」を選択する割合は 60 歳代で 6 割程度とピークとなっており、当該年齢層において切実な課題であることがうかがえます（p140）。

障がいがある人の人権問題（問 34）については、20 年前の調査と比較して「就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない」「障がいのある人が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり・住宅づくりが進んでいない」が 10 ポイント程度低下していますが、大きく上昇した項目はありません（p141）。また、障がいのある人の人権を守るために必要なこと（問 35）については、20 年前の調査と比較して「企業などに障がいのある人の就労を受け入れるよう啓発を推進する」「道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する」「障がいのある人とない人との交流を促進する」「障がいのある人に対する理解と関心を深める教育・啓発・広報活動を推進する」「障がいのある人本人の意思に基づいて生活できるよう支援する」の割合が低下していますが、大きく上昇した項目はありません（p143）。障がいのある人が生活しやすい社会環境を整えるうえでも、これらの項目の必要性の認識を高めることが求められます。

8 身の周りの人権侵害について（問 37～問 37－6 b）

最近5年間に人権上問題と思われる言動を身近で見聞きしたことがあるかどうか（問 37）については、「ある」割合は 22.8%となっており、前回調査の 26.7%と比較するとやや割合が低下しています（p146）。その事象がどのような人権問題に関するものなのか（問 37－1）は「セクハラ・パワハラ」が前回調査の 14.1%から 21.0%に上昇し、「子ども」が 11.2%から 6.2%に低下しています（p147）。

その内容（問 37－2）は、「あらぬ噂、悪口、かげ口」の割合が 17.5%と最も高いですが、前回調査と比較すると5ポイント程度低下しています（p148）。

見聞きした場所（問 37－3）は「職場」が 41.6%で最も高く、前回調査と比較すると 13 ポイント程度上昇、「インターネット」も 10.8%から 16.3%に上昇しています。逆に「地域社会」は 28.2%から 17.1%へと低下します（p148）。こうした傾向から、人びとの人間関係が、地域社会よりも職場やインターネットへ移行してきたことが背景にあると考えられます。

人権侵害への対応（問 37－5 a）については、「我慢した」が 31.7%と最も割合が高いものの、前回調査の 44.8%と比較すると大きく低下しています（p149）。逆に、「抗議・反論した」割合は 13.8%から 28.3%と 14 ポイント以上上昇しており、泣き寝入りする人の割合が顕著に低下していることがわかります。

最終的に解決したかどうかについては、「解決した」割合が 26.7%と、前回調査の 20.7%よりも6ポイント高くなっています。「解決しなかった」割合は 69.0%から 51.7%に低下し、「その他」が 6.9%から 16.7%へと顕著に上昇しています（p149）。

そうした事案への対応（問 37－6 b）については、「その他」や「特に何もしなくてよい」を除いて前回調査よりも割合が低下しています（p150）。

おわりに—今後の人権教育・啓発および人権施策への示唆

以上、本調査結果からは、過去の調査と比較して、全般的には人権問題に関する認識の高まりを指摘することができます。とは言え、さまざまな課題が散見されることから、今後の人権教育・啓発および人権施策について、以下の5つを提言します。

①若年層への重点的かつ効果的な働きかけ

調査結果では、30 歳代を中心とする若年層において、差別問題の解決を被差別者の責任とする傾向や、差別の解消に対する諦め・悲観的な認識が相対的に強く見られます。そうした認識の転換のためには、「差別されている側が努力すべき」という意識や被害者への責任転嫁を是正し、差別の構造を正しく理解させるための積極的な教育・啓発プログラムが必要です。さらに、30 歳代は多くの項目で人権問題への認知度が低い傾向にあります。この層にどのように啓発を届けるかが大きな課題だと言えるでしょう。

②時代に即した情報発信と手法の転換

人権情報の入手経路が、従来の「新聞・TV・ラジオ」から「インターネット」へと大きく変化しています。20 歳代では6割以上がインターネット上での人権侵害を目撃していますが、多くが「無視」に留まっています。単なる情報発信だけでなく、不適切な書き込みに遭遇した際の具体的な行動指針を示す啓発が求められます。また、若年層ほど相談先として「インターネットや生成 AI」を挙げる傾向があるため、生成 AI などを活用した新たな相談体制の検討も必要です。

③同和問題（部落差別）における「リアリティ」の回復

同和問題（部落差別）については、本調査結果からは、そのリアリティが薄れている可能性を指摘できます。全体的に学校教育で教わった割合は、50 歳代から 30 歳代にかけて低下しましたが、20 代で再び上昇に転じています。これは、部落差別解消推進法の効果と考えられますが、依然として 30 歳代以下で「知らない」「わからない」とする割合が高く、これらの層への啓発が必要です。また、結婚相手が同和地区の人だった場合に「賛成する」割合をいかに増やすかが、依然として重要な課題として残っています。

④生活領域の変化に対応した施策展開（職場・インターネット）

人権侵害を経験する場が「地域社会」から「職場」や「インターネット」へと移行しています。30～60 歳代において、人権侵害の現場として「職場」が最も多くあげられています。企業と連携したセクハラ・パワハラ防止対策や、働き方に関する人権意識の向上を支援する施策が重要です。また、人権侵害を受けた場合に、自ら「抗議・反論する」割合や、何らかの「相談」をする割合が上昇しており、市民の主体的な解決意欲を支えるための相談窓口の周知と質の向上が不可欠です。

⑤行政施策の認知度向上と参加の工夫

「啓発ポスター」や「人権相談窓口」などの行政施策の認知度が前回調査より低下しており、さらには約9割の市民がイベントや講演会に参加したことがありません。こうした既存の啓発手法が市民に届いていない現状を鑑みると、より関心を惹きつけるような広報の工夫や、参加のハードルを下げるための新たな企画・イベントが求められます。

また、高齢者の「入居拒否」や障がい者の「バリアフリー」など、生活に直結する切実な課題についてよりいっそう認識させる取り組みが必要です。

和泉市 人権問題に関する市民アンケート調査

ご協力をお願い

市民の皆様方には、日頃より市政にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。
和泉市では、平成 29 年度に「和泉市人権教育・啓発推進計画」を策定し、計画期間が終了するた
め、来年度新たな計画の策定に取り組んでいく予定でございます。

このアンケート調査は、新たな計画の策定に先立ち、市民の皆様様に人権問題について、日常生活の
現状や意識、人権政策に関するご意見などをお聞きし、計画策定の基礎資料として使わせていただく
ために実施いたします。

この調査では、令和 7 年 11 月 26 日現在で、本市在住の 18 歳以上の方の中から無作為に 3,000 人
を選ばせていただきました。調査でご記入いただいた内容は、すべて統計的に処理いたしますので、
個々の回答内容を公表したり、調査目的以外に使用することはございません。また、どなたからお答
えいただいたいた調査票がわからないように、「無記名方式」(調査票や返信用封筒にあなたのお名前を
書いていただく必要はありません)で行いますので、あなたが考えておられることや感じておられる
ことをお答えいただけますようお願いいたします。

お忙しいところお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますよう
お願いいたします。

令和 7 年 12 月

和泉市長 辻 宏康

一 ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人が回答してください。(ご本人での回答が困難な方は、ご家族などの代読や
代筆などによりご回答いただいても結構です。)

2. 直接経路がない出票事については、そのような状況に直面したと仮定した場合に、どう判断
するかを回答してください。

3. 回答は、あてはまる回答の番号を○で囲んでください。回答数は、各設問に (○印は 1 つ)
(○印はいくつでも) などと指定してありますので、それに従って回答してください。

4. 回答の中で「その他」を選んだ場合は、お手数ですが () 内に具体的な内容をできる限り
ご記入ください。

5. インターネットを利用してパソコンやスマートフォンなどからも回答できます。

下記の URL にアクセスするか、右の二次元コードを読み込んでください。

URL : <https://questant.jp/q/X8XFRMAS>

入力する際は、ID を入力してください。

ID : ●●●●●●

6. 回答は **令和 8 年 1 月 8 日 (木)** までにお願ひします。調査票でご回答いただいた場合、
無記名のため、同封の返信用封筒 (切手は不要です) に入れて、ポストにご投函くださるよう
お願いいたします。

※本調査は、和泉市が「株式会社名譽」に委託して行っております。返信用封筒の宛先が
「株式会社名譽」になっている旨を御了承ください。

「調査主体」

和泉市役所 総務部 人権・男女参画室

◇希望調査などの理由で印刷物を読むことが困
難な方は、下記連絡先までご相談ください。
点がございましたら、下記までお問い合わせください。

和泉市役所 総務部 人権・男女参画室

電話 0725-99-8116 (直通)

※12 月 27 日～1 月 4 日は閉庁日 (休業日) となります。恐れ入りますが、ご相談・お問い合わせは 12 月 26 日まで、
または 1 月 5 日以降にお問い合わせいたします。

株式会社名譽

電話 052-526-6001

あなたについて

問 1 あなたの性別は。【あてはまるもの 1 つに○】

- | | | |
|-----------|-------|-----------------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. 1、2 のどちらでもない |
| 4. 答えたくない | | |

問 2 あなたは何歳ですか。【あてはまるもの 1 つに○】

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1. 10 歳代 | 2. 20 歳代 | 3. 30 歳代 |
| 4. 40 歳代 | 5. 50 歳代 | 6. 60 歳代 |
| 7. 70 歳代 | 8. 80 歳以上 | |

問 3 あなたがお住まいの地域 (中学校区又は義務教育中学校区) はどこですか。中学校区がわからない方
は、町名をお書きください。【あてはまるもの 1 つに○】

- | | | |
|------------|-----------------------|--------|
| 1. 和泉 | 2. 郷庄 | 3. 石尾 |
| 4. 北池田 | 5. 南池田 | 6. 光明台 |
| 7. 南松尾はつが野 | 8. 横尾 | 9. 富秋 |
| 10. 信太 | 11. 中学校区がわからない方 → () | 町) |

差別や人権問題に対する考え方についておたずねします。

問4 日本の社会には、人権にかかわるさまざまな問題があります。あなたはそれぞれの問題の内容を知っているか、また、関心があるか、あまり悩まず直感でお答えください。【(1)～(19)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

	A 認知度			B 関心度		
	知っている	知らないが聞いたことがある	知らない	関心がある	関心がない	わからない
(1) 女性に関する問題	1	2	3	4	5	6
(2) 子どもに関する問題	1	2	3	4	5	6
(3) 高齢者に関する問題	1	2	3	4	5	6
(4) 障がいのある人に関する問題	1	2	3	4	5	6
(5) 同和問題（部落差別）	1	2	3	4	5	6
(6) 日本に居住している外国人に関する問題	1	2	3	4	5	6
(7) 感染症（エイズ、肝炎、新型コロナウイルス感染症等）に関する問題	1	2	3	4	5	6
(8) ハンセン病患者・回復者及びその家族に関する問題	1	2	3	4	5	6
(9) 犯罪被害者及びその家族に関する問題	1	2	3	4	5	6
(10) 性的マイノリティ（同性に恋愛感情をもつ人や、自分の性に違和感がある人）に関する問題	1	2	3	4	5	6
(11) インターネット上の人権侵害の問題	1	2	3	4	5	6
(12) ホームレスの人に関する問題	1	2	3	4	5	6
(13) 北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題	1	2	3	4	5	6
(14) 刑を終えて出所した人及びその家族に関する問題	1	2	3	4	5	6
(15) アイスの人々に関する問題	1	2	3	4	5	6
(16) 人身取引（性的搾取・強制労働などを目的とした人身取引）に関する問題	1	2	3	4	5	6
(17) 働く人の権利に関する問題	1	2	3	4	5	6
(18) 震災等の災害に伴う人権問題	1	2	3	4	5	6
(19) ゲノム情報（遺伝情報）に関する問題※	1	2	3	4	5	6

※「良質なゲノム情報を国民が安心して受け取れるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律」により、今後、ゲノム情報が普及し、ゲノム情報の活用が拡大されていくことが見込まれます。その中でゲノム情報（遺伝情報）に関する知識や理解の不足から、日常生活や、就職、保険の加入等の社会生活の様々な場面で、不当な差別やプライバシー侵害などの人権問題が発生するおそれがあります。

問5 あなたは、次のことがらについて、人権上、問題があると思いますが、【(1)～(19)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

	うしろかあると思	やや問題がある	あまり問題はない	思わない	問題はない	何とも書えない
(1) 職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う	1	2	3	4	5	
(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する	1	2	3	4	5	
(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする	1	2	3	4	5	
(4) 視聴障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする	1	2	3	4	5	
(5) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出身地や家柄等、出自を調べる	1	2	3	4	5	
(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なるので、付き合わないようにする	1	2	3	4	5	
(7) HIV（エイズウイルス）感染者とは一緒に食事や入浴をしない	1	2	3	4	5	
(8) ハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない	1	2	3	4	5	
(9) ところどころの病のある人には関わらないようにする	1	2	3	4	5	
(10) 街漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う	1	2	3	4	5	
(11) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る	1	2	3	4	5	
(12) 職場で性的マイノリティを公表している人と常が隣になることを嫌がる	1	2	3	4	5	
(13) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る	1	2	3	4	5	
(14) インターネット上やSNSに他人の誹謗中傷を書き込む	1	2	3	4	5	
(15) 街頭などで、特定の国の出身の人々について、「日本から出て行け」と言う	1	2	3	4	5	
(16) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる	1	2	3	4	5	
(17) ニーや引きこもりの人に「急いでいないで働きなさい」と言う	1	2	3	4	5	
(18) 恋人や配偶者・パートナーの携帯電話やスマートフォンの通信履歴を見る	1	2	3	4	5	
(19) 新型コロナウイルス感染症の回復者並びに医療従事者等やその家族であることを理由に、交通機関の利用や保育所の受け入れなどを断る	1	2	3	4	5	

問8 あなたは、学校で、次にあげる人権学習を受けたことがありますか。【あてはまるものすべてに○】

	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学・専門学校で受けた	おぼろげに受けた	受けたことはない
(1) 障がい者の人権問題	1	2	3	4	5	6
(2) 同和問題（部落差別）	1	2	3	4	5	6
(3) 日本に居住している外国人の人権問題	1	2	3	4	5	6
(4) HIV陽性者の人権問題	1	2	3	4	5	6
(5) ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	1	2	3	4	5	6
(6) 性的マイノリティの人権問題	1	2	3	4	5	6
(7) インターネット上の人権侵害	1	2	3	4	5	6

問9 学校や職場、ふだんの生活の中で、誰かが人を差別するような言動をとったとき、あなたはどのように対応しますか。【あてはまるもの1つに○】

1. そのような言動は差別にあたるから、よくないと注意を促す
2. 表向きは話を合わせつつ、差別はいけないことを伝える
3. 言動は問題だが、その人との人間関係が気まずくなると困るので、何も言わない
4. 言動は問題だが、世間ではよくあることなので、何も言わない
5. 今までそういう場面に出会ったことがない（見聞きしたことがない）
6. その他（ ）

問10 もし、あなた自身やあなたの家族が人権を侵害されるようなことがあったとき、あなたはどのように対応しますか。【あてはまるものすべてに○】

1. 相手に抗議する	2. 身近な人（家族や友人、教師など）に相談する
3. 人権問題に詳しい人に相談する	4. 弁護士に相談する
5. NPOや市民団体等に相談する	6. 法務局や人権擁護委員に相談する
7. 市役所に相談する	8. 警察に相談する
9. インターネットや生成AIに相談する	10. 何もせずに黙っている
11. その他（ ）	

問6 一般的に「差別」というものについて、あなたはどのような考えをお持ちですか。
【(1)～(11) それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

	さう思う	ややさう思う	あまりさう思わない	さう思わない	何とも思えない
(1) 差別は人間として動ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならぬ	1	2	3	4	5
(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ	1	2	3	4	5
(3) 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	1	2	3	4	5
(4) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	1	2	3	4	5
(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある	1	2	3	4	5
(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	1	2	3	4	5
(7) 差別を斜けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ	1	2	3	4	5
(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	1	2	3	4	5
(9) 差別は法律で禁止する必要がある	1	2	3	4	5
(10) 差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である	1	2	3	4	5
(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない	1	2	3	4	5

問7 あなたは、人権問題についての情報や知識は主にどこで（何で）知りましたか。
【あてはまるものすべてに○】

1. 家族	2. 友人・知人
3. 広報紙・誌	4. 新聞・TV・ラジオ
5. インターネット	
6. 学校教育（①小学校 ②中学校 ③高校 ④大学 に○をつけてください）	
7. 職場・地域での研修	8. その他（ ）

人権問題に対する行政の取組についておたずねします。

問 11 あなたは、人権問題の解決に向けた次のような施策を知っていますか。また、効果があると思いますか。【(1)～(7)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

	A 認知度		B 効果			
	知っている	内容まで知らないが、 聞いたことがある	知らない	効果がある	効果がない	わからない
(1) 啓発ポスター	1	2	3	4	5	6
(2) 広報紙やホームページ、インターネットなどを 利用した啓発広報	1	2	3	4	5	6
(3) 講演会・映画会	1	2	3	4	5	6
(4) 研修会	1	2	3	4	5	6
(5) 作文、詩、読書感想文、ポスター、標語な どの募集	1	2	3	4	5	6
(6) 人権相談窓口	1	2	3	4	5	6
(7) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせす る事前登録型本人通知制度	1	2	3	4	5	6

問12 あなたは、次の条例について、知っていますか。また、効果があると思いますか。【(1)～(3) それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

	A 認知度			B 効果		
	内容まで 知っている	内容まで 聞いたことがあるが、 知らない	知らない	効果がある	効果がない	わからない
(1) 和泉市人権擁護に関する条例	1	2	3	4	5	6
(2) 和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別 等の人権侵害のない社会づくり条例	1	2	3	4	5	6
(3) 和泉市男女共同参画推進条例	1	2	3	4	5	6

質問 13 あなたは、最近5年間で、次にあげる人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などに参加したことがありますか。【(1)～(7)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

	1 回だけ参加した	2 ～ 4 回くらい参加した	5 回以上参加した	参加したことがない
(1) 障がい者の人権問題	1	2	3	4
(2) 同和問題（部落差別）	1	2	3	4
(3) 日本に居住している外国人の人権問題	1	2	3	4
(4) HIV陽性者の人権問題	1	2	3	4
(5) ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	1	2	3	4
(6) 性的マイノリティの人権問題	1	2	3	4
(7) インターネット上の人権侵害	1	2	3	4

[illegible]

人生には重要な出来事がいくつかありますが、ここでは、住まいのことや就職、結婚についての意識や考え方についておたずねします。

【あてはまるものすべてに○】

1. 都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス
2. 公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況
3. 日照・眺望など
4. 周辺の住宅の状況（戸建て/集合、持ち家/賃貸など）
5. 地域のイメージ
6. 校区的教育水準や学力レベルの評判
7. 近隣に低所得者が多いと言われていないか
8. 近隣に外国籍住民が多いと言われていないか
9. 近隣に同和地区があると言われていないか
10. その他（ ）

7

問 21 あなたは、現在、**同和問題（部落差別）**に関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。【(1)～(8) それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

	あてはまる	あてはまる	あてはまる	あてはまる	あてはまる	あてはまる	あてはまる
(1) 就職や職場で不利な扱いを受けること	1	2	3	4	5	6	
(2) 地域の活動や地域での付き合いで嫌がらせを受けること	1	2	3	4	5	6	
(3) 身元調査をされること	1	2	3	4	5	6	
(4) 行政機関や不動産取引業者に「どこが同和地区なのか」と問われること	1	2	3	4	5	6	
(5) インターネット上に誹謗中傷などが掲載されること	1	2	3	4	5	6	
(6) インターネット上に同和地区と呼ばれる地域の所在地リストや動画・写真などが掲載されること	1	2	3	4	5	6	
(7) (1)～(6)のほか、差別的言動をされること	1	2	3	4	5	6	
(8) 同和問題（部落差別）を口実とする企業や官公庁などに対する不当な要求（えせ同和行為）が行われること	1	2	3	4	5	6	

問 22 就職や結婚の場面において、あなたは、**同和問題（部落差別）**に関連する人権問題がどの程度あると思いますか。【(1)と(2) それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

(1) 就職において

1. 差別はある	2. どちらかといえば差別はある
3. どちらかといえば差別はない	4. 差別はない
5. わからない	

(2) 結婚において

1. 差別はある	2. どちらかといえば差別はある
3. どちらかといえば差別はない	4. 差別はない
5. わからない	

問 23 仮に、あなたの子ども（子どもがいない方は、いるものと仮定してください）が結婚しようとしている相手が**同和地区**の人だった場合、あなたは、親としてどのような態度をとりますか。また、あなたの親戚は、あなたやあなたの子どもに対してどのような態度をとると思いますか。

【(1)と(2)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

(1) あなたが親として子どもに対してとる態度

1. 迷うことなく賛成する	2. 迷いながらも、結局は賛成する
3. 迷いながらも、結局は反対する	4. 迷うことなく反対する
5. わからない	

(2) あなたの親戚があなたやあなたの子どもに対してとると思われる態度

1. 迷うことなく賛成する	2. 迷いながらも、結局は賛成する
3. 迷いながらも、結局は反対する	4. 迷うことなく反対する
5. わからない	

様々な人権課題についておたずねします。

問 24 日本に居住している**外国人**に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるもの3つまで○】

1. 入学・学校で不利な扱いを受けること	2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. 住居の申し込みや入居で不利な扱いを受けること	4. 周囲から結婚を反対されること
5. 文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いが原因で受け入れられないこと	6. 外国語の表記によるなど、情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
7. 政治に意見が十分反映されないこと	8. 特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動（ヘイトスピーチ）があること
9. わからない	10. その他（ ）

問 25 あなたは、**外国人**の人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

1. 外国人市民や国際理解に関する教育を充実する	2. 外国人市民と日本人の相互理解を促進するための交流機会を増やす
3. 外国人市民も地域社会を支える一員として、行政や地域活動へ参画できる体制をつくる	4. 外国人市民の就職の機会均等を確保したり、不利な労働条件を改善したりする
5. 外国人市民に対する理解と関心を深める教育・啓発・広報活動を推進する	6. 外国人市民のニーズに対応した行政サービスを充実させる（福祉、教育など）
7. 多言語による人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する	8. 日常生活に必要な情報や案内を多言語で提供する
9. その他（ ）	10. 知らない
11. わからない	

問 26 あなたは現在、インターネットに関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。【(1)～(11)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

	あてはまる と思う	あてはまる と思う と 思う	あてはまる と思う と 思う	あてはまる と思う と 思う	わからない
(1) 個人情報等、自身や他人のプライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載されること	1	2	3	4	5
(2) フェイクニュース（真実ではない情報）や不正確な報が拡散されること	1	2	3	4	5
(3) X(旧 Twitter)や Instagram などの SNS による交流が犯罪を誘発する場となっていること	1	2	3	4	5
(4) 書き込んだ人を特定するための手続きに時間を要すること	1	2	3	4	5
(5) インターネットが悪質商法の取引の場となっていること	1	2	3	4	5
(6) 子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生していること	1	2	3	4	5
(7) 差別を助長するような情報が掲載されること	1	2	3	4	5
(8) わいせつな画像や残虐な画像などの情報が掲載されること	1	2	3	4	5
(9) 被害対象となっている未成年者の名前・顔写真が掲載されること	1	2	3	4	5
(10) 問題のある情報がインターネット上に掲載されると、削除や訂正に時間がかかること	1	2	3	4	5
(11) SNS や検索サイトなどで、自分の好みや関心に合う情報ばかりが表示され、考え方や意見が偏るおそれがあること	1	2	3	4	5

問 27 インターネット上で、差別的な表現や他人を誹謗中傷するなど、人権侵害と思われるような書き込みやホームページについて、お答えします。

あなたは、そのような内容のページを見たことがありますか。【あてはまるもの1つに○】

1. よく見る	2. 見たことがある
3. 見ないようにしている	4. 見たことがない

問 27-1 【問 27 で「1. よく見る」「2. 見たことがある」「3. 見ないようにしている」と回答した方におうかがいします。】

そのようなページを見たとき、どのようにされますか。【あてはまるもの1つに○】

1. 自分とかわりがないければ、特に何もしない	2. そのようなページは、無視する
3. 自分も同じような内容で書き込みをする	4. 反対意見を書き込む
5. プロバイダ又は関係機関に知らせる	6. 積極的に見る
7. その他（具体的に	）

問 28 性的マイノリティ®の人々の人権についておたずねします。
性的マイノリティの人々に関する人権のことで、あなたが特に問題だと思われるのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】

※性的マイノリティ：性的マイノリティとは、LGBTQ+（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・クエスチョニング、その他さまざまな性のあり方）など、恋愛や性愛の対象が同性の人や、出生時に判定された性と自認する性が異なる人などの総称として用いられます。

1. 本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること
2. 制服などで男女の別を決めつけること
3. トイレ、更衣室など、男女の別がなく、バリアフリーとなっていないこと
4. 異性愛を前提とした教育を受けること（性教育、道徳など）
5. 性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと
6. 相談窓口や支援体制が十分でないこと
7. 学校や職場でいじめやいやがらせを受けること
8. 就職や職場において不利な扱いを受けること
9. 家族や友達から理解されないこと
10. 法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること
11. 偏見や誤解により、住まいなど契約を断られること
12. 結婚や子どもの養育縁組がむずかしいこと
13. 施設、病院において、自認する性とは別の扱いを受けることがあること
14. メディアでからかいや偏見を助長するような情報を流すこと
15. その他（具体的に
16. 特にない
17. わからない

問 29 あなたは、子どもに関する事例で、人権尊重の観点から見て問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】

1. 仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させることでいじめを行う
2. いじめをしている人やいじめられている人を見て見ぬふりをする
3. 教師が子どもを指導するために体罰を加える
4. 親が子どもを虐待する
5. 子どもの意見を無視し、大人の考えを一方的に押しつける
6. 親が子どもの様子を探るために、手紙や日記、メールなどを勝手に見る
7. 児童買春・児童ポルノなどが横行する
8. その他（
9. 特にない
10. わからない

※虐待：ここでは、保護者が子どもに対して行うもので、殴る、罵るなどの身体的虐待や、性的虐待、心理的虐待、ネグレクトを指します。

問 34 あなたは、障がいのある人に関する事例で、人権尊重の観点から見て問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】

1. 経済的な保障が十分でない
2. 就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない
3. スポーツや文化活動、地域活動に気軽に参加できない
4. 賃貸住宅への入居が難しい・断られる
5. 障がいのある人が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり・住むづくりが進んでいない
6. 詐欺や悪徳商法の対象として狙われる
7. 家族に虐待される
8. 病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける
9. 結婚に周囲が反対する
10. 店や施設の利用、タクシーの乗車などサービスの提供を拒否される
11. じろじろ見られたり、避けられたりする
12. その他（ ）
13. 特になし
14. わからない

※虐待：ここでは、障がい者に対する身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、放棄・放置、経済的虐待を指します。

【〇こころへ】
あてはまるものすべてを○してください。

1. 企業などに障がいのある人の就労を受け入れるよう啓発を推進する
2. 道路や建物の段差を解消するなど、バリアフリーのまちづくりなどを推進する
3. 障がいのある人となじみの交流を促進する
4. 障がいのある人に対する理解と関心を深める教育・広報活動を推進する
5. 成年後見制度など障がいのある人の権利と財産を守る制度を充実する
6. 障がいのある人を狙った犯罪などの取り締まりを強化する
7. 障がいのある人のための人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する
8. 障がいのある人に対する虐待などの防止、早期発見・早期対応に努める
9. 障がいのある人本人の意思に基づいて生活できるような支援をする
10. その他（ ）
11. 特になし
12. わからない

12

問 36 あなたは地震や台風などの災害が起きた場合に、人権上、特に問題となるのはどのようなことだ
と悪いませうか。【あてはまるものすべてに○】

1. 避難生活でプライバシーが守られないこと
2. 避難生活の長期化によるストレスや、それに伴ういざいさが生じること
3. 要配慮者（障がいのある人や高齢者、乳幼児など）に対して、十分な配慮が行き届かないこと
4. 妊産婦や外国人、性的マイノリティなどに対して、十分な配慮が行き届かないこと
5. 支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと
6. デマや風評などによる差別的な言動が起きること
7. その他（具体的に）
8. 持たない
9. わからない

身の周りの人権侵害についておたずねします。

質問37 あなたは、最近5年間に人権上、問題と思われる言動を身近で見聞きしたことがありますか。増数ある場合は、一番印象に残っているものについてお答えください。【どちらかに○】

1. ある ⇒ 問 37-1 へ進んでください
2. ない ⇒ 問 38 へ進んでください

問 37-1 それはどのような人権問題に関するものでしたか。【あてはまるもの1つに○】

1. 女性
2. 子ども
3. 高齢者
4. 障がい者
5. 同和問題（部落差別）
6. 外国人
7. HIV感染者
8. ハンセン病回復者
9. こころの病に関する人権問題
10. 犯罪被害者
11. ホームレス
12. 性的マイノリティ
13. 職業や雇用をめぐる人権問題
14. セクハラ・バウハラ
15. ネット上での誹謗中傷
16. ヘイトスピーチ
17. その他（ ）

17

問 37-2 それはどのような内容でしたか。【あてはまるもの1つに○】

1. あらぬ噂、悪口、かげ口	2. 名誉き損、侮辱
3. 暴力、脅迫、強要	4. 不平等、不利益な扱い
5. いじめ	6. 虐待
7. 嫌がらせ	8. 仲間はずれ
9. プライバシーの侵害	
10. その他（	）

問 37-3 それはどこで見聞きしましたか。【あてはまるもの1つに○】

1. 学校	2. 職場
3. 地域社会	4. インターネット
5. その他（	）

問 37-4 それはあなた自身に対するものでしたか。【どちらかに○】

1. はい	⇒問 37-5 aへ進んでください
2. いいえ	⇒問 37-5 bへ進んでください

問 37-5 a どう対応しましたか。【あてはまるもの1つに○】

1. 抗議、反論した	
2. 相談した（どこに、誰に：	）
3. 訴えた（どこに：	）
4. 我慢した	
5. その他（	）

問 37-6 a 最終的に解決しましたか。【あてはまるもの1つに○】

1. 解決した	
2. 解決しなかった	
3. その他（	）

→問 38へ進んでください

問 37-5 b どう対応しましたか。【あてはまるもの1つに○】

1. いけないことと分かってもらおうとした	
2. いけないことと指摘した	
3. 相談した（どこに、誰に：	）
4. 同調した	
5. 話をそらした	
6. 何もなかった	

問 37-6 b そのような問題（事案）についてどうしたらよいと考えますか。

【あてはまるものすべてに○】

1. 行政が啓発に努める	
2. 相談窓口を拡充する	
3. 当事者自らが解決策を調べる	
4. 学校教育・社会教育を充実する	
5. 特に何もなくてよい	
6. その他（	）

問 38 最後に、あなたかだん人権問題について考えていることや感じていることがありましたら、ご自由にお書きください。

--

設問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。
ご記入いただきました調査票は、
無記名のもと、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて
令和8年1月8日（木）までにポストにご投函くださるようお願いいたします。

和泉市
人権問題に関する市民アンケート調査
調査結果報告書

発行年月：令和8年3月

発 行：和泉市 和泉市総務部 人権・男女参画室
〒594-8501 大阪府和泉市府中町二丁目7番5号

電 話：0725(99)8116